

大宰府条坊跡 51

— 露切・五条地区の調査 —

令和 4 (2022) 年

太宰府市教育委員会

大宰府条坊跡 51

－露切・五条地区の調査－

令和4（2022）年

太宰府市教育委員会

序

本書は、太宰府市の中央部に広がる大宰府条坊跡で実施した発掘調査の報告書です。

今回の調査では、建物跡とそれを築地状遺構が方形状に囲むという典型的な中世館跡が見つかりました。周辺一帯には同時代の遺構が広がり、国内外からもたらされた銭貨や焼物などの様々な搬入品も出土し、かつて大宰府政庁が存在した古代と同様に活発な交易が行われていたことが窺え、大宰府政庁終焉後の中世都市太宰府を知る上で重要な手掛かりを得ることができました。

本書が学術研究はもとより文化財への理解と認識を深める一助となり、広く活用され、ひいては文化財愛護の精神が高揚することを心より願っております。

結びになりましたが、本調査に対しご理解ご協力いただきました、関係各位ならびに諸機関の方々に心からお礼申し上げます。

令和4年2月

太宰府市教育委員会

教育長 樋田 京子

例言

1. 本書は太宰府市観世音寺字露切、五条で行われた大宰府条坊跡の発掘調査報告書である。
2. 遺構の実測には、国土調査法第Ⅱ座標系（日本測地系）を利用した。したがって本書に示される方位は特に注記のない限り G.N.（座標北）を示し、本文中に記される遺構の角度もこれを基準としたものである。
3. 遺構の実測及び写真撮影は山本信夫、狭川真一、緒方俊輔、宮崎亮一、沖田正大、古賀里恵子が行った。
4. 遺構の空中写真撮影は(有)空中写真企画が行った。
5. 出土獣骨の同定は、パリノ・サーヴェイ株式会社と(株)古環境研究所に委託した。
6. 出土した金属製品の保存処理は(株)タクトが行った。
7. 遺物の実測は、山本麻里子、福井円、吉富千春、今岡一恵、元田晃子、宮崎が行った。
8. 表入力・写真整理は瀬戸口みな子、市川晴美、宮崎が行った。
9. 遺物の整理接合・復元作業は馬場由美、住山景子、末永亜由子が行った。
10. 遺物の写真撮影は(有)システム・レコが行った。
11. 図の浄書は、宮崎が行った。
12. 本書に用いた分類は以下のとおり。
 - 須恵器・・・太宰府市教委『宮ノ本遺跡Ⅱ－窯跡篇－』（太宰府市の文化財第10集）1992年
 - 土器・・・太宰府市教委『大宰府条坊跡Ⅱ』（太宰府市の文化財第7集）1983年
 - 陶磁器・・・太宰府市教委『大宰府条坊跡ⅩⅤ』（太宰府市の文化財第49集）2000年
 - 瓦・・・九州歴史資料館『大宰府史跡出土軒瓦・叩打痕文字瓦型式一覧』2000年
13. 本書の執筆・編集は、宮崎亮一（都市計画課 景観・歴史のまち推進係）が担当した。

目次

I、遺跡の位置と歴史	4
II、調査体制	5
III、調査および整理方法	6
IV、調査報告	
①露切地区の調査	
1、第35次調査	7
(1) 調査に至る経緯	7
(2) 基本層位と整地	8
(3) 検出遺構	8
(4) 出土遺物	19
(5) 第35・322次調査出土獣骨の同定	78
(6) 小結	79
2、第42次調査	97
(1) 調査に至る経緯	97
(2) 基本層位	97
(3) 検出遺構	98
(4) 出土遺物	98
(5) 小結	103
3、第309次調査	106
(1) 調査に至る経緯	106
(2) 基本層位	106
(3) 検出遺構	108
(4) 出土遺物	111
(5) 第309次調査出土獣骨の同定	123
(6) 小結	125
②五条地区の調査	
1、第37次調査	130
(1) 調査に至る経緯	130
(2) 基本層位	130
(3) 検出遺構	131
(4) 出土遺物	134
(5) 小結	138

2、第 41 次調査	144
(1) 調査に至る経緯と成果	144
3、第 57 次調査	145
(1) 調査に至る経緯	145
(2) 基本層位	145
(3) 検出遺構	145
(4) 出土遺物	146
(5) 小結	149
4、第 130 次調査	155
(1) 調査に至る経緯	155
(2) 基本層位	155
(3) 検出遺構	155
(4) 出土遺物	157
(5) 小結	163
5、第 304 次調査	168
(1) 調査に至る経緯	168
(2) 基本層位	173
(3) 検出遺構	173
(4) 出土遺物	179
(5) 小結	191
V、調査まとめ	206

写真図版・・・主な遺構および遺物写真

附録 CD（遺構および遺物写真）

紀年銘	AD.	大宰府土器型式	磁器区分	国産陶器型式 (型式の上限)		標識磁器	準標識磁器	
				灰釉	緑釉			
⑥	700	I	A B					
	725	II						
	750	III						
		IV						
	800	V			猿投0-10 井ヶ谷IG-78	長門?・畿内	白磁I類 越州窯系青磁I, II類 長沙窯系青磁・黄釉 褐彩・褐釉	唐三彩・二彩 絞胎
	825	VI	A	(A古)	黒笹K-14	長門・洛北・(洛西)・(黒笹K-14)		
			B		篠岡S-4 黒笹K-90	洛西 黒笹K-90		
	850	VII	A					青磁褐彩・褐釉 初期イスラム陶器
	900	VIII						
	①	925	IX		(A新)	虎溪山1 (折戸0-53)	近江	
950								
②	1000	X			新戸0-53		越州窯系青磁III類 白磁XI類	
	1050	XI			東山H-72 (丸石2)			
③	1100	XII	A		丸石2 百代寺 東山H-105 篠岡S-1		白磁椀II, III, IV, V1~3, VI, XII, XIII類 皿II, IV, V, VI, VII類	初期龍泉窯系・同安窯系青磁0類 耀州窯系青磁 初期高麗青磁I, II, III類 青白磁
			B					白磁鉢III類、椀XIV類
④	1150	XIV					龍泉窯系青磁椀I-1~4, 6 皿I類 同安窯系青磁椀I~IV, 皿I類	白磁椀VII, V-4, 皿III類増加 皿I類
	1200	XV						白磁椀VII, 皿VIII-1類
⑤	1230	XVI					龍泉窯系青磁椀II-a, b類	白磁皿VIII-2類
	1250	XVII					龍泉窯系青磁III類 白磁IX類	
⑥	1265	XVIIII						龍泉窯系青磁II-c類 白磁X類 黒釉陶器
⑦	1300	XIX					龍泉窯系青磁IV類	
	1330	XX						白磁B, C類 安南鉄絵
⑧	1350							
⑨	1450							
⑩	1500							

Fig. 1 大宰府土器型式と国産陶器・貿易陶磁編年

紀年銘資料

- ①A. D. 927 延長5年, 大宰府74次SD205A溝
- ②A. D. 1091 寛治5年, 平安京左京4条1坊SE8井戸
- ③A. D. 1224 貞応3年, 大宰府33次SD605溝
- ④A. D. 1304 嘉元2年, 大宰府109. 111次SD3200溝
- ⑤A. D. 1330 元徳2年, 大宰府45次SX1200池
- ⑥A. D. 784 延暦3年, 長岡京102次SD10201溝
- ⑦A. D. 1459・1465 長祿3・寛正5年, 福岡市井相田C11・SG16池
- ⑧A. D. 1501 文亀元年, 大宰府70次SD1805溝
- ⑨A. D. 1265 文永2年, 博多62次713土塋

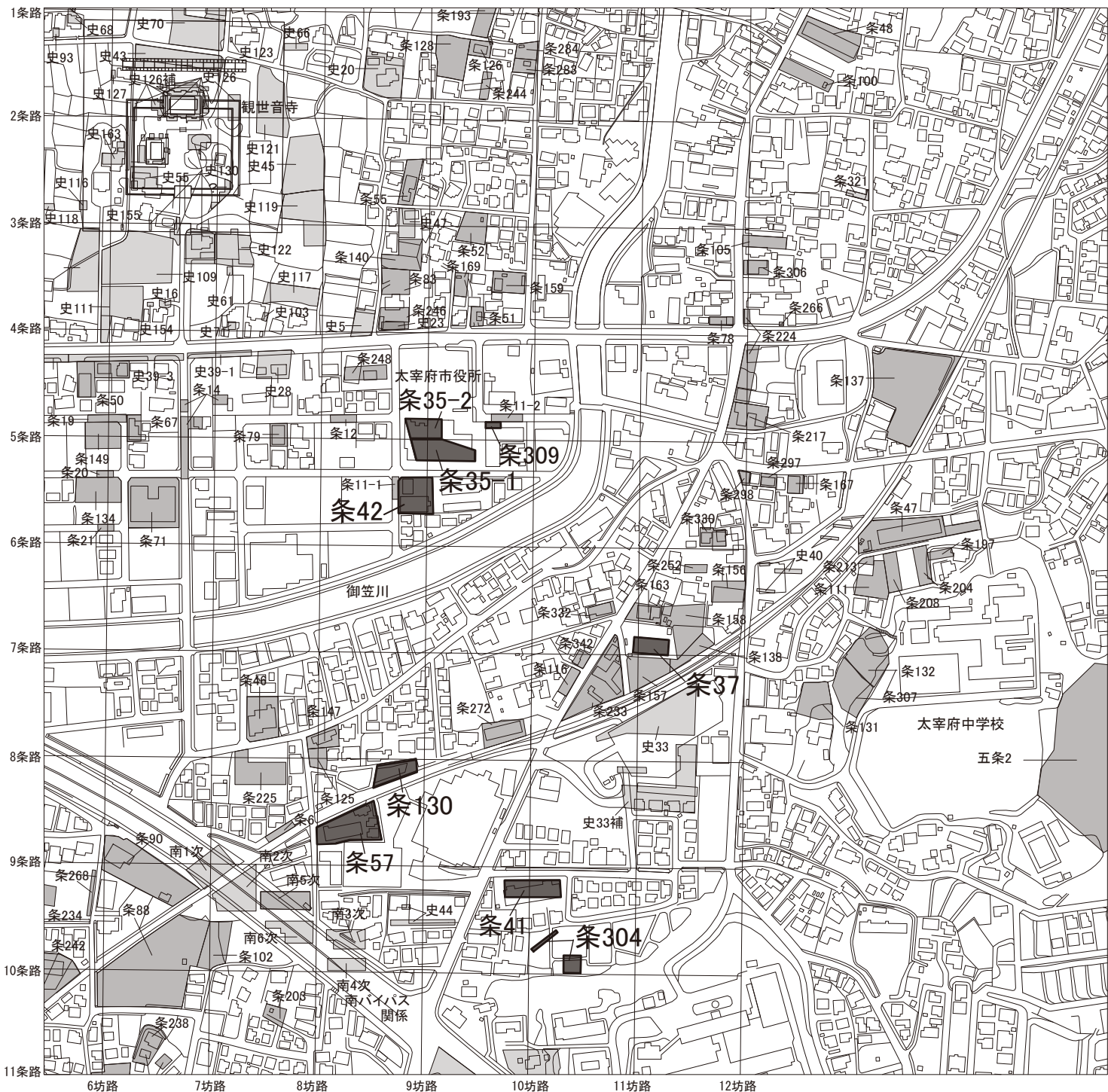
文献

- ①九州歴史資料館 「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
- ②田辺昭三・吉川義彦 「平安京跡発掘調査報告左京四条一坊」1975 平安京調査会
- ③九州歴史資料館 「大宰府史跡昭和49年度発掘調査概報」1975
- ④九州歴史資料館 「大宰府史跡昭和63年度発掘調査概報」1989
- ⑤九州歴史資料館 「大宰府史跡昭和52年度発掘調査概報」1978
- ⑥長岡京市埋蔵文化財センター 「長岡京市埋蔵文化財調査報告書第1集」1988
- ⑦福岡市教育委員会 「井相田C遺跡11」 「福岡市埋蔵文化財調査報告書179」1988
- ⑧九州歴史資料館 「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
- ⑨福岡市教育委員会 「博多48」 「福岡市埋蔵文化財調査報告書397」1995



- | | | | |
|------------|----------------------|-----------|---------------------|
| 1. 大野城跡 | 10. 水城跡 | 19. 原口遺跡 | 28. 剣塚遺跡 |
| 2. 岩屋城跡 | 11. 大宰府政庁跡 | 20. 篠振遺跡 | 29. 唐人塚遺跡 |
| 3. 陣ノ尾遺跡 | 12. 観世音寺 | 21. 前田遺跡 | 30. 峯・峯畑遺跡 (●は峯火葬墓) |
| 4. 筑前国分寺跡 | 13. 遠賀団印出土地 | 22. 宮ノ本遺跡 | 31. 太宰府天満宮(安楽寺跡) |
| 5. 辻遺跡 | 14. 大宰府条坊跡 (鏡山案、破線内) | 23. 雛川遺跡 | 32. 浦城跡 |
| 6. 国分松本遺跡 | 15. 君畑遺跡 | 24. フケ遺跡 | 33. 原遺跡 |
| 7. 筑前国分尼寺跡 | 16. 般若寺跡 | 25. 尾崎遺跡 | 34. 京ノ尾遺跡 |
| 8. 国分千足町遺跡 | 17. 市ノ上遺跡 | 26. 脇道遺跡 | 35. カヤノ遺跡 |
| 9. 御笠団印出土地 | 18. 神ノ前窯跡 | 27. 殿城戸遺跡 | 36. 報告地域(露切地区) |
| | | | 37. 報告地域(五条地区) |

Fig. 2 太宰府市とその周辺の遺跡 (1/30000)



※ 条坊区画は井上条坊案
 条は、太宰府市教育委員会が調査
 史・南は、福岡県文化課・九州歴史資料館が調査

Fig. 3 調査地とその周辺調査地点 (1/5000)

I、遺跡の位置と歴史

太宰府市は、北に四王寺山、北東に宝満山、南に脊振山地東端の天拝山に囲まれ、さながら盆地的な様相を示している。これらの山々が途切れている北西に福岡平野が、南東に筑後平野が広がっている。市役所から博多湾まで直線距離で15km、筑後川まで20kmの位置関係である。

旧石器時代や縄文時代の遺物が市内各所の調査で散見されるが、集落などは確認されていない。弥生時代になると、市内の周縁部の平地や微高地に集落が営まれ、弥生中期には高雄地区吉ヶ浦遺跡や国分地区松本遺跡で甕棺墓群が見つかった。古墳時代には前期から中期にかけて、割竹形木棺を内部主体とする円墳（菖蒲浦、下高尾、宮ノ本）が築造されている。また、5世紀中頃には、福岡平野を見渡す丘陵に帆立貝形前方後円墳の成屋形古墳が築造され、6世紀になって、四王寺山や高尾山の裾部に円墳が僅かに築造されるが、群集墳と呼べる状況を示していない。

7世紀になると大宰府政庁が置かれ、博多側には四王寺山と吉松丘陵を塞ぐ水城跡の土塁が築造されたほか、周囲の山々には大野城・基肆城・阿志岐城などの古代山城が築造された。2016年には筑紫野市前畑遺跡で丘陵上に築造された土塁が発見され、周囲の古代山城と合わせ、羅城を形成していた可能性を示すものとして注目された。

四王寺山の南麓には大宰府政庁、観世音寺、学校院のほかに官衙が並び、その政庁を北辺中央に置いた南側一帯にはいわゆる大宰府条坊と呼ばれる都市が整備された。大宰府政庁跡では、7世紀後半～12世紀前半にかけて、大きく三時期に分かれ、I期は掘立柱建物、II・III期は瓦葺きの礎石建物と考えられている。その周辺には官衙群が広がり、政庁東側には学校院が設けられ、その東隣にはかつて「府の大寺」と呼ばれた観世音寺があり、現在でも礎石群や仏像群がその隆盛を物語っている。また、条坊の中央やや南側では、大型掘立柱建物が並んで見つかると、佐波里製の匙など高級食器も出土するなど、外国使節を安置・供給する客館跡と考えられている。

大宰府条坊の規模は南北22条、東西12坊の約2km四方におよぶものと推定され、南辺部は筑紫野市まで広がり、『続日本紀』神護景雲3(769)年10月甲辰の条に「此府人物殷繁、天下之一都会也」と記され、同じく『続日本紀』宝亀元(770)年3月甲申の条には「大宰管内大風、壞官舎百姓并廬舎一千卅餘口」と記され、都市であったことが理解できる。

条坊の外側南西部に位置する向佐野地区の宮ノ本遺跡では、古代の官人墓が100基以上確認され、買地券や鏡など多くの貴重な副葬品が出土している。条坊の北西には、筑前国分寺や国分尼寺が造られ、国分寺については、塔心礎をはじめ伽藍配置が残り、保存されている。その近くに位置する国分松本遺跡では、7世紀末の戸籍計帳関係の木簡が出土している。

中世になるとまちの中心は、観世音寺前面付近から五条や太宰府天満宮周辺などかつての条坊域の東部へ移る。観世音寺東隣の御所ノ内地区は、武藤少弐氏の屋敷があったという伝承が残る。また、五条地区の一面では、13世紀後半～14世紀前半頃の梵鐘鑄造土坑や溶解炉が多数見つかると、大規模な鑄物工房が存在したことがわかっている。宝満山を含め寺社を中心にその周辺一帯は高い密度で遺構が展開している。また、周辺の山々には岩屋城や有智山城など九州の戦国史に名を残す山城が築造され、激しい戦いが繰り返されている。

近世の太宰府は、中世から引き続き太宰府天満宮を中心に宰府や五条の町ができ、街道筋の集落として通古賀が形成されているが、その周縁に位置する他の集落は都市近郊型の農村集落であった。その後、昭和40年代以降宅地化が進み住宅街と変化している。

Ⅱ、調査体制

(昭和 57 / 1982 年度)・・・第 35・37・41 次調査

統括	教育長	陶山直次郎
庶務	社会教育課長	西山義則
	文化財係長	黑板力
	主事	岡部大治
調査	技師	山本信夫

(昭和 58 / 1983 年度)・・・第 35-2・42 次調査

統括	教育長	陶山直次郎	
庶務	社会教育課長	西山義則	
	文化財係長	黑板力	
	主事	岡部大治	
調査	技師	山本信夫	狭川真一

(昭和 61 / 1986 年度)・・・第 57 次調査

統括	教育長	藤寿人		
庶務	社会教育課長	花田勝彦		
	文化財係長	鬼木富士夫		
	主事	岡部大治		
調査	技師	山本信夫	狭川真一	緒方俊輔

(平成 4 / 1992 年度)・・・第 130 次調査

統括	教育長	長野治己				
庶務	教育部長	中川シゲ子				
	文化課長	佐藤恭宏				
	埋蔵文化財係長	高田克二				
	文化振興係長	大田重信				
	主任主事	岡部大治	川谷豊			
調査	主任技師	山本信夫	狭川真一	城戸康利	緒方俊輔	山村信榮
	技師	中島恒次郎	塩地潤一			
	技師(囑託)	田中克子				

(平成 26 / 2014 年度)・・・第 304・309 次調査

統括	教育長	木村甚治
庶務	教育部長	堀田徹
	文化財課長	菊武良一
	文化財副課長	城戸康利
	保護活用係長	友添浩一

	調査係長	山村信榮		
	事務主査	廣見京子		
	主事	有田ゆきな	久木原駿史	
調査	主任主査	井上信正	高橋学	宮崎亮一
	主任技師	遠藤茜		
	技師	沖田正大	中村茂央	

(令和3 / 2021年度)・・・報告書刊行

統括	教育長	樋田京子		
	教育部長	藤井泰人		
文化財課	課長	友添浩一		
	副課長	中島恒次郎		
保護活用係	係長	井上信正		
	主任主査	高橋学	城戸康利	
	主任主事	岡部大治		
	主事	篠田由梨		
調査係	係長	山村信榮		
	技術主査	遠藤茜	沖田正大	
	主任技師	中村茂央	木村純也	

Ⅲ、調査および整理方法

調査および整理方法については、『佐野地区遺跡群 I』（太宰府市の文化財第14集 1989）、『太宰府市における埋蔵文化財調査指針』（太宰府市教育委員会 2001年9月改訂）に基づいている。

調査では、表土剥ぎをバックホーによって行った。遺構図や土層図は適時 1/10、1/20 等で記録し、整理に際し、時期が特定できそうな遺物については、実測作業を行っている。一緒に出土している遺物については、出土遺物一覧表も同時に確認して頂きたい。

これらの調査で得られた出土遺物や実測図等は太宰府市文化ふれあい館に保管している。

IV、調査報告

①露切地区の調査

1、第35次調査

(1) 調査に至る経緯

調査地は、太宰府市大字観世音寺（現・観世音寺1丁目）字露切84-1、84-2、84-3、84-4、84-5、84-6、87-1である。

発掘調査は太宰府市役所の新庁舎建設に伴って実施されたもので、発掘調査は南北2回に分けて行われ、南側を1982（昭和57）年度に第35-1次調査、北側を1983（昭和58）年度に第35-2次調査として調査を実施した。

第35-1次調査は、土置き場の関係で、西半分を1982（昭和57）年9月16日～11月16日、東半分を1983（昭和58）年1月19日～3月15日に実施した。調査面積870㎡。調査は山本信夫が担当した。

第35-2次調査は、1983（昭和58）年10月7日～10月22日に実施した。調査面積253㎡。調査は山本信夫、狭川真一が担当した。

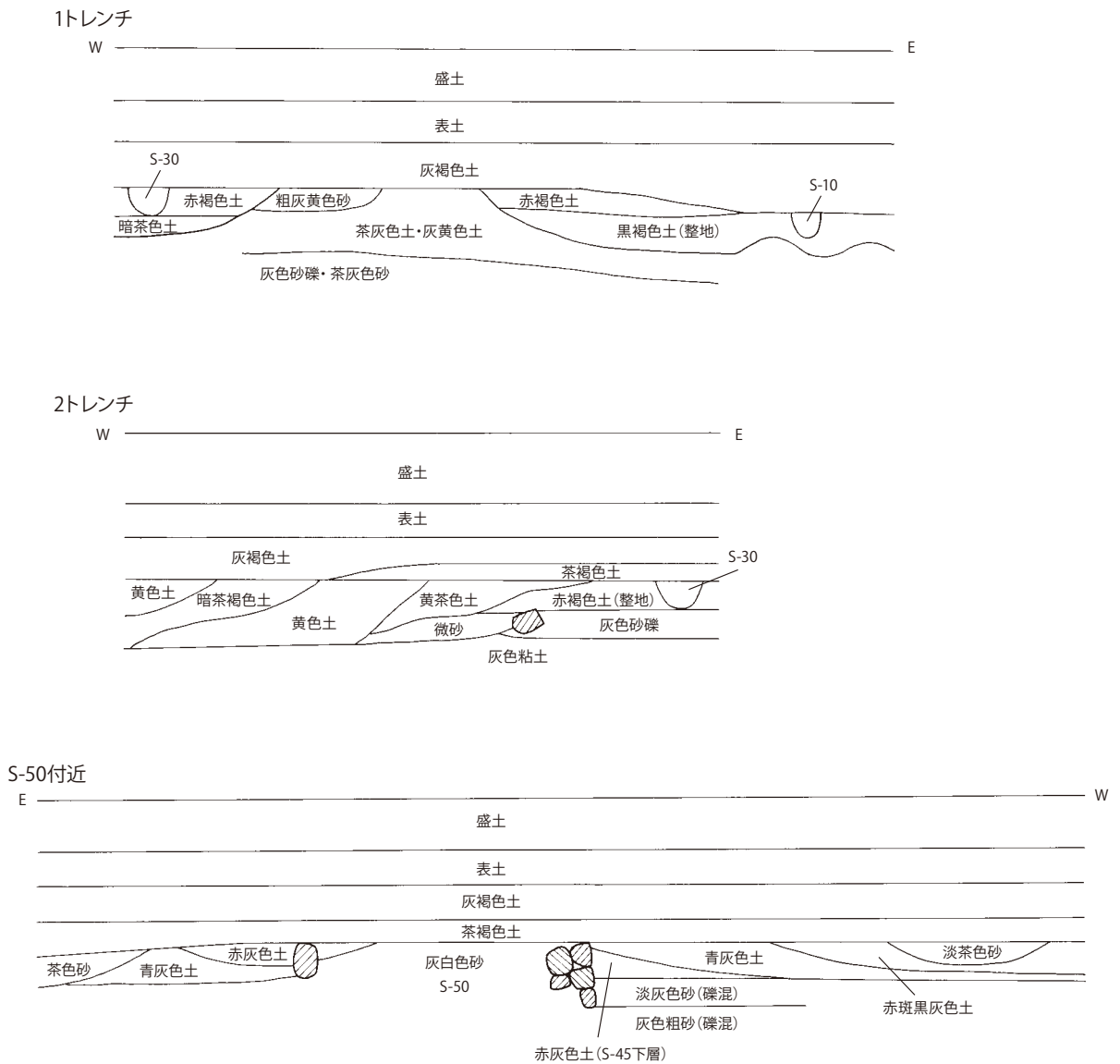


Fig. 4 第35次調査基本土層模式図

(2) 基本層位と整地 (Fig. 4・6・7)

調査地表面の標高は約 36.6m で、調査の西側は、1m 前後の盛土の下に、厚さ 0.2m 程の表土があり、その下の厚さ 0.1m 程の灰褐色土を除去すると遺構が確認できる。東側は灰褐色土の下に茶褐色土があり、それを除去すると遺構が確認できる。北側は上層から赤褐色土、暗褐色土、黒褐色土、灰褐色土となり、灰褐色土を除去すると遺構が確認できる。

築地状遺構 (SX001) に囲まれた内側は、黒褐色土や赤褐色土などの整地が厚さ 0.15m 前後広がり、それに SB010 などの建物が建築されている。また、築地状遺構 (SX001) の外側には赤褐色土の整地が厚さ 0.3～0.4m 程確認できる。整地を除去した面の調査は、SB010 東側の一部に留まっているが、僅かにピットなどの遺構が確認されている。なお、それらのピットからは底部糸切りの土師器が出土している。

(3) 検出遺構

建物

35SB010 (Fig. 8)

桁行 5 間×梁間 5 間 (12.2×7.0m) の南北棟で、主屋は桁行 3 間×梁間 5 間で、東西それぞれに庇を 1 間づつ付ける。振れは N-9° 38' -W である。柱間は桁行が 2.4m、梁間は西から 1.25m・2.5m・1.4m、主屋と庇の柱間は西側で 1.25m、東側で 0.6m である。主屋の基礎は径 0.4m 前後の掘り方に大きさ 0.2m 前後の平らな礎石を据えている。礎石は部分的に消失しているが、全てに礎石があったと推測される。庇の基礎に礎石や根石は確認できず、掘立柱であった可能性が考えられる。調査では瓦は少量しか出土していないことから、屋根は板葺か草葺であったと考えられる。なお、建物は黒褐色土や赤褐色土などの整地上に建築されている。

35SB070 (Fig. 9)

調査区北端のためそのほとんどが北側調査区外へと続き全容は不明な部分が多い。確認された柱穴は 4 個、礎石が 1 個で、南側で柱穴が未確認のため、確認した柱穴列は建物の南辺部分と推測される。梁間 5 間 (6.8m) の南北棟の建物で、主屋は梁間 2 間 (3.9m) で柱間は梁間が 1.95m、東西に庇を付けると推測され、主屋と庇の柱間は 1.1m で、西側にはさらに柱間 0.7m で孫庇を設ける。主屋は礎石建ち、庇は礎石建ちもしくは掘立柱と推測される。調査で瓦は少量しか出土していないことから、屋根は SB010 と同じく板葺か草葺であったと考えられる。なお、建物南側には溝 (SD057) が掘られ、建物一帯は周辺より 0.1m 前後高くなっている。

門

35SB035 (Fig. 9)

築地南西隅で検出された礎石 1 個 (A) と礎石抜き取り痕 1 基 (B) で、立地状況から築地状遺構に設けられた門と推測され、柱間は約 3.6m である。北側本柱の基礎 (A) は、大きさ 1.0～1.1m の円形掘り方に、大きさ 0.6×0.7m、厚さ 0.24m、上面が平坦な礎石を水平に据えられていた。礎石の周囲には根石とみられる 0.1m 前後の礫がみられる。南側本柱の基礎 (B) は、1.35×0.9m の楕円形の掘り方で、掘り方内には根石とみられる 0.1m 前後の礫が敷かれていたが、礎石は遺存していなかった。控柱は検出されず、柱間が約 3.6m と広いことから冠木門と推測される。

築地状遺構

35SA001 (Fig. 5～7)

調査区の西側から南側にかけて L 字形に検出された築地状の高まりである。西側の築地状遺構は検出長 34.2m、振れは N-6° 13' 33" -W で、北側調査区外へと続く。南側の築地状遺構は検出長約 28m、振れは E-8° 56' 3" -N である。振れについては築地状遺構が削平を受け側辺部が直線でない状況を

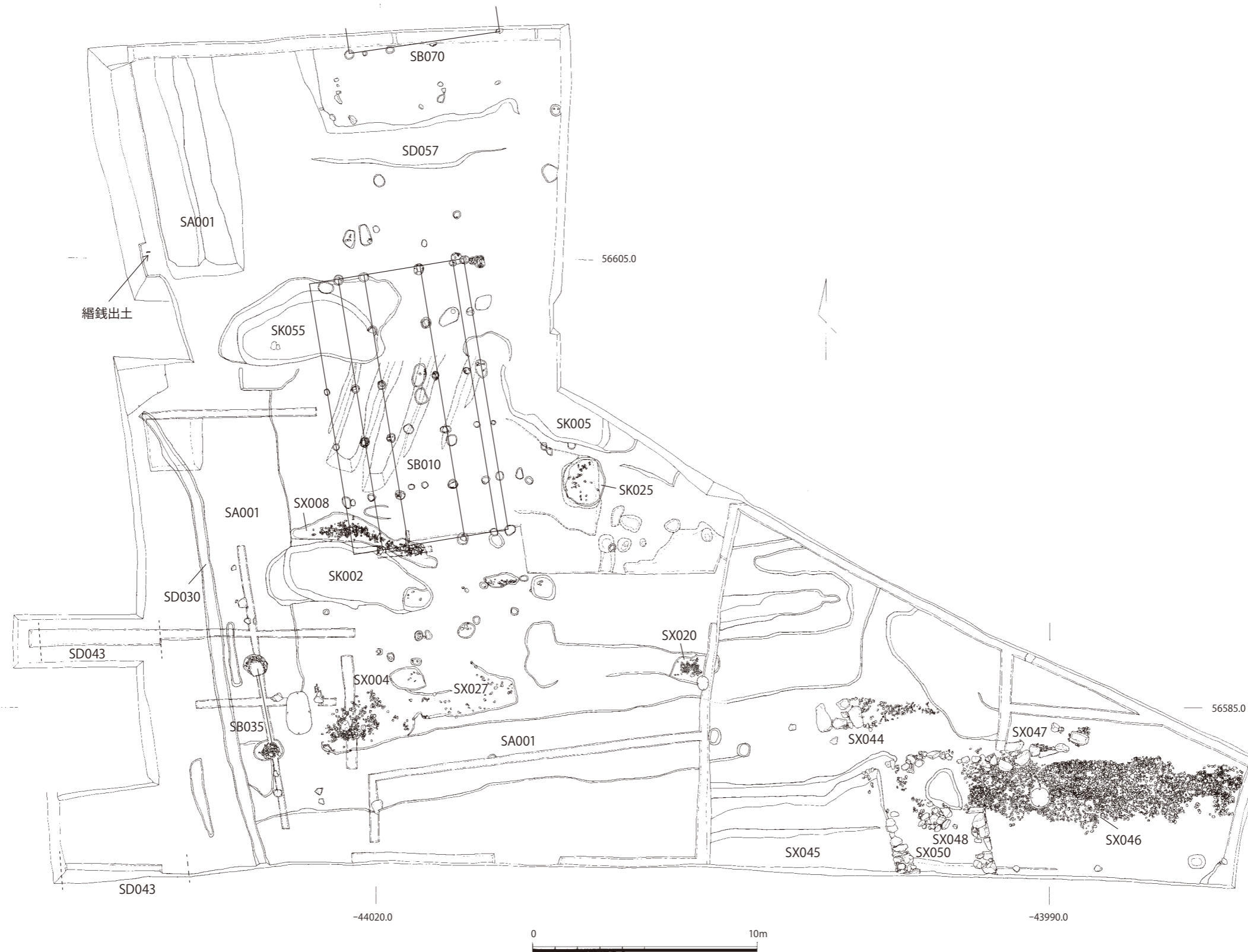


Fig. 5 第35次調査遺構全体図 (1/200)

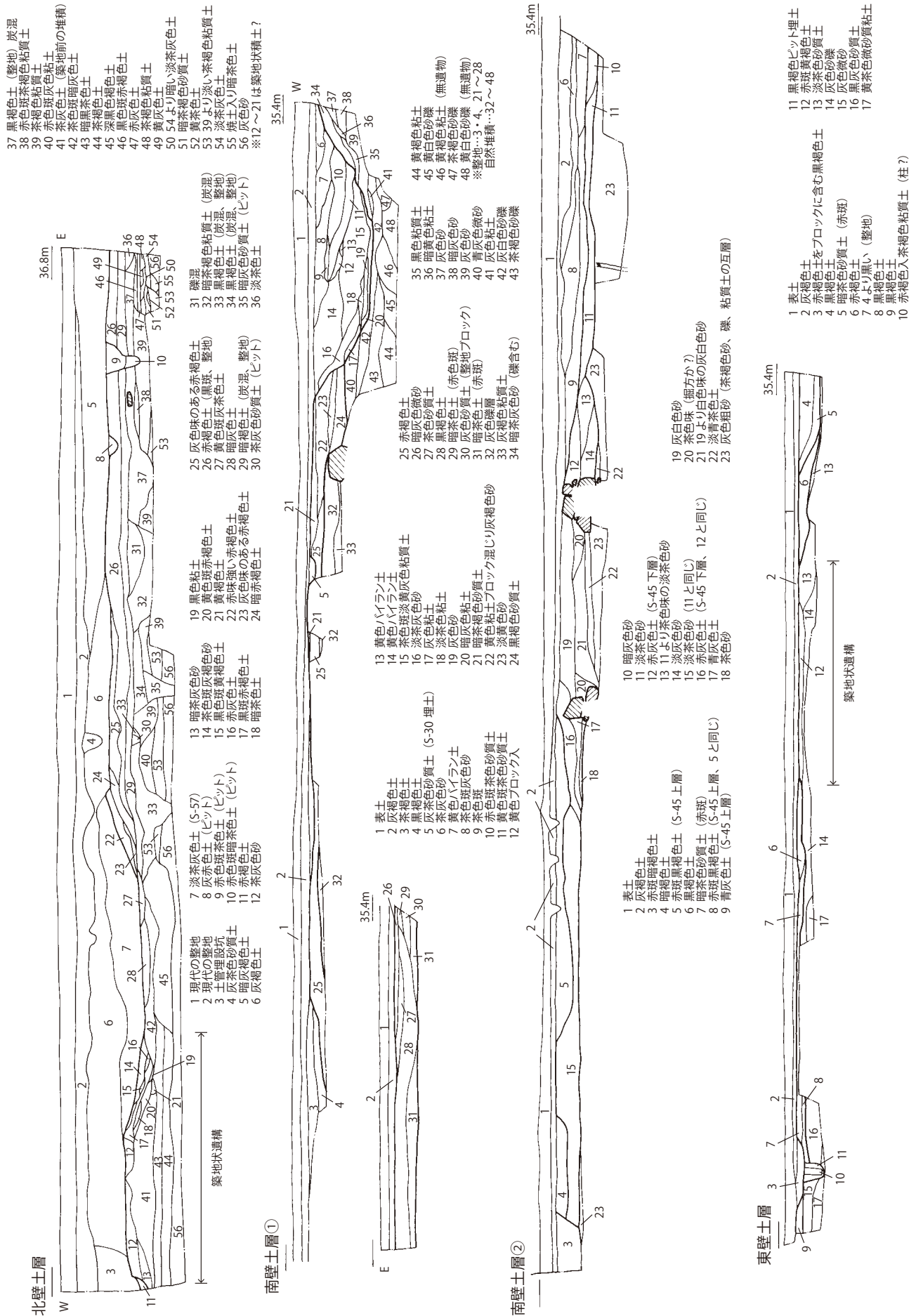


Fig.6 第35次調査区土層実測図 (1/100)

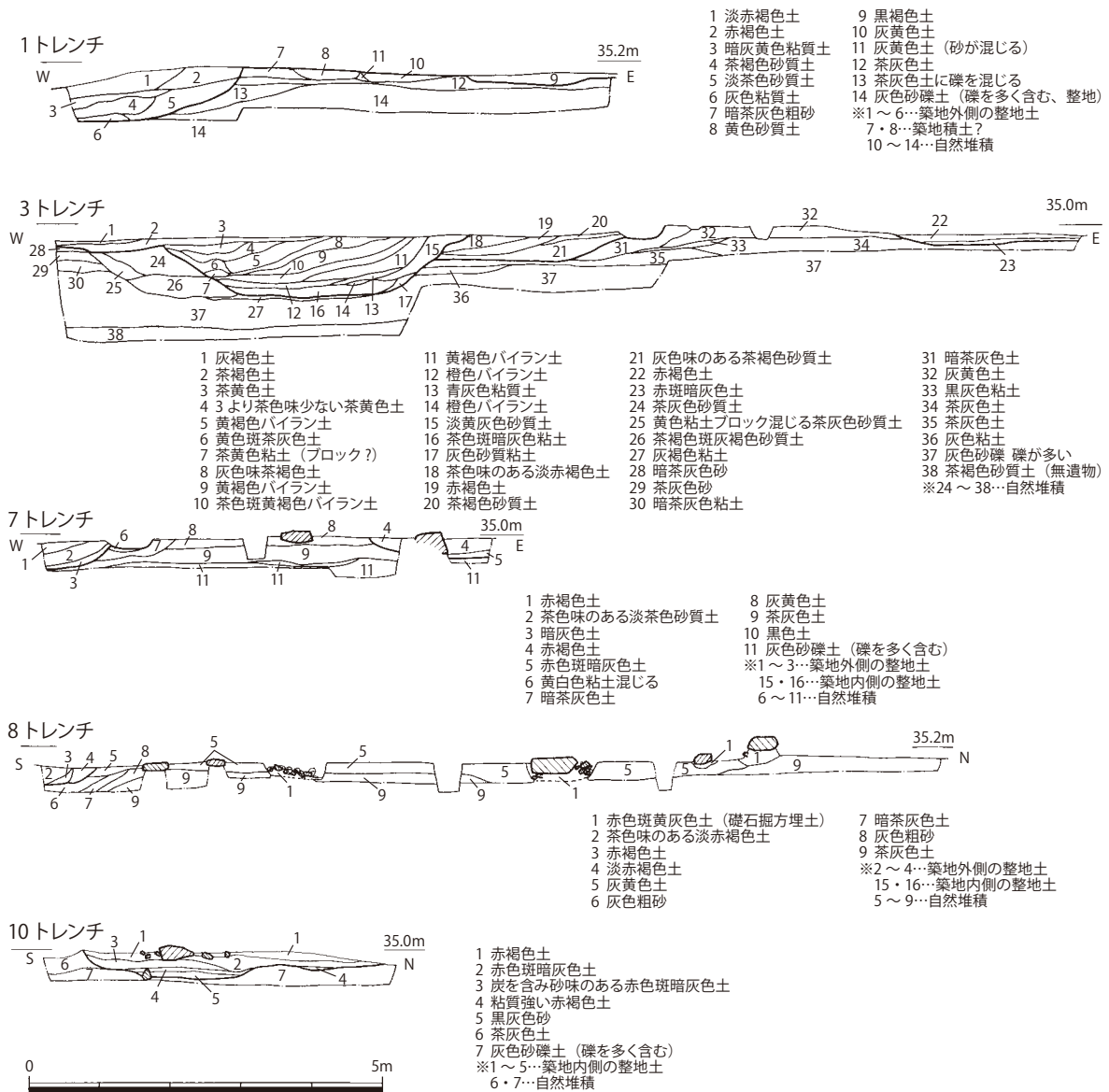


Fig. 7 第35次調査トレンチ土層実測図 (1/100)

考慮すると、ほぼ直角に造られている。築地状遺構上面は削平され、築地状遺構は積み土が僅かに確認できる程度で、最大残存高は築地状遺構北側で0.29mである。ほとんどが両側の整地と異なり、削り出したような基底のみである。確認できる基底幅は、西側は3.2～3.8m、南側で2.5～4.2mである。調査で瓦は少量しか出土していないことから、築地状遺構は土塁や板葺の築地であった可能性が高い。なお、築地中の出土遺物は13世紀前半頃のものを中心であった。僅かに出土した新しい遺物は表面を覆っていた異物が混入したものと考えられる。

なお、SA001の西側赤褐色土上面では緞銭が1束(100枚)出土した。

溝

35SD030

西側築地状遺構(SA001)の西側に平行して検出された南北溝で、検出長21m、幅0.4～0.95m、深さ0.1m前後である。溝は北側で北西に方位を変えている。建物や築地状遺構が廃絶した後に掘られたものと推測されるが、築地状遺構(SA001)に平行していることから、溝掘削時にまだ築地状遺構の痕跡が残っていた可能性も考えられる。



Fig. 8 35SB010 遺構実測図 (1/60)

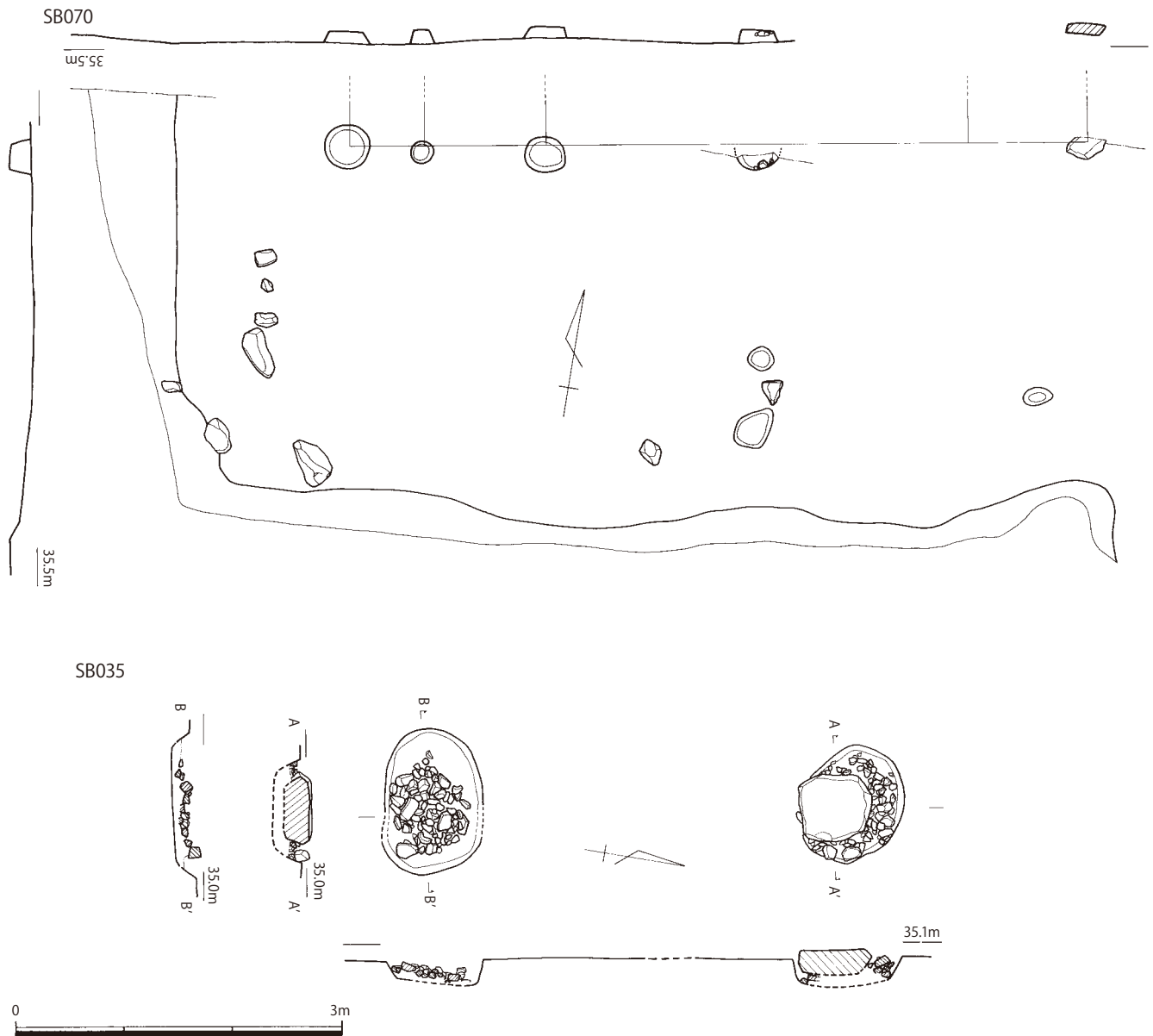


Fig. 9 35SB070・035 遺構実測図 (1/60)

35SD043 (Fig. 6・7)

築地状遺構 (SA001) の西側に設定した2本のトレンチ (2・3 トレンチ) で確認された南北溝で、調査時は自然の窪みとされたため、全容が不明であるが、長さ22m以上、幅4.35～5.5m、深さは0.88～1.05mで、底面は南に向かって下がっている。溝は整地に切り込んで掘られ、黄色土の埋土状況から東側から人為的に一気に埋められた状況が窺える。埋土最上面は非常に硬く締まっていて、道路の掘り込み地業の可能性も考えられるが、建物や築地の基盤部分に目立った基礎地業が行われていないにも関わらず、道路にこれほどの地業を行うとは考えられず、当初溝として掘られたものが、埋められた後に道路として使用されたと考えた方が妥当である。なお、その規模や断面が台形状をなしていること、築地状遺構に平行して掘られていることなどを考えると、堀と呼んだ方が適当なのかもしれない。

35SD057

検出長8.3m、幅1.7～2.4m、深さ0.1m前後の東西溝である。SB070に伴う溝と推測される。

土坑

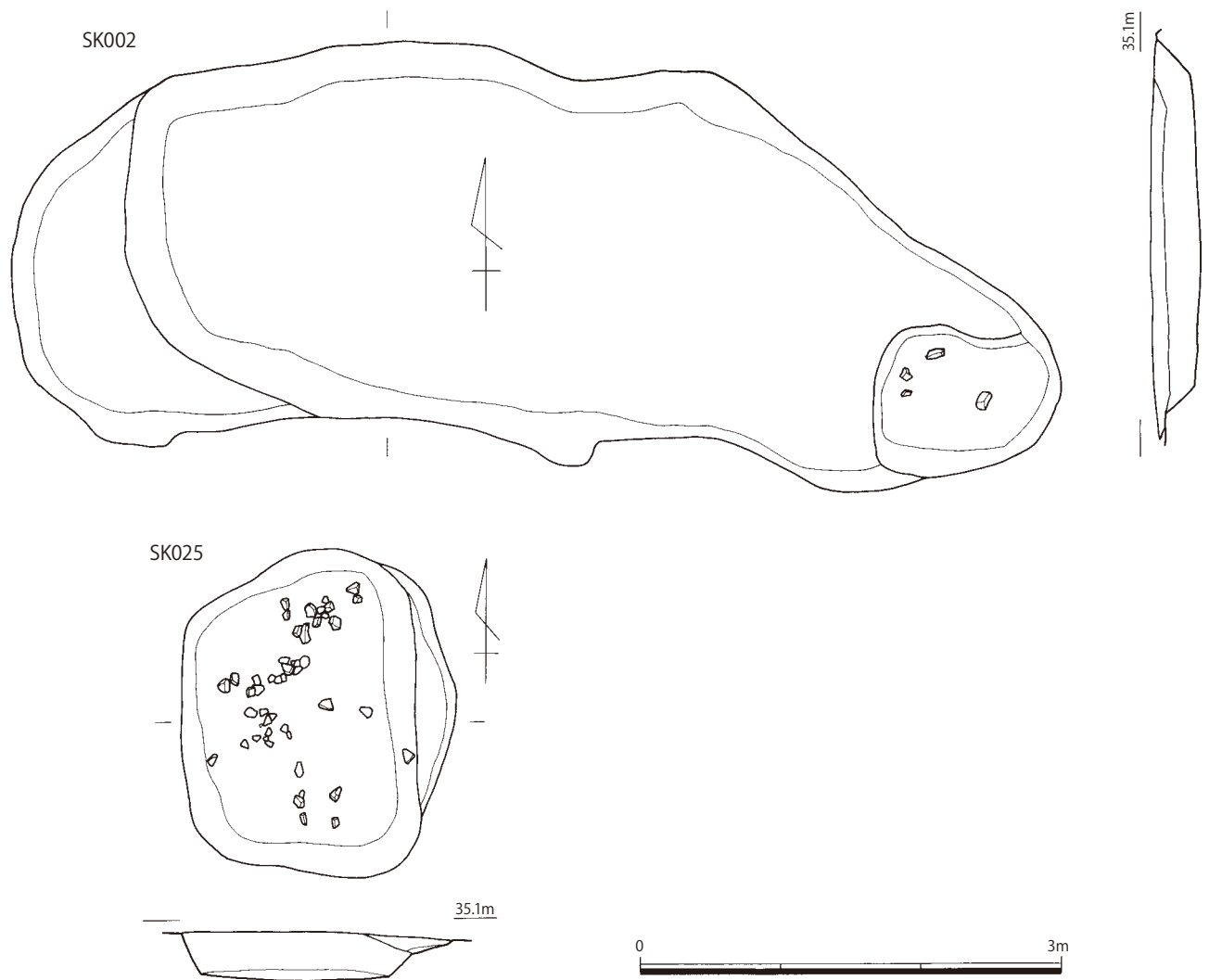


Fig. 10 35SK002・025 遺構実測図 (1/50)

35SK002 (Fig. 10)

東西 7.5m、南北 2.7m、深さ 0.35m の長楕円形土坑。SB010 の南西隅を切って掘られ、SX001 の築地の一部を削っている。

35SK005

大きさ 2.0 × 7.0m、深さ 0.3m の長楕円形土坑である。

35SK025 (Fig. 10)

東西 1.94m、南北 2.35m、深さ 0.38m の楕円形土坑。埋土には 0.1m 以下の礫が混じっている。

35SK055

東西 8.4m、南北 3.7m、深さ 0.37m 前後で、底面は北半分が 2 段になっている。

石列

35SX047 (Fig. 13)

大きさ 0.3 ~ 0.9m 程の礫を東西に並べているが、真っすぐには並んでなくやや蛇行している。検出長は 9.1m で、面は揃えておらず SX046 の端に並べた石列の可能性もある。

石積み・通路

35SX050 (Fig. 11)



Fig. 11 35SX050 遺構実測図 (1/50)

2列に平行して造られた石積みで、その状況から2本の石積み間は通路と推測される。東側の石積みは、大きさ0.6m前後の花崗岩礫が1～2段残り、高さは最も残りが良い部分で0.5mである。西側は大きさ0.3～0.4mの花崗岩礫が2段程残り、高さは最も残りが良い部分で0.6mである。2本の石積み間は、石積みを含めて4.4mあり、長さは3.1mを測る。

礫群

35SX004・027 (Fig. 12)

築地状遺構 (SX001) の南西隅の内側で検出された、深さ0.05m程の窪みで、その埋土には大きさ0.1m前後の礫が含まれ、西側では約1.8～3.4mの範囲で礫が集中して検出された。

35SX008 (Fig. 12)

東西6.7m、南北0.5～1.35m、深さ0.07m前後の溝状土坑に、大きさ0.1m以下の礫が埋められている。SB010の南西隅を切って掘られている。

35SX020

SX015の東端で検出され、大きさ0.1m以下の礫が、広さ1.0m×0.9m、深さ0.05mの範囲に敷かれて

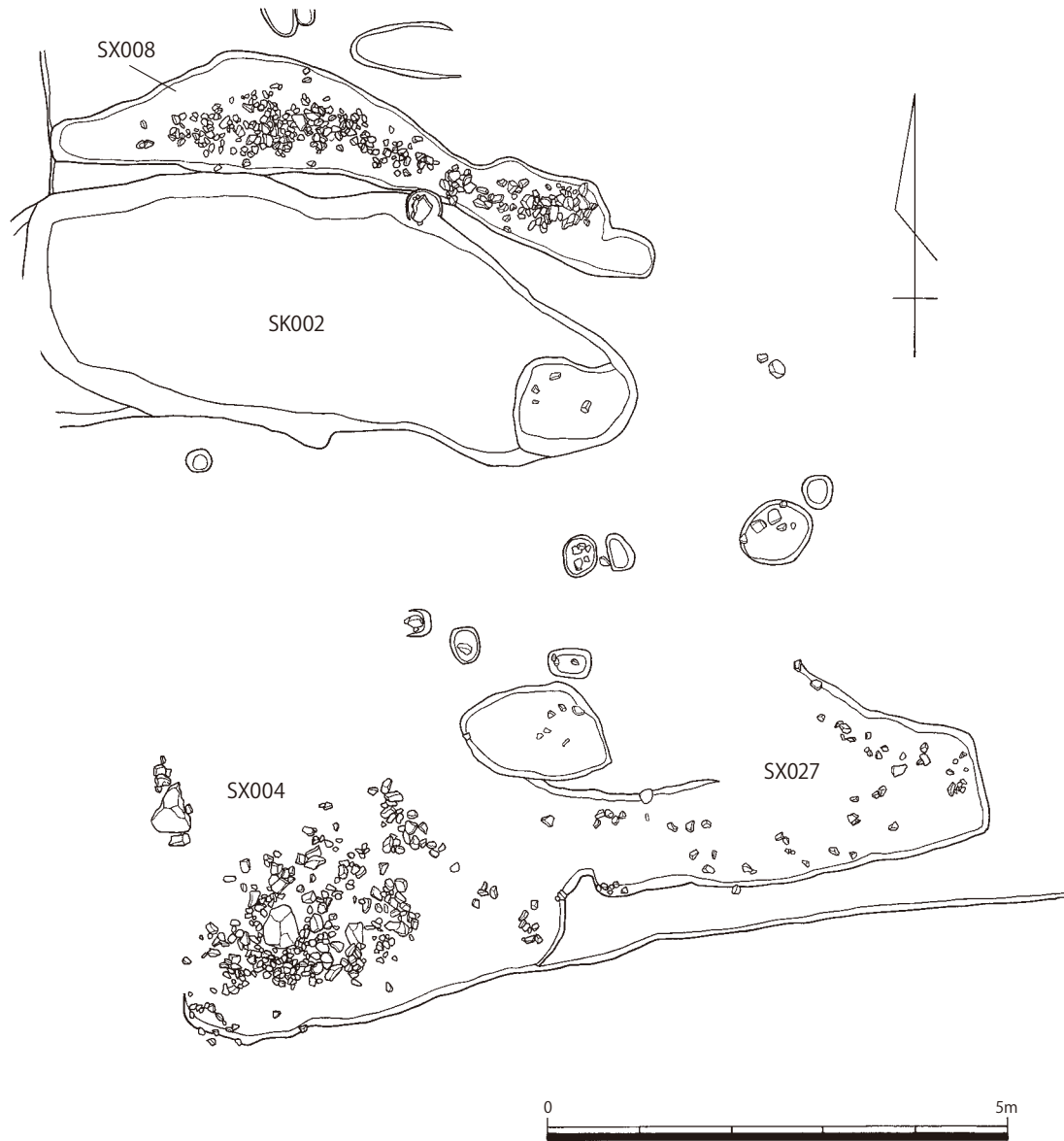


Fig. 12 35SX004・008・027 遺構実測図 (1/80)

いる。

35SX044 (Fig. 13)

検出長 5.5m。西側には最大長 1.3m の礫など大石を置き、東半分は 0.1m 以下の礫群が敷かれる。築地状遺構 (SX001) の延長上にあたり、振れは同じであるが、他の築地部分では未検出であることから、築地状遺構の基礎地業とは考え難く、築地状遺構が途切れていたか、築地状遺構廃絶後に並べられた可能性が高い。礫の大きさが異なるラインは、ちょうど SX050 の西側石積の延長上にあることから、それぞれの関連性が窺われ、同時に存在していた可能性も考えられる。

35SX046 (Fig. 13)

調査区南東隅で帯状に検出された礫群である。検出範囲は長さ 12.6m、幅 2.6m 前後で、礫は大きさおよそ 0.15m 以下の花崗岩礫である。礫群は SX050 の東側石列の途切れている北側部分にも広がっているが、建物や築地状遺構と振れがやや異なっている。

35SX048 (Fig. 13)



Fig. 13 35SX044・046・047・048 遺構実測図 (1/80)

35SX050 の 2 列の石積みの中に敷かれた礫群で、その範囲は南北 1.4m、東西 1.5m で、礫は大きさ 0.3 ～ 0.4m 程で 1 段ほど敷いている。SX050 の通路に敷かれた敷石の残存物であるとみられる。しかし、周囲で全く検出されていないことから、何かの基礎の根石である可能性も考えられる。

落ち込み

35SX045

調査区南辺部で検出されたが、全体が調査されていないため、全容がわからないが、赤褐色土の整地に掘り込まれた落ち込みで、検出長 8.2m 以上、幅 2m 以上、深さは北側の SX001 から 0.55 ～ 0.67m である。落ち込みの北側の始まりが、SX050 の検出範囲と同じであるため、SX050 と同時期のものと推測され、築地状遺構の南側に掘られた堀の可能性が高い。

(4) 出土遺物

建物

35SB010

35SB010a1 出土遺物 (Fig. 14)

土師器

坏 a (1、2) 底部切り離しは回転糸切りで、板状圧痕を残す。

35SB010a3 出土遺物 (Fig. 14)

土師器

小皿 b (3) 復元口径 6.9 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 (4) 大きく欠損し、体部のみである。

土師質土器

鍋もしくは鉢 (5) 口縁部を丸く曲げる。胎土は白色砂粒を多く含み、色調は黄橙色を呈する。内外面ともヨコナデ調整である。

35SB010b4 出土遺物 (Fig. 14)

土師器

小皿 b (6) 復元口径 6.8 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

35SB010c1 出土遺物 (Fig. 14)

土師器

小皿 a (7) 復元口径 7.6 cm。底部切り離しは回転糸切りで、板状圧痕を残す。

坏 a (8) 復元底径 8.0 cm。底部切り離しは回転糸切りで、板状圧痕を残す。

中世国産陶器

甕 (9) 胎土は 0.2 cm 以下の白色砂粒を少量含み暗灰色を呈する。内面は工具による横方向のナデ、外面には小さな格子目の叩きとタテハケを施す。東海系。

青白磁

瓶 (10) 復元口径 5.6 cm。薄い頸部で口縁部は L 字形に曲げ肥厚させる。外面と口縁部内面に細かい貫入が入る緑灰白色釉を施す。

35SB010c2 出土遺物 (Fig. 14)

土師器

小皿 b (11) 復元口径 7.8 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

35SB010c3 出土遺物 (Fig. 14)

土師器

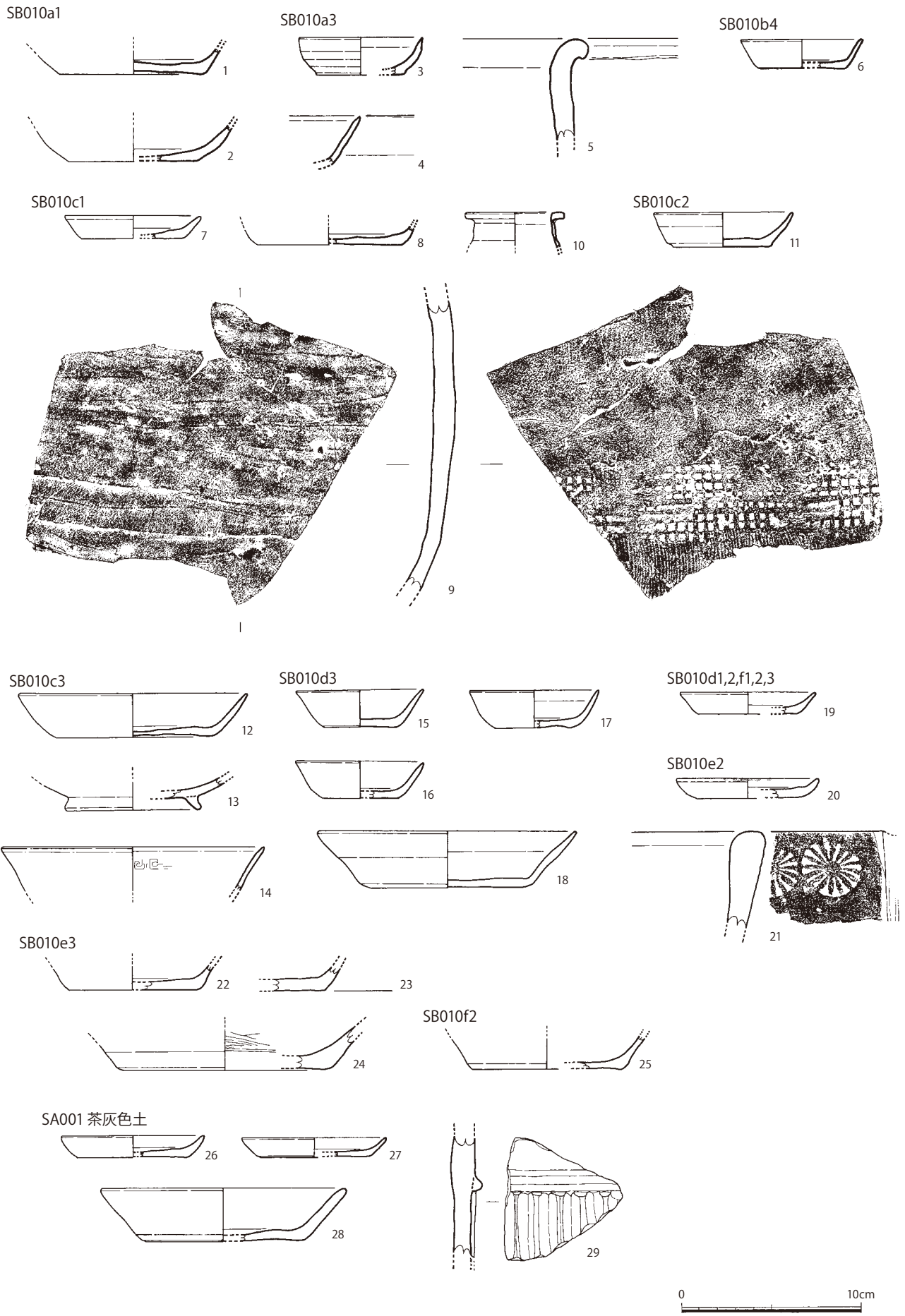


Fig.14 35SB010、SA001 出土遺物実測図 (1/3)

坏 a (12) 復元口径 12.8 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

瓦器

碗 c (13) やや外開きの高台を貼付する。内外面とも摩滅し調整不明。復元高台径 7.6 cm。

青白磁

碗 (14) 内外面に白青色釉を施し、口縁端部は釉を拭き取る。内面にはうっすら雷文を施す。復元口径 14.6 cm。

35SB010d3 出土遺物 (Fig. 14)

土師器

小皿 b (15 ~ 17) 復元口径 7.05 ~ 7.2 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (18) 復元口径 14.4 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

35SB010d1. 2、f1. 2. 3 出土遺物 (Fig. 14)

土師器

小皿 a (19) 復元口径 7.6 cm。底部切り離しは回転糸切り。出土した柱穴が明確に特定できない。

35SB010e2 出土遺物 (Fig. 14)

土師器

小皿 a (20) 復元口径 8.0 cm。底部切り離しは不明だが板状圧痕を残す。

瓦質土器

火鉢 (21) 内外面ともナデ調整で、外面は縦押線で輪花状に作る。また外面には花文スタンプを施す。

35SB010e3 出土遺物 (Fig. 14)

土師器

坏 a (22、23) 底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

瓦質土器

鉢 (24) 内面は使用による擦痕があり平滑となる。外面底部には板状圧痕が残る。復元底径 12.0 cm。

35SB010f2 出土遺物 (Fig. 14)

土師器

坏 a (25) 底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。復元底径 8.4 cm。

築地状遺構

35SA001 茶灰色土出土遺物 (Fig. 14)

土師器

小皿 a (26、27) 復元口径は 8.0 cm と 8.1 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (28) 復元口径は 13.8 cm。底部切り離しは回転糸切りで、板状圧痕を残す。

土師質土器

火鉢 (29) 胎土は白色砂粒や雲母を多く含み、黄橙色を呈する。内外面ともナデ調整で、外面には突帯を貼付し、その下は縦方向の削り出しを行う。

溝

35SD030 出土遺物 (Fig. 15)

土師器

小皿 a (1) 復元口径 7.8 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

高麗青磁

碗 (2) 復元口径 17.0 cm。精製された胎土は灰色で、内外面に乳白色の象嵌を施し、貫入のある暗

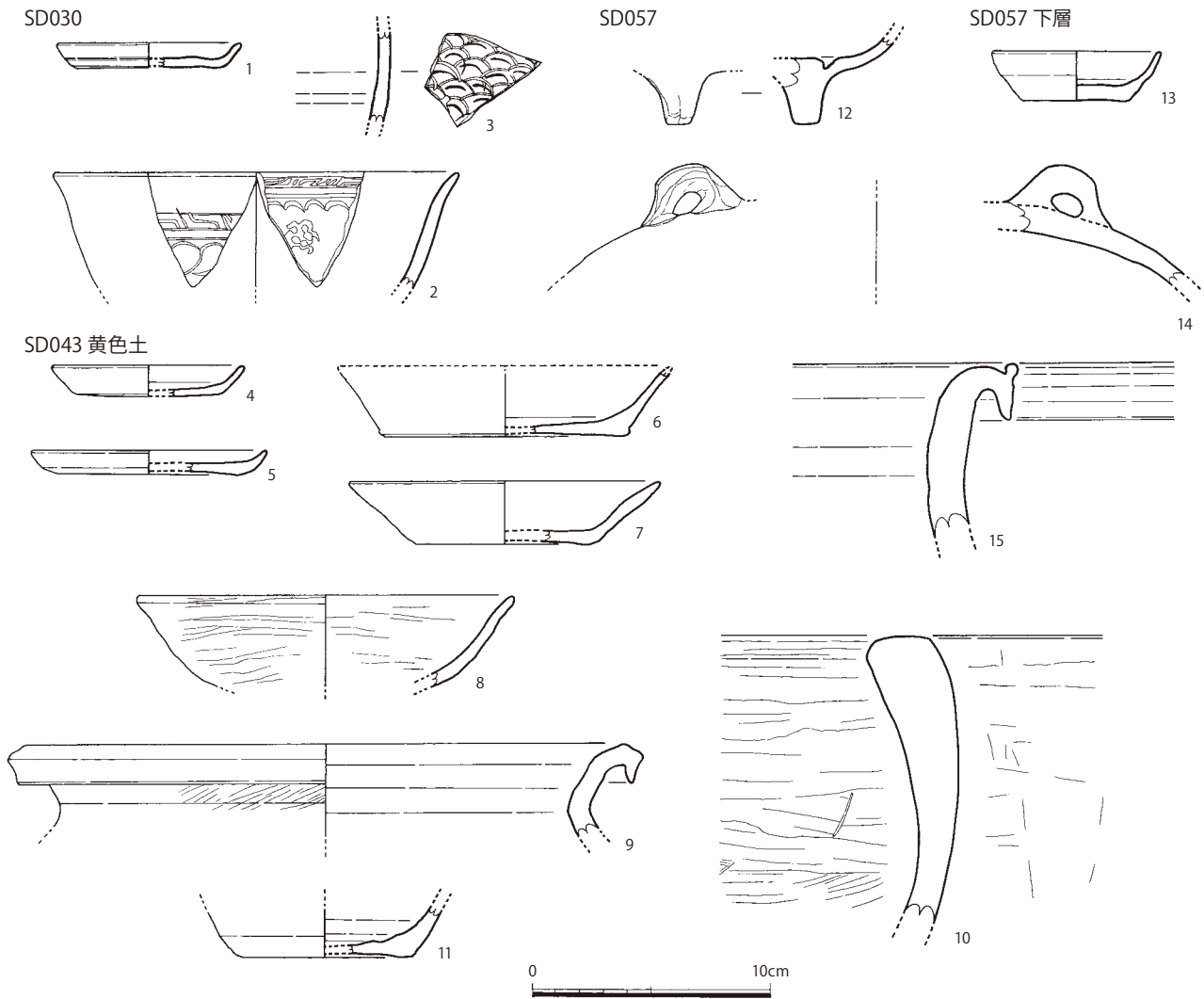


Fig. 15 35SD030・043・057 出土遺物実測図 (1/3)

緑灰色釉を施釉する。

壺 (3) 内面は露胎。外面は灰緑色釉を施し、白色釉と黒色釉で鱗状の象嵌を描く。

35SD043 黄色土出土遺物 (Fig. 15)

土師器

小皿 a (4, 5) 復元口径 8.1 ~ 9.8 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (6) 底部切り離しは回転糸切りである。

坏 b (7) 復元口径 13.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

瓦器

椀 (8) 復元口径 15.8 cm。内外面ともミガキ c を施す。

瓦質土器

甕 (9) 口縁部を大きく外反させ、外面には僅かに叩き痕が確認できる。胎土は灰茶色を呈する。

火鉢 (10) 胎土は砂粒を多く含み灰白色を呈する。体部は口縁部に向かって肥厚する。外面はミガキ、内面は横方向のナゲ調整である。

白磁

壺 (11) 復元底径 7.4 cm。外面底部は回転ヘラケズリ。外面は透明度が低い灰白色釉を施し、内面

は回転ナデで露胎。広東系。

35SD057 出土遺物 (Fig. 15)

龍泉窯系青磁

香炉 (12) 底部に脚を貼付するもので、香炉と推測される。胎土は白灰色で内外面に光沢のある青味がかった透明釉を施すがやや白濁している。IV類。

35SD057 下層出土遺物 (Fig. 15)

土師器

小皿 b (13) 復元口径 7.1 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

中世国産陶器

耳壺 (14) 胎土は白色砂粒を含み、灰色や暗灰色を呈する。耳を貼付する。内外面は茶色を呈し光沢がある。備前系か。

甕 (15) 口縁部を折り曲げ、内外面とも回転ナデ調整。胎土は白色砂粒や黒色粒を含み、灰色を呈する。東海系。

土坑

35SK002 出土遺物 (Fig. 16)

土師器

小皿 a (1) 復元口径 9.0 cm。底部切り離しは摩滅し不明。

坏 a (2) 復元底径 6.4 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

中世国産陶器

甕 (3) 胎土は 0.6 cm 以下の白色砂粒や 0.1 cm 以下の白色砂粒を多く含み、茶褐色を呈する。内外面ともナデ調整し、外面には押印文を施す。

青白磁

壺 (4) 外面はへら描き文様の後に青緑色がかった水色釉を施す。内面には薄く灰緑色釉を施す。

龍泉窯系青磁

坏 (5) III-3a 類。光沢のある暗緑灰色釉を厚く施す。復元口径 15.0 cm。

金属製品

銭貨 (6~8) 6 は 1107 年初鑄の北宋銭「大観通寶」。径 2.45 cm。7 は 1004 年初鑄の北宋銭「景德元寶」。径 2.5 cm。8 は大きく欠損するが「□寧□□」とある。

35SK005 出土遺物 (Fig. 16)

土師器

小皿 a (11) 復元口径 8.2 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

小皿 b (9、10) 復元口径 7.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (12) 復元口径 15.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

瓦質土器

火鉢 (13) 復元口径 25.0 cm。体部には火窓を設け、外面はミガキ調整し、口縁直下には花文のスタンプを巡らしている。

白磁

椀 (14) 薄い器壁で、外面に白堆線で圏線、内面に蓮弁状の文様を描き、淡い水色釉を施す。枢府系。

龍泉窯系青磁

椀 (15) 内外面に光沢があって貫入の入る淡緑色釉を施すが、外面下半は露胎。IV類か。

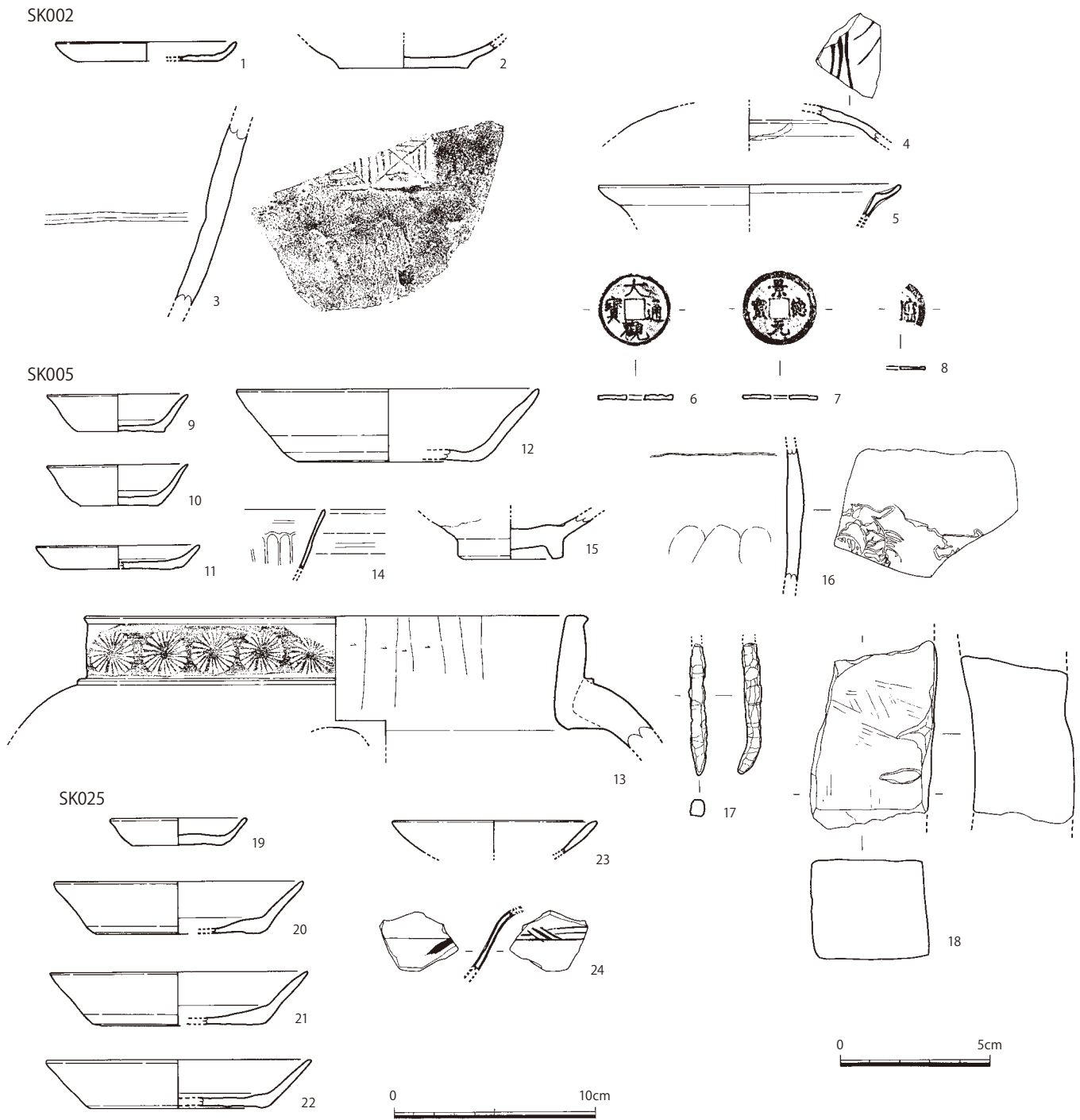


Fig. 16 35SK002・005・025 出土遺物実測図 (1/3、石製品・金属製品は1/2)

中国陶器

甕 (16) 胎土は白色砂粒や茶色粒を多く含み、外面には文様を線刻し、暗緑茶色釉を施す。

金属製品

鉄釘 (17) 上端部を欠損し、現存長 4.4 cm。断面方形の和釘である。

石製品

砥石 (18) 直方体で両端を欠損する。主に 3 面使用している。砂岩製。

35SK025 出土遺物 (Fig. 16)

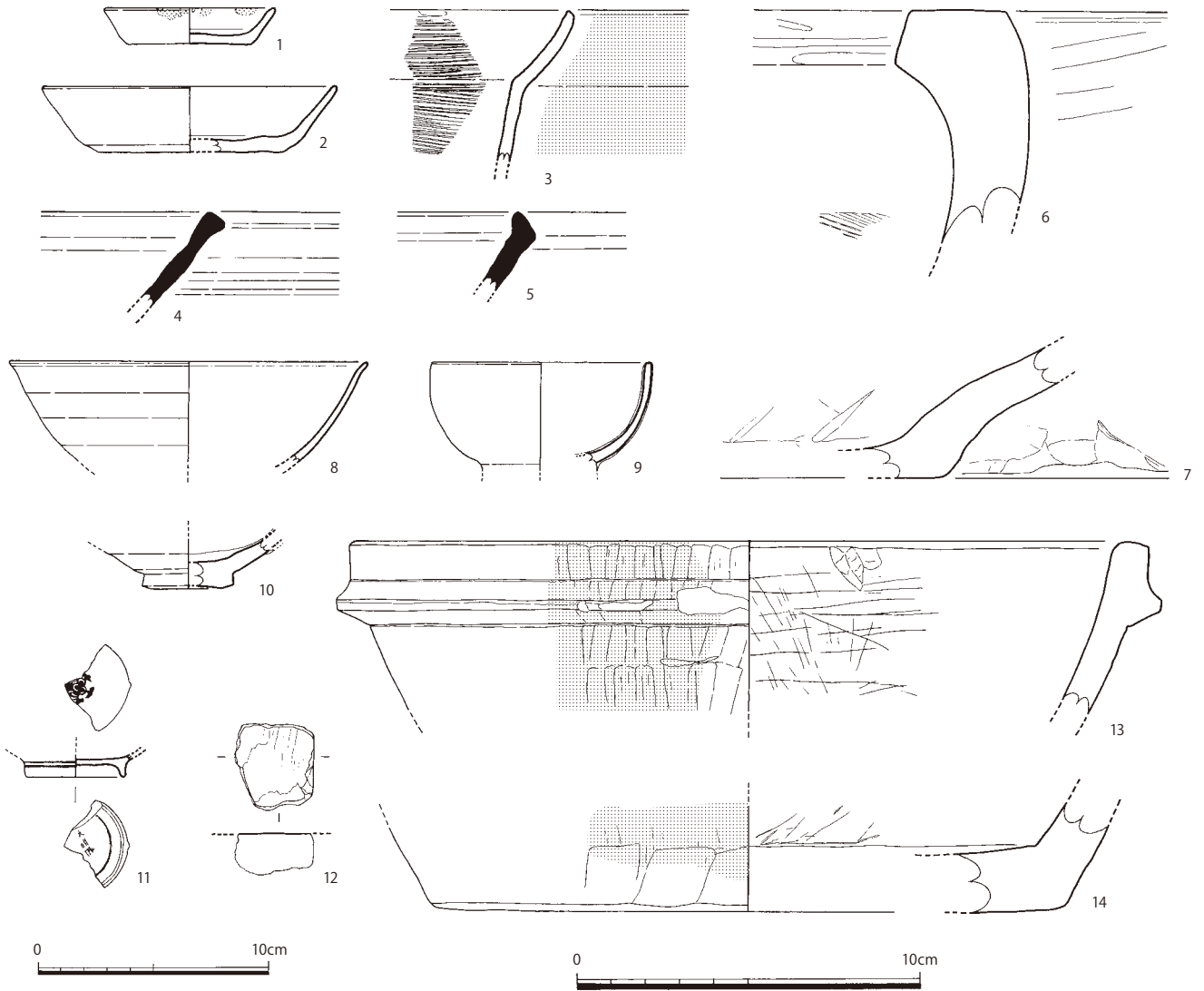


Fig. 17 35SK055 出土遺物実測図 (1/3、石製品は1/2)

土師器

小皿 a もしくは小皿 b (19) 復元口径 6.8 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (20 ~ 22) 復元口径 12.4 ~ 13.2 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

白磁

皿 (23) IX-1b 類。復元口径 10.2 cm。

龍泉窯系青磁

椀 (24) IV 類。口縁部を外反させ、内外面に文様を施し、青緑色釉を施釉する。

35SK055 出土遺物 (Fig. 17)

土師器

小皿 a もしくは小皿 b (1) 口径 7.4 cm。底部切り離しは回転糸切り。口縁部には煤が付着する。

坏 a (2) 復元口径 12.8 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

土師質土器

鍋 (3) 口縁部を外反させ、内面はヨコハケ、外面には煤が付着する。

須恵質土器

鉢 (4、5) 東播系。

瓦質土器

火鉢 (6) 胎土は 0.2 cm 以下の白色砂粒や黒色粒を多く含み、色調は灰白色を呈する。内面はヨコナデで一部ハケがみられる。口縁部から外面は丁寧なミガキでミガキ単位は不明瞭である。外面は暗灰色を呈する。

中世国産陶器

甕 (7) 胎土は 0.6 cm 以下の白色砂粒を多く含み暗茶灰色や橙茶色を呈する。内外面ともナデ調整で、外面底部は未調整である。

白磁

椀 (8) IX 類。復元口径 15.6 cm。

龍泉窯系青磁

小椀 (9) 復元口径 9.6 cm。内外面とも光沢があり、大きな貫入が入る淡緑灰色釉を施す。上田分類 E 類か。

黒釉陶器

天目椀 (10) 復元高台径 4.0 cm。胎土は灰白色で、内外面に光沢があり貫入のある黒色釉を施す。外面下半は露胎である。

染付

椀 (11) 肥前系もしくは明染の磁器。呉須で内面に五弁花文を施し、底部外面に「大明成」の文字がみえる。復元高台径 4.2 cm。

土製品

土壁 (12) 胎土は 0.3 cm 以下の白色砂粒を多く含み暗橙色を呈する。2 面をナデ調整する。

石製品

石鍋 (13, 14) 滑石製。外面には煤が付着する。13 は復元口径 23.2 cm。内面には擦痕が多くみられる。14 は復元底径 18.4 cm。

その他の遺構

35SX004 出土遺物 (Fig. 18)

土師器

小皿 a (1, 2) 復元口径 7.6 cm と 8.6 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

35SX007 出土遺物 (Fig. 18)

瓦質土器

鉢 (3) 鉢の口縁部とみられ、端部上面に文様をスタンプしている。

35SX008 出土遺物 (Fig. 18)

中世国産陶器

甕 (4) 胎土は白色砂粒を含み、口縁部を曲げている。内外面ともヨコナデで茶褐色釉を施す。東海系。

青白磁

皿 (5) 内面底部に草花文を作り出し、内外面に青味のある透明釉を施す。

龍泉窯系青磁

皿 (6) IV 類。内外面とも淡い緑青色釉を厚く施し、高台内面は釉を拭き取る。復元口径 11.0 cm。

35SX015 出土遺物 (Fig. 18)

土師器

小皿 a (8) 復元口径 8.8 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

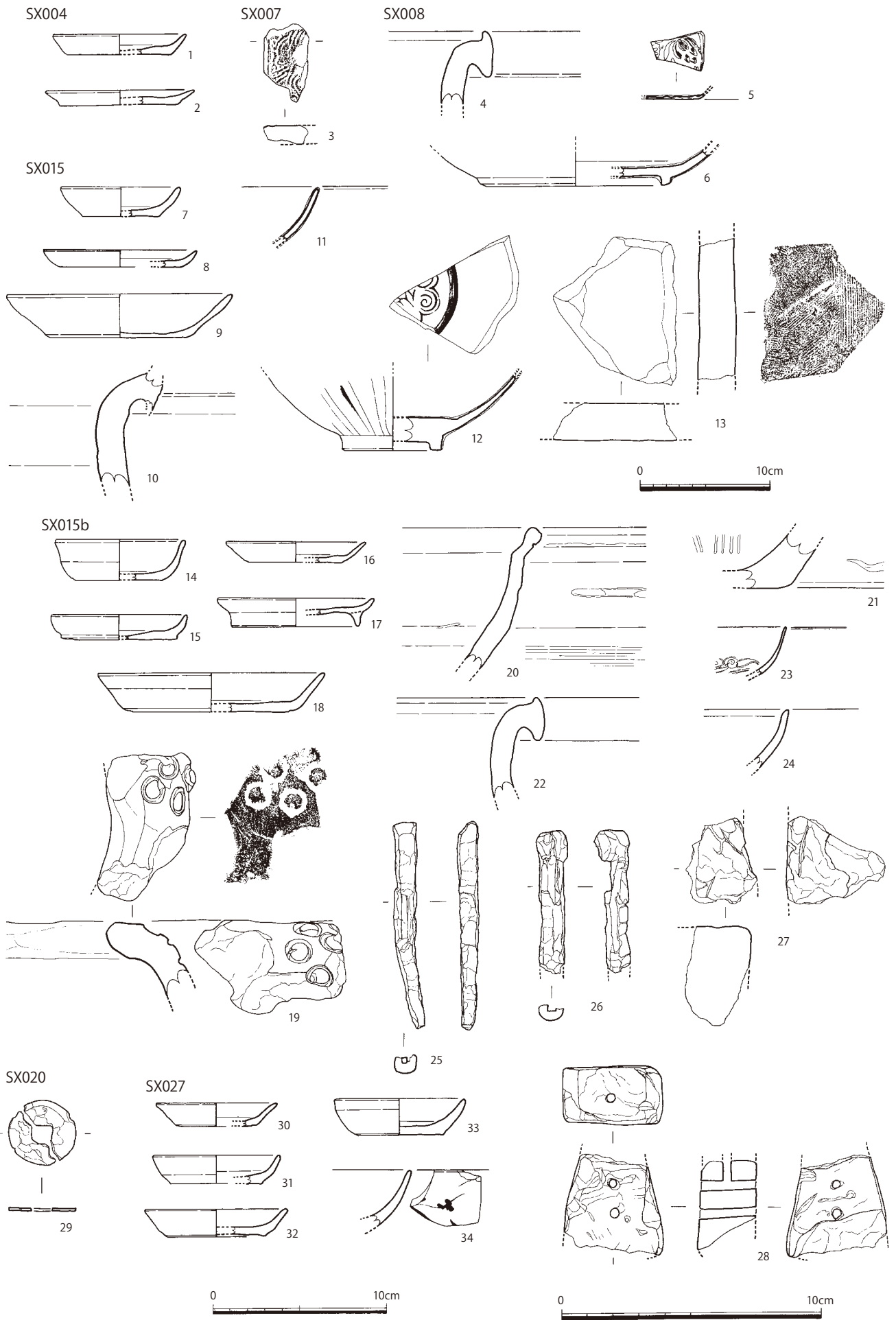


Fig. 18 35SX004・007・008・015・020・027 出土遺物実測図 (1/3、金属製品・石製品は1/2、13は1/4)

小皿 b (7) 復元口径 6.8 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

坏 a (9) 復元口径 13.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

中世国産陶器

甕 (10) 口縁部を曲げ、内外面ともヨコナデ、外面は茶褐色の自然釉がみられる。東海系。

龍泉窯系青磁

小椀 (11) I-1 類。光沢のある緑白色釉を厚く施し、大きく貫入が入る。

椀 (12) II -c 類。外面に鎬蓮弁、内面底部に幾何学文様を施す。

瓦類

磚もしくは平瓦 (13) 厚さ 3.0 cm。胎土は 0.3 cm 以下の白色砂粒を多く含み、内外面とも灰白色を呈する。片面はナデ調整、もう片面はハケ調整である。

35SX015b 出土遺物 (Fig. 18)

土師器

小皿 a (15、16) 復元口径 7.8 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

小皿 b (14) 復元口径 7.5 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

小皿 c (17) 復元口径 9.0 cm、器高 1.65 cm。

坏 a (18) 復元口径 13.0 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

土師質土器

風炉 (19) 口縁端部内面はヘラケズリ、内面はナデ、外面は摩滅するがミガキで、竹管文を施す。色調は黄白色や明橙色を呈する。

中世国産陶器

深皿 (20) 口縁部を僅かに外反する折縁深皿である。胎土は淡黄灰色でやや粗く、内面と外面上半部に淡緑灰色釉を施す。外面下半は回転ヘラケズリ。内外面とも部分的に付着物がみられる。瀬戸産。

播鉢 (21) 内面は播り目を施す。外面は黒灰色や緑灰色の自然釉がみられ、底部外面は平滑となる。

甕 (22) 胎土は白色砂粒を多く含み、内外面とも茶褐色を呈する。東海系。

白磁

椀 (23) 薄い器壁で、内面にはうっすら文様を描く。内外面に光沢のある透明釉を施す。枢府系。

黒釉陶器

天目椀 (24) 胎土は灰白色で内外面に黒色釉を施し、口縁端部付近には茶色釉を施釉する。

金属製品

鉄釘 (25、26) 断面方形の和釘。25 は長さ 8.0 cm。26 は先端部が欠損し長さ 5.55 cm。

土製品

土壁 (27) 胎土は 0.6 cm 以下の白色砂粒を多く含みスサ痕もみられる。2 方向に面が残る。

石製品

用途不明石製品 (28) 両端を欠損するが、径 0.3 cm 程の円孔が 2 ヶ所貫通し、そのひとつに別方向から円孔が 1 ヶ所あけられている。滑石製。

35SX020 出土遺物 (Fig. 18)

金属製品

銭貨 (29) 径 2.5 cm。文字はすり減り不明。

35SX027 出土遺物 (Fig. 18)

土師器

小皿 a (30～32) 復元口径 7.0～8.2 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

小皿 b (33) 口径 7.5 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

肥前系磁器

椀 (34) 内外面とも淡青白色釉を施し、外面には呉須で草花文を描く。

35SX036 出土遺物 (Fig. 19)

土師器

坏 a (1) 復元口径 13.8 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

須恵質土器

鉢 (2、3) 東播系。口縁端部は黒色化する。

中世国産陶器

甕 (4、5) 4は口縁部を丸く折り曲げる。胎土に白色砂粒を多く含み、黒色粒を少量含む。色調は灰色を呈する。備前系。5は口縁部を折り曲げる。胎土は白色砂粒を多く含み、釉は茶褐色や紫茶色を呈する。東海系。

石製品

石鍋 (6、7) 滑石製。7は復元口径 28.1 cm。外面に瘤状突起を削り出している。

35SX038 出土遺物 (Fig. 19)

土師器

小皿 a (17～19) 復元口径 7.8～8.1 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

小皿 b (8～16) 復元口径 6.4～7.6 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (20～31) 復元口径 11.4～15.7 cm。底部切り離しは回転糸切りである。20は底径が小さく体部は大きく外開きする。

坏 (32) 大きく外開きする体部で、口縁端部内面には僅かに段を有する。外面は摩滅するが内面はミガキを施す。色調は黄白色を呈する。

瓦質土器

火鉢 (33) 内面はナデ調整、外面はミガキ c で花文スタンプを施す。

灰釉陶器

壺 (34) 胎土は白灰色で、内外面とも回転ナデの後、部分的に深緑色釉が施されている。

白磁

皿 (35) IX-2 類。外面底部は露胎である。

青白磁

椀 (36) 内外面に薄水色釉を施すが、高台畳付は露胎。内面には細かな花文を浮き彫りする。高台径 3.9 cm。枢府系か。

壺 (37) 胎土は微細な茶褐色粒を多く含み白灰色を呈する。体部は押圧し花卉状をなす。内面は回転ナデで露胎。外面は淡青緑色釉を施す。

高麗青磁

椀 (38) 内外面に白色象嵌を施し、暗緑灰色釉を施釉する。

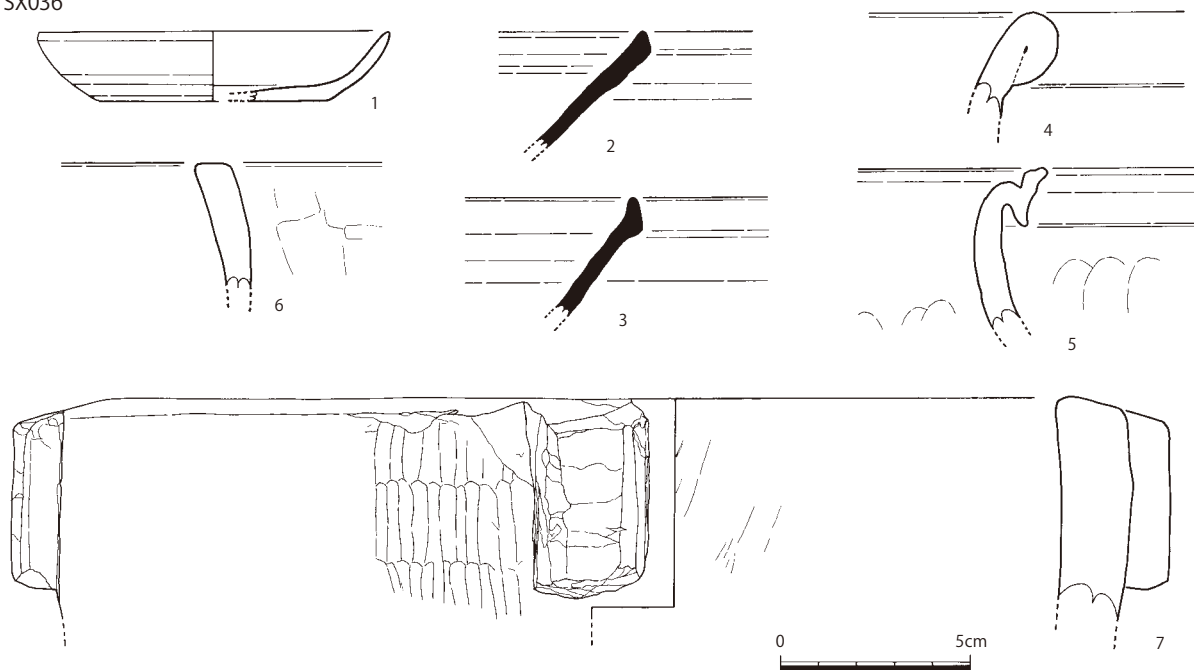
肥前系磁器

椀 (39) 丸みのある椀で、外面には呉須で草花文を描く。江戸後期。

土製品

取鍋 (40) 外面はナデ調整、内面は溶解し、緑青も付着する。

SX036



SX038

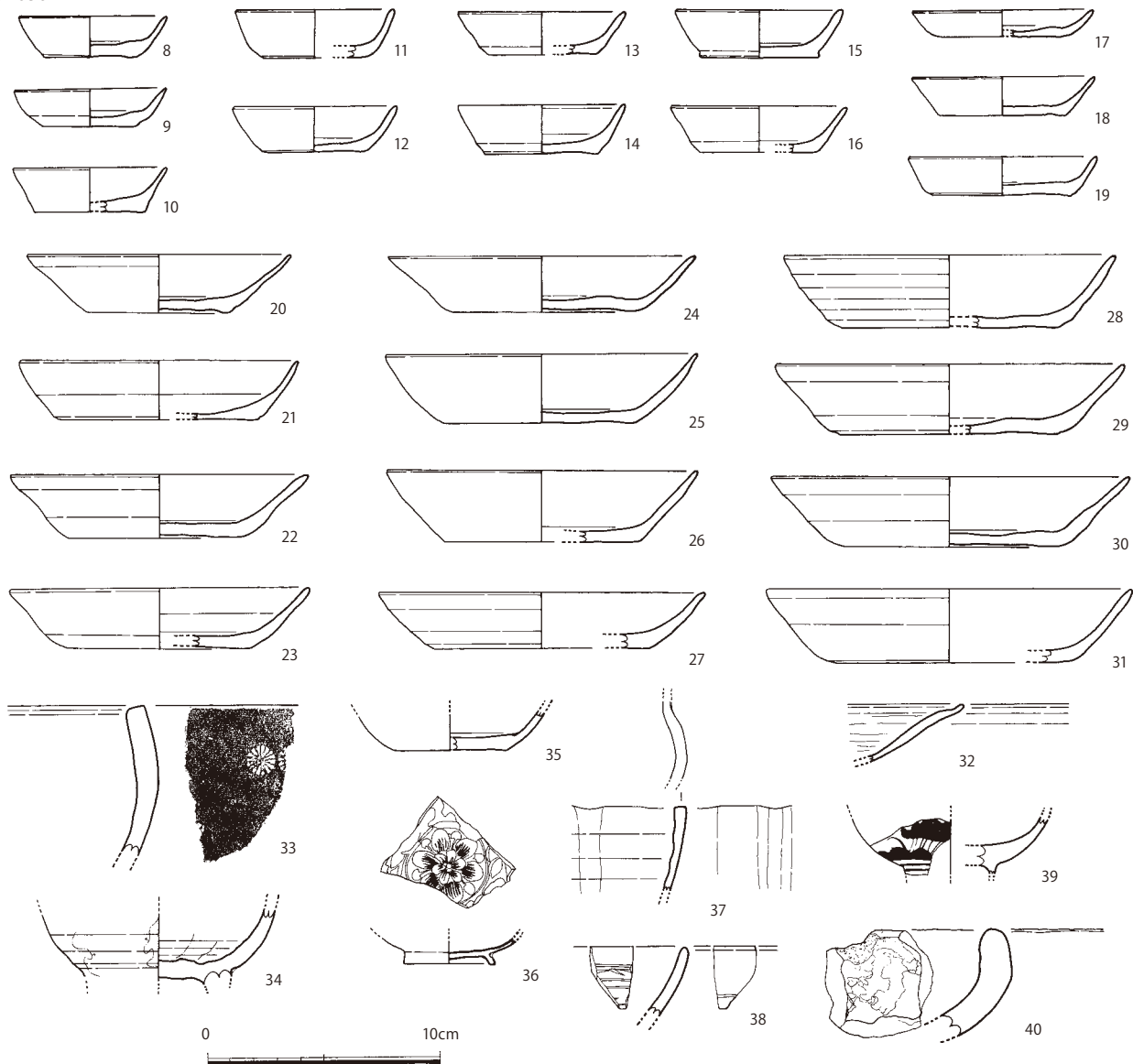


Fig. 19 35SX036・038 出土遺物実測図 (1/3、石製品は1/2)

35SX039 出土遺物 (Fig. 20)

土師器

坏 a (1) 復元口径 13.3 cm。底部切り離しは回転糸切りで、板状圧痕を残す。

青白磁

皿 (2) 内外面に光沢のある淡青緑色釉を施す。復元高台径 4.4 cm。

35SX042 出土遺物 (Fig. 20)

石製品

石鍋二次加工品 (3) 石鍋の口縁部付近を加工したもので、石鍋の鏝も削り取っている。

35SX045 上層出土遺物 (Fig. 20)

土師器

小皿 a (24、25) 復元口径 8.4 ~ 9.8 cm。底部切り離しは回転糸切りで、板状圧痕を残す。

小皿 b (4 ~ 18) 復元口径 6.1 ~ 7.5 cm。底部切り離しは回転糸切り。6・9の内外面には煤が付着する。

小皿 a もしくは小皿 b (19 ~ 23) 復元口径 7.9 ~ 9.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (26 ~ 35) 復元口径 11.2 ~ 14.6 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 b (36) 復元底径 4.4 cm。底部切り離しは回転糸切り。体部は水挽き成形か。

瓦質土器

鉢 (37 ~ 39) 37 は内面と口縁部外面がハケ調整、外面下半はナデ調整。胎土は微細な砂粒を含み淡黄白色を呈する。38 は内外面とも摩滅するが外面に花文スタンプを施す。39 は鉢に脚が貼付されたもの。胎土は白色砂粒を多く含み、内面は暗灰色、外面は黒灰色を呈する。内面ヨコハケ、外面ミガキ c を施す。

白磁

碗 (40) IX類。口縁端部の釉を拭き取る。

龍泉窯系青磁

碗 (41) IV類。内外面とも緑灰色釉を施し、高台畳付と高台内面は露胎。内面底部には花文を描く。復元高台径 5.2 cm。

35SX045 下層出土遺物 (Fig. 21)

土師器

小皿 b (1 ~ 5) 復元口径 6.2 ~ 6.6 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

小皿 a もしくは小皿 b (6 ~ 8) 復元口径 8.4 ~ 8.5 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (9 ~ 14) 復元口径 12.4 ~ 14.7 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

瓦質土器

火鉢 (15、16) 15 は口縁部で、口縁端部と外面はミガキ c で、外面には沈線と菊花文スタンプを施す。16 は脚部を貼付した鉢で、体部外面がミガキ c、その他はナデ調整。胎土は微細な砂粒を多く含み、色調は暗灰色や黄白色を呈する。

龍泉窯系青磁

碗 (17) 光沢のある暗緑灰色釉を厚く施し貫入がある。I-2 × 3 類。

金属製品

鉄釘 (18) 断面方形の和釘。頭部を L 字形に曲げるが、先端部を欠損する。現存長 5.7 cm。

35SX045 赤灰色土出土遺物 (Fig. 21)

土師器

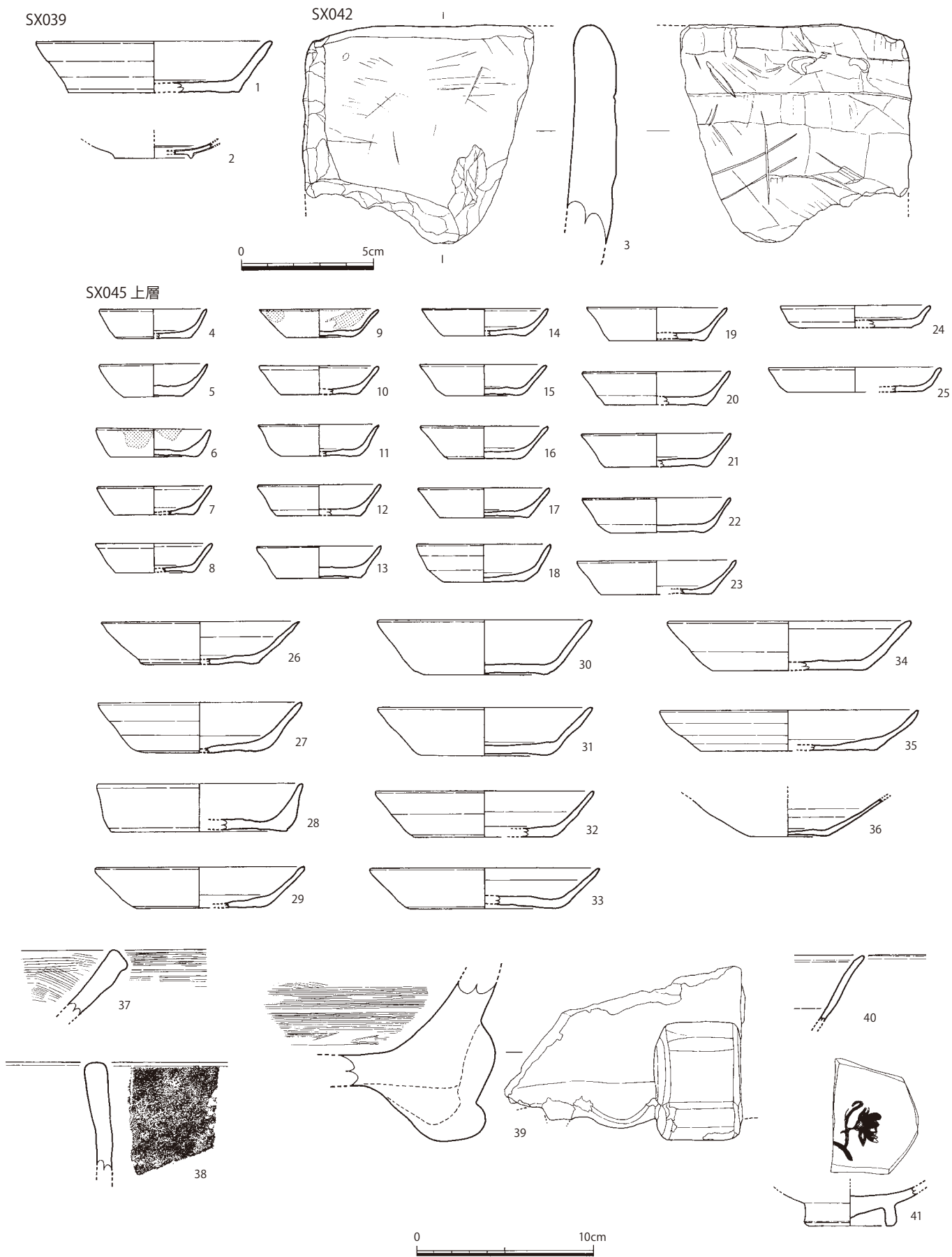
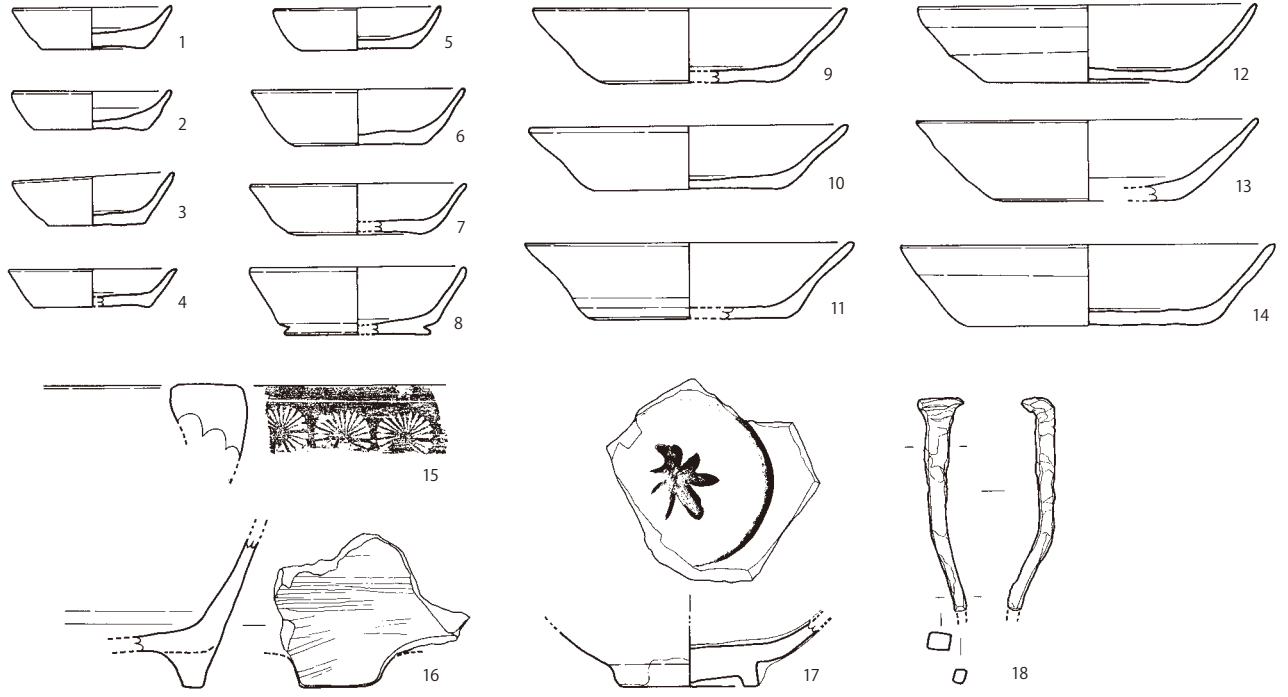


Fig. 20 35SX039・042・045 上層出土遺物実測図 (1/3、3は1/2)

SX045 下層



SX045 赤灰色土

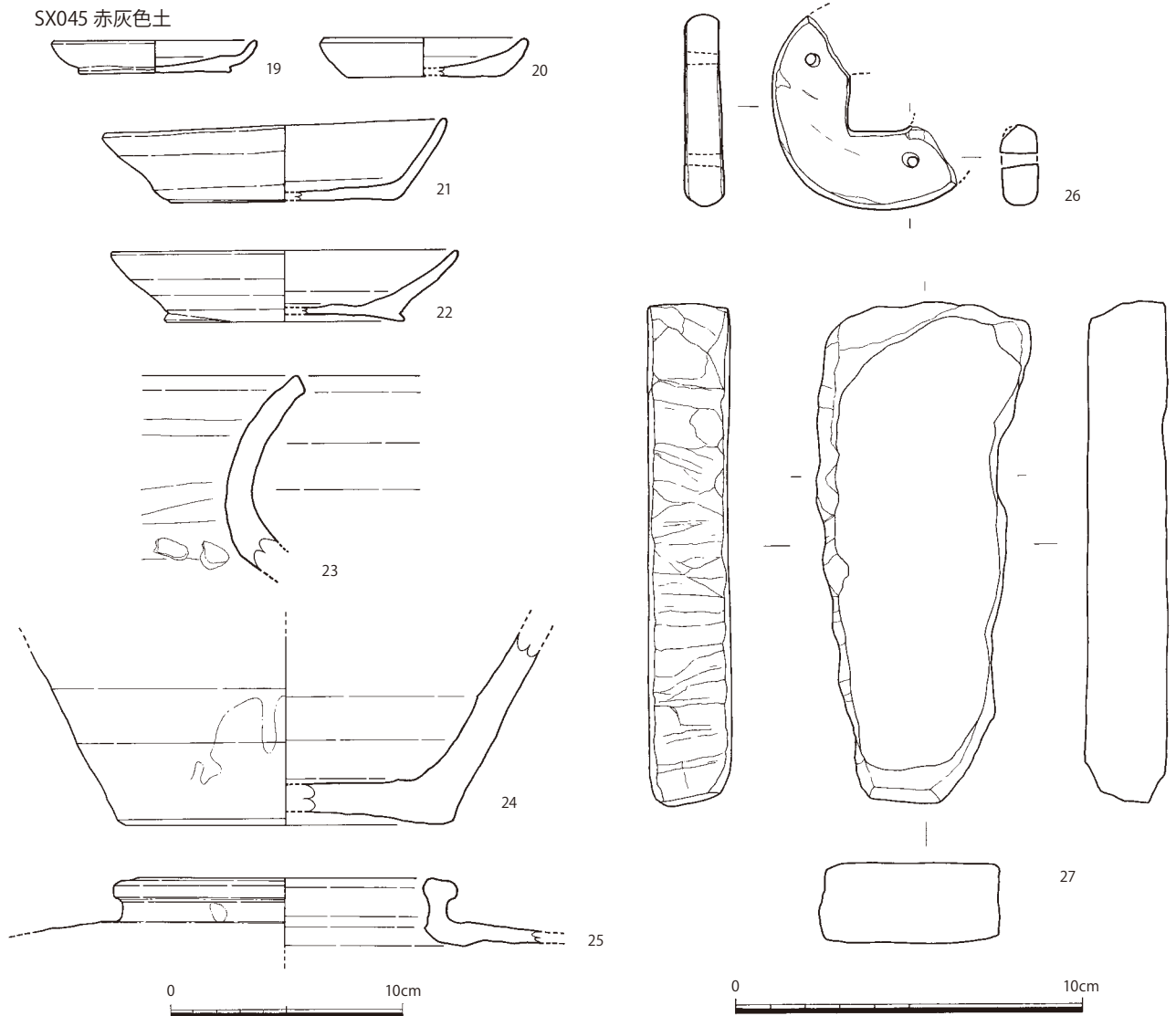


Fig. 21 35SX045 下層、赤灰色土出土遺物実測図 (1/3、金属製品・石製品は1/2)

小皿 a (19、20) 復元口径 9.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (21) 口径 14.8 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

坏 b (22) 復元口径 15.0 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

中世国産陶器

甕 (23、24) 23 は胎土が 0.1 cm 以下の白色砂粒を少量含み、淡茶褐色や淡灰白色を呈する。内外面とも回転ナデ調整。24 は復元底径 14.5 cm。内外面ともヨコナデで、外面上部と内面には灰褐色釉を施す。内面底部は使用により平滑となる。外面底部端には砂粒が付着する。備前か。

中国陶器

四耳壺 (25) 復元口径 14.8 cm。胎土は 0.1 cm 以下の白色砂粒や赤褐色粒を少量含み、淡黄灰色を呈する。内面と頸部は露胎だが、その他は淡褐灰色釉やオリーブ灰色釉を施す。

石製品

用途不明石製品 (26) 径 6 cm 程の円形で、中央に 1.8 cm 四方の方形孔を穿つ。現存部分には径 0.3 cm 程の円孔を穿つ。滑石製。

砥石 (27) 長さ 14.5 cm、幅 6.0 cm、厚さ 2.4 cm。研磨面は 1 面で、底面には多くの傷が付く。

35SX045 下層 (淡灰色砂) 出土遺物 (Fig. 22・23)

土師器

小皿 a (2～13) 復元口径 7.2～10.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

小皿 b (1) 復元口径 6.8 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (14～21) 復元口径 12.0～14.8 cm。底部切り離しは回転糸切りの後板状圧痕を残す。

丸底坏 c (22) 復元口径 13.6 cm。押し出した底面には断面三角形の低い高台を貼付する。内面はミガキ b を施す。

須恵質土器

鉢 (23) 東播系。口縁端部は僅かに肥厚させる。内外面とも回転ナデである。

甕 (24) 内面は回転ナデ、外面は叩きを施す。

瓦質土器

火鉢 (25) 体部上部は押圧縦線で全体として輪花状をなし、内面上部と外面はミガキで外面には花文スタンプを施す。色調は黒色を呈する。

鉢 (26) 内面はヨコハケ、突帯を貼付しヨコナデする。

播鉢 (27) 復元底径 14.8 cm。内面はハケの後播り目を施し、外面はハケの後ナデ調整。内面底部は摩滅が目立つ。

中世国産陶器

甕 (28～30) 28 は口縁部を丸く折り曲げ、ヨコナデ調整する。胎土は白色砂粒を多く含み赤茶色で、内外面とも暗灰色や茶灰色を呈する。備前系。29 は胎土が白色砂や黒色粒を含み灰色を呈する。内外面とも回転ナデで内面は灰被りし、外面は茶褐色の自然釉がみられる。30 は復元底径 40.0 cm。胎土は白色砂粒を多く含み、灰色や茶灰色を呈する。外面はナデの後タテハケ、内面は工具によるナデ調整し、底部と共に滑々している。外面底部はハケ状工具による不定方向のナデ調整である。

白磁

皿 (31、32) 31 は IX-2 類。外面に刻線があるが偶然か。復元口径 11.7 cm。32 は IX 類。復元口径 12.1 cm。

龍泉窯系青磁

坏 (33、34) 33 は III-2b 類。復元口径 12.3 cm、器高 3.6 cm。内外面に緑茶色釉を施すが、高台量

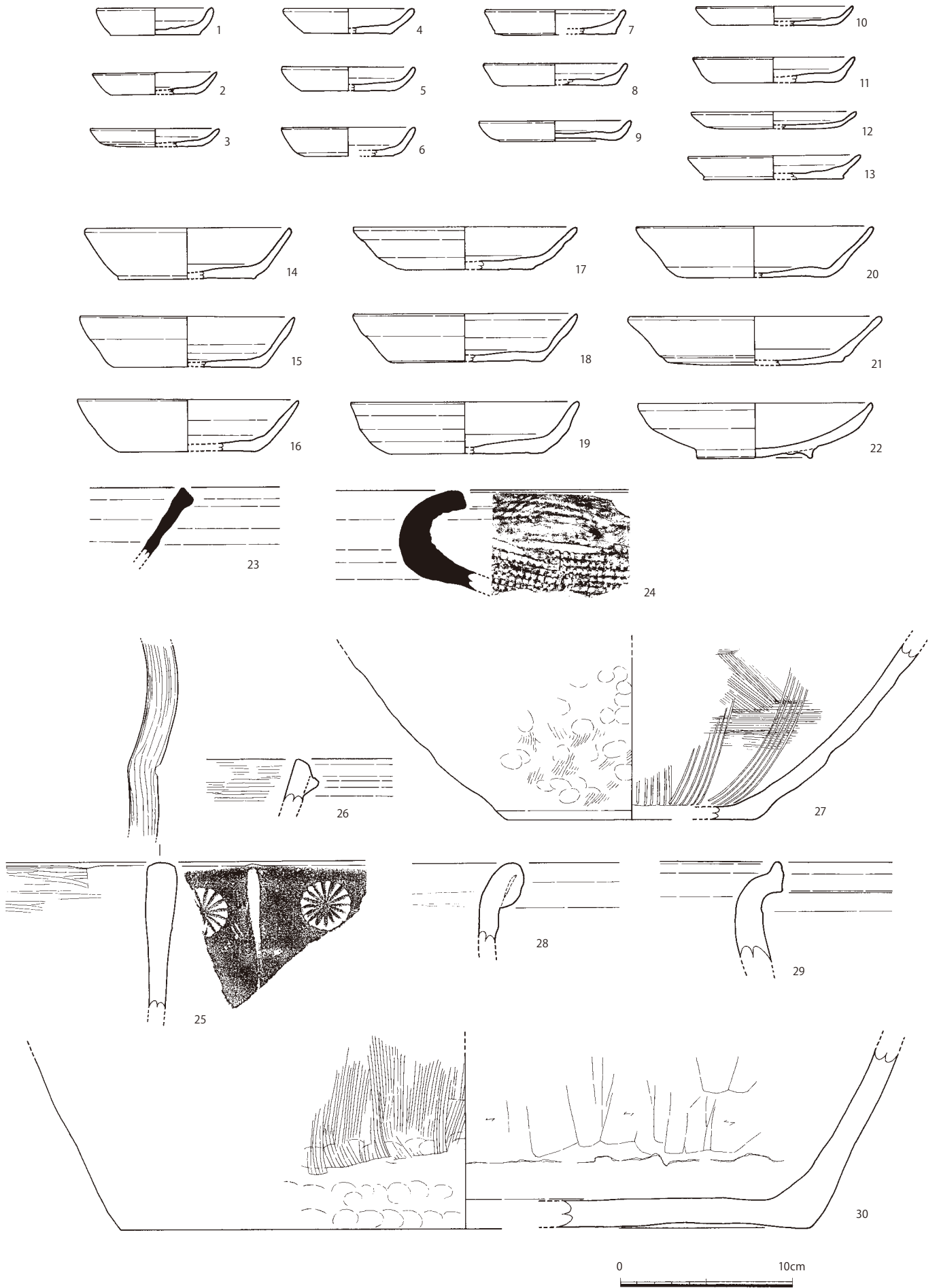
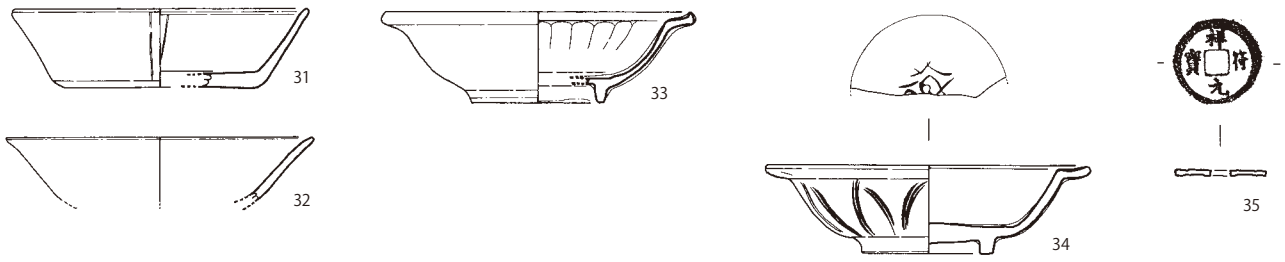
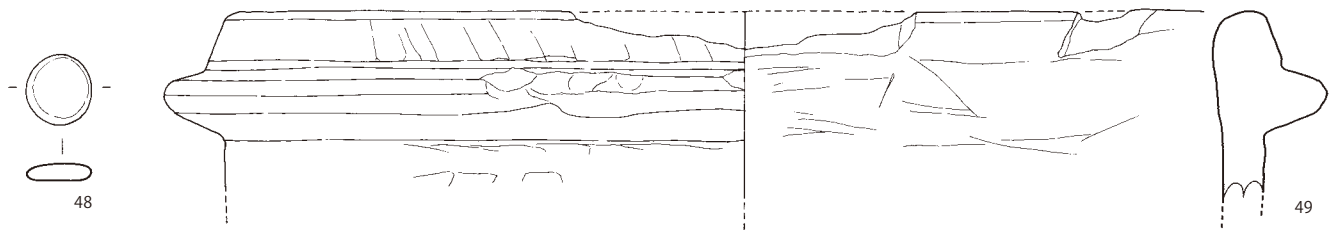
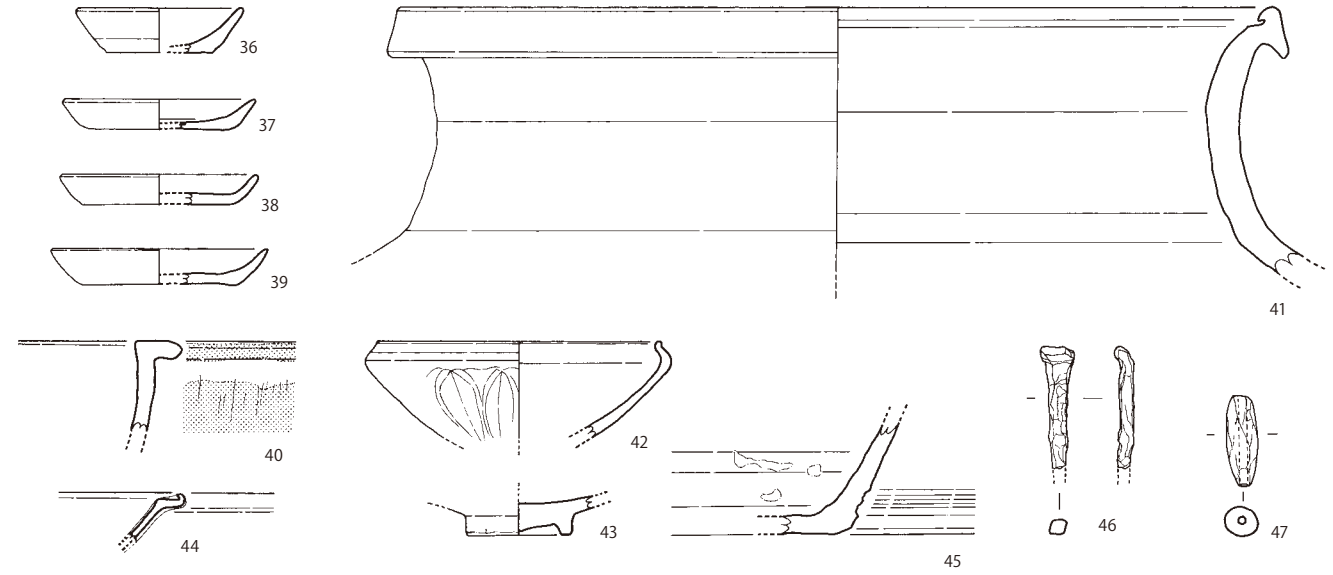


Fig. 22 35SX045 下層 (淡灰色砂①) 出土遺物実測図 (1/3)

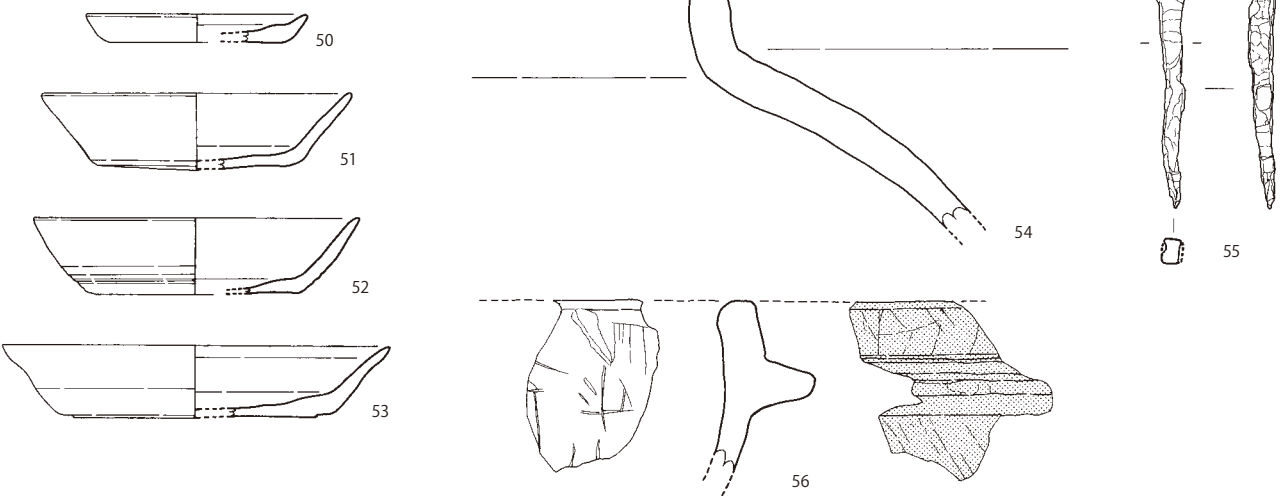
SX045 下層



SX046 内



SX050 灰白色砂



0 10cm

0 10cm

Fig. 23 35SX045 下層 (淡灰色砂②)、SX046・050 灰白色砂出土遺物実測図 (1/3、金属製品・石製品は 1/2)

付は露胎。34はIV類。内外面に淡い緑青色釉を施し、高台は方形で露胎。復元口径12.8cm、器高3.5cm。

金属製品

銭貨(35) 1009年初鑄の北宋銭「祥符元寶」。径2.4cm。

35SX046 内出土遺物 (Fig. 23)

土師器

小皿a(37～39) 復元口径7.6～8.6cm。底部切り離しは回転糸切りである。

小皿b(36) 復元口径6.6cm。底部切り離しは回転糸切りである。

土師質土器

鍋(40) 口縁部をL字形に屈折させる。外面にうっすらタテハケを施し、煤が付着する。

中世国産陶器

甕(41) 胎土は0.3cm以下の白色砂粒や暗灰色粒を多く含み、灰色を呈する。口縁部を折り曲げ、内外面ともヨコナデ調整で、茶褐色や暗緑灰色の釉が施されている。東海系。

龍泉窯系青磁

束口椀(42) II-b類。半透明の淡青緑色釉を施す。

小椀(43) 高台径4.1cm。内外面に淡青緑色釉を施し、高台畳付と高台内面は露胎。IV類か。

坏(44) III-3a類。口縁端部を折り曲げ、緑青色釉を厚く施す。

中国陶器

壺もしくは水注(45) 胎土は白色砂粒を少量含み、淡灰黄色を呈する。内外面とも回転ナデで、外面最下は回転ヘラケズリ。内面には黄褐色釉が点々と付着する。A群か。

金属製品

鉄釘(46) 断面方形の和釘で、頭部をL字形に曲げる。下半は欠損し、現存長3.25cm。

土製品

土錘(47) 長さ3.6cm、最大径1.25cm。

石製品

平玉石(48) 大きさ1.9×1.7cm、厚さ0.55cm。

石鍋(49) 復元口径27.4cm。滑石製。

35SX050 灰白色砂出土遺物 (Fig. 23)

土師器

小皿a(50) 復元口径8.7cm。底部切り離しは回転糸切りか。

坏a(51～53) 復元口径12.2～15.3cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕が残る。

中世国産陶器

甕(54) 胎土は白色砂や隙間が多く、内面はヨコナデ、外面は回転ナデの後叩きで、その後薄い褐色釉を薄く施す。肩部は白濁している。

金属製品

鉄釘(55) 断面方形の和釘で、頭部をL字形に曲げる。長さ6.2cm。

石製品

石鍋(56) 外面には煤が付着する。滑石製。

灰褐色土出土遺物 (Fig. 24～30)

土師器

小皿a(31～56) 復元高台径7.0～10.0cm。底部切り離しは回転糸切りである。

小皿 b (1 ~ 30) 復元高台径 6.0 ~ 8.0 cm。底部切り離しは回転糸切り。8 は口縁部の一部に挟り込みがある。27 は口縁端部に煤が付着する。

坏 a (57 ~ 85) 復元高台径 10.6 ~ 16.6 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 b (86) 色調は白橙色で、内外面とも回転ナデ調整である。水挽き成形か。

丸底坏 (87) 復元口径 16.4 cm。底部押し出しで内面はミガキ、外面はヨコナデ調整である。

甕 (88) 胎土は白色砂粒を多く含み、暗黄灰色や茶褐色を呈する。内面はヨコハケ、外面はハケの後ナデ調整。

瓦器

椀 c (89、90) 断面三角形の高台を貼付する。内面はミガキ c、外面は回転ナデ調整である。

須恵質土器

片口鉢 (91 ~ 93) 東播系。92 は内外面ともハケ調整。内面は一部平滑し、外面は指頭圧痕が残る。播鉢か。

鉢 (94 ~ 97) 東播系。口縁端部を断面三角形に肥厚させる。

甕 (98) 胎土は黒色粒や白色砂粒を多く含み、灰色を呈する。外面はヨコナデの後ナデ調整。内面はやや平滑となる。

瓦質土器

片口鉢 (99) 復元口径 27.4 cm。内面は細かいハケで、下半はやや平滑となる。外面はナデ調整で、指頭圧痕が残る。胎土は白色砂粒を含み、色調は白灰色を呈する。

鉢 (100 ~ 102) 100 は内面ハケ、外面ナデ調整である。101 は内外面ともハケ調整で、外面はその後ナデ調整する。102 は胎土が白色砂粒を多く含み、淡灰色を呈する。色調は内面が細かいハケ調整である。外面はナデ調整である。

羽釜 (103) 口縁部外面直下に罫を貼付する。外面はヨコナデ、内面は摩滅する。

播鉢 (104) 内面はハケの後播り目を施す。外面はナデ調整である。

甕 (105) 内面は強いナデ、外面はミガキ調整である。

火鉢 (106 ~ 113) 106 は復元口径 36.4 cm。丸味のある体部で、内外面とも細かいミガキ c で、外面には花文を施す。色調は黒灰色を呈する。107 は内外面ともミガキ c を施す。108 は内外面とも摩滅するが、外面に花文スタンプが残る。109・110 は口縁部と外面は丁寧なミガキを施し、内面はヨコナデの後ハケ調整。胎土は 0.3 cm 以下の白色砂粒を多く含み灰色を呈する。111 は口縁部で、内面に三角形の突起を貼付する。口縁端部直下に花文スタンプを施し、外面には 2 条の突帯と珠文を貼付する。その下には縦にヘラケズリを施す。112 は脚が付く底部で、胎土は白色砂粒を多く含み、灰黄色を呈する。外面は丁寧なミガキ、内面はハケの後簡単なナデ調整。113 は火鉢の脚部で、やや摩滅するが、外面ミガキ、内面ナデ調整する。

土師質土器

鍋 (114 ~ 118) 114 は口縁部を L 字形に曲げ、口縁端部内側には沈線が施されている。復元口径 32.4 cm、器高 8.5 cm、復元底径 19.9 cm。内外面ヨコハケの後、外面はヨコナデ、外面最下はヘラケズリ。色調は淡橙色を呈する。115 は 114 と同一個体か。116 は体部上部で僅かに屈曲させ、内面ヨコハケ、外面には指頭圧痕が残る。117 はやや内湾する口縁部の外面に罫を貼付する。118 は外面に罫を貼付する。

鉢 (119、120) 119 は内面ヨコナデ、外面はミガキ c で、色調は黄橙色を呈する。120 は内外面をハケ調整する。

火鉢 (121) 底部には脚が貼付される。胎土は 0.2 cm 以下の白色砂粒を多く含み、内面は黒色、外面

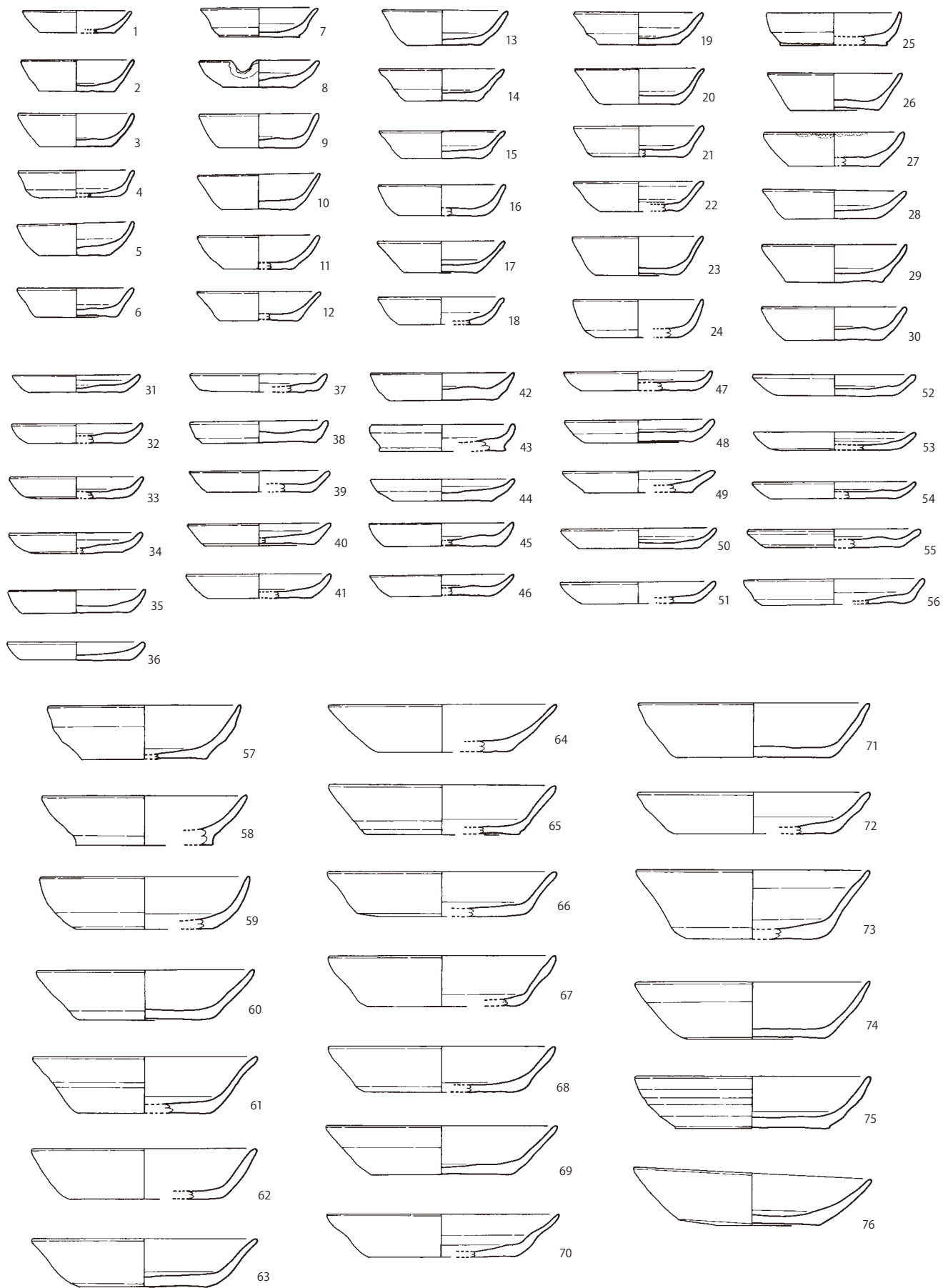


Fig. 24 第35次調査灰褐色土出土遺物実測図① (1/3)

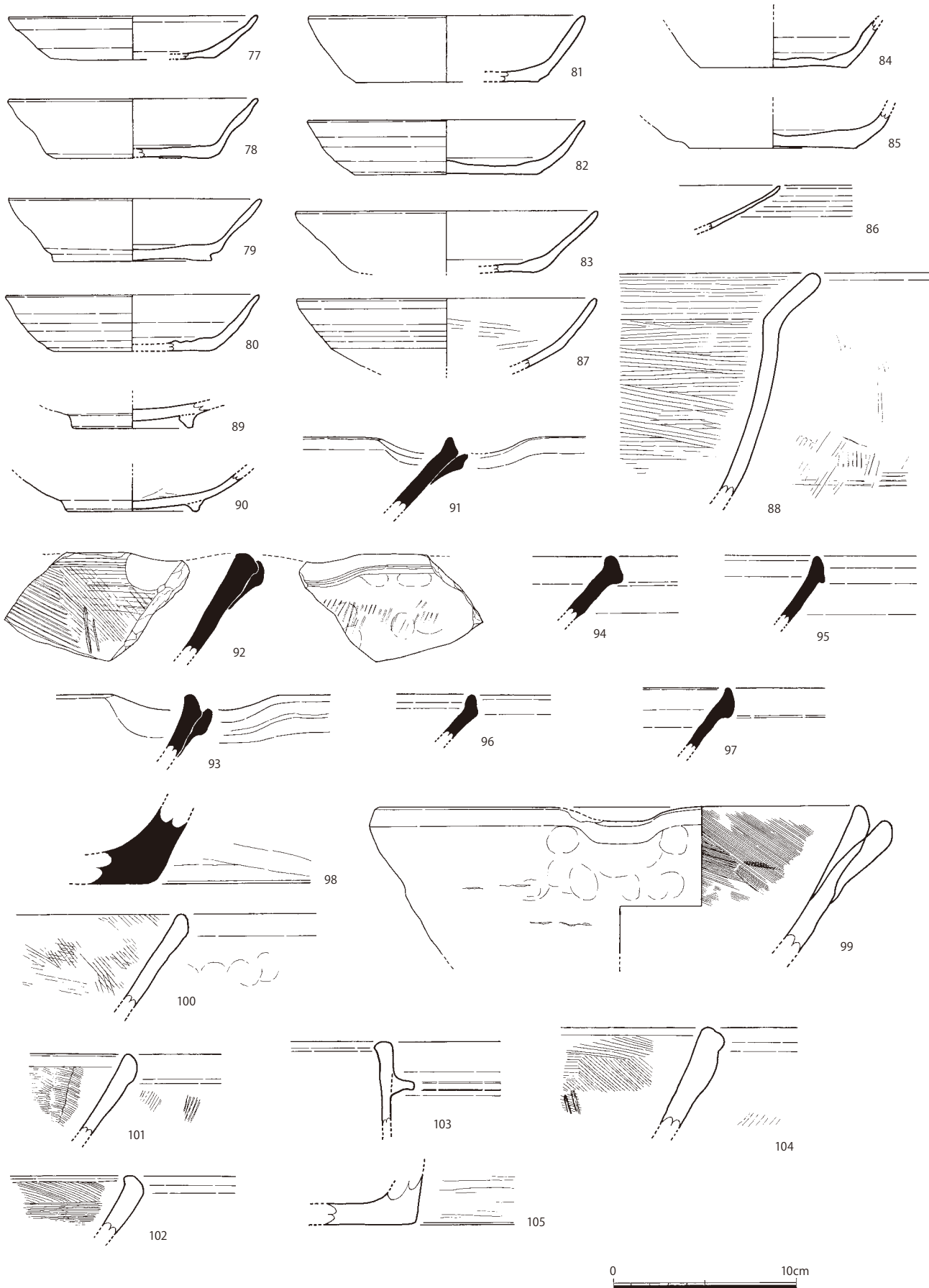


Fig. 25 第35次調査灰褐色土出土遺物実測図② (1/3)

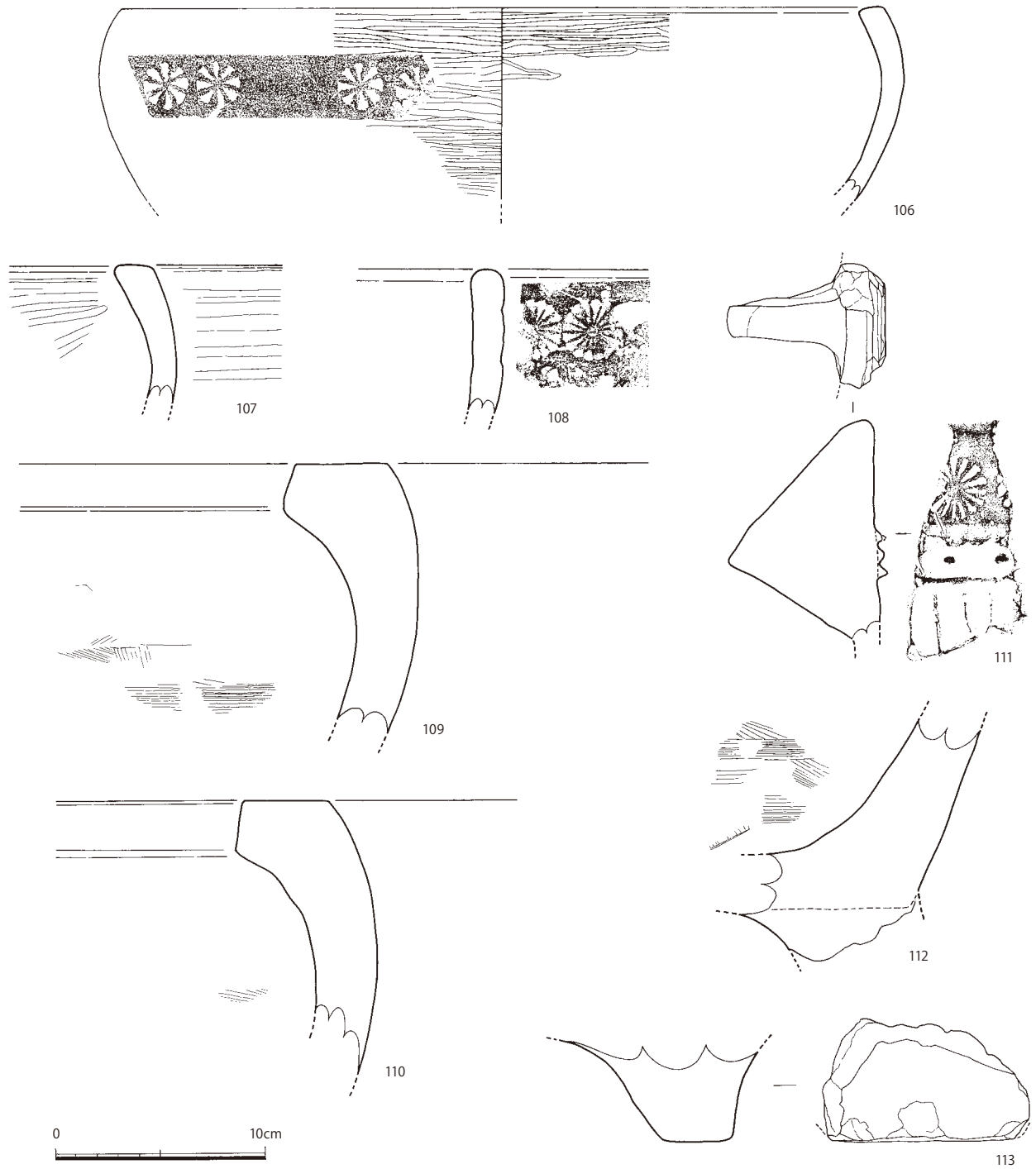


Fig. 26 第35次調査灰褐色土出土遺物実測図③ (1/3)

は淡黄茶色を呈する。外面は丁寧なナデ調整である。

風炉 (122) やや内湾する口縁部で火窓を設ける。内外面ともヨコナデで、色調は茶灰色や橙色を呈する。

壺 (123) 胎土は白色砂粒を多く含み、白茶色を呈する。口縁部は短く直上し端部は平坦に仕上げる。体部内面には指頭圧痕が残る。

中世国産陶器

甕 (124～138) 124～130は備前系。口縁部を折り曲げ丸く肥厚させる。胎土は白色砂粒を含み暗

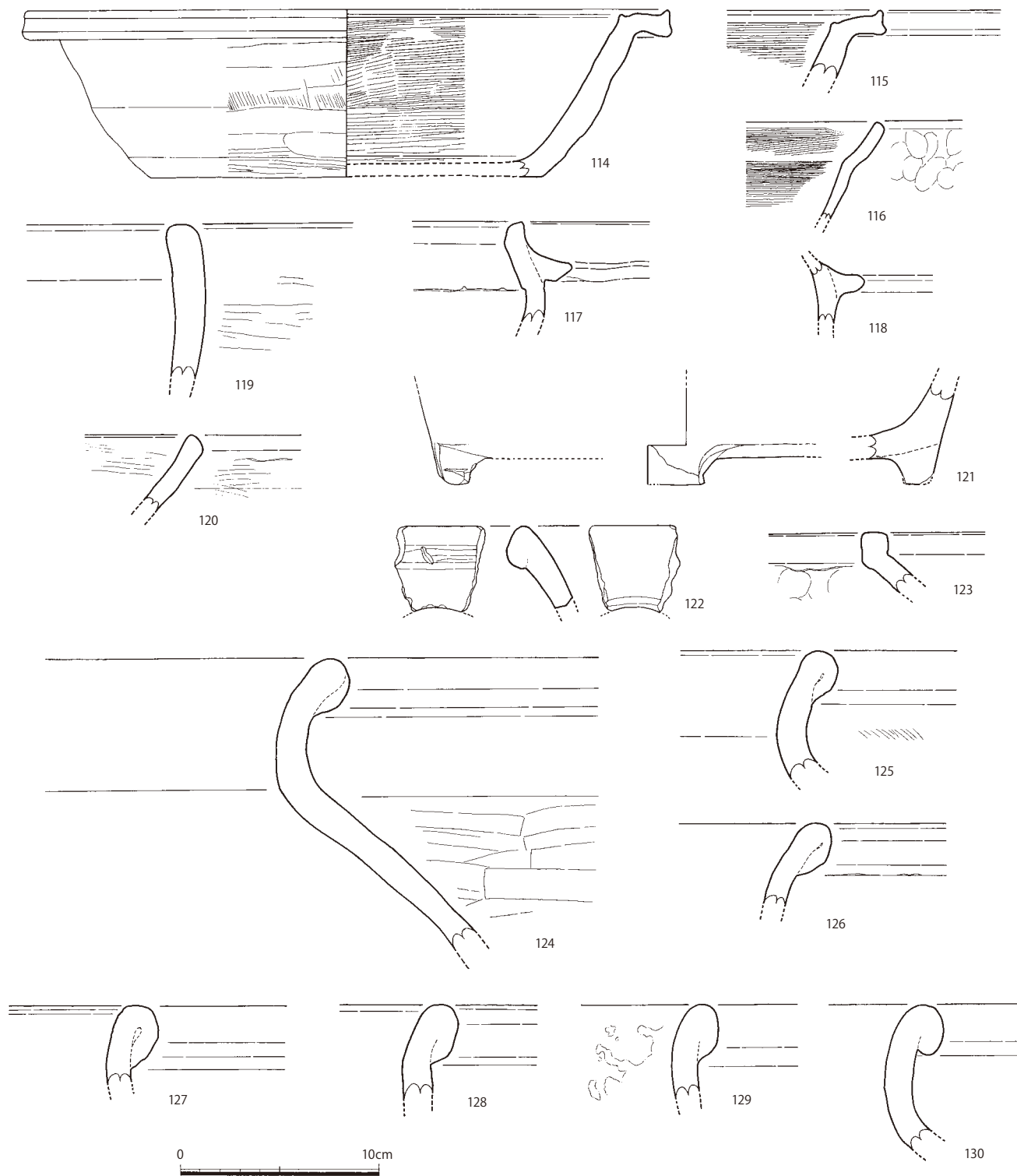


Fig. 27 第35次調査灰褐色土出土遺物実測図④ (1/3)

灰色を呈する。124は口縁部が回転ナデ、体部は内面ヨコナデ、外面工具ナデ調整。胎土は白色砂粒を多く含み暗灰色を呈する。125は外面ハケ調整の後ナデで、自然釉がみられる。126は黒灰色で、内面は焼成時に器面が弾けている。127は暗茶灰色を呈する。128の胎土は砂粒を多く含み灰色で、器面は暗褐色を呈する。129の内面には自然釉が点在する。131～138は東海系。131は折り曲げた口縁部で、内面は暗赤茶色、外面は暗緑黄色を呈する。132は折り曲げた口縁部で、内外面は回転ナデで、色調は

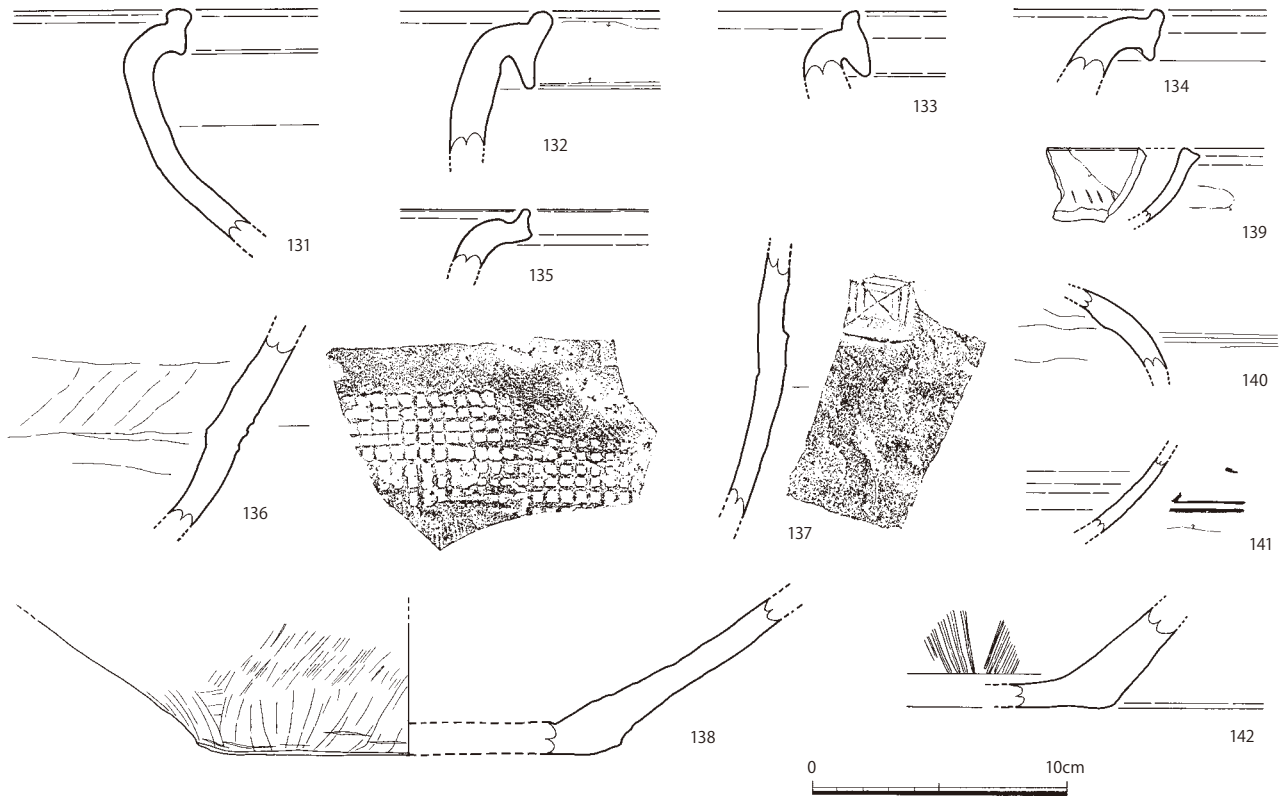


Fig. 28 第35次調査灰褐色土出土遺物実測図⑤ (1/3)

淡緑灰色を呈する。133は折り曲げた口縁部で、内外面とも暗赤茶色を呈する。134は内外面とも回転ナデで濃い緑色釉を施す。135は胎土に黒色砂粒を含み、灰色を呈する。内面は降灰を受ける。136は黒色粒や白色砂粒を多く含む胎土で、灰色や暗灰色を呈する。内面はヨコナデ調整し、外面は小さな格子状の叩きを施す。137は内外面ともナデ調整で、外面には押印文を施す。胎土は白色砂粒や黒色粒を多く含み茶灰色を呈する。色調は内面黄茶色、外面茶色を呈する。東海系。138は復元底径16.8cm。胎土は白色砂粒や黒色粒を多く含み灰色を呈する。外面は工具ナデで褐色を呈する。

御皿 (139) 胎土は灰色で、内外面にやや暗い緑灰色釉を薄く施す。内面下半に僅かに挿り目が確認できる。瀬戸産。

壺 (140、141) 140は胎土に黒色微粒を多く含み灰色を呈する。内面ヨコナデで露胎。外面は条線を施し、ムラのある淡緑色釉を施す。瀬戸系。141は胎土が白色で、内外面には灰色がかかった黄緑色釉を薄く施すが、下半は露胎である。

挿鉢 (142) 胎土は白色砂粒を含み、暗灰色を呈する。外面ヨコナデ、内面には挿り目を施す。

白磁

皿 (143～149) 143はIX-1a類。復元口径9.0cm。144は胎土が黄白色で、施釉後口縁端部の釉を拭き取る。全体に細かい貫入が入る。IX類だが釉調は広東系にみえる。復元口径9.4cm。145はIX-1c類。復元口径11.2cm。146はIX-1c類。復元口径13.0cm。147はIX-1類。148はIX-1b類。149はIX-1類。

椀 (150～152) 150は内外面に灰色味の釉を施し、高台畳付は釉を拭き取り、砂粒が付着する。復元高台径5.1cm。151は復元口径14.8cm。IX類。152は水色がかかった白色釉を薄く施し、内面にうっすらと見える文様を施す。枢府系。

椀二次加工品 (153) IV類の椀の体部を打ち欠き、底部のみとしている。

青白磁

皿(154) 胎土は白色を呈し、内面に文様を彫り光沢があり透明度の高い水色釉を施す。

合子身(155) 口径4.3cm、器高1.95cm。胎土は白灰色で、外面は蓮弁状で透明釉を施す。

壺(156) 胎土は白砂粒を含み、白灰色を呈する。内外面とも回転ナデの後透明度の高い薄水色釉を施す。

龍泉窯系青磁

椀(157～164) 157は内面底部に「崑山片玉」のスタンプを施す。Ⅰ×Ⅱ類。158は内外面にやや白濁した緑青色釉を厚く施釉する。Ⅲ類か。159は内外面にやや白濁した緑青色釉を厚く施釉する。Ⅲ類。160はⅣ類。光沢の鈍い淡緑色釉を厚く施す。161は不鮮明な緑黄色釉を薄く施す。Ⅳ類。162の口縁は花卉状になる。内外面に光沢はあるが不鮮明な緑灰色釉を厚く施す。163は青緑色釉を施し、Ⅳ類。164は外面に蓮弁を描き、内外面に緑灰色釉を施す。上田分類B。

坏(165～169) 165・166はⅢ-3b類。内面に花卉を施し、暗緑色釉を厚く施す。165は復元口径12.0cm、器高4.1cm。167は外面に鎬蓮弁を施し、内外面に厚く青緑色釉を施す。Ⅲ-4類。168はⅢ-4類。復元口径12.4cm。灰緑色釉を厚く施す。169はⅢ-4b類。内面に魚文のような貼付文を施す。

香炉(170～172) 170は復元口径14.0cm。外面には浅い沈線を巡らし、口縁端部には浅い受けを作る。口縁部から外面には灰緑色釉を施す。171は内外面に青味がかった淡緑色釉を厚く施す。Ⅳ類。172は香炉の脚部で、内外面に光沢のない青味がかった淡緑色釉を厚く施す。

同安窯系青磁

小椀(173) 薄い緑灰色釉を施すが、高台は露胎である。

高麗青磁

皿(174) Ⅲ類。胎土は白色砂粒を含み灰色を呈し、内外面に柔らかい光沢のある透明釉を薄く施す。

椀(175～177) 175は灰色に胎土で、内面に白色象嵌を施し、内外面に透明釉を薄く施す。176は黒色微粒を含む淡灰緑色で、内外面に白色象嵌の圏線を施す。177は内外面に明緑灰色釉を施し、内面に白緑色象嵌の文様や圏線を施す。

瓶(178) 胎土は灰色で、外面に黒色と白色の象嵌を施し、淡灰緑色釉を施釉する。

青磁

小鉢(179) 復元口径9.6cm、器高4.3cm。碁筍底で目跡が残る。体部は篋押押し口縁部は輪花状をなす。胎土は暗茶灰色で、内外面に光沢のある透明釉を施す。内面底部は灰被りし、口縁部外面には文様を施す。

黒釉陶器

天目椀(180) 胎土は0.1cm以下の白色砂粒を含み淡灰色を呈し、内外面に黒色釉を施す。

中国陶器

瓶(181) 胎土が白色砂粒を含み粗く、灰色や暗灰色を呈する。外面ヨコナデで粘土紐の突帯が巡る。外面は自然釉、内面にも白色自然釉が付着する。

国産磁器

紅皿(182、183) 182は復元口径6.1cm、器高1.25cm。外面には蛸唐草文を施す。183は復元口径6.6cm。内面から口縁部にかけて施釉する。

火入(184) 体部はやや青色味のある透明釉を施し、内面底部と外面底部は露胎。復元高台径3.6cm。

肥前系磁器

合子蓋(185) 外面には呉須で草花文を描く。復元口径6.1cm。

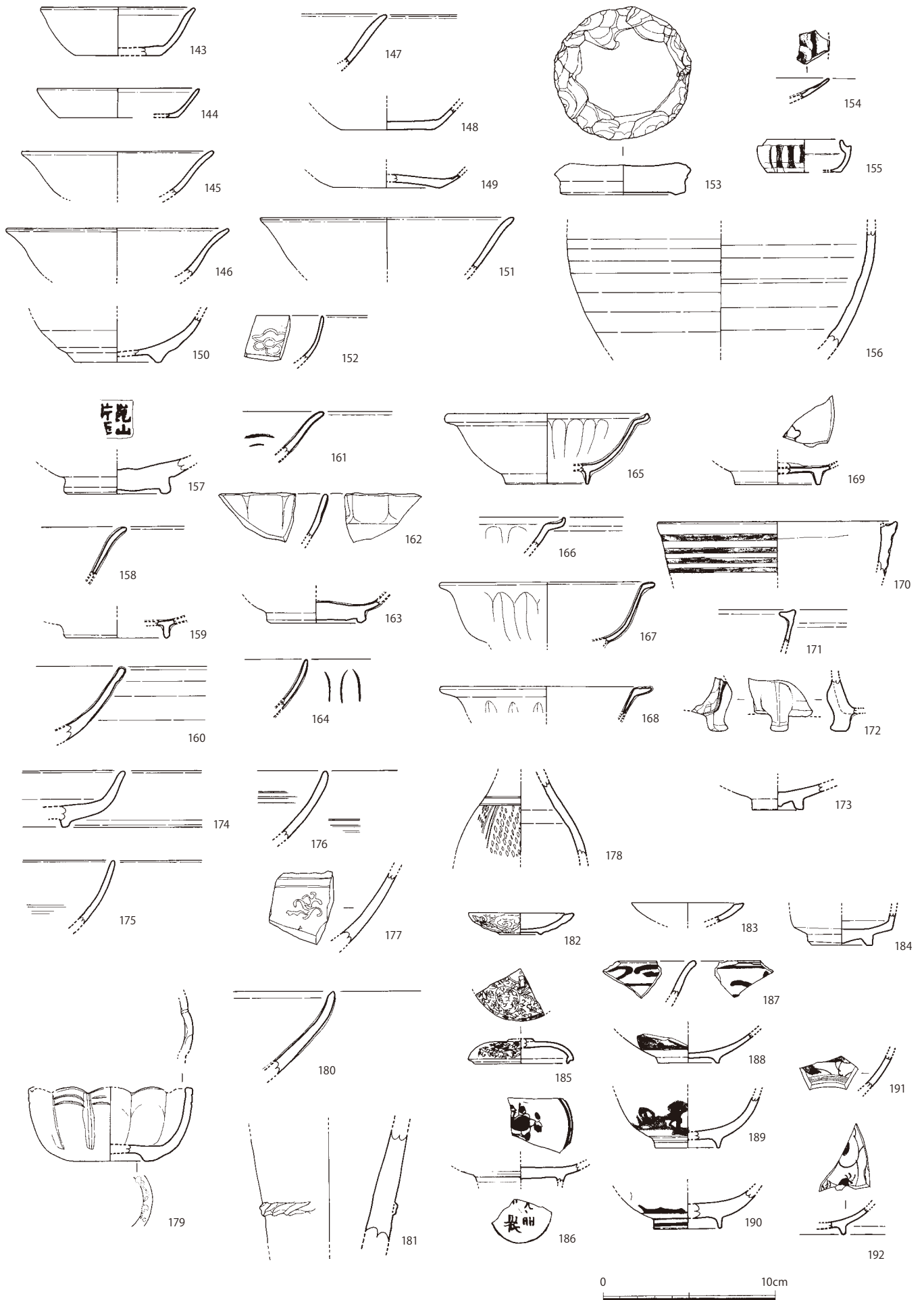


Fig. 29 第35次調査灰褐色土出土遺物実測図⑥ (1/3)

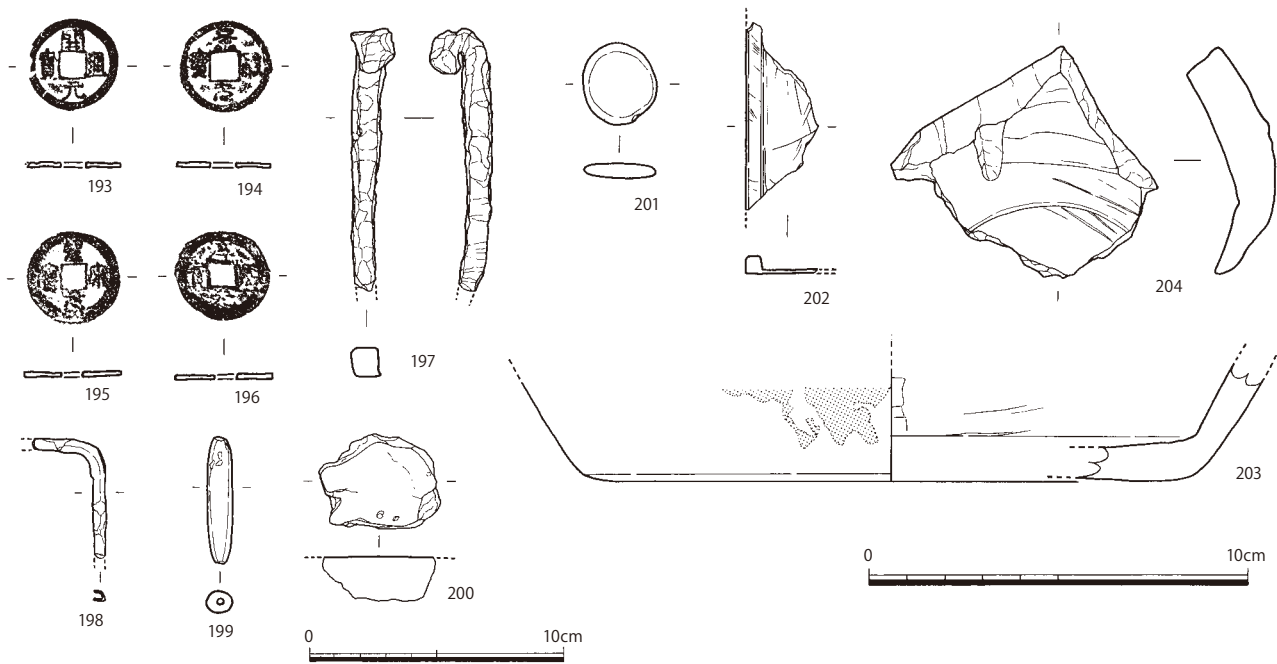


Fig. 30 第35次調査灰褐色土出土遺物実測図⑦ (1/3、金属製品・石製品は1/2)

椀 (186～192) 186は胎土が灰白色で、内面に草花文、底部外面に「大明年製」とある。187は外面に青灰色釉で、内面には淡青灰色釉でうっすらと文様を描く。輸入染付の可能性もある。188は低い高台で外面に呉須で文様を描く。189は高台径3.8 cm。外面に呉須で草花文を描く。190は外面に呉須で文様や圏線を描く。復元高台径4.0 cm。191は内面に呉須で文様を描く。192は内面に文様を描く。

金属製品

銭貨 (193～196) 193は「開元通寶」。194は「景祐元寶」。195は「聖宋元寶」。196は「淳熙元寶」。

鉄釘 (197) 断面方形の和釘で、頭部をL字形に曲げる。先端部は欠損し現存長7.0 cm。

銅製金具 (198) 幅0.3 cm四方だが、内側は0.2 cm程の空間があり、何かが嵌め込まれていたものと推測される。

土製品

土錘 (199) 長さ5.0 cm、径1.0 cm。

土壁 (200) 胎土は白色砂粒を含み、色調は橙黄色を呈する。1面にナデ調整が残る。

石製品

平玉石 (201) 大きさ2.15 × 1.9 cm、厚さ0.4 cm。

硯 (202) 大きく欠損するが暗茶灰色の石材で作られた方形硯とみられる。

石鍋 (203) 復元底径16.2 cm。外面の一部に煤が付着する。滑石製。

石鍋加工品 (204) 石鍋の底部付近をカットしているが、不定形な形状をなす。滑石製。

茶色砂出土遺物 (Fig. 31)

土師器

小皿 a (1～4) 復元口径8.0～10.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (5～7) 復元口径13.5～16.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

甕 (8) 体部内面はへラケズリ、外面には指頭圧痕が残る。

瓦器

碗 c (9) 内面ミガキ c、外面は回転ナデか。高台径 5.7 cm。

須恵質土器

鉢 (10) 東播系。

瓦質土器

火鉢 (11) 内面ナデ、外面はミガキで花文スタンプを施す。

鉢 (12) 底部は回転糸切り。体部は内外面とも回転ナデ調整。胎土は僅かに白色砂粒を含む。

中世国産陶器

播鉢 (13) 胎土は淡茶灰色で、内外面とも回転ナデで、内面には播り目を施す。外面は暗茶色釉が施されている。

瓶 (14) 胎土は淡黄灰色で、内面ヨコナデ調整で指頭圧痕が残る。外面は浅い沈線を巡らし、淡い緑黄色釉を薄く施すが、上部ほど釉が剥けている。瀬戸系。

白磁

皿 (15、16) 口縁端部内面の釉を拭き取る。15 は IX 類。16 は IX-1b 類。内外面とも全面施釉する。復元底径 6.4 cm。

碗 (17、18) 口縁端部内面の釉を拭き取る。IX 類。18 は復元高台径 4.0 cm。高台は露胎。

龍泉窯系青磁

皿 (19) I-2d 類。全面施釉後外面底部の釉を拭き取る。内面底部に片彫魚文を施す。

坏 (20) III-a 類。淡い緑色釉を薄く施す。高台畳付は露胎。復元高台径 6.2 cm。

中国陶器

壺 (21) 胎土は白色砂粒を多く含み、暗灰色を呈する。内外面とも光沢のある暗緑色釉を薄く施す。復元口径 16.0 cm。B 群。

鉢 (22) 口縁部をやや肥厚させる。胎土は暗灰色で砂粒を多く含み、茶黄色釉を薄く施す。I 類か。

金属製品

銭貨 (23) 1111 年初鑄の北宋銭「政和通寶」。

鉄釘 (24～27) 断面方形の和釘で、頭部を L 字形に曲げる。24 は体部中央付近で L 字形に曲げる。25 は現存長 5.25 cm。26 は長さ 6.1 cm。27 は現存長 6.3 cm。

鉄棒 (28) 断面円形で、現存長 7.8 cm。

土製品

取鍋 (29) 外面はナデ調整、内面は溶解する。

石製品

石鍋 (30) 内外面ともケズリ成形痕が残る。滑石製。

整地上面出土遺物 (Fig. 31)

瓦質土器

火鉢 (31) 胎土は 0.2 cm 以下の白色砂粒を多く含み、黄灰色や暗灰色を呈する。底部には一辺 1 cm の方形孔をあける。外面底部は摩滅し砂粒が目立つ。内面はハケ目と指頭圧痕が残る。底面には欠損しているが、7.5 cm 以上 × 4.5 cm の脚を貼付する。

暗褐色土出土遺物 (Fig. 32)

土師器

小皿 a (1～12) 復元口径 7.2～9.4 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (13～21) 復元口径 11.8～14.9 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

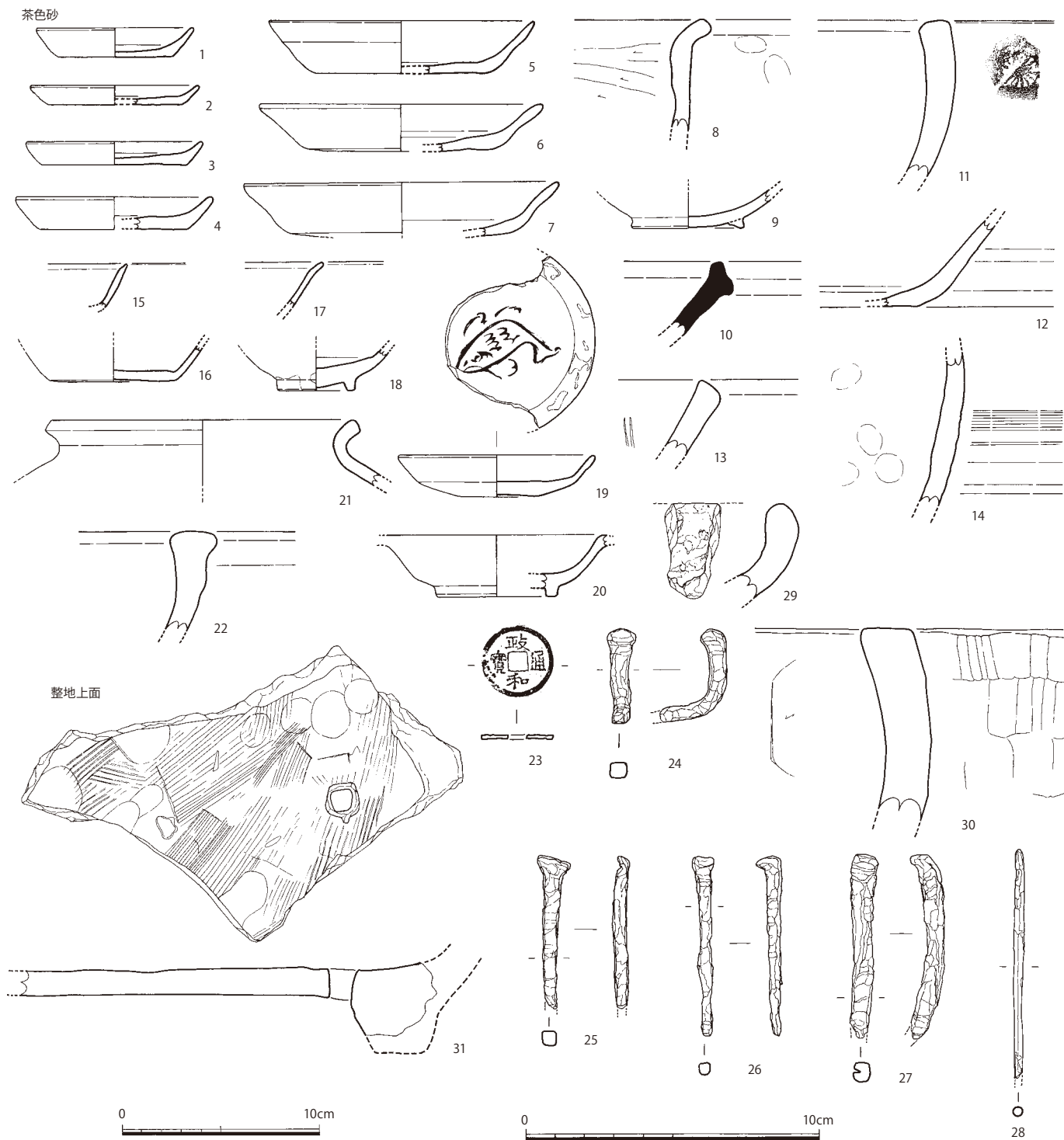


Fig. 31 第35次調査茶色砂・整地上面出土遺物実測図 (1/3、金属製品・石製品は1/2)

坏 (22) 復元口径 16.8 cm。内外面とも回転ナデ調整である。

土師質土器

鍋 (23) 口縁部を若干外反させる。復元口径 26.0 cm。内面はヨコハケ、外面はヨコナデの後ナデ調整で煤が厚く付着する。

須恵質土器

鉢 (24) 東播系。

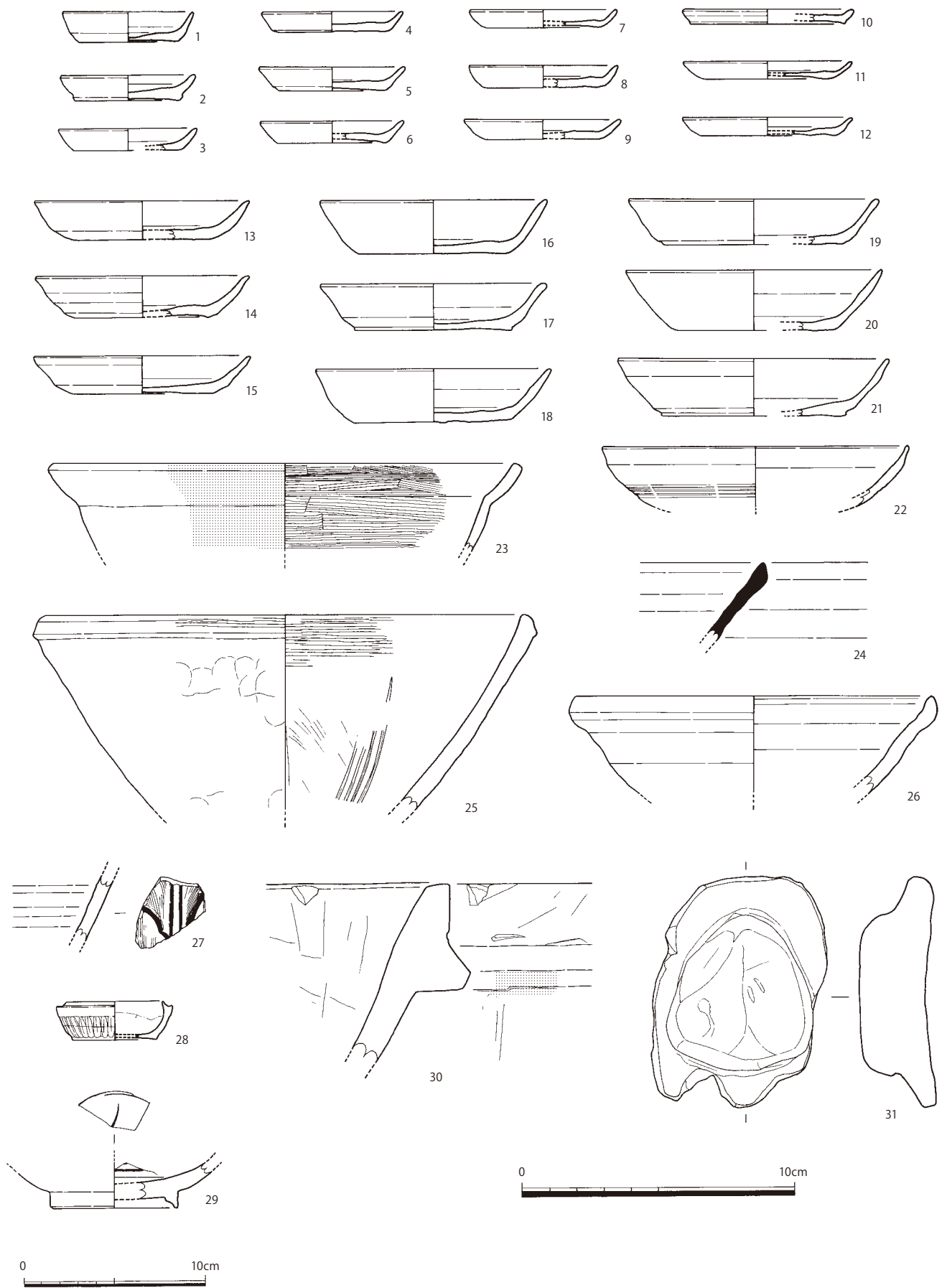


Fig. 32 第35次調査暗褐色土出土遺物実測図 (1/3、石製品は1/2)

瓦質土器

播鉢 (25) 復元口径 26.2 cm。内面は使用により摩滅するが、ハケの後播り目を施している。外面はナデ調整である。

鉢 (26) 復元口径 19.4 cm。内外面ともヨコナデ調整である。

白磁

壺 (27) 内面は露胎。外面は文様を施し光沢のある青味がかった透明釉を施す。広東系か。

青白磁

合子身 (28) 復元口径 5.2 cm、器高 2.1 cm。外面は型押文で、胎土は白色で内外面上半部に淡緑青色釉を施し、その他は露胎である。

龍泉窯系青磁

椀 (29) IV類。高台内側は斜めに欠損した後施釉する。内面は淡緑色釉、外面は黄緑色釉を施す。復元高台径 7.0 cm。

石製品

石鍋 (30) 外面には煤が付着する。滑石製。

石鍋補修材 (31) 大きさ 8.5 cm × 6.5 cm。中央を三角形状に削り出し、厚さ 2.4 cm。滑石製。

黒褐色土出土遺物 (Fig. 33 ~ 35)

土師器

小皿 a (26 ~ 42) 復元口径 7.0 ~ 9.0 cm。底部切り離しは回転糸切り。内面底部はナデ調整。

小皿 b (1 ~ 25) 復元口径 6.7 ~ 8.0 cm。底部切り離しは回転糸切り。殆どで板状圧痕を残す。内面底部はナデ調整である。

坏 a (43 ~ 60) 復元口径 11.4 ~ 15.8 cm。底部切り離しは回転糸切り。殆どで板状圧痕を残す。内面底部はナデ調整である。

坏 b (61, 62) 61 は復元底径 6.4 cm。底部切り離しは回転糸切りで、体部は水挽き成形する。62 は薄い器壁で、内外面とも摩滅するが回転ナデ調整である。

須恵質土器

鉢 (63) 口縁部は断面三角形状に肥厚する。

瓦質土器

鉢 (64 ~ 66) 64 は内外面ともヨコハケで、外面はその後ナデ調整する。65・66 は内面ハケ、外面ハケの後ナデ調整する。

片口播鉢 (67) 内面ハケの後 7 本単位の播り目を施し、口縁端部はハケ、外面はナデ調整。

播鉢 (68) 胎土は白色砂粒を多く含み、色調は淡灰色を呈する。内面は播り目を施し、使用により全体的に平滑である。外面はハケの後ナデ調整。復元底径 15.0 cm。

火鉢もしくは風炉 (69) 胎土はやや粗く色調は淡灰色を呈する。外面は 2 条の沈線と花文スタンプを施す。

火鉢 (70 ~ 72) 70 は内面ナデ、外面ミガキ c で、体部上部には縦押圧線を施す。71 は内面ヨコハケ、外面ミガキで外面には菊花文を施す。72 は内外面ともミガキ c で、外面に花文スタンプを施す。色調は灰黒色を呈する。

土師質土器

鍋 (73 ~ 75) 73・74 は口縁部を緩やかに外反させ、内面ヨコハケ、外面ヨコナデ調整。74 の外面にはうっすら煤が付着する。75 は L 字形に曲げる。全面ハケ調整である。

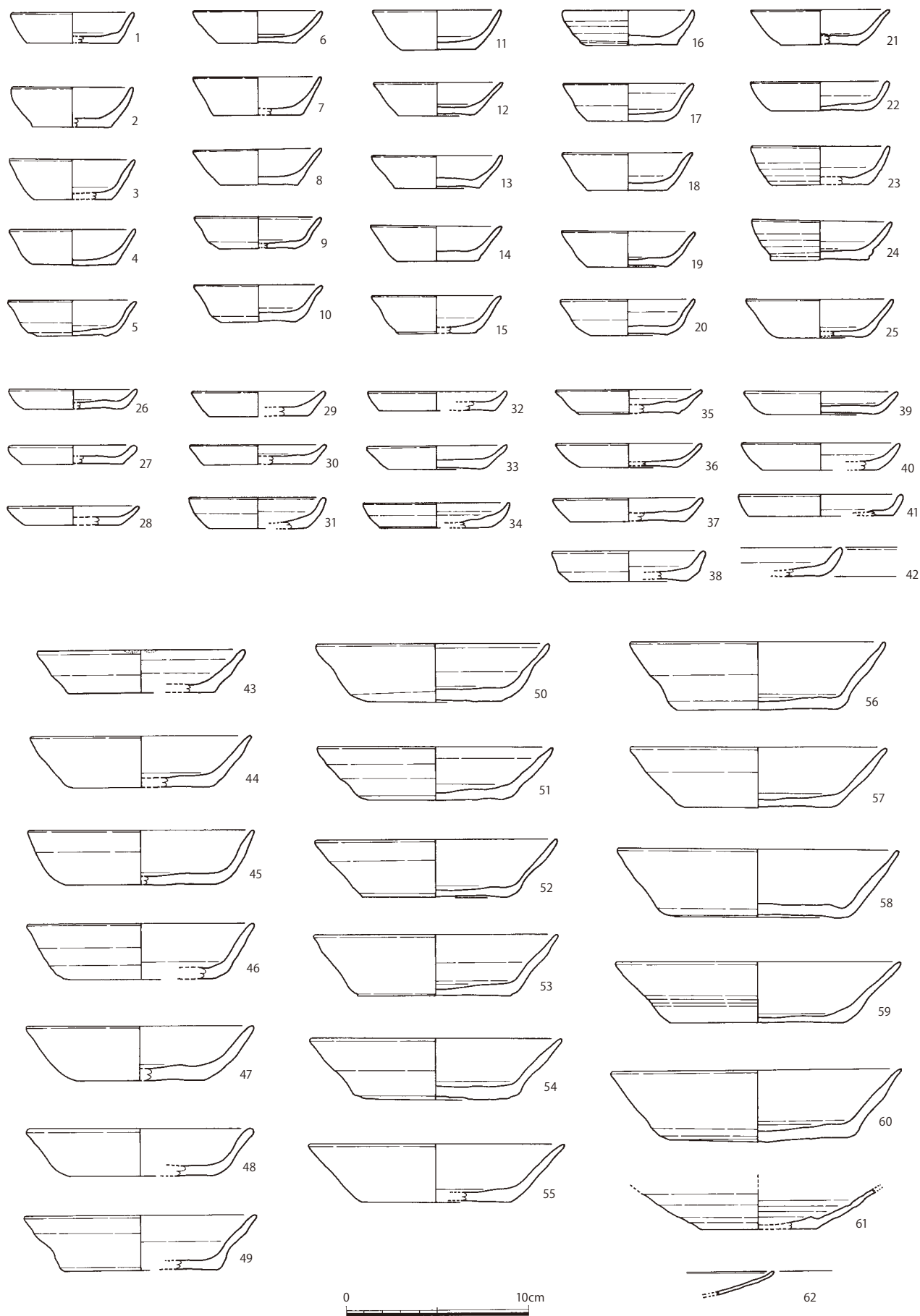


Fig. 33 第35次調査黒褐色土出土遺物実測図① (1/3)

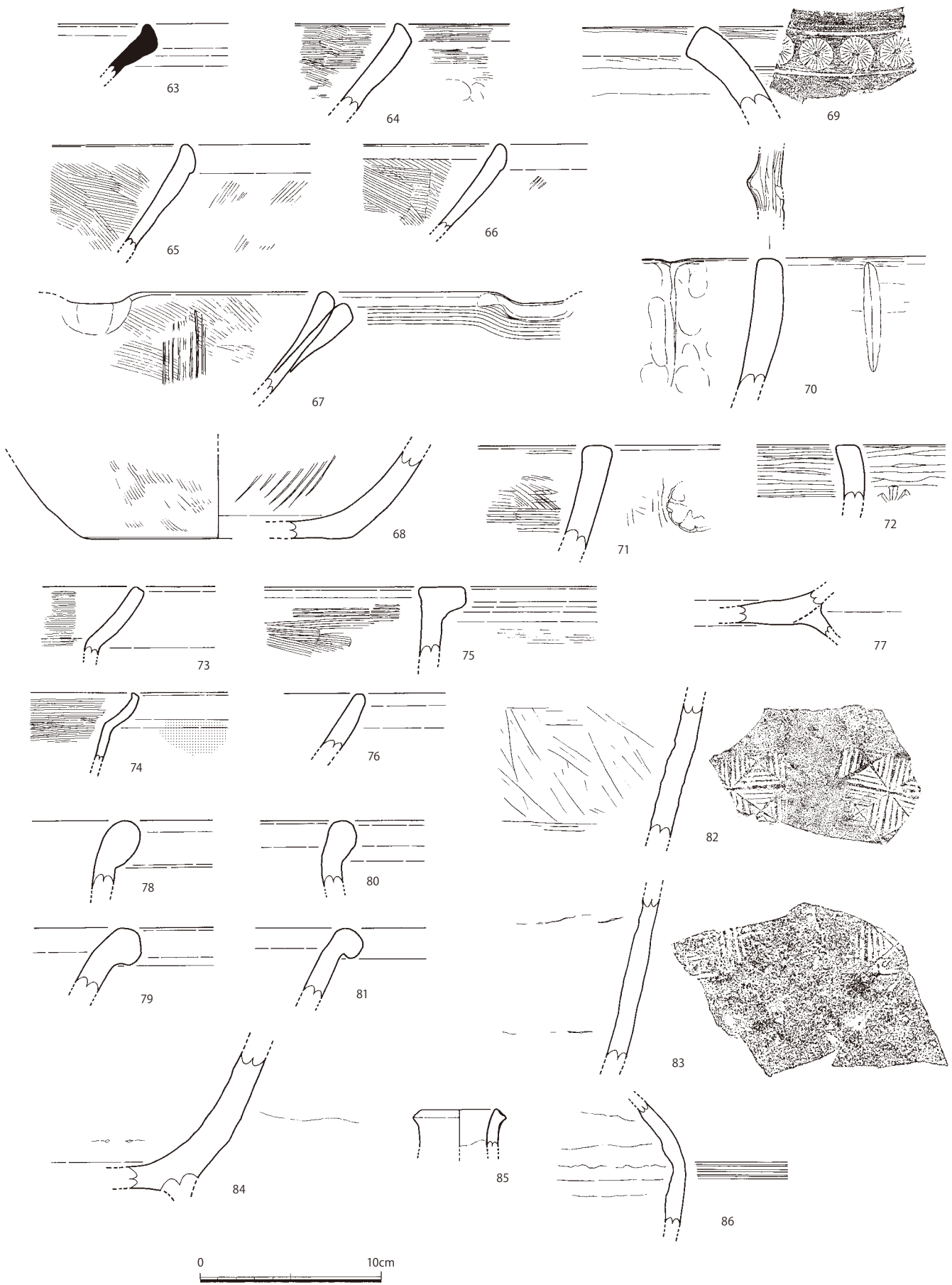


Fig. 34 第35次調査黒褐色土出土遺物実測図② (1/3)

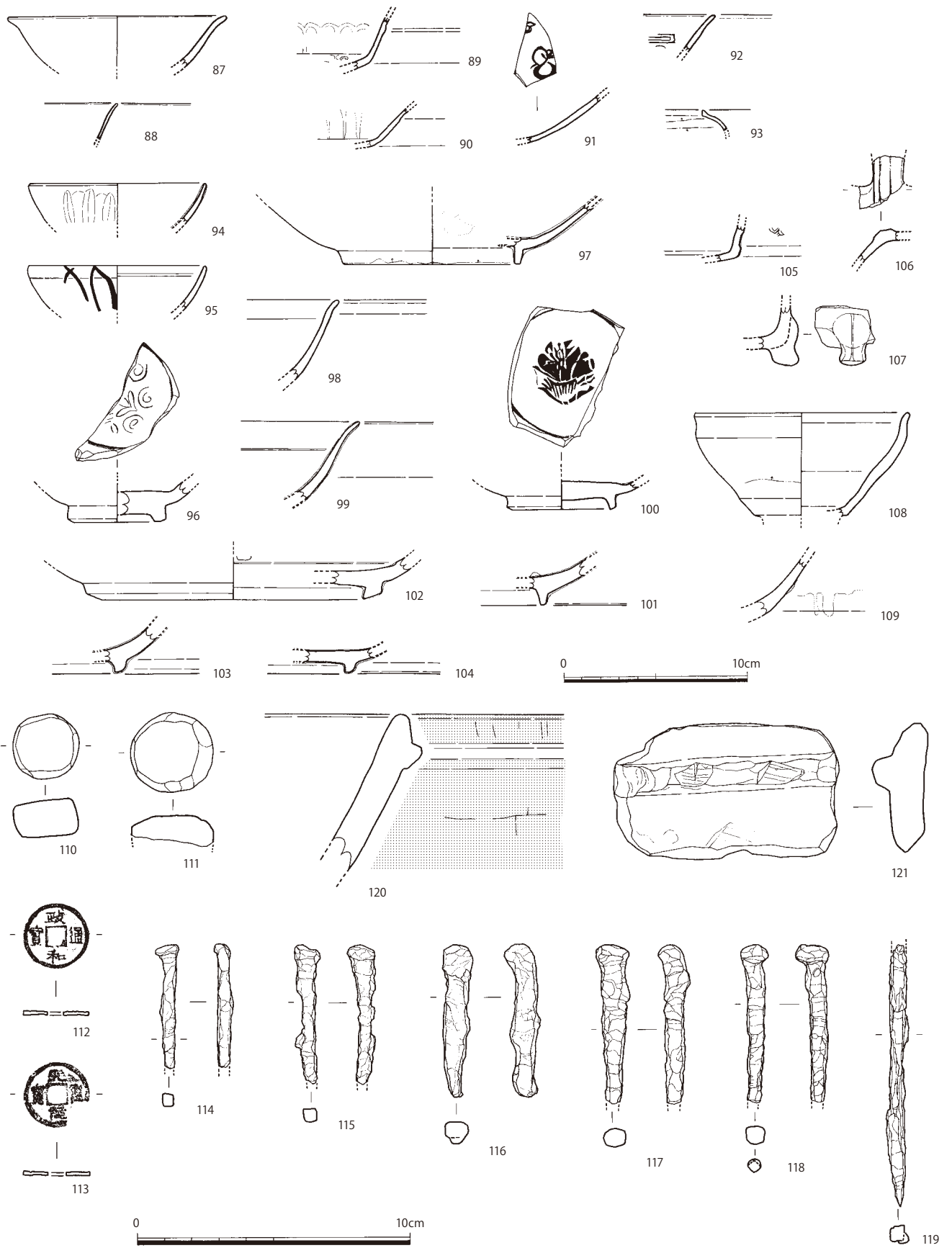


Fig. 35 第35次調査黒褐色土出土遺物実測図③ (1/3、金属製品・石製品は1/2)

鉢 (76) 胎土は白色砂粒や雲母を多く含み、暗茶灰色を呈する。内外面ともヨコナデである。

盤 (77) 胎土は 0.1 cm 以下の白色砂粒を含み、黄橙色を呈する。内面は回転ナデ、外面底部はナデ調整である。

中世国産陶器

甕(78～83) 78～81は口縁部を丸く肥厚させる。78は暗灰色粒を多く含み灰色を呈する。備前系。79は外面の所々で自然釉が見られる。80の胎土は黒色粒や白色粒を多く含み暗灰色を呈する。81は内外面とも暗灰色や灰白色を呈する。82は胎土が黒色粒や白色砂粒を多く含み粗い。内外面とも工具ナデで、外面はさらに叩きを施す。東海系。83は胎土が白色砂粒や黒色粒を多く含み灰色を呈する。内外面ともナデ調整し、その後外面に押印文を施す。外面は茶色、内面は黄茶色を呈する。東海系。

甕もしくは壺 (84) 胎土は黒色粒を多く含み淡灰色を呈する。外面は工具によるナデで、光沢の柔らかい茶褐色釉が施され、内面はヨコナデの後自然釉がかかる。

瓶 (85) 淡緑黄色釉を外面と内面上半部に施す。復元口径 5.2 cm。瀬戸産。

壺 (86) 胎土は灰色で、外面には 4 条の沈線が巡る。内面には粘土紐痕が残る。外面には灰緑色釉が施されている。瀬戸産。

白磁

皿 (87) IX-1c 類。口縁端部は釉を拭き取る。復元口径 12.0 cm。

椀 (88) 薄い器壁で、内外面にやや水色がかかった白色釉を施し、口縁端部の釉は拭き取る。枢府系か。

青白磁

皿 (89、90) 89は胎土が灰色や茶色を呈し、内面には陽印刻文、外面には凸線を施し、内外面に淡青色釉を厚く施釉する。90は内面に蓮花文を施し、内外面に光沢のある淡青色釉を施す。

椀 (91、92) 91は内面に文様を描き、内外面に淡青色釉を薄く施す。枢府系か。92は、胎土は白灰色で、内外面に淡く水色がかかった透明釉を施すが、口縁端部は釉を拭き取る。内面にうっすら雷文のような文様がみえる。

小壺 (93) 釉は僅かに青色味のある透明釉を施すが、口縁端部は釉を拭き取る。

龍泉窯系青磁

小椀 (94、95) 94は復元口径 9.8 cm。外面に鎬にある細い蓮弁をつくり、貫入のある青緑色釉を厚く施す。95はIV類。外面に蓮弁、内面に沈線を描く。内外面に灰黄緑色釉を施す。復元口径 9.8 cm。

椀 (96～101) 96はI類。内面底部に幾何学文を施す。97はIII-1A類。胎土は淡灰色で、内外面に黄灰色釉を厚く施し、高台壘付は釉を拭き取る。内面には一部銅のような付着物がみられる。復元高台径 9.7 cm。98は口縁端部を緩く外反させる。内外面に灰黄緑色釉を施す。99は内面に沈線を施し、内外面に暗緑色釉を施釉する。100は内外面に暗緑黄色釉を薄く施すが、高台内面は露胎。内面底部には文様を描く。高台径 6.0 cm。101は内外面とも光沢のある緑青色釉を厚く施し、底部や高台内側には付着物がみられる。

盤 (102～104) IV類。高台外面をやや斜めに作る。102は復元高台径 16.2 cm。内外面に透明度の低い青緑色釉を施すが、高台内面中央は露胎である。103は淡緑青白色釉を厚く施す。104は内外面に暗緑色釉を薄く施すが、外面底部は釉を拭き取っている。

香炉 (105～107) IV類。105は体部外面下半に施文し、内外面とも淡緑色釉を施すが、内面中央付近は釉を掻き取る。106は小片だが、香炉蓋と推測される。内外面に緑青色釉を施す。107は脚部付近で、胎土は灰色で、内外面には光沢のある暗緑色釉を厚く施す。

黒釉陶器

天目椀 (108、109) 108 は復元口径 11.8 cm。胎土は黒色粒を多く含み灰色を呈する。内外面とも黒褐色や茶色釉を施すが、外面下半は露胎で回転ヘラケズリを施す。109 は胎土が灰白色を呈し、内外面に茶色釉を施すが、外面下半は露胎である。

瓦類

瓦玉 (110、111) 110 が径 3.6 cm、厚さ 2.0 cm。111 が径 4.5 cm 前後。

金属製品

銭貨 (112、113) 112 は「政和通寶」、径 2.4 cm。113 は「天聖元寶」(1023 年初鑄)、径 2.4 cm。

鉄釘 (114～119) 断面方形の和釘で、頭部を L 字形に曲げる。114 は現存長 4.55 cm。115 は現存長 5.15 cm。116 は現存長 5.6 cm。117 は現存長 5.85 cm。118 は現存長 5.8 cm。119 は上部を欠損し、現存長 9.6 cm。

石製品

石鍋 (120) 鏝は低く削り出し、外面は煤が付着する。滑石製。

石鍋加工品 (121) 石鍋の口縁部付近を長方形に加工している。大きさは 5.0 × 8.0 cm、厚さ 1.3 cm。滑石製。

赤褐色土出土遺物 (Fig. 36～40)

土師器

小皿 a (10～34) 復元口径 7.2～9.8 cm。底部切り離しは回転糸切りである。13・14 の口縁部には煤が付着する。

小皿 b (1～9) 復元口径 6.2～7.8 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

小坏 a (35) 復元口径 8.45 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (36～65) 復元口径 11.2～16.9 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

用途不明製品 (66) 胎土は 0.2 cm 以下の白色砂粒を多く含み暗黄色を呈する。欠損も多く全形は不明瞭。残存する面はヨコナデ調整され、中央に円形状の窪みが作られている。

瓦器

椀 (67) 内外面ともミガキだが、内面は単位が不明瞭。

土師質土器

火鉢 (68) 内外面ともヨコナデで外面には花文スタンプを施す。色調は淡茶灰色を呈する。

鍋 (69) 口縁部を外反させる。内面ヨコハケ、外面ヨコナデで外面には煤が付着する。

脚付鉢 (70) 脚部周辺は工具によりきれいにヨコナデされている。色調は白黄灰色を呈する。

須恵質土器

鉢 (71～73) 東播系。内外面とも回転ナデで、口縁部は三角形状に肥厚させ、口縁端部外面は黒灰色を呈する。73 は復元底径 7.9 cm。底部は回転糸切りで、内外面とも回転ナデで、内面は使用により平滑となる。

甕 (74) 内面ヨコナデ、外面格子叩きで、外面底部は未調整である。

瓦質土器

火鉢 (75～78) 75 は内面ヨコナデ、口縁端部と外面はミガキを施す。外面には花文を施す。色調は淡黄白色を呈する。76 は内面の突起が欠損する。内面は細かいヨコハケ、外面はヨコナデの後菊花文スタンプを施す。77・78 は外面に花文スタンプを施す。

搦鉢 (79) 内面と口縁部はヨコハケで、内面には挿り目を施す。外面はナデ調整である。

鉢 (80) 口縁部に向かって肥厚させ、内外面とも回転ナデで、内面はさらにナデ調整する。色調は灰色で、口縁端部は黒灰色を呈する。

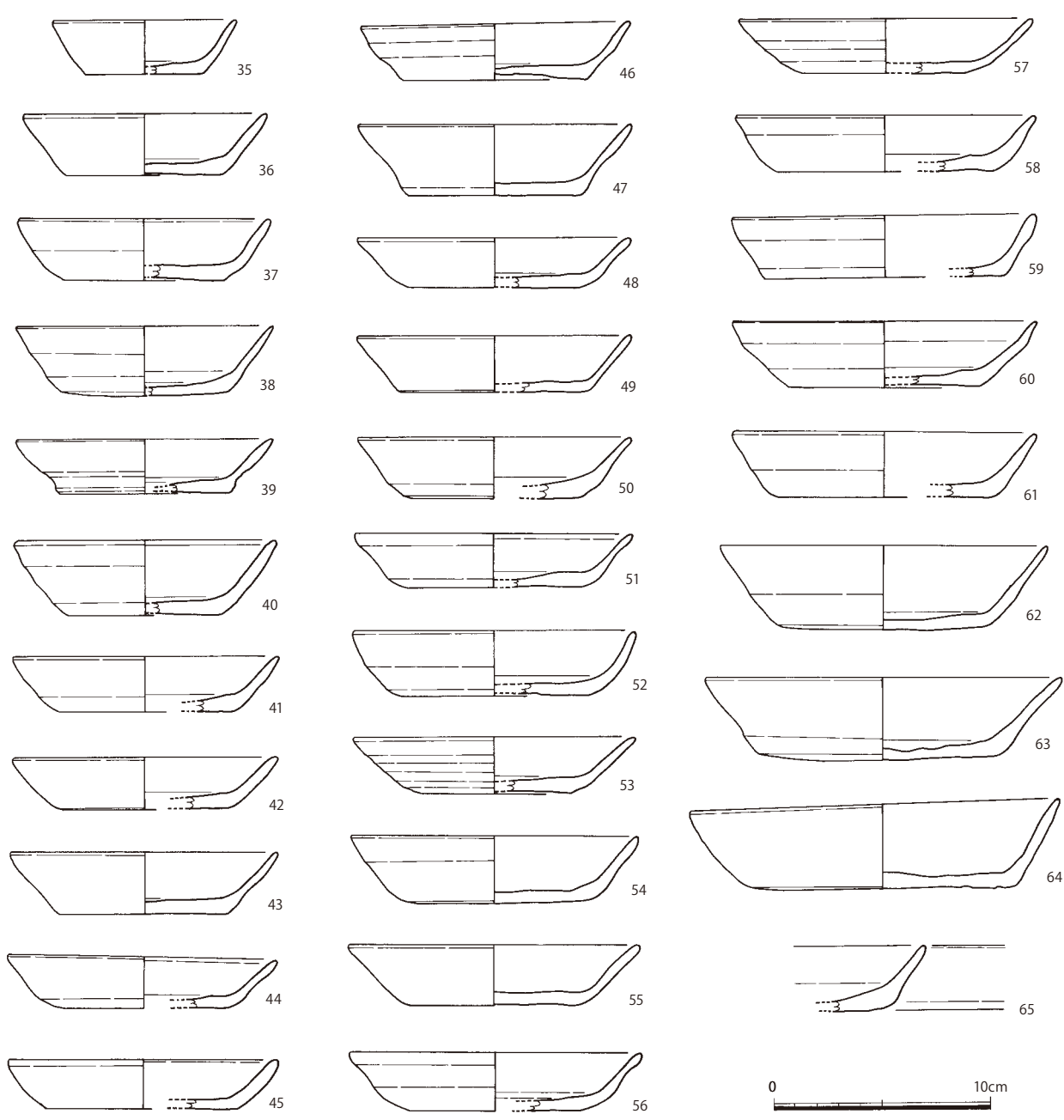
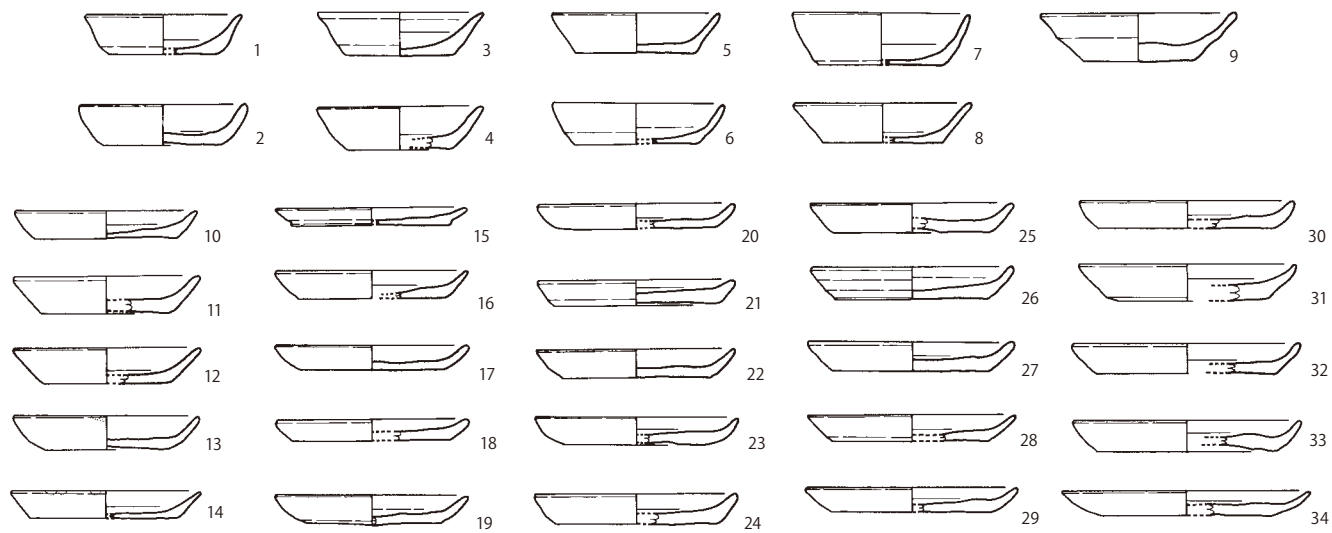


Fig. 36 第35次調査赤褐色土出土遺物実測図① (1/3)

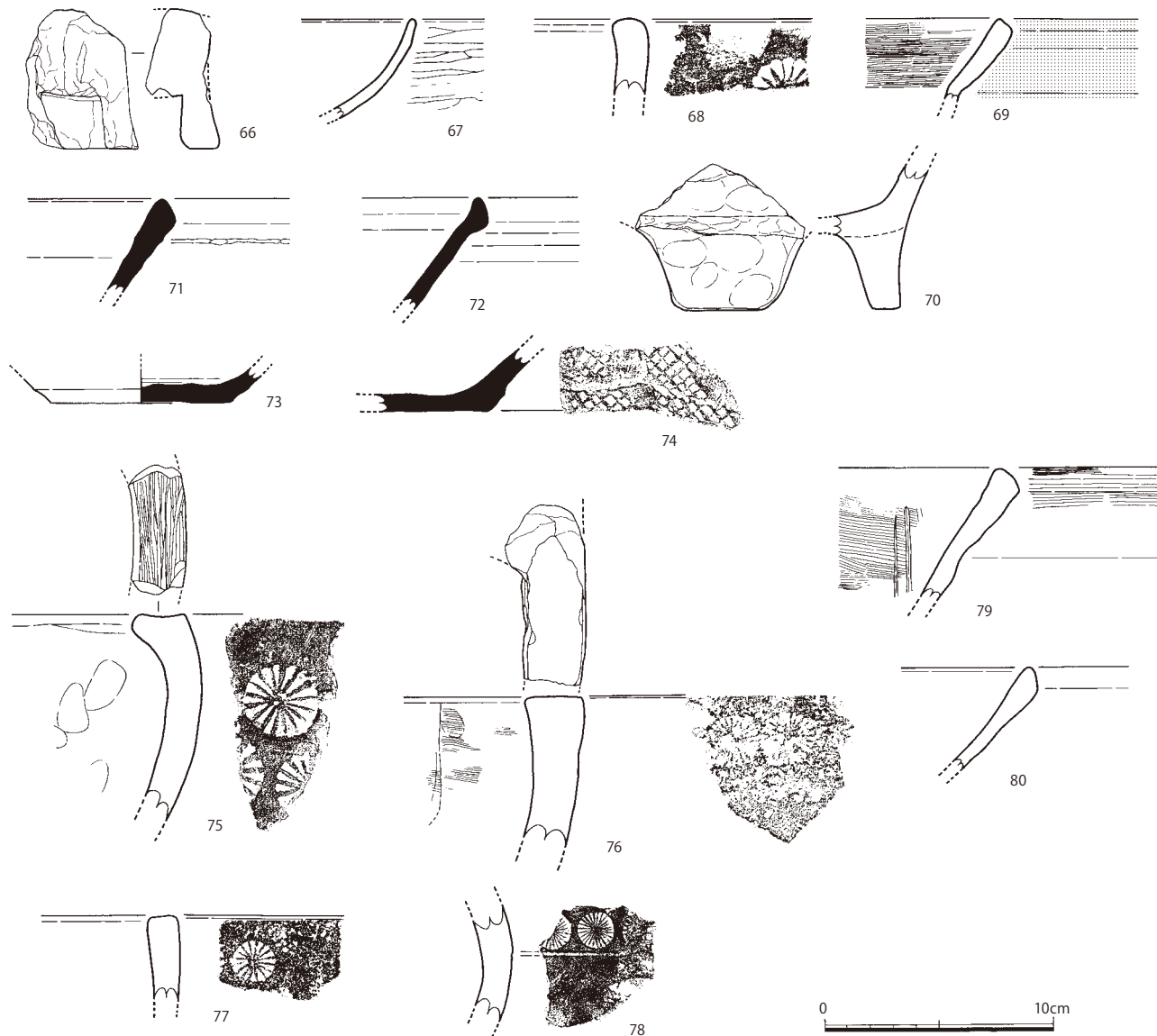


Fig. 37 第35次調査赤褐色土出土遺物実測図② (1/3)

中世国産陶器

鉢 (81) 胎土は砂粒を少量含み、淡赤灰色を呈し、内外面は赤茶色を呈する。備前系か。

壺 (82) 復元口径 10.4 cm。胎土は白色砂粒を含み、灰色を呈する。内外面とも回転ナデ調整し、自然釉が付着する。

甕 (83～96) 83～85は口縁部を折り曲げ丸く肥厚させる。備前系。83は内外面とも暗黄茶色を呈する。84は胎土が白色砂粒や黒色粒を含み灰色を呈する。内外面とも回転ナデで、外面は暗灰色を呈する。85の胎土は明褐灰色を呈し、内外面とも暗赤褐色を呈する。86は内外面ともヨコナデ調整。内外面に緑茶色や暗灰色の自然釉がかかる。東海系。87は口縁部を大きく曲げる。外面には濃い暗緑色の自然釉がかかる。88は、胎土に黒色粒や0.4 cm以下の白色砂粒を多く含み灰色を呈する。内外面とも回転ナデで、口縁端部は灰被りする。胎土は灰色で内外面とも茶褐色を呈する。89は内面が横方向の強いナデ、外面はハケの後叩きを施す。胎土は0.1 cm以下の白色砂粒を少量含み暗灰色を呈する。東海系。90は内面ナデ、外面に押印文を施し、所々に緑色釉が残る。東海系。91は内面が指頭圧の後ヨコナデ調整。外面はナデ調整の後押印文を施す。胎土は0.3 cm以下の白色砂粒を多く含み、外面は暗灰

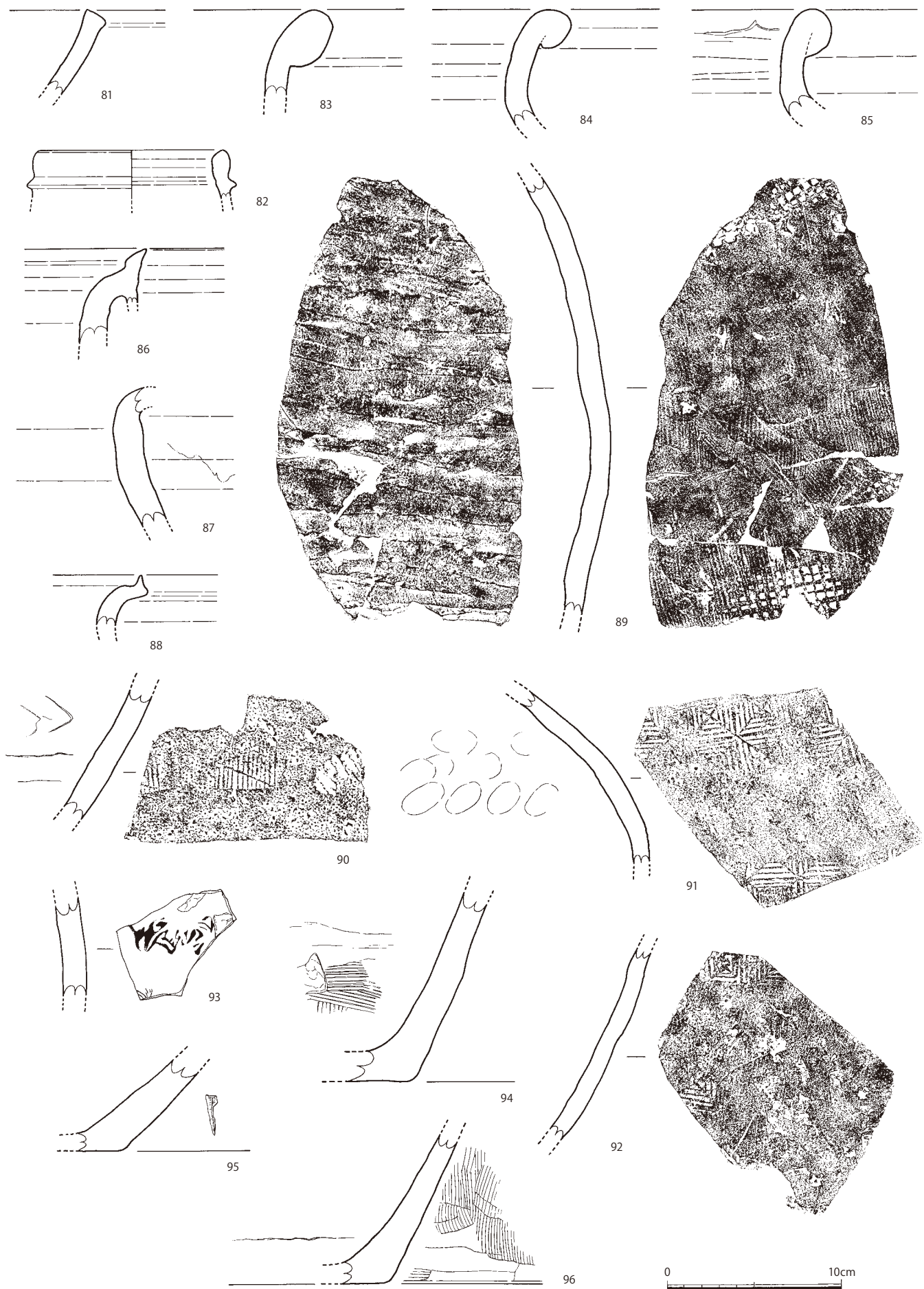


Fig. 38 第35次調査赤褐色土出土遺物実測図③ (1/3)

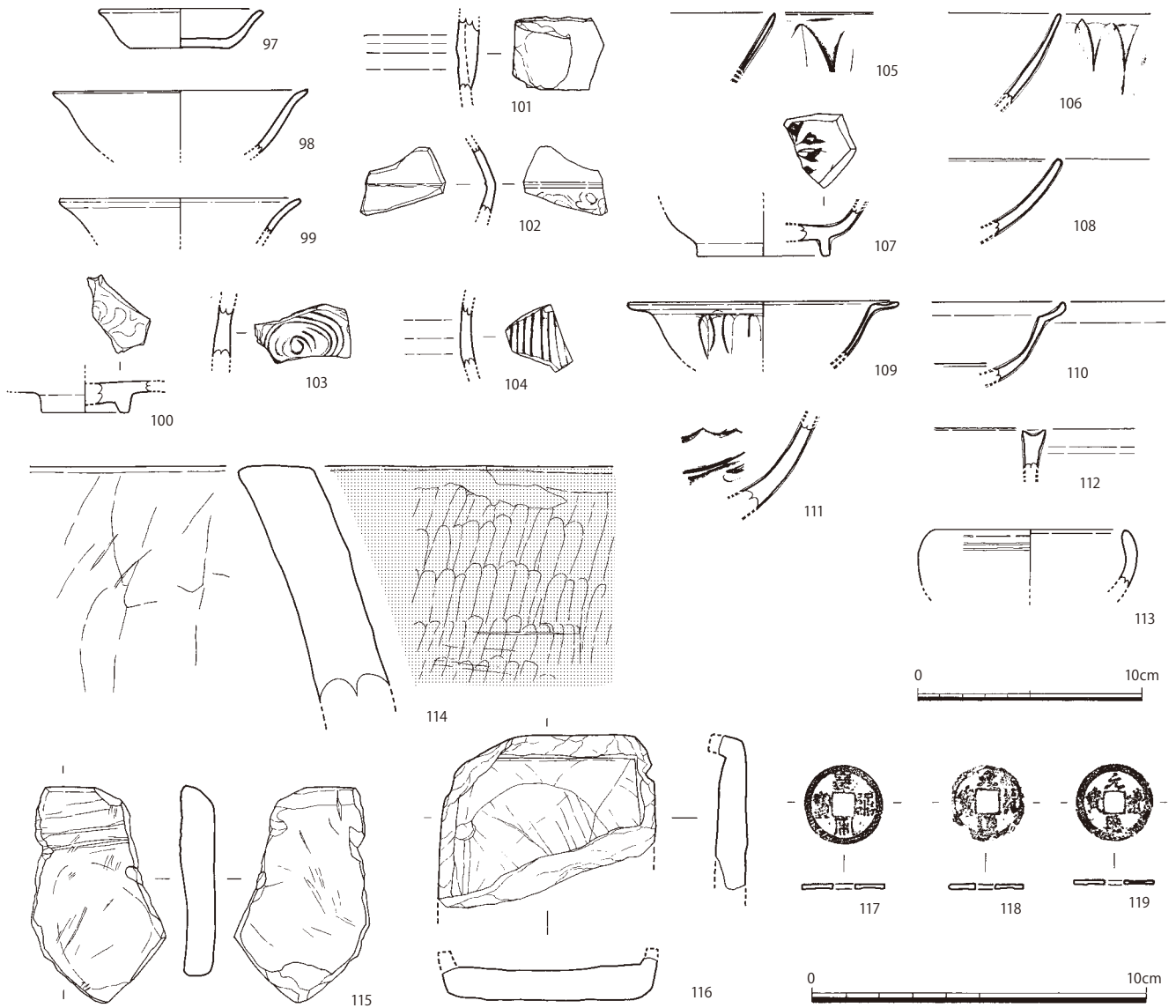


Fig. 39 第35次調査赤褐色土出土遺物実測図④ (1/3、金属製品・石製品は1/2)

色、内面が淡赤茶色を呈する。東海系。92は胎土が0.4cm以下の白色砂粒を含み暗灰色を呈する。色調は外面が淡赤茶色、内面黄茶色を呈する。内面ヨコナデ、外面はナデの後押印文を施す。東海系。93は小片で全形がわかりづらい。内面は回転ナデ、外面は施文のようなものがみられ、暗緑橙色釉が薄くみられる。94は胎土に白色砂粒を多く含み、灰色を呈する。内面にヨコハケがあるが、やや平滑である。底部外面ナデ、外面は縦方向のナデ調整である。95は外面底部が未調整。内外面はナデ調整。胎土は白色砂粒を含み暗灰色を呈する。96は胎土が白色砂粒や黒色粒を多く含み灰色を呈し、内外面は茶色を呈する。外面は板状工具によるナデでハケ状痕が残り、内面ヨコナデ、外面底部はナデの後ハケ状工具でナデ調整する。

白磁

皿 (97～99) 97はIX-1a類。復元口径7.4cm。98は復元口径11.4cm。IX類。99はIX-1d類。

椀 (100) 復元高台径3.9cm。内面底部にうっすら文様を描き、内外面に白濁したやや青味のある釉を施す。高台畳付から高台内面は露胎。枢府系。

水注 (101) 頸部付近の破片とみられ、把手が欠損している。内外面とも光沢のあるやや青味がかつ

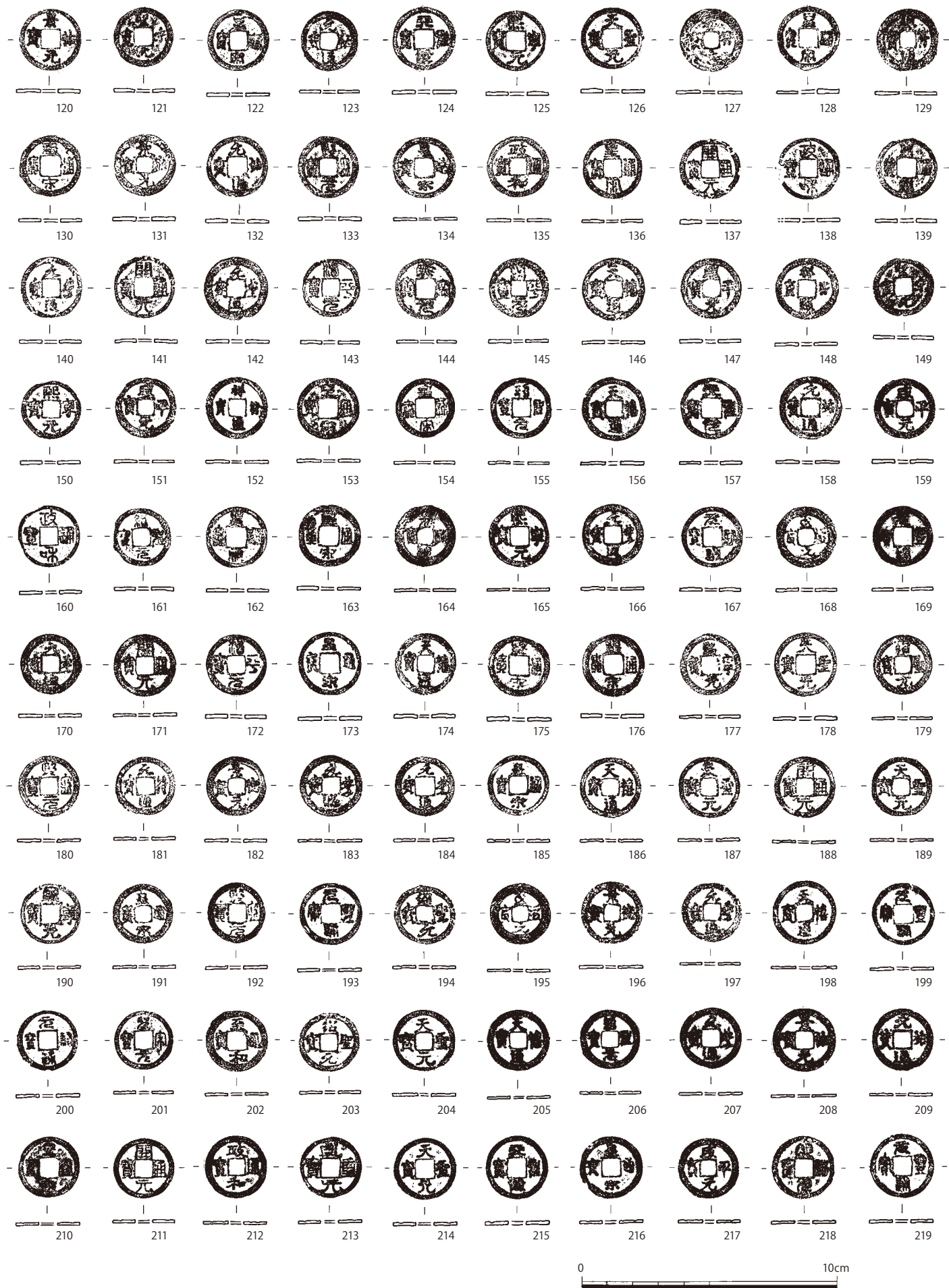


Fig. 40 第35次調査赤褐色土出土遺物実測図⑤ (1/2)

た釉を薄く施す。

壺 (102) 青白磁の可能性もある。外面に白色釉で文様を描き、内外面に淡く緑色がかかった透明釉を薄く施す。

青白磁

壺 (103、104) 小片で器種が明確ではないが、壺類と推測される。内面は回転ナデで露胎。外面には淡く水色がかかった釉を薄く施す。

龍泉窯系青磁

椀 (105～108) 105はⅢ-2C類。外面は鎬蓮弁で青味のある白濁釉を厚く施す。106はⅢ-2C類。内外面に暗緑色釉を厚く施す。107は内面底部に型押文を施し、内外面に緑黄灰色釉を厚く施すが、高台内面は露胎。復元高台径6.0cm。Ⅳ類。108は内外面に白濁した淡緑灰色釉を施す。Ⅳ類か。

坏 (109、110) 109はⅢ-4類。復元口径12.4cm。外面に蓮弁を彫り、内外面に緑灰色釉を施す。110はⅢ-3類。光沢のある黄褐色釉を厚く施す。

盤 (111) 内外面に緑黄灰色釉を厚く施す。Ⅳ類。

香炉 (112) 口縁部の受け部付近の破片である。胎土は灰白色で淡く緑色がかかった透明釉を厚く施す。Ⅳ類。

高麗青磁

椀 (113) 復元口径8.8cm。内外面に暗緑灰色釉を施し、外面には3条の象嵌を巡らす。

石製品

石鍋 (114) 外面には煤が付着する。滑石製。

石鍋二次加工品 (115) 大きさ6.5cm×3.95cm、厚さ1.0cm。側面に鉄棒が貫通し残存する。滑石製。

硯 (116) 半分ほど欠損する。幅6.4cm、厚さ0.9cm。側面は丁寧に研磨され、底面は簡単な研磨である。

金属製品

銭貨 (117～219) 117～119は「皇宋通寶」「元符通寶」「元豊通寶」。120～219は緡銭として一括出土したもので、北宋銭を中心とした20種100枚の銭貨である。内容は「軋元重寶」「開元通寶」「至道元寶」「咸平元寶」「景德元寶」「祥符通寶」「祥符元寶」「天禧通寶」「天聖元寶」「景祐元寶」「皇宋通寶」「至和通寶」「治平元寶」「熙寧元寶」「元豊通寶」「元祐通寶」「紹聖元寶」「元符通寶」「聖宋元寶」「政和通寶」で、詳細な内容は表6・7のとおりであるが、そのまとめ方に規則性は見られなかった。

茶灰色土出土遺物 (Fig. 41)

土師器

小皿 a (5～9) 復元口径7.8～9.6cm。底部切り離しは回転糸切りである。

小皿 b (1～4) 復元口径7.1～7.6cm、器高1.8～2.0cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

坏 a (10～12) 復元口径12.05～14.6cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

須恵質土器

甕 (13～15) 13は口縁部を折り曲げ、内外面ともヨコナデ調整。14は外面がヨコハケの後ヨコナデ調整。色調は灰色を呈する。15は内面ヨコハケの後一部指頭圧、外面は平行叩きである。

瓦質土器

火鉢 (16) 口縁部を内湾させる。内外面とも回転ナデで、色調は灰黒色を呈する。

羽釜 (17) 外面ヨコナデ、内面は摩滅し調整不明。

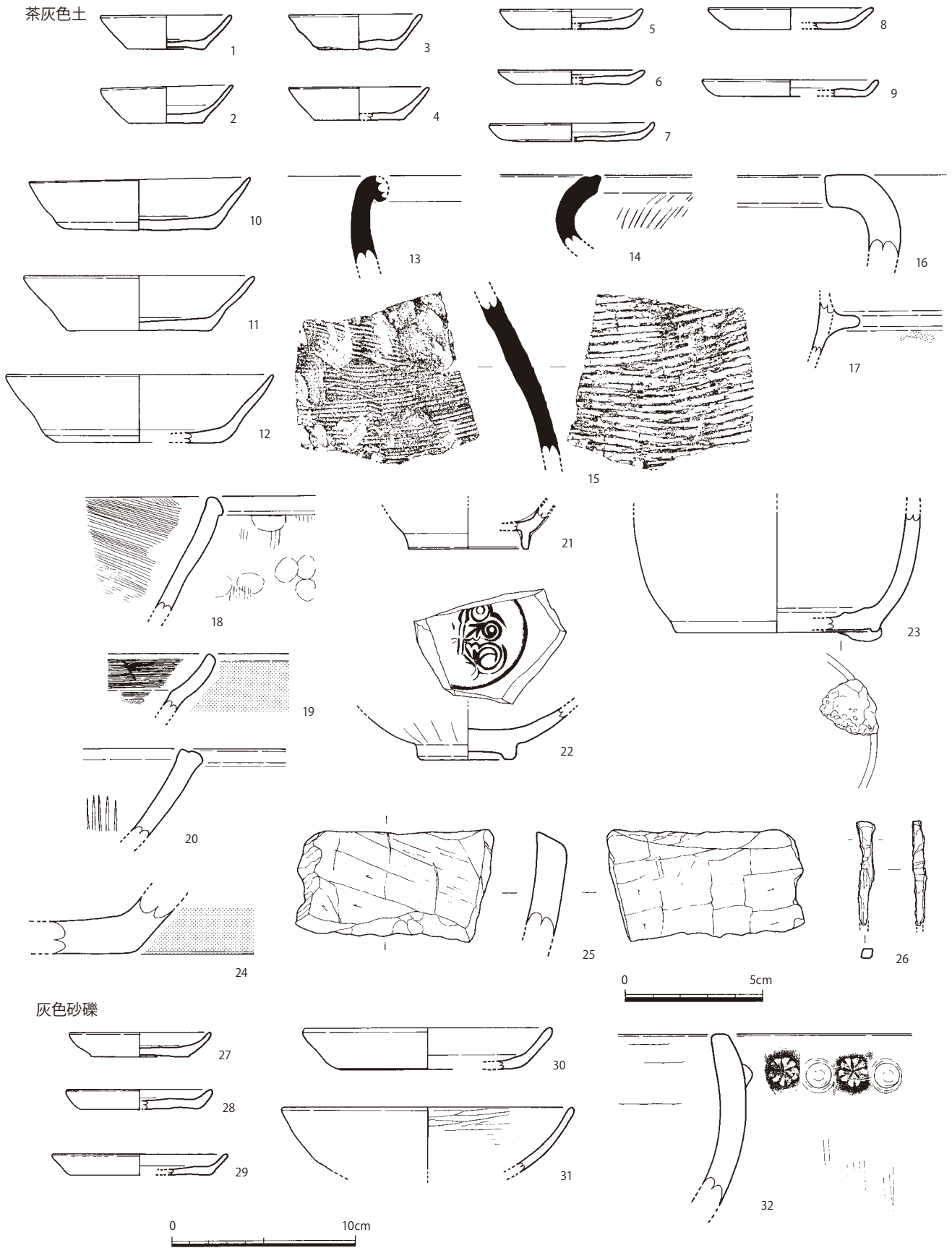


Fig. 41 第35次調査茶灰色土・灰色砂礫出土遺物実測図 (1/3、金属製品・石製品は1/2)

土師質土器

鉢 (18) 内面ヨコハケ、外面はハケの後ナデ調整。色調は淡橙灰色を呈する。

鍋 (19) 口縁部を僅かに外反させ、内面は細かいヨコハケ、外面は全面に煤が付着する。

中世国産陶器

播鉢 (20) 内外面とも回転ナデで、内面には播り目を施し、外面には淡赤茶色釉が施されている。
備前系。

龍泉窯系青磁

碗もしくは坏 (21) III類。暗緑色釉を厚く施す。高台畳付は露胎である。

碗 (22) II-c類。外面に蓮弁、内面底部には幾何学文を施す。

中国陶器

壺もしくは水注 (23) 胎土は砂粒をやや含み灰黄色を呈し、内面は回転ナデで露胎。外面には光沢のある淡緑色釉を薄く施す。底部外面には炉壁のようなものが付着する。C群か。

石製品

石鍋 (24) 内面に黒色付着物があり、外面全面に煤が付着する。滑石製。

石鍋加工品 (25) ケズリ調整された石鍋を方形にカットする。大きさは 4.1 × 7.2 cm、厚さ 1.1 cm。
滑石製。

金属製品

鉄釘 (26) 断面方形の和釘で、現存長 3.85 cm。

灰色砂礫出土遺物 (Fig. 41)

土師器

小皿 a (27 ~ 29) 口径 7.75 ~ 9.6 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (30) 復元口径 13.6 cm。底部切り離しは不明瞭で、板状圧痕が残る。

瓦器

碗 (31) 復元口径 16.0 cm。内外面にミガキ c を施す。

瓦質土器

火鉢 (32) 内面は回転ナデ、外面はミガキで、口縁部外面直下に円形突起と花文スタンプを交互に配する。

茶褐色土出土遺物 (Fig. 42 ~ 46)

土師器

小皿 a (61 ~ 75) 口径 7.0 ~ 9.2 cm、底部切り離しは全て回転糸切りである。73 は口縁端部外面に煤が付着する。

小皿 b (1 ~ 60) 口径 6.0 ~ 8.0 cm、底部切り離しは全て回転糸切り。やや深い小皿であるが小皿 a との区別が困難なものもみられる。12 は内面に煤が付着する。

小皿 c (76) 復元口径 9.0 cm、器高 1.35 cm。

小皿 (77 ~ 83) 京都系の小皿。体部はやや反り気味に外反し、口縁端部内面には僅かに段や平坦面を作る。体部内面と外面上半部はヨコナデだが、体部下半には指頭圧痕が残る。色調は白茶色を呈する。復元口径 7.0 ~ 8.4 cm。底部切り離しは不明。77 は底部が明瞭に残り、上げ底状になっている。

皿 (84 ~ 86) 京都系の皿。口径 10.55 ~ 11.1 cm。口縁端部に向かってやや肥厚し、外面には指頭圧痕が残る。

坏 (87) 外開きの体部で、口縁端部内面に僅かな段を有する。外面下半には指頭圧痕が残る。色調

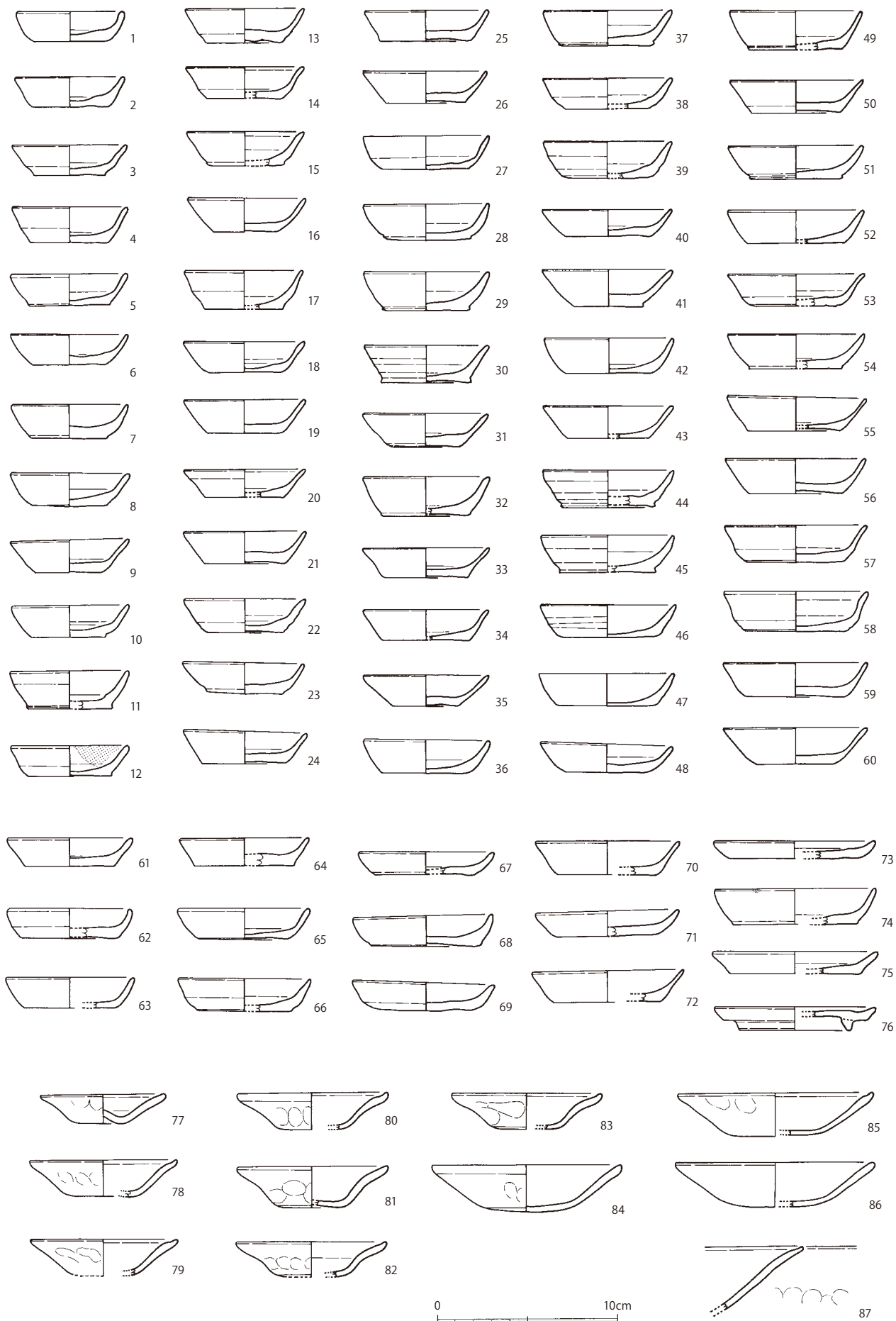


Fig. 42 第35次調査茶褐色土出土遺物実測図① (1/3)

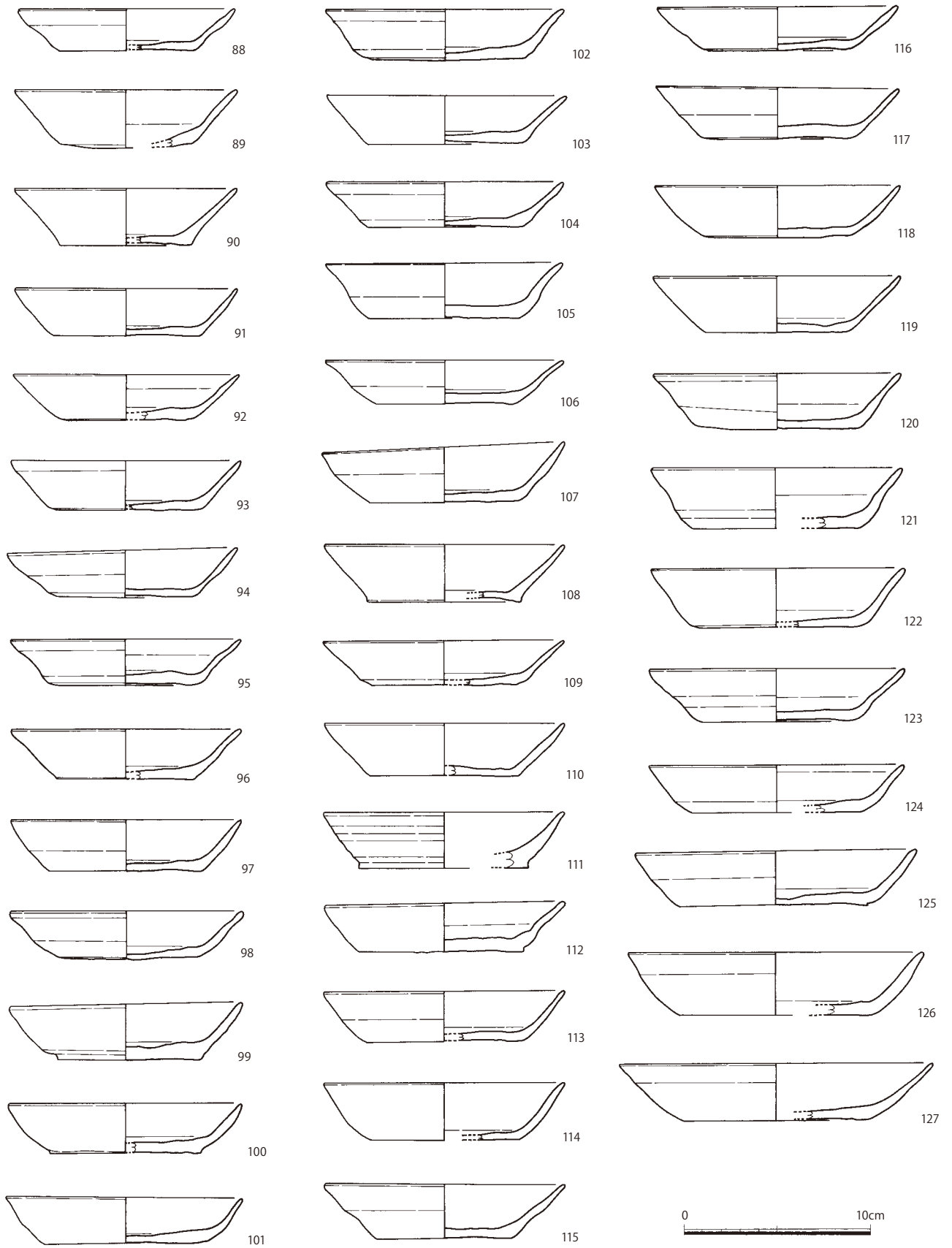


Fig. 43 第35次調査茶褐色土出土遺物実測図② (1/3)

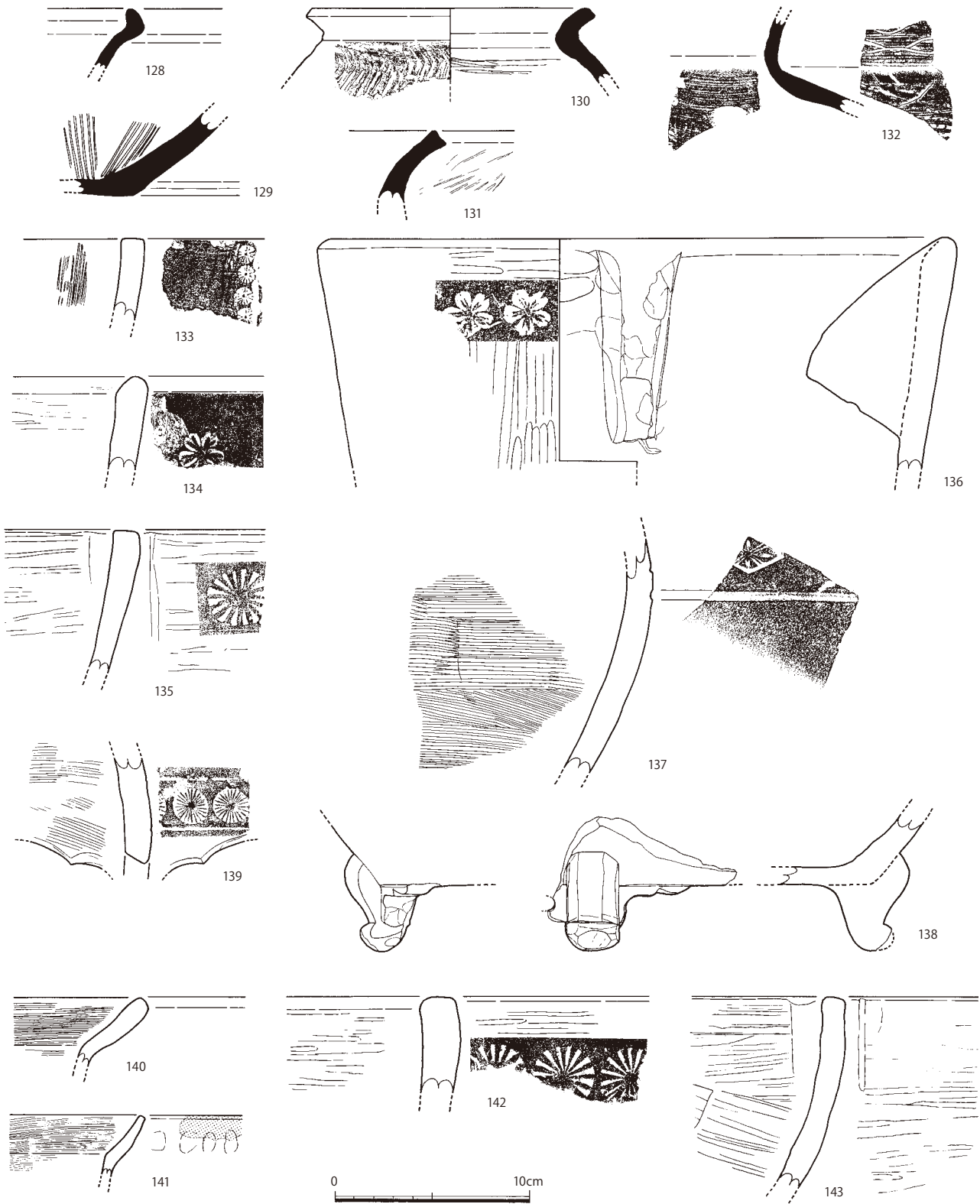


Fig. 44 第35次調査茶褐色土出土遺物実測図③ (1/3)

は黄白色を呈する。

坏 a (88～127) 口径 11.7～17.0 cm、底部切り離しは全て回転糸切りで、殆どで板状圧痕が残る。体部は斜めに直線的に開くものが多い。

須恵質土器

鉢（128） 東播系。

挿鉢（129） 内面に6条単位で挿り目が施されているが、使用により平滑となる。

甕（130、131） 130は復元口径14.8cm。体部外面は叩きである。色調は暗青灰色を呈する。131は外面叩きの後内外面ともヨコナデ調整。

壺（132） 体部内面に当て具痕、外面に叩き痕が残り、頸部外面に波状文を施す。

瓦質土器

火鉢（133～138） 外面はミガキで、花文スタンプを施す。133は内面に挿り目のようなタテハケ、外面はナデの後花文を縦並びにスタンプする。134は外面ナデ、内面は丁寧なミガキを施すが単位不明瞭。135は外面から押圧し、口縁部を輪花状に作る。136は復元口径33.0cm。口縁内部に三角形の受け部を貼付する。137は内面ハケ目、外面ヨコナデで、外面に浅い沈線を巡らし、花菱文のスタンプを施す。138は内面ナデ、外面はとても丁寧なナデで底部と体部の境に脚部を貼付する。色調は茶灰色を呈する。

風炉（139） 火窓を作り、その上に花文スタンプを施す。外面ミガキ、内面ハケ調整。

土師質土器

鍋（140、141） 口縁部を緩やかに屈曲させ、内面はヨコハケ調整。141の外面には煤が付着する。

火鉢（142、143） 142は内外面ともミガキを施し、外面には花文を施している。口縁端部はやや摩滅する。143は砂粒を多く含む胎土で、橙灰色を呈する。内面ヨコナデ、外面ミガキだが摩滅も目立つ。外面から押圧し、口縁部を輪花状に作る。

中世国産陶器

山茶碗（144） 復元高台径8.7cm。胎土は僅かな白砂粒を含み、灰白色を呈する。底部外面は回転糸切り。内外面とも回転ナデの後、内面は使用により平滑となる。

挿鉢（145） 内外面ともヨコナデで、内面には挿り目を施す。色調は暗黄色を呈する。

甕（146～153） 146は口縁端部を丸く仕上げる。胎土は黒色粒や白色粒を少量含み、灰白色や淡黄灰色を呈する。147は口縁部を短く曲げる。内外面とも回転ナデだが、内面には工具痕が残る。色調は淡褐灰色を呈する。148は口縁部を曲げ肥厚させる。胎土は白色砂粒や灰色砂粒を多く含み、色調は暗褐色を呈する。備前系。149は口縁部を曲げ肥厚させる。胎土は白色砂粒や灰色砂粒を多く含み粗い。色調は灰色を呈する。備前系。150は丸みのある口縁端部で、ごく僅かに肥厚する。内外面とも回転ナデで、色調は茶灰色を呈する。151は口縁部を曲げている。色調は外面が明褐灰色、口縁部は鈍い赤褐色を呈する。東海系。152は胎土に暗灰色粒や白色粒を含み、外面は縦方向のナデ、内面はヨコナデ。焼成は良好で灰橙色を呈している。備前系か。153は復元底径16.3cm。外面は工具ナデ、底部外面は未調整。色調は灰赤色や褐灰色を呈する。

壺（154） 胎土は黒色砂粒を多く含み粗く、暗灰色や黄茶灰色を呈する。内外面ともヨコナデで、外面に条線を施す。

緑釉陶器

器台（155） 胎土は淡茶褐色を呈し、土師質である。透かしを設ける。内外面とも暗緑色釉を施すが、剥落も目立つ。

白磁

皿（156～160） 156は復元高台径6.2cm。内外面に僅かに水色を帯びた釉を施すが、高台内面の施釉にはムラがある。内面底部には内容は不明だが文様が施されている。157は外面底部が露胎。IX-2類。158はIX-1c類。復元口径12.0cm。159は口縁部を外反する。IX-1d類。160は内外面に光沢と貫入のある淡灰緑白色釉を施すが、高台内面は露胎である。

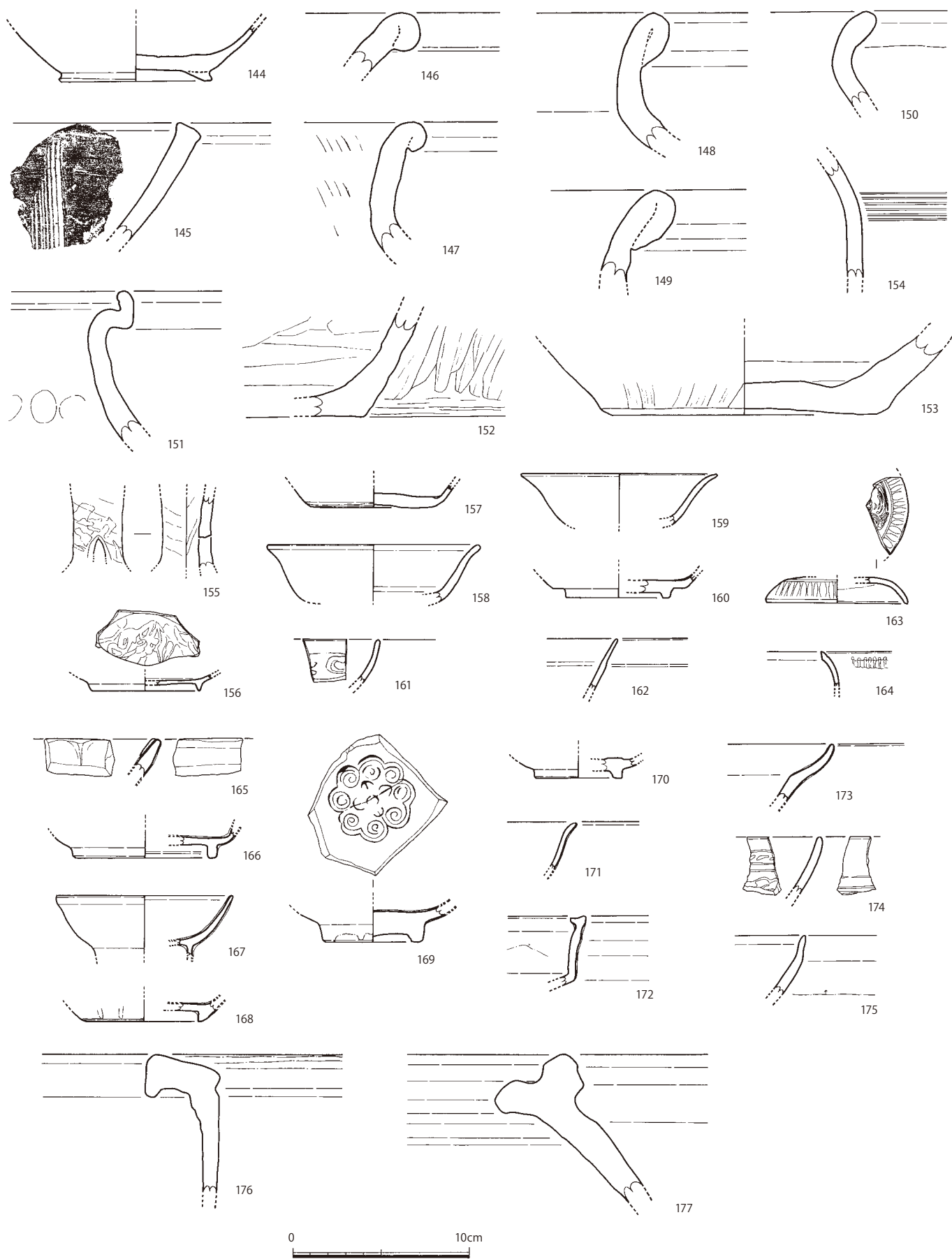


Fig. 45 第35次調査茶褐色土出土遺物実測図④ (1/3)

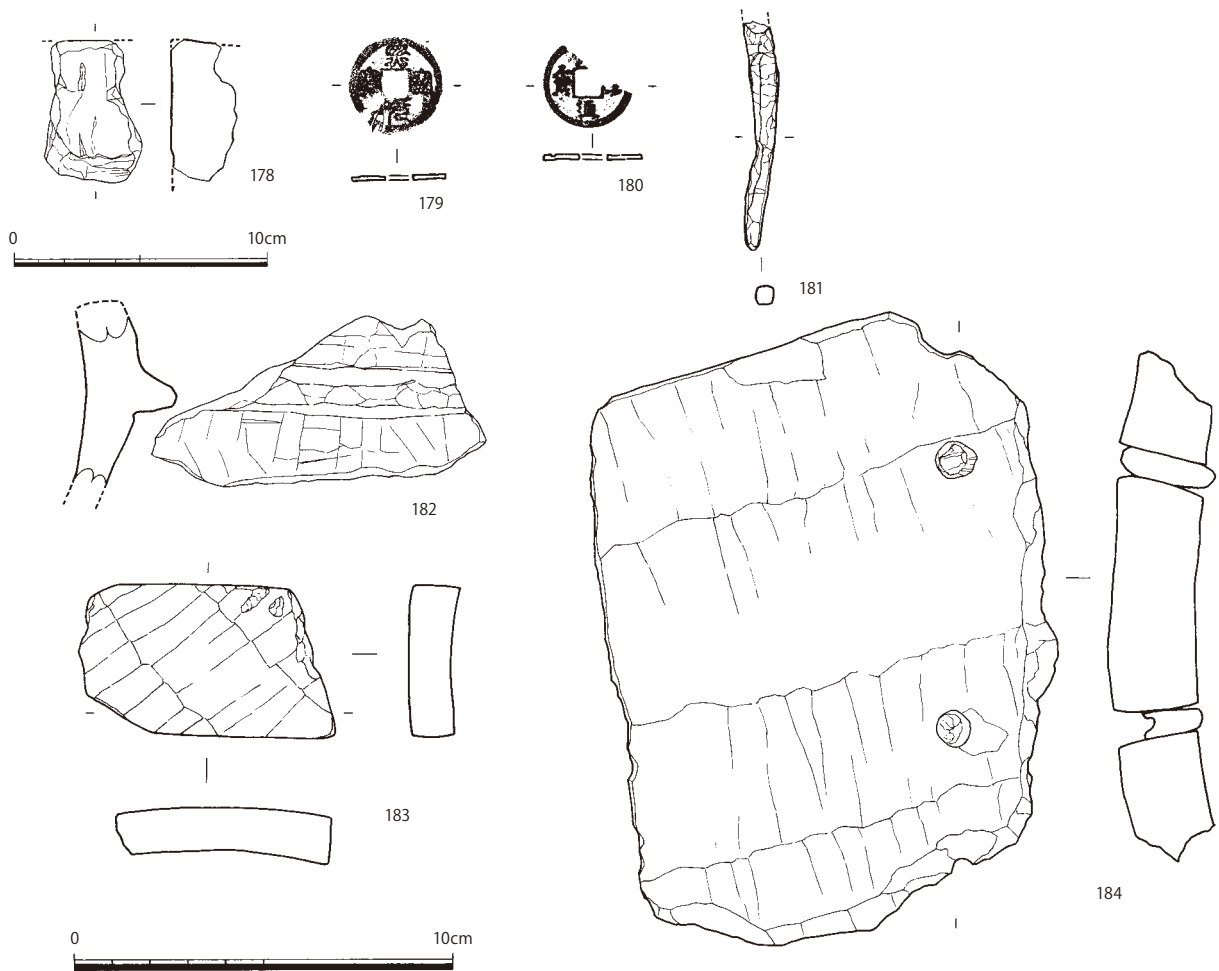


Fig. 46 第35次調査茶褐色土出土遺物実測図⑤ (1/3、金属製品・石製品は1/2)

碗 (161、162) 枢府系。161は内外面に淡乳白色釉を施し、内面にはうっすらと文様が施されている。162は外面に僅かに段を有し、やや水色味を帯びた乳白色釉を施す。

青白磁

合子蓋 (163) 復元口径 8.0 cm。胎土は黄白色で、内面上部に灰白色釉、外面に淡緑灰色釉を施し、外面に施された文様は白くぼんやり浮き出ている。

小壺 (164) 外面に縦押線を細かく付け、内外面に淡く水色がかった透明釉を薄く施す。

龍泉窯系青磁

皿 (165、166) IV類。165は内面に菊花文を施す。色調は光沢のある淡オリーブ灰色を呈する。166は復元高台径 8.2 cm。光沢があるが透明度が低い淡緑灰色釉を施すが、高台内面は釉を拭き取り、赤茶色を呈する。

坏 (167、168) 167はIII-5a類。復元口径 10.0 cm。色調は光沢のある淡オリーブ灰色を呈する。168は内外面に淡緑色釉を施し、高台内面は露胎。外面に蓮弁痕、内面に花卉状のヘラ彫り文がみられる。IV類。

碗 (169～171) 169はII-c類。内面底部に幾何学文様を施す。170は淡オリーブ灰色釉を施す。復元高台径 5.0 cm。IV類。171は口縁端部を緩やかに外反させ、淡緑色釉を薄く施す。IV類。

香炉 (172) IV類。内外面に淡緑色釉を厚く施すが、内面下半は露胎である。

盤 (173) 口縁部近くでやや屈曲させる。内外面とも光沢があって貫入が入る淡黄灰色釉を施す。

高麗青磁

碗 (174) 胎土は灰色で、内外面に白色象嵌を施し、透明釉を施す。

黒釉陶器

天目碗 (175) やや外反した体部は口縁部近くで屈曲し直上する。内外面とも黒茶色釉を施す。

中国陶器

甕 (176、177) 176 はⅡ類。内外面とも暗オリーブ色釉を施すが、口縁部は一部露胎する。177 はⅢ類。色調は暗赤褐色や褐灰色を呈する。

土製品

土壁 (178) 2面に平坦面が残り、その他は欠損する。色調は鈍い橙色を呈する。

金属製品

銭貨 (179、180) 179 は北宋銭で、1068年初鑄の「熙寧元寶」、径 2.5 cm。180 は「□□通寶」、径 2.4 cm。

鉄釘 (181) 断面方形の和釘で、現存長 6.05 cm。

石製品

石鍋 (182) 滑石製。下半より口縁部が肥厚している。

石鍋加工品 (183、184) 滑石製。183 は石鍋を方形にケズリ整形している。大きさは 4.0 × 6.7 cm、厚さ 1.1 cm。184 は大きさ 16.7 × 12.3 cm。2ヶ所に円孔を開け、鉄棒が挿入され錆び付き遺存する。

灰色粗砂出土遺物 (Fig. 47)

土師器

小皿 a (1～6) 復元口径 7.0～8.4 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (7～15) 復元口径 12.1～15.4 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

須恵質土器

鉢 (16) 口縁端部を三角形状に肥厚させる。東播系。

瓦質土器

播鉢 (17) 内面はヨコハケの後播り目を施す。外面はナデで指頭圧痕が残る。

火鉢 (18) 脚付の火鉢で、外面は丁寧なミガキ c で単位不明瞭。色調は灰白色や暗灰色を呈する。

火桶 (19) 胎土は、砂粒は少ないが粗く、淡い灰茶色を呈する。内面は不定方向のナデ、外面は縦方向のミガキを施し、2条の突帯を貼付する。

土師質土器

播鉢 (20) 復元口径 28.0 cm。体部は口縁部に向かって肥厚させる。内面は細かいヨコハケの後播り目を施し、外面上部はヨコハケ、下半は指頭圧痕が残る。

中世国産陶器

甕 (21) 胎土は灰色粒や黒色粒を多く含み粗く暗灰色を呈する。外面タテハケ、底部は未調整。東海系。

白磁

皿 (22) IX-1a 類。口縁端部の釉を拭き取る。復元口径 9.0 cm。

碗 (23) 胎土は淡黄灰色で、内外面に光沢のある淡黄灰色釉を施す。未分類。

合子蓋 (24) 復元口径 7.2 cm。精製された胎土で、外面にハケ状の文様を施し、外面と内面上部に乳白色釉を施す。

龍泉窯系青磁

碗 (25) III-1A 類。釉は光沢のある黄褐色で細かい貫入が入る。高台畳付は釉を拭き取る。

壺 (26) 復元高台径 7.8 cm。外面に蓮弁を施し、淡黄灰色釉を厚く施すが、高台畳付は露胎。Ⅲ類系。

中国陶器

鉢 (27) IV-2 類。復元口径 19.0 cm。胎土は淡紫灰色で、内外面に光沢のあるこげ茶色釉を施す。

灰色粗砂

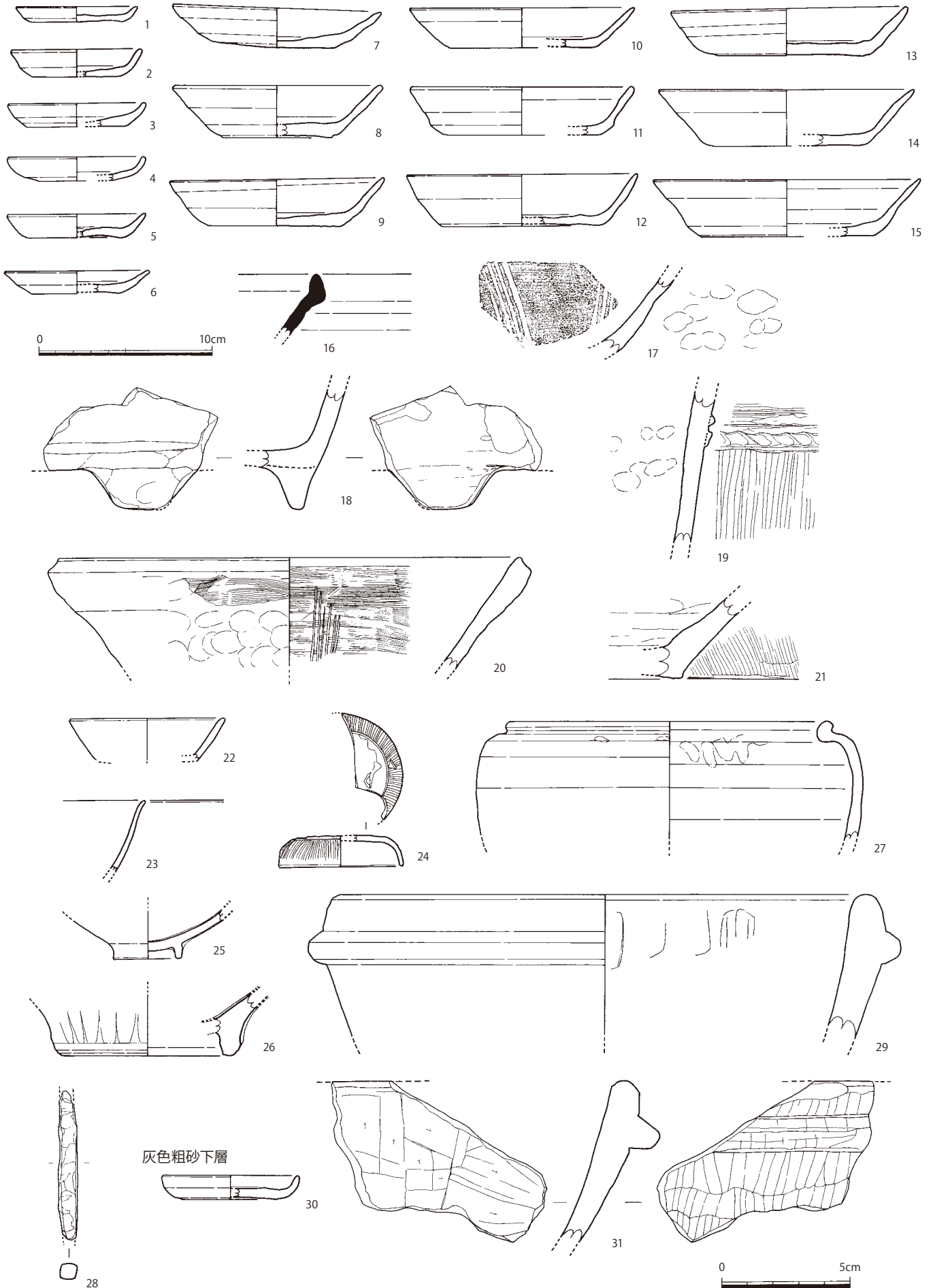


Fig. 47 第35次調査灰色粗砂・灰色粗砂下層出土遺物実測図 (1/3、金属製品・石製品は1/2)

金属製品

鉄釘 (28) 断面方形の和釘。両端部を欠損し、現存長 5.8 cm。

石製品

石鍋 (29) 復元口径 21.1 cm。全体的に摩滅が目立ち、外面の鏝もやや丸味を帯びる。滑石製。

灰色粗砂下層出土遺物 (Fig. 47)

土師器

小皿 a (30) 復元口径 8.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

石製品

石鍋 (31) 内外面にケズリ加工が明瞭に残る。滑石製。

灰色砂出土遺物 (Fig. 48)

瓦器

椀 c (1) 低い断面三角形の高台を貼付する。内面ミガキ c、外面もミガキか。

青白磁

皿 (2) 直線的な体部で、内外面に淡く青味のある釉を施すが、口縁端部は釉を拭き取る。

龍泉窯系青磁

坏 (3) 外面に鎬蓮弁を施し、緑青色釉を施す。IV類。

高麗青磁

椀 (4) 胎土は灰色で、内外面に細かな貫入のある透明釉を施し、内外面に白色象嵌を施す。

整地出土遺物 (Fig. 48)

土師器

小皿 a (8 ~ 17) 復元口径 7.6 ~ 9.2 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

小皿 b (5 ~ 7) 復元口径 6.3 ~ 7.8 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (18 ~ 26) 復元口径 12.6 ~ 15.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

須恵質土器

鉢 (27) 東播系。

甕 (28) 胎土は白色砂粒や黒色粒を含み、色調は灰色を呈する。口縁部は大きく外反させ、内外面は回転ナデ調整。東海系の国産陶器のような形状である。

瓦質土器

火鉢 (29) 内面は回転ナデ、外面は丁寧なミガキで単位不明瞭。色調は黒灰色を呈する。

風炉 (30) 復元口径 27.0 cm。上部は方形の透かしを巡らす。内面は回転ナデ、外面は単位が不明瞭なほど丁寧にミガキを施す。色調は暗黄灰色を呈する。

土師質土器

鍋 (31) 胎土は白色砂粒を多く含み暗黄橙色を呈する。口縁端部は屈曲させ、端部上面には巴文を配する。体部内外面はヨコナデ調整する。

中世国産陶器

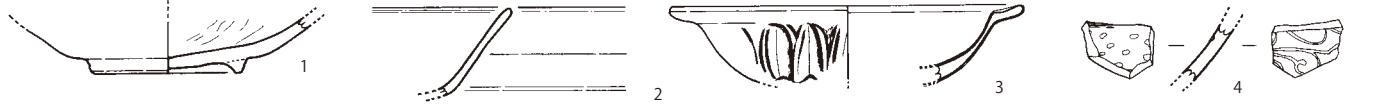
甕 (32) 胎土は白色砂粒を多く含み、暗茶灰色を呈する。口縁端部を折り曲げ、内外面ともヨコナデ調整で、外面は茶褐色釉が施されている。東海系。

白磁

皿 (33, 34) 2点ともIX類で、口縁端部の釉を拭き取っている。33は復元口径 10.8 cm。

椀 (35 ~ 37) 35・36はIX類で口縁端部の釉を拭き取る。35は復元口径 13.4 cm。37は口縁端部を

灰色砂



整地

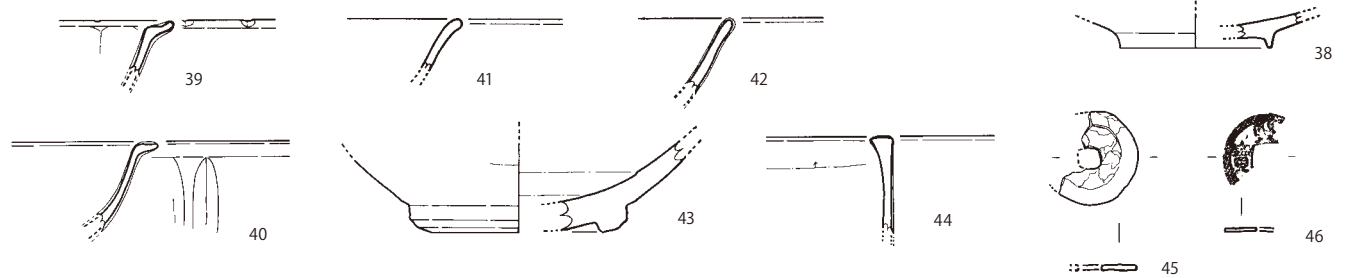
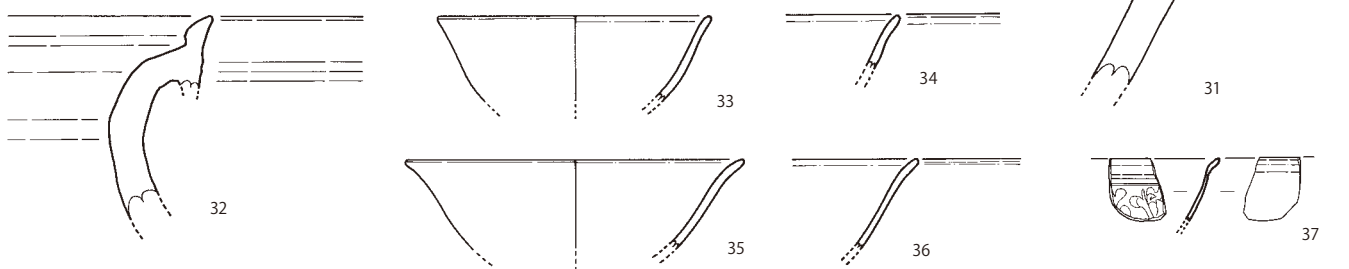
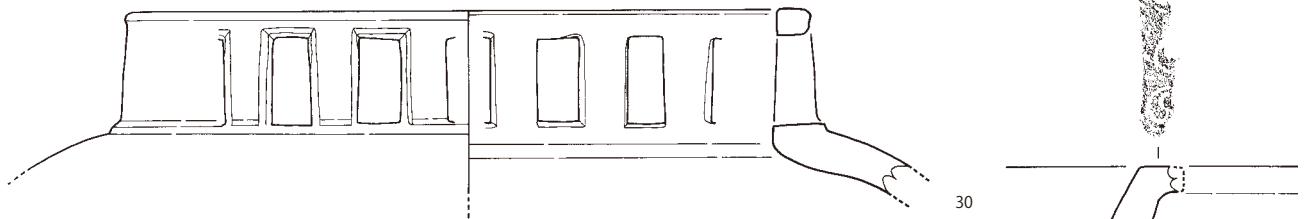
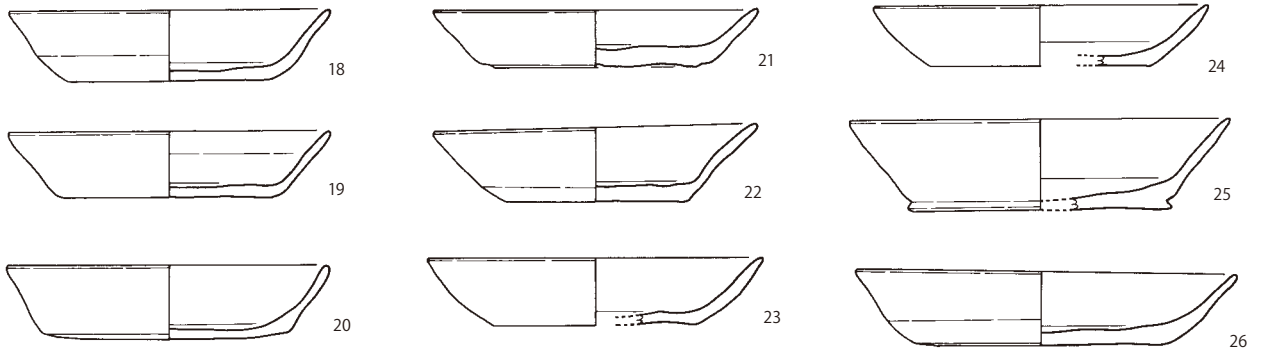
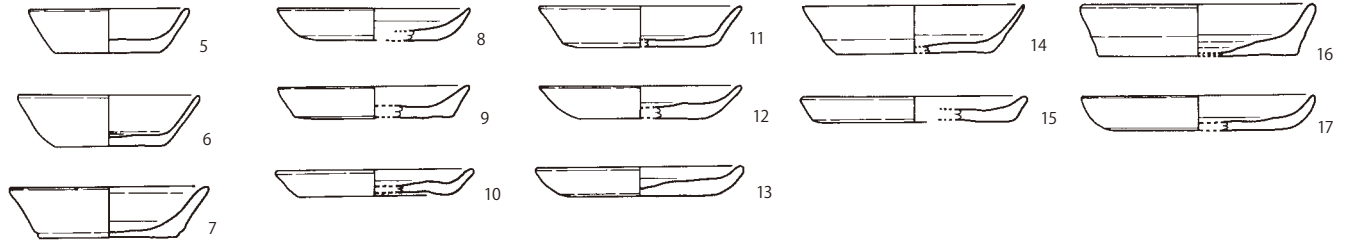


Fig. 48 第35次調査灰色砂・整地出土遺物実測図 (1/3、金属製品は1/2)

僅かに外反させる。内面にはうっすらと文様を施し、内外面に透明釉を施すが、口縁端部は露胎である。枢府系。

青白磁

椀 (38) 水色がかった透明釉を施すが、底部外面は露胎で薄茶色を呈する。復元高台径 6.0 cm。

龍泉窯系青磁

坏 (39、40) 39はⅢ-3b類。内面に花卉を施し、内外面に貫入が大きく入る淡緑灰色釉を厚く施す。40はⅢ-4類。外面は鎬蓮弁を施し、淡緑青色釉を厚く施す。

椀(41～43) Ⅳ類。41は光沢があるが透明度が低い淡緑灰色釉を薄く施す。42は淡緑色釉を厚く施す。43は高台外側を斜めにカットする。内外面に淡緑色釉を施すが、外面下半は露胎。内面底部は輪状に釉を拭き取る。

香炉 (44) 胎土は白灰色を呈し、外面と口縁部内面には光沢のある淡緑青色釉を厚く施す。

金属製品

銭貨 (45、46) 45は径 2.5 cm。文字の判読不能。46は2文字欠損するが「熙□□寶」と読み、北宋銭の「熙寧元寶」か「熙寧重寶」とみられる。

床土出土遺物 (Fig. 49)

須恵質土器

鉢 (1) 復元口径 18.0 cm。内外面とも回転ナデ調整で、外面は灰被りする。

甕 (2) 内外面ともヨコナデ調整だが、外面には叩き痕が僅かに残る。

瓦質土器

火鉢 (3) 内面ヨコハケ、外面はミガキで、巴文と四菱文のスタンプを並べ、沈線で挟んでいる。色調は黒灰色を呈する。

中世国産陶器

甕 (4) 胎土は白色砂粒を含み茶褐灰色を呈し、内外面とも工具によるナデ調整。底部外面は未調整。復元底径 18.4 cm。東海系。

播鉢 (5) 胎土は白色砂粒を含み、暗灰色を呈する。内外面ともヨコナデ調整で、内面に播り目を施す。

白磁

皿 (6、7) 6は基筒底で、内外面に光沢のある水色がかった透明釉を薄く施すが、底部外面は露胎。7は全面施釉するが、口縁端部は釉を拭き取る。Ⅸ-1c類。復元口径 10.8 cm。

椀もしくは皿 (8) Ⅸ類か。内外面に光沢のある水色がかった透明釉を薄く施し、底部外面は露胎。

椀 (9) 口縁部を僅かに曲げる。内外面に淡い黄緑色釉を薄く施す。

青白磁

皿 (10) 内外面に水色がかった透明釉を薄く施し、高台畳付と内面は露胎。復元高台径 6.2 cm。

龍泉窯系青磁

坏 (11) Ⅲ類。内面に花卉を作り、淡青緑色釉を厚く施す。

椀 (12、13) Ⅳ類。12は内外面とも沈線を巡らし、淡緑青色釉を薄く施す。

盤 (14) Ⅳ類。緑黄色釉を薄く施す。

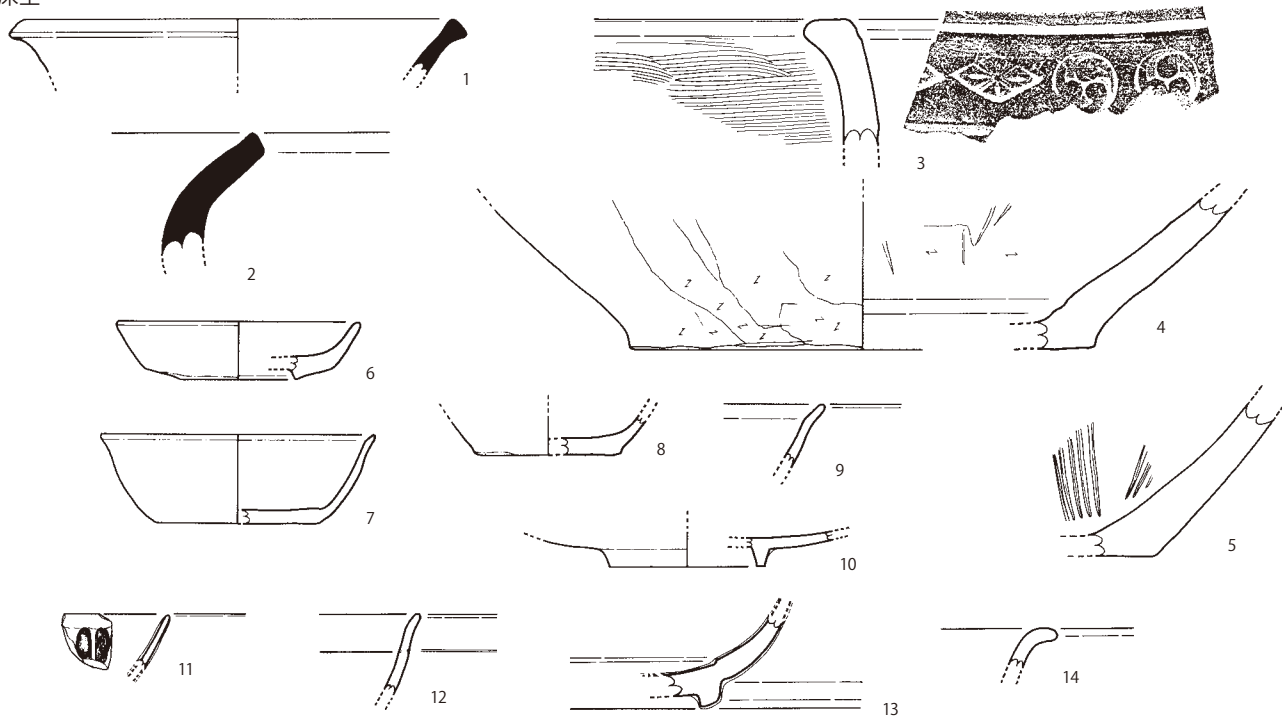
表土出土遺物 (Fig. 49)

瓦質土器

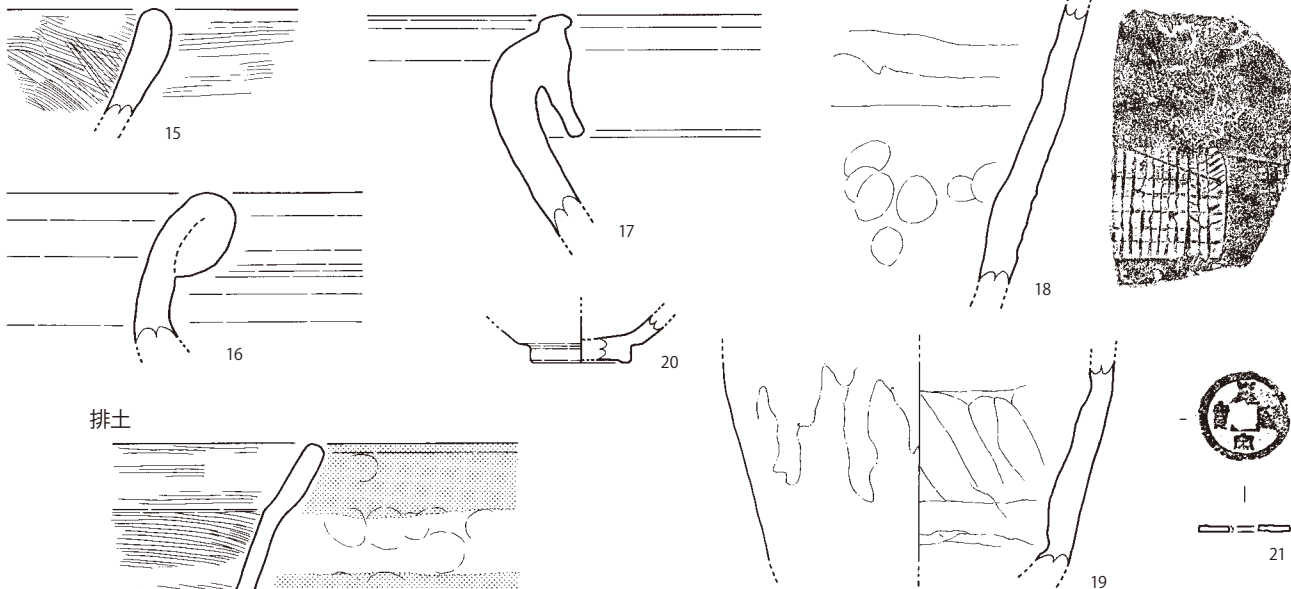
鉢 (15) 内外面ともハケ調整。色調は褐灰色を呈する。

中世国産陶器

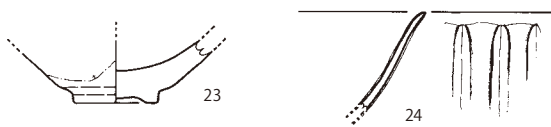
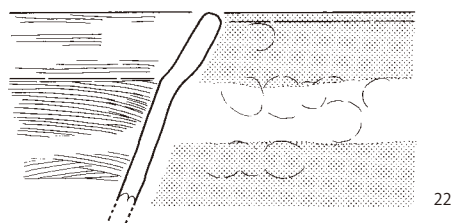
床土



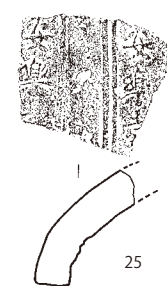
表土



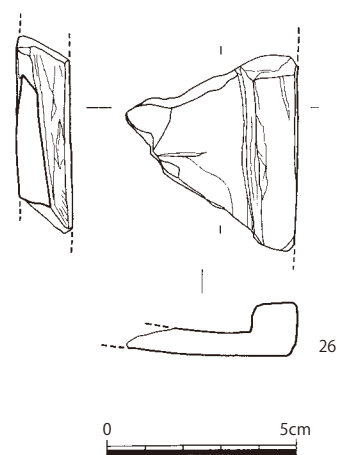
排土



表採



出土地不詳



0 10cm

0 10cm

0 5cm

Fig. 49 床土・表土・排土・表採出土遺物実測図 (1/3、瓦は1/4、石製品は1/2)

甕 (16～18) 16は0.1 cm以下の白色砂粒を少量含み淡灰色を呈し、内面は赤褐色、外面は灰褐色や鈍い赤褐色を呈する。備前系。17は口縁部を大きく折り曲げ、内外面ともヨコナデ調整で、胎土は白色砂粒を少量含み暗赤褐色を呈する。東海系。18は胎土に0.4 cm以下の白色砂粒を含み、鈍い橙褐色を呈する。内外面とも工具によるナデ調整で、外面には押印文を施す。東海系。

瓶(19) 微細な白色砂粒を少量含み、淡灰黄色を呈する。外面は細かい貫入が入る淡緑灰色釉を施し、釉垂れがみられる。内面は露胎でナデ調整する。瀬戸産。

黒釉陶器

天目椀 (20) 復元高台径 4.0 cm。胎土は淡灰色で、外面下半は回転ヘラケズリで、内面には黒色釉や黄褐色釉を施す。

金属製品

銭貨 (21) 1038年初鑄の北宋銭「皇宋通寶」。径 2.4 cm。

排土出土遺物 (Fig. 49)

土師質土器

鍋 (22) 体部上部を僅かに屈曲させる。内面ヨコハケ、外面はナデ調整で全面にうっすら煤が付着する。

黒釉陶器

天目椀 (23) 胎土は黄灰色で、内外面に光沢のある黒色釉を施すが、外面下半は露胎である。

龍泉窯系青磁

椀 (24) III-2C類。外面は細長い蓮弁で、内外面に不鮮明な緑色釉を厚く施す。

表採遺物 (Fig. 49)

瓦類

丸瓦 (25) 「安楽寺」の文字瓦。

出土地不詳遺物 (Fig. 49)

石製品

硯 (26) 上面は縁を作り出し研磨している。下面は石鍋制作時のケズリ痕が残る。石鍋を再利用したものである。滑石製。

その他の出土遺物 (Fig. 50)

須恵器

坏 b (1) 体部は回転ナデで水挽き成形されたものか。底部切り離し回転糸切りで板状圧痕を残す。胎土は精製され暗黄色を呈する。茶色砂より出土。

鉢 (2) 復元底径 9.0 cm。外面底部は回転糸切り。篠窯。赤褐色土より出土。

盤 c (3) 体部下半の内外面ともヘラケズリで、その他は回転ナデ調整。焼成は良好で、色調は青灰色を呈する。灰褐色土より出土。

土師器

坏 a (4) 復元口径 13.4 cm。底部切り離しは回転糸切り。体部は中位から大きく外反する。SX024より出土。

中世国産陶器

甕 (5) 口縁部を僅かに肥厚させ、内外面ともヨコナデ調整で、暗赤茶色の自然釉が薄くみられる。備前系。SX056より出土。

緑釉陶器

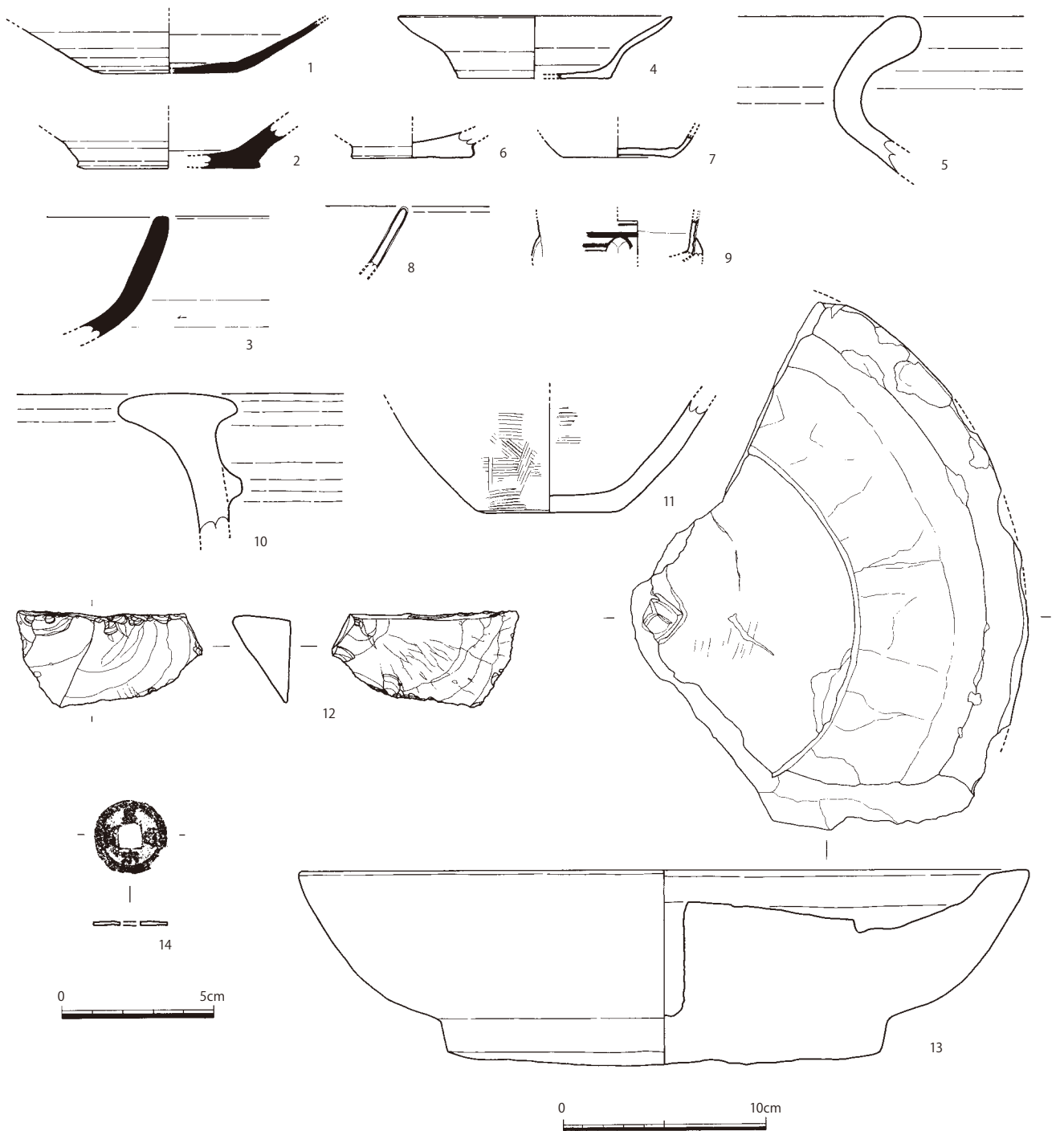


Fig. 50 第35次調査その他の出土遺物実測図 (1/3、金属製品・石製品は1/2)

椀もしくは皿 (6) 胎土は淡橙黄色の土師質。剥落が目立つが淡い黄緑色釉を薄く施す。円盤高台で復元高台径 6.0 cm。茶色砂より出土。

白磁

皿 (7) IX-1a 類。外面底部は釉を拭き取る。SX031 より出土。

龍泉窯系青磁

椀 (8) IV 類。柔らかな光沢のある緑青色釉を厚く施す。SX019 より出土。

香炉 (9) IV 類。底部付近で脚部は欠損する。外面は圈線を描き、外面と内面上部には淡緑灰色釉を施す。SX031 より出土。

弥生土器

甕 (10、11) 10 は全体的に摩滅する。口縁部は T 字形に作り、口縁直下に断面台形の突帯を巡らす。床土より出土。11 は内外面ともハケ調整するが内面は摩滅が目立つ。色調は淡橙黄色を呈する。復元底径 7.2 cm。黒褐色土より出土。

石製品

剥片 (12) 大きさは 3.15 × 6.1 cm、厚さ 1.9 cm。一部二次加工が見られる。安山岩製。排土より出土。

石臼 (13) 復元口径 35.8 cm、器高 9.6 cm。外面は粗い削りでノミ加工痕も残る。内面は部分的に平滑となる。中央に方形孔を彫る。凝灰岩製。SX056 より出土。

金属製品

銭貨 (14) 1038 年初鑄の北宋銭「皇宋通寶」。SX031 より出土。

(5) 第 35・322 次調査出土獣骨の同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

ここでは今回報告の第 35 次調査のほか、2018 年に報告している第 322 次調査 (第 134 集) の分析結果も合わせて報告する。

1. 試料

試料は、第 35 次調査 (黒褐色土 整地)、第 322 次調査 (S-90、S-99) より出土した骨で、試料は土ごとに取り上げられた状態にある。

2. 分析方法

試料を肉眼で観察し、形態的特徴から種・部位を現生標本との対比によって同定を行った。骨体表面に残された解体に伴って生じたカットマークの有無、焼骨等を観察し、記録する。

3. 結果

検出された種類は、哺乳綱 3 種類 (イルカ類・ウシ・ウシ/ウマ) である (表 1)。なお、計測結果は結果表に掲載している。以下、種類ごとに示す。

a.) 哺乳類

・イルカ類

イルカ類は寒帯から亜熱帯の外洋から沿岸の海水域に棲息するが、内湾や大きな河川の汽水域などを行き来し、淡水域に棲息する種類もいる。通常は水深 1m 程度を遊泳するが水深 200m 以上までに潜る種類もいる。

第 35 次調査の黒褐色土 (整地) よりイルカ類の椎骨椎体が、イルカ類? の環椎半形が検出された (表 2)。

・ウシ

ウシは市中で役畜として使役される。その利用は運搬、農耕であり、役畜としての役目を終えると解体され食用にされる他に皮革製品や骨角器などに利用される。

第 322 次調査 S-90 から下顎骨歯槽部、上顎歯破片が検出された (表 2)。

・ウシ/ウマ

ウシおよびウマは市中で役畜として使役される。その利用は軍事、運搬、農耕であり、役畜としての役目を終えると解体され食用にされる他に皮革製品や骨角器などに利用される。

第 322 次調査 S-99 より遊離歯破片が検出された (表 2)。

4. まとめ

検出された哺乳類はウシなどの役畜の歯、イルカ類の椎骨およびイルカ類? の環椎であった。ウシは歯のみの出土であり、いずれの動物も歯が堆積中に分解されにくいため歯のみが残存したと考えられる。

表 1 検出分類群の一覧

脊椎動物門	Phylum Vertebrata
哺乳綱	Class Mammalia
奇蹄目	Order Perissodactyla
ウマ科	Family Equidae
ウマ	Equus caballus
鯨偶蹄目	Order Cetartiodactyla
クジラ目	Family Cetacea
イルカ類	Odontoceti fam. indet.
ウシ科	Family Bovidae
ウシ	Bos taurus
ウシ/ウマ	Bos taurus / Equus caballus

また役畜としての役目を終えたものが皮革や骨角器に利用されるために解体され、不要な頭部を廃棄したその残滓の可能性も考えられる。

イルカ類は古くは能登半島の真脇遺跡のイルカ類が有名だが、日本各地で出土しており、中世の段階で玄界灘ではイルカ類やや小型のクジラ類の捕獲が既に活発化していた出土資料から判明している。本遺跡近隣では博多湾や福岡県沿岸に来遊するイルカ・クジラ類の漁が行われていたようである。なお、福岡市の博多遺跡では11世紀以降、多くのイルカ・クジラ類の出土が多く見られ、博多湾で漁獲されたイルカ類が流通によって本遺跡にもたらされた可能性が考えられる。なお、イルカ類は食用となる他に、肋骨が骨角器に、脂が鯨油として漆喰などに利用されるなど有用である。

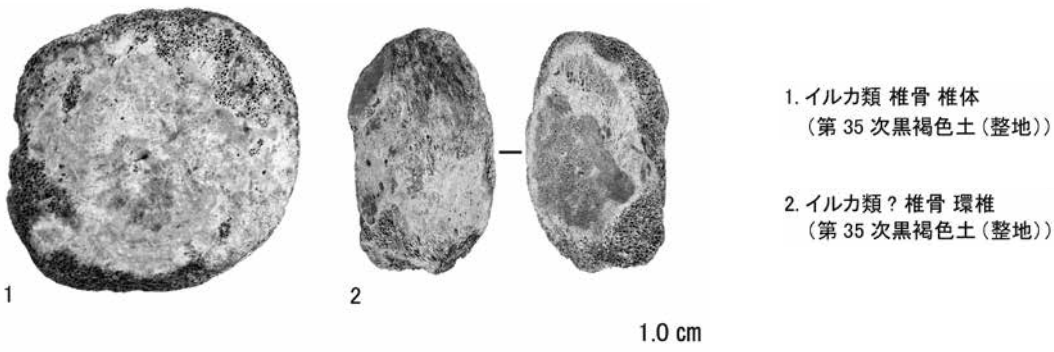
参考文献

富岡直人・屋山洋・松井章・丸山真史, 2011 「動物考古学からみた博多と動物の歴史」『福岡市史 資料編考古3 遺物からみた福岡の歴史』福岡市, p. 221-295.

表 2 哺乳類科属性表

No.	調査回数	出土位置	種類	部位	部分	状態等	左	右	数量	備考	性別	スパイラル状	CM	かじり痕	焼骨
1	第35次	FG35-37 黒褐色土(整地)	イルカ類	椎骨	椎体	略完			1						
2	第35次	FG35-37 黒褐色土(整地)	イルカ類?	椎骨	環椎	半形		右	1						
3	第322次	B5 S-90	ウシ	上顎歯	M3	破片	左		1						
4	第322次	B4 S-99	ウシ/ウマ	遊離歯	破片	破片			1						

写真 1 動物遺存体



(6) 小結

○奈良・平安期

奈良・平安期の条坊についてであるが、調査地中央付近を井上条坊案の5条路と9坊路が通るはずであるが、整地下の遺構については、ほとんど未調査のまま終わっているため、不明と言わざるを得ない。

○中世

調査された遺構は、ほぼ14世紀代のもので、出土遺物は、龍泉窯系青磁などの陶磁器や北宋銭など日宋貿易でもたらされた輸入品はもちろんだが、常滑など東海産の国産無釉陶器が数多く出土したほか京都産の土師器坏も出土するなど、古代大宰府と同様に国内外の品々の流通が活発であったことを物語っている。

今回の調査の中心的な遺構として、2棟の建物とそれを囲むように確認されたL字形の築地状遺構と溝や落ち込みが巡り、中世に全国でみられる土塁や堀に囲まれたいわゆる中世館跡と同様の状況を示し

ている。復元される館の規模であるが、調査地北側に現在県道 76 号線が東西に通っているが、これは条坊の 4 条路を踏襲し、近世後期の絵図にも描かれ、現在まで利用し続けられた道路である。発掘調査は行われておらず、明確な道路位置や道幅は不明であるが、この道路を館の北限と考えるならば、南北約 100m となる。東西については、東側に御笠川が流れ、第 11-2 次調査の調査区東端で遺構が希薄になり、御笠川の氾濫原となっており、築地や溝など確認できていないものの、この氾濫原付近に田圃の畦畔が南北に残り、条坊の 10 坊路が推定されていることから、この付近が東限と想定もできる。その場合、東西も約 100m となり、館は 100m の正方形で、周囲に溝が巡ると考えると、その規模は方一町であったと推測される。この方一町の内部がさらに細分されていた可能性はあるが、当時の館としては必ずしも大きいものではないため、露切地区の館跡は方一町が妥当ではないかと考える。よって、今回確認した建物は館の西側に寄った場所であり、主屋は館中心部に当たる調査区外北東部付近に、第 309 次調査で井戸が確認された東側に、厨が配されていたものと想定される。また、瓦の出土量が少ない状況から、館の屋根は全体的に板葺や草葺であったと推測される。

この館の存続時期であるが、SA001 の築地中に含まれている遺物が 13 世紀前半のものであったことから、嘉禄 (1226) 年大幸少弐に任命された武藤資頼が赴任した際に築造した可能性が考えられる。その後、14 世紀前半頃の土坑 (SK002・SX008) が、掘立柱建物 (SB010) や築地 (SA001) に切り込んで掘られ、その後目立った遺構が確認されていないことから、14 世紀前半頃には館としての機能は失われたものと推測される。

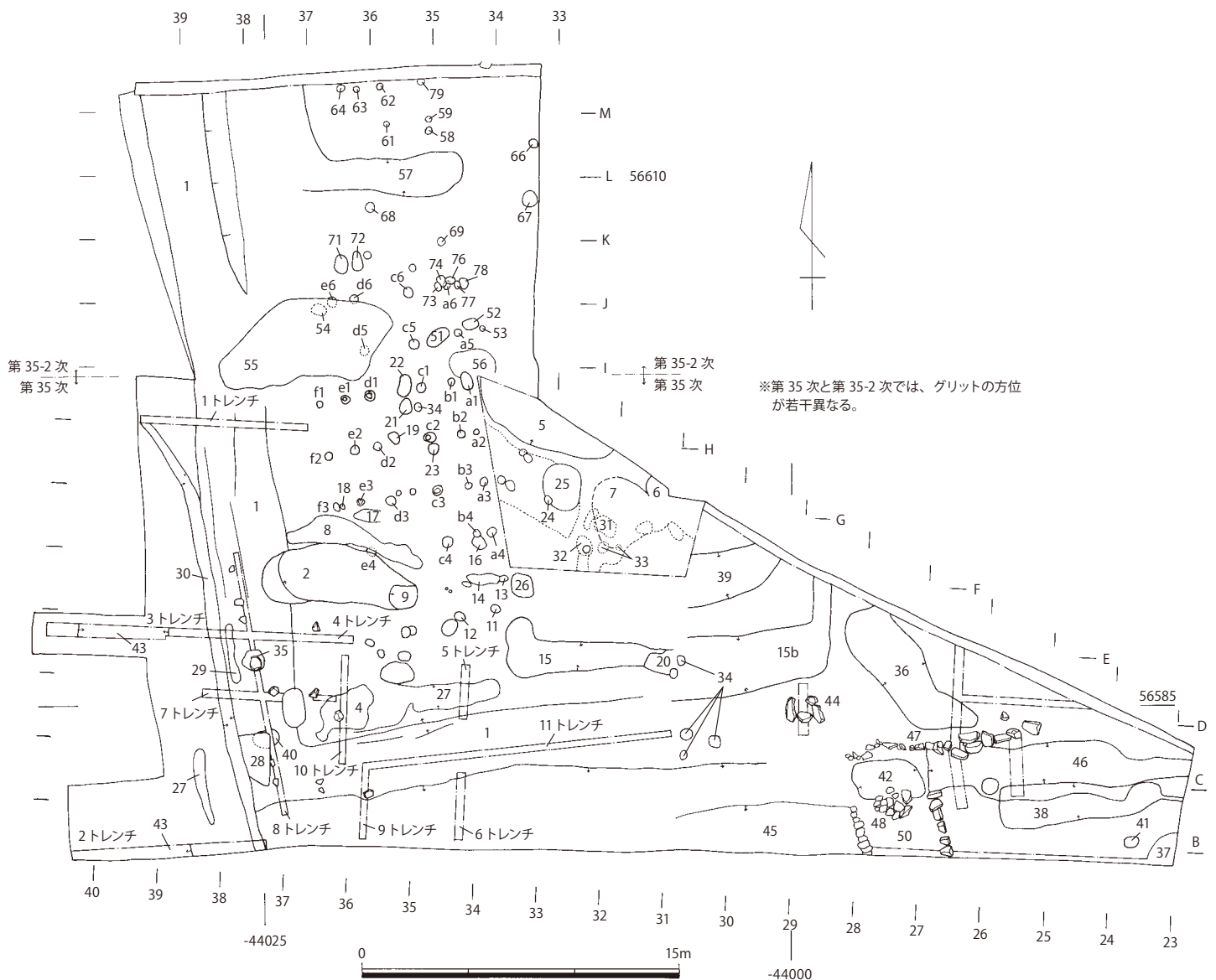


Fig. 51 第 35 次調査遺構略測図 (1/300)

表3 第35次調査 遺構一覧表

S-番号	遺構番号	種別	埋土等	時期	地区
1	35SA001	築地状遺構		13世紀前半	BC29～38 C～M.37～39
2	35SK002	土坑	S-10→2 S-1→2	14世紀前半前後	E35～37
3		窪み	整地上の窪み	14世紀	?
4	35SX004	礫群		13世紀～	C35・36
5	35SK005	土坑		15世紀?	H32・33
6		土坑	S-7→6	13世紀～	G31
7	35SX007	窪み		13世紀～	FG.31・32
8	35SX008	溝・礫群	礫が入る	14世紀	F35・36
9		ピット	S-2→9?	14世紀	E35
10	35SB010	掘立柱建物		14世紀前半前後	G35
11		ピット			E33
12		ピット			E34
13		ピット			E33
14		礫群			E34
15	35SX015	窪み	整地の一部	14世紀前半～中頃	DE.28～33
15b	35SX015	窪み	S-15の東側。整地の一部	14世紀前半～中頃	DE.28～30
16		ピット	S-16→S-10-b4		F34
17		窪み			F35
18		ピット			F36
19		ピット			G35
20	35SX020	土坑・礫群	礫入り	14世紀	D31
21		ピット			H35
22		ピット			H35
23		ピット			G34
24		ピット	S-25→24	14世紀～	G33
25	35SK025	土坑		14世紀前半～中頃	G32
26		ピット			E33
27	35SX027	窪み・礫群		14世紀前半～中頃	CD.33～35
28		窪み	S-28→30	14世紀～	B37
29		溝			D37.38
30	35SD030	溝		14世紀～	D37～39
31		窪み	黒褐色土	14世紀～	F32
32		窪み	黒褐色土	13世紀～	F32
33		ピット群	黒褐色土	13世紀～	F32
34		ピット群		13世紀～	C.D30
34		ピット			H35
35	35SB035	門礎石		14世紀?	D37
36	35SX036	窪み	茶色砂	14世紀	C～E26
37		ピット	茶色砂	14世紀～	AB23
38	35SX038	窪み	茶色砂	13世紀～近世	B23～25
39	35SX039	窪み	茶色砂	13世紀～	EF.29・30
40	35SB035	門礎石抜き穴	S-40→28	14世紀?	C37
41		ピット	茶色砂		B23
42	35SX042	窪み		13世紀～	B.C27
43	35SD043	溝(堀?)		14世紀	38・39ライン
44	35SX044	石列と礫群			CD28・29
45	35SX045	落ち込み		14世紀中頃	AB28～30
46	35SX046	礫群	S-46→38	14世紀中頃	C23～26
47	35SX047	石列			C26・27
48	35SX048	礫群			B27
50	35SX050	石積・通路	平行する石積間は通路か。	14世紀～	AB26.27
51		土坑			I34
52		ピット			I34

S-番号	遺構番号	種 別	埋 土 等	時 期	地 区
53		ピット			I34
54		ピット	S-54→55		I36
55	35SK055	土坑、攪乱?	S-10→55	15世紀～	I36・37他
56		窪み			I34
57	35SD057	溝	SB070の周溝か?	14世紀	L34～37
58		ピット			L35
59		ピット			L35
61		ピット			L35
62	35SB070	ピット			M35
63		ピット			M36
64	35SB070	ピット			M36
66		ピット			L33
67		ピット			K33
68		ピット			K36
69		ピット		13世紀～	J34
70	35SB070	掘立柱建物	S-62・64・79	14世紀	M34～36
71		ピット			J36
72		ピット			J36
73		ピット		13世紀～	J34
74		ピット	S-10a-6→74	14世紀	J34
76		ピット			J34
77		ピット	礫いっぱい		J34
78		ピット	礫いっぱい		J34
79	35SB070	ピット			M35
灰褐色土		遺構直上土層		14世紀～近世後期	
茶色砂		遺構直上土層		14世紀前半	
整地上		遺構検出面?		14世紀	
暗褐色土			黒褐色土の上層	14世紀	
側溝 暗褐色土			第35-2次調査		北端トレンチ
黒褐色土		遺構基盤整地層		14世紀中頃～	
整地(黒褐色土)				14世紀	
赤褐色土		遺構基盤整地層	S-1外側の整地	14世紀中頃	
側溝 赤褐色土			第35-2次調査		北端トレンチ
茶灰色土		整地層		14世紀中頃	
灰色砂礫		整地層		14世紀～	
茶褐色土		遺構直上層	S-50直上	14世紀中頃～	
灰色粗砂		基盤層	S-50付近	14世紀	
灰色粗砂下層		基盤層	S-50付近		
側溝 灰色砂		整地層	赤褐色土下層?	14世紀	
側溝		トレンチ			
黄色整地		S-43の埋土			
黄色土 トレンチ2		S-43の埋土		14世紀	
茶褐色砂 トレンチ2		S-43の埋土		14世紀	
青灰色土		S-45上層		14世紀中頃	
赤灰色土		S-45下層		14世紀中頃	
淡灰色砂		S-45下層		14世紀中頃	
灰白色砂		S-50 ?			
側溝 灰白色砂		S-50 ?			

表4 第35次調査 出土遺物一覧表

S-1 積土中	
須恵器	破片
土師器	甕、破片
肥前系磁器	破片
白磁	広東系(1)
同安窯系青磁	I-1b(1)
S-1 茶灰色土	
須恵器	破片
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)、丸底坏
土師質土器	火鉢、破片
瓦質土器	鉢
白磁	椀：Ⅳ(1)、Ⅴ-2(1)、Ⅴ-3(1)、破片(1)
中国陶器	盤(1)、盤Ⅱ(1)、B群壺(1)、C群(1)
S-2	
須恵器	坏c、破片
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)
瓦質土器	椀c
中世国産陶器	甕(東海、常滑)、甕
国産陶器?	椀、甕
白磁	椀：Ⅳ(2)、Ⅳ-1a(1)、Ⅴ(2)、Ⅴ-4×Ⅷ-1×3(2) 広東系(1)、破片(2) 皿：Ⅴ~Ⅶ(1)、Ⅸ-1(1) 耳壺(2)、破片(3)
青白磁	壺(1)、破片(1)
越州窯系青磁	破片(1)
龍泉窯系青磁	椀：Ⅰ(1)、Ⅰ-2(1)、Ⅱ-b(5)、Ⅲ(1)、Ⅳ(1)、Ⅳ?(1) 坏：Ⅲ-3(1)、Ⅲ-3a(1) 龍泉破片：Ⅰ(1)、Ⅲ(2) 龍泉破片?(1)
同安窯系青磁	椀：Ⅰ(1)、Ⅰ-1b(2) 皿：Ⅰ-2(1)
中国陶器	甕(4)、耳壺(1)、盤Ⅰ-2(1)、A1群(1)、A2群(1) B群(5)、C群(1)
高麗青磁?	椀(1)
銭貨	「景德元寶」「大觀通寶」「寧□□」
S-3	
土師器	坏a(イト)、破片
瓦質土器	破片
瓦質土器	鉢
中世国産陶器	甕(東海)、甕
白磁	椀：Ⅷ(1)、破片(1) 皿：Ⅵ-1a(1) 椀(1)
龍泉窯系青磁	坏：Ⅲ-3a(1)
同安窯系青磁	椀：Ⅰ-1b(1)
中国陶器	甕(2)、C群(1)
瓦類	破片
S-4	
須恵器	破片
土師器	坏、小皿a(イト)
瓦質土器	破片
瓦質土器	破片
中世国産陶器	甕
青白磁	口禿破片(1)
龍泉窯系青磁	椀：Ⅱ-b(1)
同安窯系青磁	椀：Ⅰ(1)
中国陶器	甕(1)
S-5	
須恵器	破片
土師器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、坏a(イト)
瓦質土器	鉢、風炉
中世国産陶器	甕(東海)、破片(備前?)
近世磁器	破片
白磁	椀：Ⅳ(1)、Ⅴ(2)、Ⅴ-2a(1)、Ⅶ(1)、椀(1)、破片(2) 皿：Ⅵ(1)、Ⅵ-1b(1) 椀×皿：Ⅸ(2) 外反口縁(1)、外面櫛目(1)、屈折口縁(1)、 耳壺Ⅲ(1)、壺(1)
龍泉窯系青磁	椀：Ⅰ(2)、Ⅰ-2(1)、Ⅱ-a(1)、Ⅱ-b(1)、Ⅲ-2C(1)、Ⅳ?(1) 坏：Ⅲ-3(1)
同安窯系青磁	椀：Ⅰ-1b(1) 皿：Ⅰ(1)
高麗青磁	椀：Ⅰ(1)
中国陶器	甕(3)、耳壺Ⅴ(1)、盤×鉢(1)、A1群(1)、A2群(1)、 B群(2)、C群(3)
黒釉陶器	破片(1)
瓦類	丸瓦?、破片
金属製品	鉄釘
石製品	砥石
S-6	
土師器	小皿a(イト)、坏a、甕、破片
土師質土器	鉢
中世国産陶器	破片
白磁	椀：Ⅴ(1)
同安窯系青磁	椀：Ⅰ-1b(1)
瓦類	破片
金属製品	鋳滓

S-7	
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)
瓦質土器	椀
瓦質土器	火鉢
中世国産陶器	甕(東海)
白磁	椀：Ⅳ(1) 皿：Ⅱ-1(1) 白磁破片：外反口縁(1)、破片(1)
龍泉窯系青磁	椀：Ⅰ-2(1) 龍泉破片Ⅲ(1)
中国陶器	盤Ⅰ-2(1) B群(1) C群(2)
金属製品	鉄釘
土製品	土壁
石製品	石鍋
S-8	
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)、椀c
瓦質土器	插鉢
中世国産陶器	甕(東海、常滑)、壺? (瀬戸?)
白磁	白磁破片Ⅸ(1)
青白磁	皿(1)
龍泉窯系青磁	椀：Ⅱ-b(2)、Ⅳ(1) 小椀：Ⅲ-2C(1) 皿：Ⅳ(1) 龍泉破片Ⅲ×Ⅳ(1)
同安窯系青磁	椀：Ⅰ-1b(1)
中国陶器	B群(3)
金属製品	鉄釘
S-9	
土師器	坏a(イト)、坏b、破片
瓦質土器	破片
中世国産陶器	甕(東海)
白磁	椀：Ⅳ(2) 皿：Ⅲ(1)、Ⅴ-1(1)
龍泉窯系青磁	東口椀Ⅱ-b(1)
中国陶器	盤Ⅰ-1b(1)、A1群(1)
S-10	
須恵器	破片
中世国産陶器	甕
中国陶器	壺A2群(1)
S-10.a1	
土師器	坏a(イト)
S-10.a2	
土師器	坏c、破片(イト)
龍泉窯系青磁	椀：Ⅱ-b(1)
S-10.a3	
土師器	小皿b(イト)、坏a(イト)、坏
土師質土器	鍋×鉢
中世国産陶器	甕
中国陶器	B群壺(1)
金属製品	鉄釘
S-10.a4	
土師器	小皿b(イト)、坏a(イト)
S-10.a5	
土師器	坏
S-10.a6	
土師器	破片(イト)
S-10.b1	
土師器	坏a(イト)
S-10.b2	
土師器	破片
S-10.b3	
土師器	坏a(イト)
S-10.b4	
須恵器	甕
土師器	坏a(イト)、小皿b(イト)、破片
中世国産陶器	破片
瓦類	破片
S-10.c1	
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)、破片(イト)
中世国産陶器	甕(東海)、破片
青白磁	瓶(1)
龍泉窯系青磁	椀：Ⅲ-2C(1)
中国陶器	A2群(1)
S-10.c2	
土師器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、坏a(イト)
中国陶器	甕(1)

S-10.c3

須惠器	破片
土師器	小皿a、坏a(イト)
瓦質土器	椀c
青白磁	椀(1)
龍泉窯系青磁	椀：II-b(1)
土製品	土塊

S-10.c5

土師器	坏a(イト)
-----	--------

S-10.d1

土師器	坏a(イト)、坏
須惠質土器	甕?
中世国産陶器	甕

S-10.d2

土師器	坏a(イト)
-----	--------

S-10.d3

土師器	小皿b(イト)、坏a(イト)、坏
中世国産陶器	破片
白磁	壺(1)
龍泉窯系青磁	盤IV(1)
中国陶器	甕(1)
土製品	土塊

S-10.d5

土師器	坏(イト)
-----	-------

S-10.d1.2、f1.2.3

土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)
中世国産陶器	甕

S-10.e1

土師器	坏、甕?、破片(イト)
白磁	皿：VI-1a(1)
中国陶器	盤?(1)

S-10.e2

須惠器	破片
土師器	小皿a(イト)、坏、破片(イト)
瓦質土器	破片
瓦質土器	火鉢
中世国産陶器	破片
白磁	破片IX(1)
中国陶器	C群(1)

S-10.e3

土師器	坏a(イト)、破片(イト)
瓦質土器	鉢
中世国産陶器	甕(常滑)、甕
白磁	破片(1)
中国陶器	甕(1)
金属製品	鋳滓

S-10.e4

土師器	小皿a、坏
瓦質土器	破片

S-10.e6

土師器	坏a(イト)
土師質土器	破片

S-10.f1

土師器	破片(イト)
中世国産陶器	甕?
白磁	破片(1)

S-10.f2

土師器	坏a(イト)、坏
-----	----------

S-10.f3

土師器	坏a(イト)
瓦質土器	椀
須惠質土器	甕?
瓦質土器	破片
土製品	土壁

S-10.a1.a3.b2.c2.c4

土師器	坏a(イト)、供膳具
須惠質土器	鉢
瓦質土器	鉢
中世国産陶器	破片

S-10.d12.f1.f2.f3

土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)
中世国産陶器	甕

S-11

白磁	椀：内面櫛目(1)
中国陶器	B群(1)

S-12

土師器	坏a(イト)
-----	--------

S-13

土師器	破片
-----	----

S-14

土師器	小皿a(イト)
-----	---------

S-15

土師器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、坏a(イト)
瓦質土器	破片
中世国産陶器	甕(常滑、備前?)、破片
白磁	椀：IV(1)、破片(1) 破片直口縁(1)
龍泉窯系青磁	椀：II-b(1)、II-c(1)、III(1)、III-2C(1) 小椀：I-1(1) 龍泉破片(1)
同安窯系青磁	皿：I(1)、I-2b(1)
中国陶器	甕(1)、B群(1)
瓦質土器	磚×平瓦、破片
金属製品	鋳滓

S-15b

須惠器	破片
土師器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、小皿c、坏a(イト)、椀c
瓦質土器	破片
土師質土器	風炉、破片
瓦質土器	鉢
中世国産陶器	甕(東海、備前)、深皿(瀬戸)、挿鉢
国産陶器	破片
白磁	椀：V-2(1)、IV-1a(1)、IV(3)、V-1×VIII-2(1)、 柘府(1)、直口縁(1)、破片(5) 皿：IX-2(1) 白磁破片(4)、広東系(1)、壺(2)
青白磁	椀(1)
龍泉窯系青磁	椀：I(3)、I-1(1)、I-1a(1)、I-2(1)、I-2×3(1)、 II-a(1)、II-b(3)、III-2C(2) 坏：III-3C(1) 皿：I-2c(1)
同安窯系青磁	皿：I(1)
黒釉陶器	天目椀(1)
中国陶器	甕(9)、鉢(1)、鉢I(1)、A群壺(1)、B群壺(1)、壺IV(1)、 盤I-1b(1)、盤II-1(1)、A2群(1)、B群(1)、C群(3)
瓦質土器	破片
金属製品	鉄釘
土製品	土壁
石製品	滑石加工品、用途不明品

S-16

土師器	破片(イト)
中国陶器	A2群(1)

S-17

土師器	坏a(イト)
中世国産陶器	破片

S-18

土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)
-----	----------------

S-19

土師器	坏a(イト)、破片
龍泉窯系青磁	椀：I(1)、IV?(1)

S-20

須惠器	破片
土師器	坏a(イト)
瓦質土器	鉢、火舎
中世国産陶器	甕、破片
白磁	広東系(1)
龍泉窯系青磁	椀：I(1)
銭貨	銭貨

S-21

土師器	坏a(イト)
-----	--------

S-22

土師器	破片(イト)
中世国産陶器	破片
中国陶器	B群(1)、C群(1)
瓦質土器	破片

S-23

土師器	坏
-----	---

S-24

土師器	小皿b、坏a(イト)
白磁	椀：IV(1)

S-25

土師器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、小皿a×b(イト)、坏a(イト)
瓦	破片
土師質土器	火鉢、鍋、破片
瓦質土器	破片
中世国産陶器	甗
白磁	碗：Ⅳ(1)、Ⅷ(1) 皿：Ⅸ-1b(1) 白磁破片：広東系(1) 壺Ⅲ(1)
龍泉窯系青磁	碗：Ⅰ(1)、Ⅰ-2(1)、Ⅱ-b(1)、Ⅲ-2C(1)、Ⅳ(1) 龍泉破片Ⅰ(1)
中国陶器	甗(2)、甗Ⅰ(1)、B群(1)
金属製品	鋳滓

S-26

須恵器	破片
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)
土師質土器	挿鉢
中国陶器	B群(1)

S-27

須恵器	破片
土師器	小皿a(イト)、小皿b(イト)
瓦質土器	鉢
中世国産陶器	甗
肥前系磁器	碗
国産磁器	碗
白磁	碗破片(4) 皿：Ⅵ-a(1)、Ⅸ(1) 白磁破片(4)、椀(1)
龍泉窯系青磁	碗：Ⅰ(1)、Ⅱ-a(2)、Ⅱ-b(1) 龍泉破片Ⅰ(1)
中国陶器	鉢Ⅰ(1)、鉢Ⅱ-1b(1)、甗(1)、B群(3)、C群(1)
瓦類	破片

S-28

土師器	小皿b、坏a(イト)
中世国産陶器	甗
中国陶器	A2群鉢(1)、B群(1)

S-29

須恵器	破片
土師器	破片(イト)
白磁	椀(1)
金属製品	鋳滓

S-30 灰褐色土上

土師器	坏a(イト)、破片
中世国産陶器	甗
肥前系磁器	破片
国産磁器	紅皿
白磁	破片内面櫛目(1)
龍泉窯系青磁	碗：Ⅱ-b(1)
金属製品	鉄釘

S-30

須恵器	破片
土師器	小皿a、坏a(イト)
瓦	破片
瓦質土器	破片
中世国産陶器	甗
白磁	碗：Ⅱ-4(1)、Ⅳ(3)、Ⅸ(1)、破片(1) 小碗(1) 壺(1)、白磁破片(2)
青白磁	合子(1)
龍泉窯系青磁	碗：Ⅰ(1)、Ⅰ-2(1)
高麗青磁	椀象嵌(1)、壺?象嵌(1)
中国陶器	鉢Ⅰ-1(1)、A2群鉢(1)、甗(1)、A2群(1)、破片(1)
瓦類	破片

S-31

須恵器	破片
土師器	坏a(イト)、椀、破片
瓦	破片
土師質土器	鍋
中世国産陶器	甗
白磁	皿：Ⅸ-1a(1)
龍泉窯系青磁	Ⅳ類香炉(1)
同安窯系青磁	皿：Ⅰ-1b(1)
銭貨	「皇宋通寶」

S-32

土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)
須恵質土器	鉢(東播系)
中世国産陶器	甗

S-33

土師器	坏a(イト)
白磁	碗：Ⅴ(1)
龍泉窯系青磁	碗：Ⅰ(1)、Ⅱ-b(1)
中国陶器	A2群(1)

S-34 C.D30

土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)、破片
-----	-------------------

S-34 H35

土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)
白磁	皿：Ⅵ-1a(1) 白磁破片(1)
中国陶器	壺(1)

S-35

土師器	坏a、破片
瓦	破片

S-36

土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)、椀c
瓦	椀c
瓦質土器	挿鉢(東播系)
土師質土器	鍋
中世国産陶器	甗(東海、常滑)
白磁	碗：Ⅳ(3)、Ⅴ(1)、Ⅶ-b(1)、Ⅷ(1)、Ⅴ-1×Ⅷ-2(1)、 Ⅸ-1(1)、内面櫛目(1) 皿：Ⅴ~Ⅶ(1)
青白磁	碗(1)
龍泉窯系青磁	碗：Ⅰ(1) 龍泉破片Ⅰ(1)
同安窯系青磁	碗：Ⅰ-1b(2) 皿：Ⅰ(1)、Ⅰ-1(1)、Ⅰ-1a(1)、Ⅰ-1b(1)
中国陶器	壺(1)、B群壺(1)、B群耳壺(1)、甗(1)、B群(2)
石製品	石鍋
瓦類	平瓦、丸瓦

S-37

土師器	小皿a、小皿b、坏a
中世国産陶器	甗
龍泉窯系青磁	碗：Ⅱ-b(2)、Ⅳ(1)
同安窯系青磁	皿：Ⅰ-2b(1)
中国陶器	壺(1)
瓦類	破片

S-38

土師器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、坏a(イト)、坏
瓦質土器	火鉢
灰釉陶器	壺
肥前系磁器	碗
中世国産陶器	甗(常滑)、甗
白磁	碗：Ⅳ(3)、Ⅴ-4×Ⅷ-1×3(1)、広東系(1)、椀破片(3) 皿：Ⅳ? (1)、Ⅴ~Ⅶ(1)、Ⅵ-1b(1)、Ⅸ(1)、Ⅸ-1(1) Ⅸ-2(1)、皿破片(1) 壺(1)、耳壺(1) 直口縁(1)、白磁破片(2)
青白磁	碗(1)、壺(1)
龍泉窯系青磁	碗：Ⅰ(5)、Ⅰ-2(1)、Ⅰ×Ⅱ(1)、Ⅱ-a(1)、Ⅱ-b(3)、Ⅲ-C(1) 龍泉破片Ⅲ-C(2)
同安窯系青磁	碗：Ⅰ(2)、Ⅰ-1b(1)
高麗青磁	椀象嵌(1)、高麗?破片(1)
中国陶器	甗(4)、壺Ⅳ(1)、盤Ⅰ(1)、壺Ⅳ-3(1)、 A1群(1)、A2群(1)、B群(2)、C群(1)、破片(1)
朝鮮系無釉陶器	破片
瓦類	破片
土製品	トリペ
石製品	石鍋

S-39

須恵器	甗
土師器	小皿(イト)、坏a(イト)
瓦質土器	挿鉢
中世国産陶器	甗
国産陶器	破片
白磁	碗：広東系(1)、破片(2) 皿：破片(1) 白磁破片(2)、直口縁(1)
青白磁	皿(1)
龍泉窯系青磁	碗：Ⅰ(1)、Ⅰ-4(1)
同安窯系青磁	碗：Ⅰ-1b(1) 皿：Ⅰ-1(1)
瓦類	破片

S-40

須恵器	破片
土師器	破片
黒色土器B類	破片
瓦	椀c
白磁	碗：屈指口縁(1)

S-41

土師器	坏a(イト)、破片
中国陶器	壺(1)

S-42

須恵器	破片
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)
瓦	碗
瓦質土器	破片
中世国産陶器	甗
白磁	碗：Ⅳ(1)、Ⅴ-2(1)、Ⅴ-4×Ⅷ-1×3(1)
龍泉窯系青磁	碗：Ⅰ(1)、Ⅱ-b(1)、Ⅲ-2C(1)
中国陶器	A2群鉢(1)
瓦類	破片
金属製品	鉄釘
石製品	石鍋加工品

S-45上層

土 師 器	小皿a、小皿b(イト)、小皿a×b(イト)、坏a(イト)、坏b(イト)、椀c
瓦 質 土 器	椀c
土 師 質 土 器	破片
瓦 質 土 器	鉢、搦鉢
中世国産陶器	甕(常滑)
白 磁	椀：V-2b(1)、V-4×Ⅷ-1×3(2)、VI-1a(1)、Ⅷ(1)、IX(1)、広東系(1)、破片(3) 皿×椀IX(1) 壺(1)、鉢鉄絵(1)
龍泉窯系青磁	椀：I(1)、I-1(1)、I-2(1)、II-b(3)、IV(1) 龍泉破片：I(1)、Ⅲ-2C(1)、IV?(1)
同安窯系青磁	皿：I-1a(1)、I-2b(1)
中国陶器	B群壺(1)、甕(3)、盤I-2(2)
瓦 類	破片
金属製品	鍔洋
石 製 品	石鍋

S-45下層

須 惠 器	壺、甕
土 師 器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、小皿a×b(イト)、坏a(イト)
瓦 質 土 器	破片
土 師 質 土 器	鍋?
瓦 質 土 器	火鉢
中世国産陶器	甕
白 磁	椀：広東系(1) 壺Ⅲ(1) 白磁破片(2)
青 白 磁	蓋(1)、椀?(2)
龍泉窯系青磁	椀：I-2×3(1)、II-b(2)、Ⅲ-2C(2)、IV(1)
中国陶器	鉢I-2a(1)、盤II-1(1)、甕(2)、C群(1)
瓦 類	破片
金属製品	鉄釘

S-46内

須 惠 器	破片
土 師 器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、坏a(イト)
瓦 質 土 器	椀
瓦 質 土 器	鉢
土 師 質 土 器	鍋
中世国産陶器	甕(常滑)、甕
白 磁	椀：IV(3)、V縦ヘラ(1)、V-4×Ⅷ-1×3(2)、Ⅶ(1)、Ⅷ(1)、直口縁(2)、東口椀II-b(1)、破片(4) 皿×椀IX(1) 皿VI(1) 壺：(1)、Ⅲ(1) 白磁破片(4)
龍泉窯系青磁	椀：I(6)、I-2(3)、I-3(1)、I-6b(1)、II-b(3) 小椀：IV?(1) 坏：Ⅲ-3a(1) 龍泉破片：I(1)、Ⅲ-2C(1)、IV(1)
同安窯系青磁	椀：I-1(1)、I-1b(2)、破片(1)
中国陶器	甕(2)、甕?(1)、A群?壺×水注(1)、A群(1)、A2群(1)、B群(3)
瓦 類	破片
金属製品	鉄釘
土 製 品	土鍾
石 製 品	石鍋、平玉石

S-50灰白色砂

須 惠 器	破片
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、大椀c
瓦 質 土 器	鉢、火舎
中世国産陶器	甕、破片
白 磁	椀：IV(1) 皿：IX(2) 白磁破片屈指口縁(1)
龍泉窯系青磁	椀：II-b(1)
石 製 品	石鍋

S-50石組中

金属製品	鉄釘
------	----

S-51

土 師 器	坏a(イト)
瓦 質 土 器	鉢
中世国産陶器	甕
白 磁	白磁外反(1)
中国陶器	A群水注(1)

S-52

土 師 器	破片
-------	----

S-55

土 師 器	小皿a、小皿b(イト)、坏a(イト)、小皿a×b(イト)
瓦 質 土 器	椀、椀c
土 師 質 土 器	鍋、火鉢?
瓦 質 土 器	鉢、火舎
須 惠 質 土 器	鉢(東播系)
肥 前 系 磁 器	椀
国 産 磁 器	椀
中世国産陶器	甕
白 磁	椀：IV(2)、IV-1a(1)、V-1×Ⅷ-2(1)、V-4×Ⅷ-1×3(2)、IX(1)、広東系(2)、椀破片(1) 皿：VI-1a(1) 椀×皿IX(1) 壺(2) 白磁破片(2)
龍泉窯系青磁	椀：I(3)、I-2×3(1)、I-3a(1)、I-3(1)、I-4(1)、I-4a(1)、I-4?(1)、II-b(1) 小椀：上田分類E類?(1) 坏：Ⅲ-5b(1)
同安窯系青磁	椀：I-1b(1)、Ⅲ-1b(1) 皿：I-2b(1)
黒 釉 陶 器	天目椀(2)
中国陶器	甕(1)、B群(1)、C群(2)、破片(2)
瓦 類	平瓦、丸瓦
土 製 品	土壁
石 製 品	石鍋

S-56

土 師 器	坏a(イト)
瓦 質 土 器	鉢
中世国産陶器	甕(備前)
白 磁	椀：II(1)
石 製 品	石臼

S-57

土 師 器	破片
土 師 質 土 器	破片
中世国産陶器	甕
龍泉窯系青磁	IV香炉(1)
同安窯系青磁	椀：I-1b(1)
中国陶器	甕(1)、C群(1)

S-57下層

土 師 器	小皿b(イト)、坏a
瓦 質 土 器	鉢
中世国産陶器	甕(常滑)、甕、耳壺
白 磁	椀：IV(3) 皿：IX-1(1)
龍泉窯系青磁	椀：II-b(1)
中国陶器	鉢I(1)、水注VI(1)、甕(3)、壺×甕(1)
瓦 類	破片

S-58

土 師 器	坏a(イト)
中世国産陶器	破片

S-59

土 師 器	坏a(イト)
-------	--------

S-61

土 師 器	坏a(イト)
-------	--------

S-62

土 師 器	破片(イト)
中国陶器	甕(1)
瓦 類	破片

S-63

土 師 器	坏a(イト)
-------	--------

S-64

中世国産陶器	甕
青 白 磁	皿(1)

S-66

須 惠 器	破片
土 師 器	坏a(イト)

S-67

土 師 器	小皿a(イト)、坏(イト)
-------	---------------

S-68

土 師 器	坏a(イト)
瓦 質 土 器	破片
中世国産陶器	破片
白 磁	椀：Ⅷ(1)

S-69

土 師 器	破片
中世国産陶器	破片
龍泉窯系青磁	椀：II-b(1)

S-71

土 師 器	坏a
土 師 質 土 器	破片
中世国産陶器	甕(東海)

S-73

土 師 器	破片
中世国産陶器	破片
龍泉窯系青磁	椀：II-a(1)

S-74

土 師 器	坏a(イト)、破片
白 磁	椀×皿IX(1)
金属製品	用途不明鉄製品

S-77

土 師 器	小皿a(イト)
-------	---------

S-79

土 師 器	破片(イト)
-------	--------

茶色砂

須惠器	甕、破片
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)、坏b(イト)、碗c、甕
黒色土器B類	破片
瓦	碗c、破片
須惠質土器	鉢(東播系)
瓦質土器	鉢、火鉢
中世国産陶器	甕、瓶(瀬戸)、挿鉢、破片(瀬戸)
緑釉陶器	碗×皿
白磁	碗：II(1)、II-1(2)、II-5(1)、IV(4)、V-3(1)、V-4(1)、V-4c(1)、V-1×VIII-2(2)、V-4×VIII-1×3(1)、IX(2)、内面櫛目(1)、破片(6) 皿：III-1(1)、VI(2)、VI-1a(1)、IX(1)、IX-1b(1)、外反口縁(1) 壺(1)、壺III(1)、直口縁(2)、内面櫛目(1)、広東系(2)、白磁破片(7) I類壺(1)
越州系窯系青磁	碗：I(6)、I-1a(1)、I-2(3)、I-3(1)、I-6b(1)、II(1)、II-b(9)、IV(1) 小碗I-1'a(1) 坏：I-2d(1)、III-a(1) 龍泉破片：I(1)、III(2)
同安窯系青磁	碗：I(4)、I-1b(3) 同安破片I(1)
中国陶器	鉢I(3)、鉢I?(1)、鉢I-1'a(1)、鉢I-2a(1)、鉢II-1a(1) 盤I-2(1)、盤II(1)、盤II-1(1)、甕(6)、甕III(1)、甕×壺(1)、四耳壺(1)、B群壺(1)、A2群(2)、B群(7)、C群(2)
朝鮮系無釉陶器	破片
瓦類	破片
銭貨	「政和通寶」
金属製品	鉄釘、鉄棒
土製品	トリノ
石製品	石鍋

灰褐色土 (第35次)

須惠器	坏c、甕、盤c
土師器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、坏a(イト)、坏b?、碗c、丸底坏、甕
瓦	碗
土師質土器	鍋、鉢、風炉、壺
須惠質土器	鉢(東播系)、片口鉢、甕
瓦質土器	鉢、火舎?、羽釜、火鉢
肥前系磁器	碗、碗?、皿、紅皿、合子蓋、鉢
国産磁器	小壺、火入?破片
近世陶器	土瓶、甕、タイル?
中世国産陶器	甕(常滑、備前)、甕、壺(瀬戸)、壺?、卸皿、挿鉢、破片(瀬戸?)
白磁	碗：II(3)、II-1(2)、II-3(1)、IV(21)、IV-1a(3)、V(4)、V?(1)、V-1c(1)、V-2(5)、V-2a(1)、V-4(1)、V-4a(2)、V-4×VIII-1×3(2)、V-1×VIII-2(4)、VIII(5)、IX(3)、XI-1(1)、XII-1a(1) 枢府(3)、外反口縁(1)、内面櫛目(1)、破片(37)、破片?(2) 碗×皿IX(10) 皿：II-1(1)、II-1a(2)、III-2?(1)、IV-1(1)、V(1)、V-a(1)、V~VII(4)、VI-1a(6)、VI-b(1)、VIII(2) IX(10)、IX-1(9)、広東系(2)、破片(2) 枢府(1)、壺(6)、壺?(3)、耳壺III(6)、火入(1)、直口縁(7)、外反口縁(6)、屈折口縁(1)、内面櫛目(2)、広東系(3)、白磁破片(33)
青白磁	皿(3)、碗(1)、合子身(2)、壺(3)、壺?(1)、破片(2)
越州窯系青磁	碗：II(1)
龍泉窯系青磁	碗：I(16)、I?(1)、I-1a(6)、I-2(6)、I-3(3)、I-2×3(3)、I-4(5)、I-6(1)、I-6a(1)、I×II(1)、II-a(4)、II-b(47)、III(2)、III-1A(1)、III-2C(15)、IV(3)、IV?(1)、上田分類B(1) 小碗：I(1)、I-1(1) 坏：III-1b(1)、III-3(2)、III-4(3) 香炉(1)、IV盤(3) 破片：I(14)、I?(1)、III(9)、III-2C(3)、IV(1)、IV?(2)
同安窯系青磁	碗：I(4)、I-1a(1)、I-1b(6)、I×II(1)、IV-1a(1) 皿：I(7)、I-1(1)、I-1b(1)、I-2b(3) 小碗(1)
高麗青磁	碗象嵌(4)、瓶(1)
中国陶器	A1群壺(1)、B群壺(16)、C群壺(1)、壺(2)、A2群耳壺IV(1)、B群耳壺(1)、耳壺II(1)、耳壺V(1)、褐釉壺(1)、瓶(1)、甕(1)、甕III(1)、甕(19)、鉢I-1(1)、A2群鉢(3)、鉢IV(2)、鉢I-1a(1)、盤I-1(1)、盤I-2b(2)、盤I-2(3)、盤II-1(1)、盤(2)、褐釉(1)、A群(1)、A群?(1)、A1群(1)、A2群(9)、A2群?(1)、C群(17)、破片(1)
輸入須惠器	朝鮮系無釉陶器
輸入染付	碗
黒釉陶器	天目碗(2)、碗(3)
瓦類	平瓦、丸瓦
金属製品	鉄釘、鋸滓
土製品	土錘
石製品	石鍋、硯?、砥石、平玉石

灰褐色土 (第35-2次)

土師器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、坏a(イト)
瓦	碗、碗c
須惠質土器	鉢(東播系)
瓦質土器	鉢、火鉢、風炉、挿鉢
中世国産陶器	甕(常滑、備前)、甕、挿鉢、碗?(瀬戸)
朝鮮系無釉陶器	破片
白磁	碗：IV(6)、IV-1a(1)、V-2(1)、V-4×VIII-1×3(5) V-1×VIII-2(4)、V-2×VI-1b(1)、VIII(2)、XI(1)、枢府(1)、碗外反(1)、碗破片(10) 小碗(1) 皿：V~VII(1)、VI-1a(1)、VII-2b(1)、IX-1(1)、IX-1b(1)、IX(3) 碗×皿IX(4)、壺(3)、壺III(2)、耳壺III(1)、広東系(1) 白磁破片(6)
龍泉窯系青磁	碗：I-1(2)、I-1a(1)、I(4)、I-2(3)、I-4(1)、I-4a(1) II-a(2)、II-b(13)、IV(1) 坏：I-a(1)、III(1)、III-3b(2)、III-4(1)、III-4b(1) 龍泉破片：I(6)、III(3)、IV?(1)、IV香炉(2)、小壺(1)
同安窯系青磁	碗：I-1b(2)、III-1b(1) 皿：I(1)、I-1b(1)、I-2b(1)
高麗青磁	碗III(1)、皿(1)
青磁	小鉢(1)
青白磁	碗(1)、皿(1)、皿?(1)
黒釉陶器	碗(1)、天目碗(1)
中国陶器	盤I(1)、盤I-2(1) 壺IV(3)、B群壺(4)、耳壺V(1) 鉢I(1) 甕(12) B群(10)、C群(11)
銭貨	「開元通寶」「景祐元寶」「聖宋元寶」「淳熙元寶」
金属製品	銅製金具、用途不明銅製品、鉄釘
土製品	土壁
石製品	石鍋、硯
その他	炭

整地上

須惠器	破片
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)、碗c?
瓦	火鉢
中世国産陶器	甕
白磁	碗：IV(1)、V(1)、破片(1) 皿：VI-a(1)、IX-1(1) 白磁破片：(1)、広東系(1)
龍泉窯系青磁	碗：II-a(1) 碗×坏III(1) 龍泉破片I(2)
同安窯系青磁	皿：I(1)
中国陶器	鉢I(1)、甕(1)、B群(1)
瓦類	破片
金属製品	鉄釘

暗褐色土

土師器	小皿a(イト)、小皿b、坏a(イト)
瓦	破片
須惠質土器	鉢(東播系)
瓦質土器	鉢、挿鉢
土師質土器	鍋
中世国産陶器	甕
白磁	碗：IV(1)、IV-1a(1)、VIII(2)、IX(1)、内面櫛目(1)、破片(1) 皿：IX(2) 白磁破片：枢府?(1)、壺II(1)
龍泉窯系青磁	碗：I-1(2)、III(1)、IV(1) 坏：III(1)
同安窯系青磁	碗：I-1b(2) 皿：I-2b(1)
青白磁	合子身(1)
中国陶器	A群鉢(1)、B群鉢(1)、鉢III(1)、B群(2)、C群(2)、甕(2)
石製品	石鍋、石鍋補修材

黒褐色土

須惠器	破片
土師器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、坏a(イト)、坏b、坏b?
瓦	碗
土師質土器	鍋
瓦質土器	鉢、火鉢、挿鉢、片口、火鉢×風炉
中世国産陶器	甕(常滑、備前)、甕、挿鉢、破片(瀬戸?)、壺、瓶
白磁	碗：II(1)、II-1(2)、IV(4)、IV-1a(2)、V(1)、V-2(1) V内面櫛目(1)、V-1×VIII-2(4)、V-4×VIII-1×3(3) VIII(2)、IX(1)、内面櫛目(2)、破片(5) 皿：IV-2b(1)、V~VII(1)、IX(3)、IX-1(1)、破片?(1) 碗×皿IX(3)、壺(2)、壺III(4) 白磁破片(5)、屈折口縁(2)、外反口縁(2)、直口縁(6)
青白磁	皿(1)、皿?(1)、碗(2)、小壺(1)、直口縁(1)、破片(2)
龍泉窯系青磁	碗：I(6)、I-1(1)、I-1a(1)、I-2(3)、I外反口縁(1)、II-b(13)、III-2C(1)、IV(5) 小碗：III-2C(1)、IV(1) IV盤(1)、IV香炉(2) 龍泉破片：I(7)、III(2)、IV(1)
同安窯系青磁	碗：I(3)、I-1b(1) 皿：I(2)、I-1(1)
高麗青磁	象嵌(1)、高麗?碗(1) 高麗×龍泉窯系青磁I(1) 鉢I-1b(1)、B群壺(1)、耳壺(1)、壺(1)、耳壺V(1)、甕(14)、甕V(1)、A群(3)、A2群(4)、B群(25)、C群(3)、C群?(1)
黒釉陶器	天目碗(2)
瓦類	平瓦、瓦玉
弥生土器	甕
銭貨	「天聖元寶」
金属製品	鉄釘、鉄片、鋸滓
土製品	土壁
石製品	石鍋、石鍋加工品、砥石

整地(黒褐色土)

須恵器	破片
土師器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、坏a(イト)、甕?、破片
瓦	碗c、破片
土師質土器	鉢、鉢
須恵質土器	鉢(東播系)
瓦質土器	鉢、片口鉢、火鉢
中世国産陶器	甕(常滑、備前)、甕、壺×甕
白磁	碗：Ⅳ(1)、Ⅷ(1)、Ⅸ-1c(1)、枢府(1)、屈折口縁(1) 破片(3) 碗×皿Ⅸ(1)
青白磁	皿：Ⅲ-1(1)、Ⅲ-2(1)、Ⅸ(1)、Ⅸ-1(1) 白磁破片(1)
龍泉窯系青磁	碗：Ⅰ(3)、Ⅱ-b(3)、Ⅲ-1A(1)、Ⅳ(1) 坏：Ⅲ-4(1) 香炉脚(1)、Ⅳ盤(2)、Ⅳ盤? (1) 龍泉破片：Ⅰ(1)、Ⅳ(1)
同安窯系青磁	碗：Ⅰ-1b(2)
中国陶器	水注Ⅵ(1)、盤Ⅰ-2(1)、甕(3)、A2群(1)、B群(5)、C群(3)
瓦類	破片
錢貨	「政和通寶」
金属製品	鉄釘、鉄塊、鋲滓

赤褐色土 (第35次)

土師器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、坏a(イト)、小坏a(イト)
瓦	碗、破片
須恵質土器	鉢(東播系)
瓦質土器	火鉢
土師質土器	鍋、火鉢
中世国産陶器	甕(東海、備前)、甕、鉢、卸皿(瀬戸)
白磁	碗：Ⅰ-2(1)、Ⅰ-1?(1)、Ⅱ-1(1)、Ⅳ(6)、Ⅴ(2)、Ⅴ-2(2) Ⅷ(1)、Ⅸ(2)、破片(7)
青白磁	皿：Ⅲ-1(1)、Ⅵ-1b(3)、Ⅷ(1)、Ⅸ(1)、Ⅸ-2(2) 碗×皿Ⅸ(3)、壺(4)、耳壺(1)、壺? (1)、枢府壺? (1)、 水注(1) 白磁破片(6)、外反口縁(2)、 口禿口縁(1)、壺? (2)
龍泉窯系青磁	碗：Ⅰ(5)、Ⅰ-1(3)、Ⅰ-1a(2)、Ⅰ-2(1)、Ⅰ-2×3(1)、 Ⅱ-b(3)、Ⅲ-2C(7)、Ⅳ(1) 小碗Ⅲ-1(1) 坏：Ⅲ(1)、Ⅲ-1a(1)、Ⅲ-3(1) 破片：Ⅰ(1)、Ⅲ(4)、Ⅳ? (1)、Ⅲ外反口縁(2)、直口縁(1)
同安窯系青磁	皿：Ⅰ(1)、Ⅰ-2b(1)
高麗青磁	象嵌(1)
中国陶器	鉢Ⅰ(1)、鉢Ⅳ-1(1)、甕(15)、壺Ⅳ-1(1)、B群耳壺(1)、 盤(1)、C群盤(1)、盤Ⅰ-b(1)、壺? (1)、A1群(1)、 A2群(1)、A2群? (1)、B群(8)、C群(5)
瓦類	破片
錢貨	破片
金属製品	鉄釘
石製品	硯

赤褐色土 (第35-2次)

須恵器	鉢(篠窯)
土師器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、坏a(イト)、蓋4
須恵質土器	鉢(東播系)、甕
瓦質土器	火鉢
中世国産陶器	甕(常滑、備前)、甕、甕?、壺、破片
白磁	碗：Ⅳ(4)、Ⅴ(2)、Ⅴ-2(1)、Ⅴ内面櫛目(1)、 Ⅴ-4×Ⅷ-1×3(1)、Ⅷ(2)、ⅩⅡ-1b(1)、 外面へら(1)、内面櫛目(1)、白磁破片(5)
龍泉窯系青磁	皿：Ⅴ~Ⅶ(1)、Ⅸ(1)、Ⅸ-1(1)、Ⅸ-1d(1)、破片(1) 碗×皿Ⅸ(5) 耳壺Ⅲ(4) 壺Ⅲ(2)、 白磁破片(1) 直口縁(1)
龍泉窯系青磁	碗：Ⅰ(4)、Ⅰ-1(2)、Ⅰ-2(1)、Ⅰ-3(2)、Ⅰ-2×3(2)、Ⅰ-4(1) Ⅱ-a(4)、Ⅱ-b(18)、Ⅲ-2C(4)、Ⅳ(2)、Ⅳ? (1) 小碗：Ⅰ-3(1) 坏：Ⅲ-4(1) 龍泉破片：Ⅲ(1)、Ⅲ-2C(1)、Ⅳ盤(1)、Ⅳ盤×坏(1)
同安窯系青磁	碗：Ⅰ(1)、Ⅰ-1(1)、Ⅰ-1b(2)
高麗青磁	碗象嵌(1)、碗? (1)
中国陶器	鉢(1)、鉢Ⅰ(1) 盤：Ⅰ-2(1)、Ⅱ-1(3)、Ⅱ-1b(1)、 壺(1)、C群壺(1) 耳壺Ⅴ(1)、甕(16) A群(1)、A2群(5)、B群(1)、C群(5) 陶器破片(1)
瓦類	破片
弥生土器	甕
錢貨	緡銭(100枚)
金属製品	鉄釘、銅鋳?、銅片、鋲滓
石製品	石鍋

側溝(トレンチ) 赤褐色土

須恵器	鉢、破片
土師器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、坏a(イト)、不明品
須恵質土器	鉢
瓦質土器	搦鉢、鉢
土師質土器	脚付鉢
中世国産陶器	甕(常滑)、甕、破片
白磁	碗：Ⅱ-1(1)、Ⅳ(6)、Ⅳ-1a(1)、Ⅴ(1)、Ⅴ-1(2)、 Ⅴ-1×Ⅷ-2(2)、Ⅴ-4×Ⅷ-1×3(1)、Ⅷ-c×Ⅷ-4(1) Ⅷ(1)、Ⅸ(1)、枢府(1)、広東系(1)、内面櫛目(1)、 破片(11)
青白磁	皿：Ⅱ-1a(1)、Ⅲ-1(1)、Ⅴ~Ⅶ(1)、Ⅷ(1)、Ⅸ-1(6) 壺(2) 白磁破片：広東系(1)、直口縁(1)、破片(4)
龍泉窯系青磁	破片(2)
龍泉窯系青磁	碗：Ⅰ(1)、Ⅰ-1a(1)、Ⅰ-3(1)、Ⅰ-2×3(1)、Ⅰ-4(1)、 Ⅱ-b(4)、Ⅲ-2C(3)
同安窯系青磁	碗×坏Ⅲ(1)、Ⅳ香炉(1) 龍泉破片：Ⅰ(3)、Ⅲ(1)
同安窯系青磁	碗：Ⅰ-1b(4) 皿：Ⅰ(2)、Ⅰ-2b(1)
中国陶器	甕(3)、鉢Ⅰ-1b(1)、盤Ⅰ-1b(1)、盤(1)、B群壺(1)、 A2群(1)、B群(3)、C群(2)
黒釉陶器	破片(2)
瓦類	平瓦、丸瓦
金属製品	鉄釘
石製品	石鍋、石鍋補修具

茶灰色土

須恵器	壺、破片
土師器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、坏a(イト)
瓦	碗c
土師質土器	鉢、鍋
須恵質土器	甕
瓦質土器	鉢、火鉢、羽釜
中世国産陶器	甕(常滑)、甕、搦鉢(備前)
白磁	碗：Ⅱ(1)、Ⅳ(6)、Ⅴ-4×Ⅷ-1×3(1)、破片(2) 皿：Ⅵ-a(1)、Ⅵ-b(1)、Ⅴ~Ⅶ(1)、Ⅷ-1b(1)、破片(1) 碗×皿Ⅸ(1)、直口縁(1)、外反口縁(1)、枢府(1)、 広東系(2)、破片(1)
龍泉窯系青磁	碗：Ⅰ(3)、Ⅰ-1b(1)、Ⅰ-2×3(2)、Ⅰ-4(2)、Ⅱ-a(1)、 Ⅱ-b(8)、Ⅱ-c(1) 破片：Ⅰ(1)、Ⅲ(1)、碗×坏(1)
同安窯系青磁	碗：Ⅰ(3)、Ⅰ-1b(2)、Ⅲ(1)
高麗青磁	碗Ⅲ(1)
中国陶器	B群壺(2)、壺×水注(1)、盤Ⅰ-1(1)、甕(2)、鉢Ⅱ-2b(1)、 A群(1)、A2群(1)、B群(5)、C群(3)
瓦類	平瓦、丸瓦
金属製品	鉄釘
石製品	石鍋、石鍋加工品

灰色砂礫

須恵器	破片
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)、坏c(イト)、丸底坏a
瓦	碗c
瓦質土器	鉢、火鉢
中世国産陶器	甕
白磁	碗：Ⅳ(2)、Ⅴ(1)、Ⅷ(1)、内面櫛目(1)、破片(2) 皿：Ⅴ~Ⅶ(1)、Ⅸ(1) 広東系(1)、破片(2)
龍泉窯系青磁	碗：Ⅰ(2)、Ⅱ-b(2)
中国陶器	坏：Ⅲ-2C(1) 龍泉破片：Ⅰ(1)、Ⅲ(1)
朝鮮系無釉陶器	鉢Ⅵ-1(1)、B群壺(1)、甕(1)、盤Ⅱ(1)、B群(1)、C群(1)
瓦類	破片

茶褐色土	
須恵器	甕、破片
土師器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、小皿c、小皿(京都)、皿(京都)、小坏a(イト)、坏a(イト)、坏、碗c、甕
瓦	碗
土師質土器	鍋、火鉢
須恵質土器	鉢、挿鉢、火鉢、壺、甕
瓦質土器	鉢、片口鉢、火鉢、風炉、脚付火鉢
緑釉陶器	器台?
山茶碗	碗
肥前系陶磁器	磁器：碗、破片 陶器：鉢
中世国産陶器	甕(備前、東海、常滑)、甕、挿鉢、壺?
国産陶器	碗、甕?
白磁	碗：I-1(1)、II(1)、II-1(1)、III-2C(2)、IV(17)、IV-1a(1)、V(4)、V-1(1)、V-1a(1)、V-2(3)、V-3(2)、V-3b(1)、V-2×3(1)、V-4(2)、V-4a(3)、V内面櫛目(1)、V-1×VIII-2(2)、V-c×VIII-4(1)、V-4×VIII-1×3(2)、VI-1a?(1)、VIII(5)、VIII-b(1)、VIII-2(1)、IX(1)、広東系(4)、枢府(2)、直口縁(1)、内面櫛目(4)、破片(27)
	皿：II-1(2)、VI-1a(2)、III(2)、III-1(2)、IV-2(1)、V~VII(3)、VI×VII(1)、VIII(2)、VIII-1?(1)、VIII-1b(2)、VIII-2b(1)、VIII-1c(1)、IX(4)、IX-1(3)、IX-1c(1)、IX-1d(2)、IX-2(2)、XI-1(2)、広東系、枢府(1)、破片(3) 壺(3)、壺III(4)、耳壺III-2(1)、小壺?(1) 白磁破片(16)、IX(6)、直口縁(4)、外反口縁(1)、広東系(1) 広東系直口縁(1)、広東系(1)
青白磁	合子蓋(2)、把手?(1)、小壺(1)、破片(3)
龍泉窯系青磁	碗：I(12)、I-1(3)、I-1a(3)、I-2×3(1)、I-2(7)、I-2b(1)、I-3(1)、I-4(2)、I×II(3)、II-b(24)、II-a(2)、II-a?(1)、II-c(1)、III(1)、III-1A(1)、III-2C(6)、IV(3)、破片(1)
	小碗：I(1)、I-3(1) 坏：III-2(1)、III-3(1)、III-5a(1)、IV(2)、坏×碗(1) 皿：I(2)、I-1(2)、I-1b(1)、IV(1) 香炉(1)、盤(1) 龍泉破片：I(5)、III(8)、III-2C(2)、龍泉?(1)
同安窯系青磁	碗：I(1)、I-1b(14)、III-1(1) 皿：I(4)、I-1b(1)、I-2b(9)
中国陶器	鉢I(2)、鉢I-2a(2)、甕(25)、甕II(1)、甕III(2)、甕?(1) B群壺(6)、水注V(1)、盤I(1)、盤I-b(3)、盤I-2(2)、盤II-1(1)、盤(2)、C群盤(1)、A1群(3)、A2群(11)、B群(23)、B群?(1)、C群(7)、破片(1)
黒釉陶器	天目碗(2)
朝鮮系無釉陶器	破片
瓦類	破片
銭貨	「熙寧元寶」
金属製品	鉄釘、鋲滓
土製品	土壁
石製品	石鍋、石鍋加工品、砥石

灰色粗砂	
須恵器	破片
土師器	小皿a(イト)、小皿b、坏a(イト)、碗c
瓦	碗c
土師質土器	挿鉢、鉢
須恵質土器	鉢(東播系)
瓦質土器	鉢、火鉢、挿鉢、火桶
中世国産陶器	甕(常滑、東海?)、甕
白磁	碗：II-3b×4b(1)、IV(4)、IV-1a(1)、IV-2(1)、V(4)、V-b(2)、V-2b(2)、V-4(1)、V外面へラ(1)、VI?(1)、V-4×VIII-1×3(1)、V-1×VIII-2(2)、VIII(1) 枢府(1)、外反口縁(1)、破片(11)
	皿：VI-1a(1)、V~VII(1)、VIII(1)、VIII-2b(1)、IX-1(2)、IX-1a(1)、広東系(1) 合子蓋(1)、壺III(2)、直口縁(2)、屈折口縁(1)、外反口縁(1)、枢府(1)、広東系(3)、破片(2)
龍泉窯系青磁	碗：I(5)、I-1(2)、I-3(1)、I-4b(1)、II(1)、II-a(1) II-b(9)、I×II(1)、III-1A(1)、III-2C(1) 皿：I(1)、I-1a(1) 破片：I(3)、III(1)、III壺(1)
同安窯系青磁	碗：I(1)、I-1b(2)、II-1a(1)、II-1b(2) 皿：I(1)、I-2b(2)
中国陶器	壺IV-1(1)、甕(10)、B群壺(4)、鉢(1)、鉢II(1)、鉢IV-2(1)、C群盤(2)、水注(1)、水注VI(1)、A2群(2)、B群(2)、C群(3)
瓦類	平瓦
金属製品	鉄釘
石製品	石鍋

灰色粗砂下層	
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)
石製品	石鍋

側溝(トレンチ) 灰色砂	
須恵器	破片
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)
瓦	碗c
中世国産陶器	甕(常滑)、破片
白磁	碗：IV(1)、破片(2) 白磁破片：広東系(1)、直口縁(1)
青白磁	皿(1)、破片(2)
龍泉窯系青磁	碗：II-b(3) 坏：III-2(1)、IV(1)
同安窯系青磁	碗：I-1b(2) 皿：I(1)
高麗青磁	碗象嵌(1)
中国陶器	耳壺IV(1)、甕V(1)、A2群(1)
瓦類	破片

黄色整地	
土師器	坏a(イト)
白磁	碗：内面櫛目(1)
龍泉窯系青磁	破片I(1)
金属製品	鋲滓

黄色土 側溝(トレンチ)	
白磁	枢府(1)

黄色土 側溝2(トレンチ2)	
須恵器	蓋3
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)
瓦	碗
土師質土器	破片
瓦質土器	甕
中世国産陶器	甕
白磁	碗：V-2b(1)、V-1×VIII-2(1)、破片(1) 皿：VI-1a(1)、広東系(1)、破片(1) 壺(1)、壺II(1)
龍泉窯系青磁	碗：II-b(1)
同安窯系青磁	碗：I-1(1)、I-1b(1)
中国陶器	甕(1)、盤I-2b(1)

黄色土 側溝3(トレンチ3)	
土師器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、坏b
土師質土器	脚付鉢
瓦質土器	火鉢
中世国産陶器	甕、破片(瀬戸)
白磁	碗：II(1)、IV(1)、V-2(2)、破片(5) 皿：IX-1(1) 白磁破片(3)、外面櫛目(1)
龍泉窯系青磁	碗：II-b(2)
同安窯系青磁	碗：I-1b(1) 小碗?(1)
中国陶器	A2群(1)、C群(1)
金属製品	鉄釘

茶褐色砂 側溝2(トレンチ2)	
須恵器	甕
土師器	坏a(イト)、把手付鉢
白磁	皿：IX-1(1)

青灰色土	
土師器	坏a(イト)
瓦質土器	鉢
中世国産陶器	甕
白磁	皿：IX-1(2) 碗×皿IX(2) 白磁破片(1)
龍泉窯系青磁	碗：III-2C(1)
瓦類	破片

赤灰色土	
須恵器	蓋3
須恵器×須恵質土器	甕
土師器	小皿a(イト)、小皿b、坏a、坏b(イト)
瓦	碗c
土師質土器	破片
瓦質土器	鉢
中世国産陶器	甕
白磁	碗：II-1(1)、IV-1a(1)、VIII(3)、枢府?(1)、破片(1) 皿：III×IV(1)、IX-1(2) 碗×皿IX(2) 壺III(1)、破片(2)
龍泉窯系青磁	碗：I(5)、I×II(1)、II-b(4)、III-2C(2) 龍泉破片III(1)
同安窯系青磁	碗：I-1b(2) 皿：I(1)、I-2b(1)
中国陶器	鉢I-2a(1)、B群壺(1)、四耳壺?(1)、盤I-b(1)、水注(1)、B群(1)、C群(1)、破片(1)
瓦類	破片
金属製品	鉄釘
石製品	砥石、用途不明品

淡灰色砂	
須恵器	破片
土師器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、小皿a×b(イト)、坏a(イト)、丸底坏c
瓦	碗c、破片
土師質土器	鉢(東播系)、甕
瓦質土器	片口鉢、挿鉢、火鉢(脚のみ)
中世国産陶器	甕(東海、備前)、甕
白磁	碗：II(2)、II-1(1)、IV(3)、IV-1a(1)、V-2(1)、V-4×VIII-1×3(1)、VII-b(1)、VIII-0(1)、内面櫛目(1) 破片(7) 皿：VI-1a(1)、III(1)、V-2(1)、V~VII(1)、IX(4)、IX-1(2)、IX-2(1)、直口縁(1) 碗×皿IX(2) 壺(4)、外反口縁(2)、白磁破片(5)、広東系(1)
青白磁	破片(1) 碗：I(3)、I-1(1)、I-4(2)、I-2×3(1)、I×II(2)、II-a(3)、II-b(9)、IV(1) 坏：III-3b(2)、III-4(1)、IV(1) 龍泉破片III(1)
龍泉窯系青磁	碗：I(1)、I-1b(3) 皿：I(1)、I-2(1)、I-2b(1)
同安窯系青磁	碗：I(1)、I-1b(3) 皿：I(1)、I-2(1)、I-2b(1)
中国陶器	鉢I(1)、甕(4)、盤I-2(1)、褐釉壺?(1)、B群壺(1)、B群水注×壺(2)、A2群(2)、A群(2)、B群(8)、C群(1)
朝鮮系無釉陶器	壺
瓦類	平瓦
銭貨	「祥符元寶」

灰白色砂

須恵器	破片
土師器	坏a(イト)
中世国産陶器	甕(常滑)
白磁	皿：IV-2a(1)

側溝(トレンチ) 灰白色砂

土師器	坏a(イト)、坏c(イト)
瓦類	丸瓦
金属製品	鉄滓

整地中

土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)
中世国産陶器	甕
肥前系磁器	破片
白磁	椀：II-3×4(1)、IV-1a(2)、V-1×VIII-2(1)、VIII(1) V-4×VIII-1×3(1)、破片(2) 皿：V-1a?(1)、IX(1) 四耳壺III(2)、屈指口縁(1)、破片(2)
青白磁	椀(1)、壺(1)
龍泉窯系青磁	椀：I-2(1)、II-b(1)、III-2C(1)、IV(2)、I×IV(1) 皿：I-2(1) 破片：III(2)、III-2C(1)
同安窯系青磁	椀：I-1b(1) 皿：I(1)、I-2b(1)
中国陶器	甕(1)、盤I-2(4)、B群壺(1)、B群(1)、C群(1)
金属製品	鉄釘
石製品	剥片(黒曜石)

側溝(トレンチ)

土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)
瓦質土器	風炉
中世国産陶器	甕(常滑)、破片
白磁	椀：IX(1)
龍泉窯系青磁	椀：II-b(1)
中国陶器	甕(1)、A2群(2)

側溝(トレンチ) 整地

土師器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、坏a(イト)
須恵質土器	甕、破片
瓦質土器	火鉢
中世国産陶器	甕、破片
白磁	椀：II(1)、IV(5)、V(2)、V-2(1)、V-4b(1)、 V-1×VIII-2(1)、V-4×VIII-1×3(1)、IX(4) 内面櫛目(1)、広東系(1)、破片(1) 皿：VIII(1)、IX(1) 壺III(1)、耳壺III(1)
龍泉窯系青磁	椀：I(1)、I-1a(1)、I-2(1)、II-b(4)、I×II(1)、IV(2) 小椀I-1(1) 坏：III-3a(1)、III-3b(1)、III-4(1) IV香炉(1)、龍泉破片III(1)
同安窯系青磁	椀：I-1b(3)
高麗青磁	椀：III-2(1)
中国陶器	四耳壺XII-1(1)、B群壺(3)、A2群鉢(1)、鉢I-2(1)、 C群盤I(1)、B群(4)
錢貨	破片
土製品	土塊

側溝(トレンチ) 整地中

須恵器	甕、壺
土師器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、坏a(イト)
須恵質土器	鉢(東播系)
土師質土器	鍋
中世国産陶器	甕(1)
白磁	椀：IV(1)、内面櫛目(2)、枢府(1) 皿：VIII(1)、IX-1(1) 皿×椀IX(2) 四耳壺III(2)、白磁破片(1)
青白磁	破片(1)
龍泉窯系青磁	椀：I(1)、I×II(1)、II-a(1)、II-b(1)
同安窯系青磁	椀：I(1) 皿：I(1)
中国陶器	甕(2)、A2群(1)、B群(1)、C群(1)

側溝(トレンチ) 石列中

中世国産陶器	甕
同安窯系青磁	椀：I-1b(1)
中国陶器	B群壺(1)

出土地不詳

須恵器	蓋
土師器	坏a(イト)、椀c
土師質土器	鉢
白磁	椀：破片(1)
龍泉窯系青磁	椀：I(1)
同安窯系青磁	椀：I-1(1)
中国陶器	盤I-b(1)、B群壺(1)、甕(1)
瓦類	丸瓦(縄目)、平瓦(格子、無文)、破片
石製品	滑石碗

床土

土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)、椀
須恵質土器	鉢、甕
瓦質土器	火鉢
中世国産陶器	甕(常滑)、甕、挿鉢
国産陶器	椀
国産磁器	椀、破片
肥前系磁器	椀
白磁	椀：II-1(1)、IV(4)、V-b(1)、V-1×VIII-2(2)、 V-4×VIII-1×3(1)VIII(3)、XI-2(1)、内面櫛目(1)、 広東系(2)、破片(12)、 皿：III-2(1)、VIII(1)、IX(1)、IX-1(3)、IX-1c(2) 森田分類E-3(1) 椀×皿(1) 壺(4)、壺III(1)、直口縁(2)、外反口縁(1)、枢府(2) 広東系(1)、破片(6)
青白磁	皿(2)、破片(1)
龍泉窯系青磁	椀：I(4)、I-1a(1)、I-2×3(1)、II(1)、II-a(2)、II-b(8)、 I×II(1)、III-2C(5)、IV(2)、IV?(1) 坏：III内面花卉(1) 龍泉破片：I(1)、III(2)、IV盤(1)
同安窯系青磁	椀：I(1)、I-1b(6)、破片(1) 皿：I(3)
中国陶器	甕(10)、耳壺IV(1)、B群壺(1)、盤I-1(1)、盤I-2(1) 鉢II-1(1)、A1群(1)、A2群(3)、C群(4)
朝鮮系無釉陶器	破片
黒釉陶器	天目椀(1)
弥生土器	甕
金属製品	鉄釘
石製品	石鍋

新井戸

土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)
瓦質土器	破片
白磁	椀：IV(1)、破片(1) 壺III(1) 白磁破片(1)
龍泉窯系青磁	破片I(1)
中国陶器	C群(1)

表採

瓦質土器	挿鉢
中世国産陶器	甕(東海)
白磁	椀：IV(1) 壺(1)
龍泉窯系青磁	椀：I-2(1)、II-b(1)
中国陶器	鉢II-1(1)、甕(2)
瓦類	丸瓦(「安楽」)
石製品	石鍋

表土

須恵器	坏c、高坏、壺、甕
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)、丸底坏a
瓦質土器	挿鉢
中世国産陶器	甕(常滑、備前)、甕、瓶(瀬戸)
国産陶磁器	磁器：椀、破片 陶器：壺
肥前系陶磁器	磁器：皿、椀、破片 陶器：小坏、甕、破片
白磁	椀：II(1)、IV(6)、IV-1a(2)、V(1)、V-2(2)、 V-4b(1)、椀破片(3) 小椀(1) 皿：IX(1)、IX-1(1) 椀×皿IX(1) 壺III(1)、白堆線(1)、白磁破片(4)
越州窯系青磁	椀：II-2(1)
龍泉窯系青磁	椀：I(4)、I-3(2)、II-b(5)、IV?(1)、破片(1) 皿：I(1)、I-1b(1)、III-2C(1) 坏：III-3(1)、III-3b(1) 龍泉破片：I(2)、IV?(1)
同安窯系青磁	椀：I(1) 皿：I(1)
高麗青磁	椀象嵌(1)
中国陶器	鉢I(1)、鉢I-1b(1)、盤I(1)、盤II(1)、盤II-1(1) 甕(12)、甕II(1)、A2群水注(1) A2群(4)、B群(5)、C群(2)、中国陶器?(1)
黒釉陶器	天目椀(4)
瓦類	平瓦
錢貨	「皇宋通寶」
金属製品	丸釘

排土

土師器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、坏a
瓦	椀
土師質土器	鍋
中世国産陶器	甕(常滑)、甕
白磁	椀：IV(1)、V(1)、V-1×VIII-2(1)、IX(1)、椀?(1)、 破片(1) 皿：II-1(1)、IV-1a(1)、VI-1b(1)、V~VII(1)、IX(2) 椀×皿IX(1)、鉄絵(1)、壺III(1)、外反口縁(1)、 広東系(1)、白磁破片(1)
龍泉窯系青磁	椀：I(2)、I-1a(1)、II-b(3)、III-2C(2) 坏：III-3b(1) 龍泉破片：I(2)、IV香炉(1)
同安窯系青磁	椀：I-1b(2) 皿：I-1b(1)
高麗青磁	椀象嵌(1)
中国陶器	天目椀(1)
黒釉陶器	天目椀(1)
金属製品	鉄釘、鋳滓
石製品	剥片(安山岩)

表 7 第 35 次調査出土銭貨一覽表

銭貨銘	初铸年	赤褐色土 (緋銭)	赤褐色土	S-2	S-20	S-31	淡灰色砂	茶色砂	灰褐色土	整地 (黒褐色土)	黒褐色土	東南トレ ンチ整地	茶褐色土	東側 茶褐色土	表土	合計
軋元重寶	758年	1														1
開元通寶	960年	5							1							6
至道元寶	995年	2														2
咸平元寶	998年	4														4
景德元寶	1004年	3		1												4
祥符通寶	1008年	2														2
祥符元寶	1009年	2					1									3
天禧通寶	1017年	6														6
天聖元寶	1023年	9									1					10
景祐元寶	1034年	2							1							3
皇宋通寶	1038年	16	1			1									1	19
至和通寶	1054年	1														1
治平元寶	1064年	3														3
熙寧元寶	1068年	10											1			11
元豐通寶	1078年	13	1													14
元祐通寶	1086年	6														6
紹聖元寶	1094年	6														6
元符通寶	1098年	1	1													2
聖宋元寶	1101年	3							1							4
大觀通寶	1107年			1												1
政和通寶	1111年	4						1		1						6
淳熙元寶	1174年								1							1
不 明		1		1	1							2		1		6
計		100	3	3	1	1	1	1	4	1	1	2	1	1	1	121

2、第 42 次調査

(1) 調査に至る経緯

調査地は、太宰府市大字観世音寺（現在、観世音寺 1 丁目）字露切 82-2 で、太宰府市役所の南隣で、調査地の南側には御笠川が流れている。

調査は太宰府市商工会館建設に伴うもので、調査対象面積 601 m²であったが、南側は攪乱が大きく入っていたため、遺構が確認された北側を中心に発掘調査を実施した。調査面積 185 m²である。調査期間は 1983（昭和 58）年 6 月 10 日～6 月 30 日で、調査は狭川真一、山本信夫が担当した。

(2) 基本層位 (Fig. 53)

最上層に区画整理時の砂層（真砂土）などの盛土があり、その下には上から順に耕作土（暗青灰色粘土）、床土（暗茶灰色粘土）、茶色砂（第 1 砂層）があり、石垣（SX001）を覆う茶褐色土がある。この層について担当者は整地層としているが、床土や耕作土下の沈殿物層の可能性も考えられる。そして、石垣（SX001）の上面南側に薄く灰色砂、その下に黄色砂（第 2 砂層）となっている。それらを除去すると茶灰色粘土層が広がり、石垣（SX001）が検出された。石垣の掘り方はその茶灰色粘土層に切り込

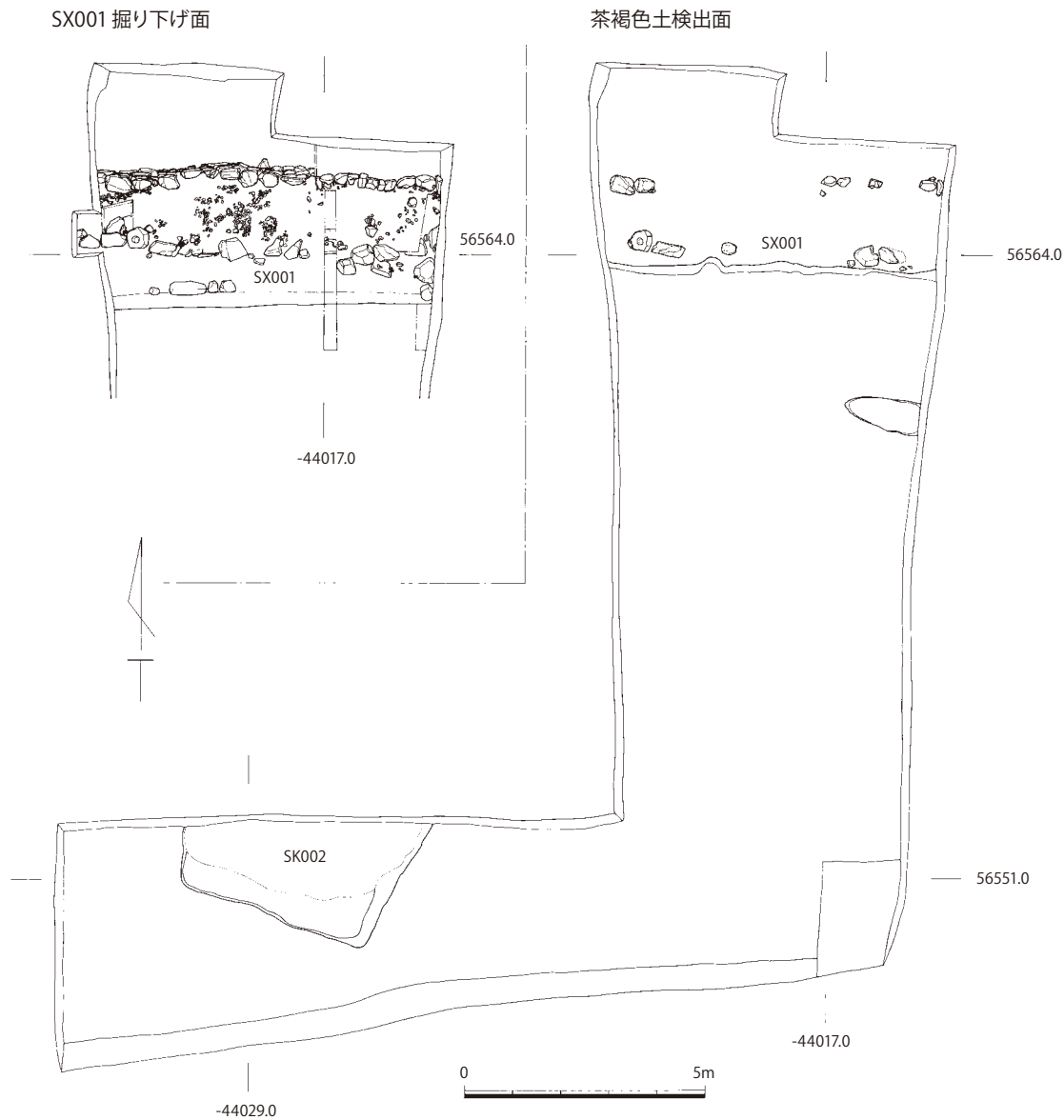


Fig. 52 第 42 次調査遺構全体図 (1/150)

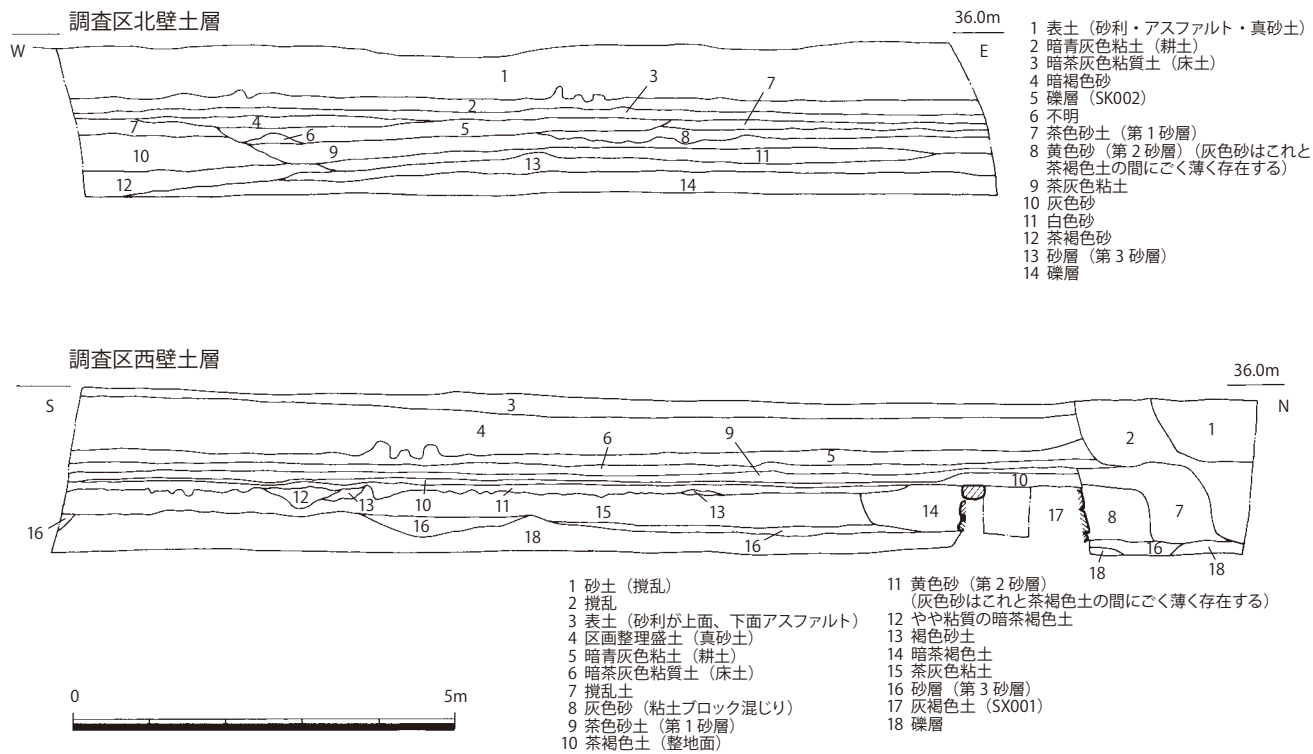


Fig. 53 第42次調査区土層実測図 (1/100)

んでいて、掘り方は暗茶褐色土で埋まっている。茶灰色粘土を除去すると砂層 (第3砂層) があり、その下には礫層が広がっている。遺構面は現地表面から深さ約1m付近にあり、標高はおおよそ34.9mである。

(3) 検出遺構

石垣および築地状遺構

42SX001 (Fig. 54)

調査区の北辺部で検出された石垣である。茶灰色粘土層に切り込んでいて。南側の掘り方は暗茶褐色土で埋まっている、石垣は北面しており、北側は大きさ0.2～0.5m前後の花崗岩礫を4段階、高さ0.8m程積んでいて、南側は石列である。石列と北側石垣との上面幅は1.5～1.8mで、その間には裏込め石とみられる大きさ0.1m以下の礫が多く検出された。遺構検出時には0.07m前後の段が検出され、その部分の茶灰色粘土はよく締まっていた、その下位から石垣が確認されたことから、築地があったと推測されている。南側石列の西端部では、径0.14m、深さ0.05m程の円孔を彫り込んだ石材 (0.45×0.45m) を検出され門礎と考えられる。門礎はやや傾いていることから、原位置を保っていない可能性が高いが、その直下の石組みは他に比べて丁寧に積まれており、門があった可能性も考えられる。しかし、石垣は現状で高さ0.8m程あり、その高低差を解消し出入りするための橋脚などの痕跡は確認できていない。

石垣北側前面は近代の大きな攪乱が認められ、最下層には砂礫層が認められる。石垣の一部は田圃の石垣として近代まで露出していたものと推測される。

(4) 出土遺物

42SX001 上面整地層

茶褐色土出土遺物 (Fig. 55)

中世国産陶器

壺 (1) 口縁部を折り曲げ、端部を直上させる。外面は茶褐色釉を施す。東海系。

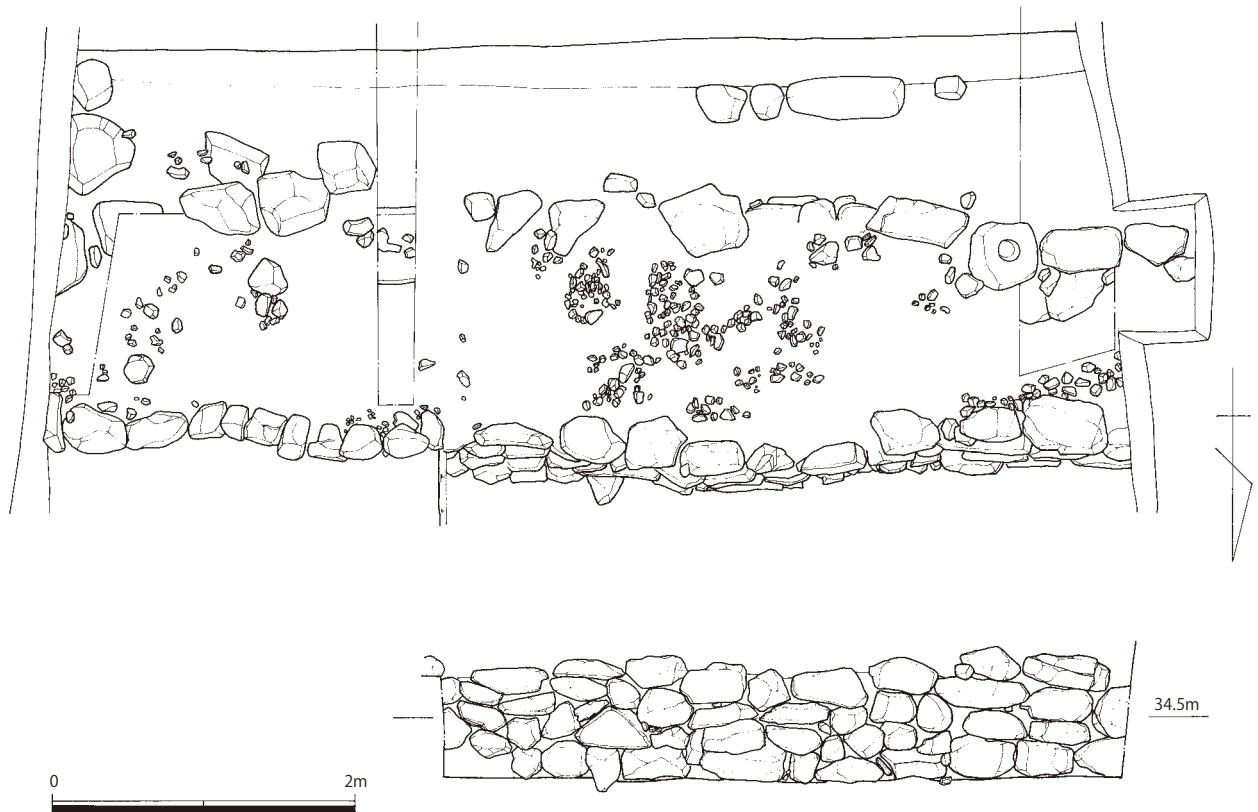


Fig. 54 42SX001 遺構実測図 (1/50)

白磁

皿 (2) IX-1a 類。復元口径 9.2 cm。口縁端部の釉を拭き取る。

碗 (3) XI-5 類か。外面に押圧縦線文を施す。

壺 (4) 胎土は白黄色でバサバサしている。外面には文様を陽刻し、内面には貫入のある透明釉を施し、外面は露胎である。広東系。

42SX001 南側整地層

暗茶褐色土出土遺物 (Fig. 55)

土師質土器

鉢 (5) 内外面とも回転ナデ調整である。色調は淡茶色を呈する。

中世国産陶器

鉢 (6) 胎土は白色砂粒や茶色粒を含む。内外面とも回転ナデで、外面には茶褐色釉が掛かる。

白磁

碗 (7) IX 類。口縁端部の釉を拭き取る。

龍泉窯系青磁

碗 (8) IV 類。光沢にある青灰色釉を施し、貫入が入る。

茶灰色粘土出土遺物 (Fig. 55)

青白磁

小壺 (9、10) 2点とも内外面とも僅かに青味を帯びた透明釉で、口縁端部の釉を拭き取る。体部外面は蓮弁状をなす。9は復元口径 4.9 cm。10は釉に大きく貫入が入る。

石製品

砥石 (11) 長さ 8.2 cm、幅 2.2 × 0.9 cm。4 面研磨され、使用時の刺突痕や擦痕がみられる。

第 3 砂層出土遺物 (Fig. 55)

須恵質土器

鉢 (12～15) 14・15 は口縁端部を若干肥厚させるが、12・13 は体部と口縁部は同じ厚さである。内外面とも回転ナデ調整である。

白磁

皿 (16～18) 16 は IX -1b 類。口縁端部内面の釉を拭き取る。復元口径 9.6 cm。17 は IX -b 類。口縁端部内面の釉を拭き取る。18 は体部内外面にやや青味がかかった乳白色釉を施す。高台内面は露胎で淡い黄茶色を呈する。内面はぼんやりと印花文がみえる。復元高台径 4.7 cm。枢府系。

椀 (19) IX 類。

同安窯系青磁

椀 (20) III -1c 類。

龍泉窯系青磁

坏 (21) III 類。明るいオリーブ色の釉を内外面に施す。復元高台径 5.6 cm。

椀 (22、23) 22 は II -b 類。外面に鎬蓮弁を施す。23 は III -1Aa 類。薄緑色釉を施す。

礫層出土遺物 (Fig. 55)

須恵質土器

鉢 (24) 口縁端部を断面三角形状に肥厚させる。内外面とも回転ナデ調整である。

土坑

42SK002 礫層出土遺物 (Fig. 56)

土師器

小皿 a (2) 口径 7.8 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

小皿 b (1) 復元口径 6.6 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

土師質土器

鉢 (3) 胎土は白色砂や茶色粒を多く含む。内外面ともヨコナデ調整である。

瓦質土器

火鉢 (4) 口縁部に向かって内湾させる。内外面ともヨコハケで、外面には 2 条の突帯を巡らせ、突帯間に四つ目菱のスタンプが巡る。胎土は内外面とも茶灰色で、断面は暗灰色を呈する。

中世国産陶器

甕 (5) 口縁部を外反させ、端部を折り曲げる。内外面とも回転ナデで、外面には自然釉が掛かる。常滑産。

白磁

皿 (6) IX -1b 類。口縁端部の釉を拭き取る。復元口径 10.2 cm。

近現代耕作土・整地層

暗茶灰色粘土出土遺物 (Fig. 56)

白磁

合子身 (7) オリーブ灰色だが白磁と推測される。復元口径 6.2 cm、器高 1.45 cm。口縁部と体部下半は露胎である。

青白磁

椀 (8) 低い高台を削り出し、内外面に水色がかかった光沢のある乳白色釉を施すが、高台内面は露胎

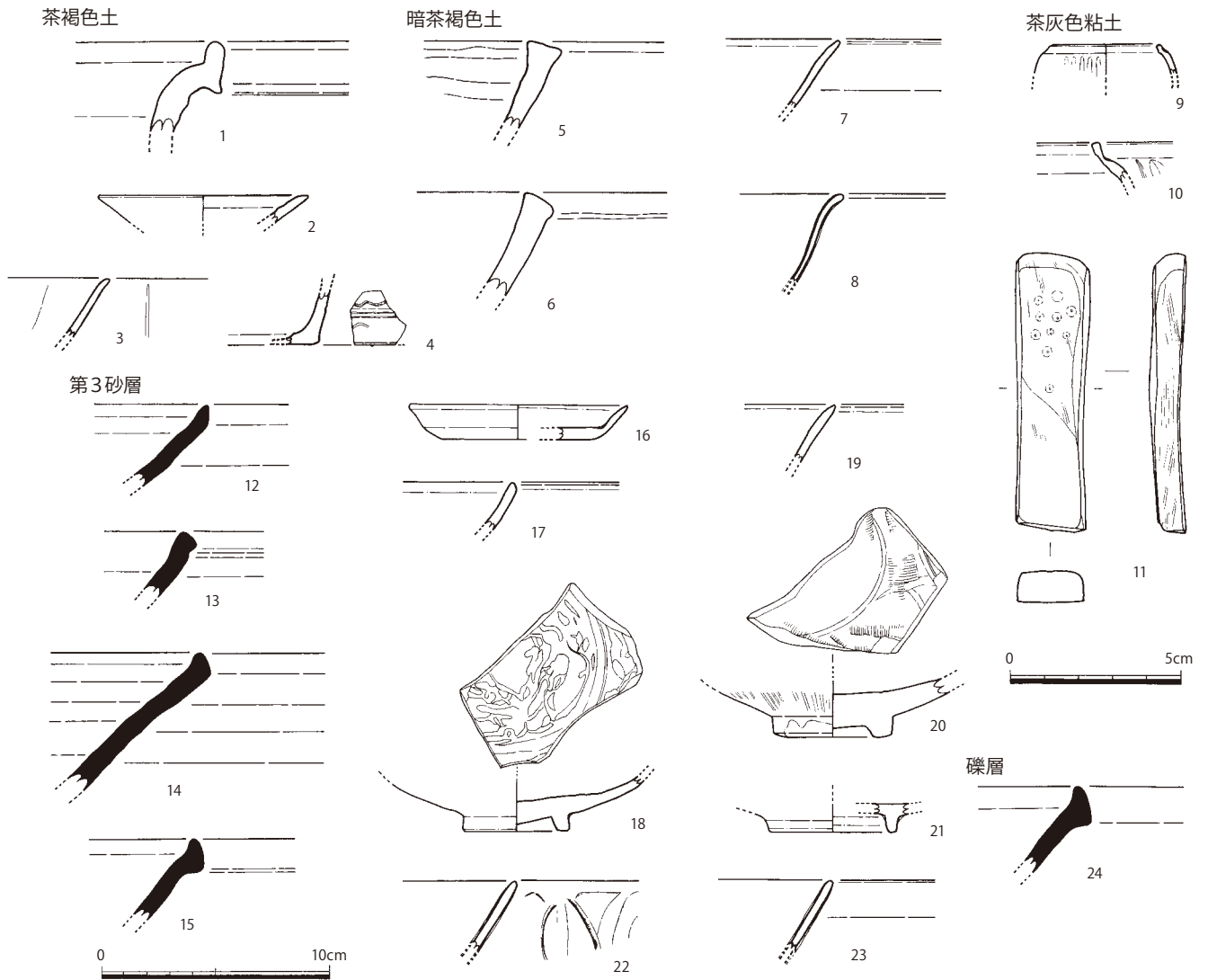


Fig. 55 42SX001 上面整地層、南側整地層出土遺物実測図 (1/3、11は1/2)

である。釉には貫入が入る。

皿もしくは椀 (9) 小片で器種は明確ではないが、内外面とも緑白色釉を施し、内面にへら描き文様を施す。

龍泉窯系青磁

坏 (10、11) 10がⅢ-1類。光沢のある明緑青色釉を厚く施す。11はⅢ-3類。光沢のある明緑灰色釉を厚く施す。釉には貫入が入る。

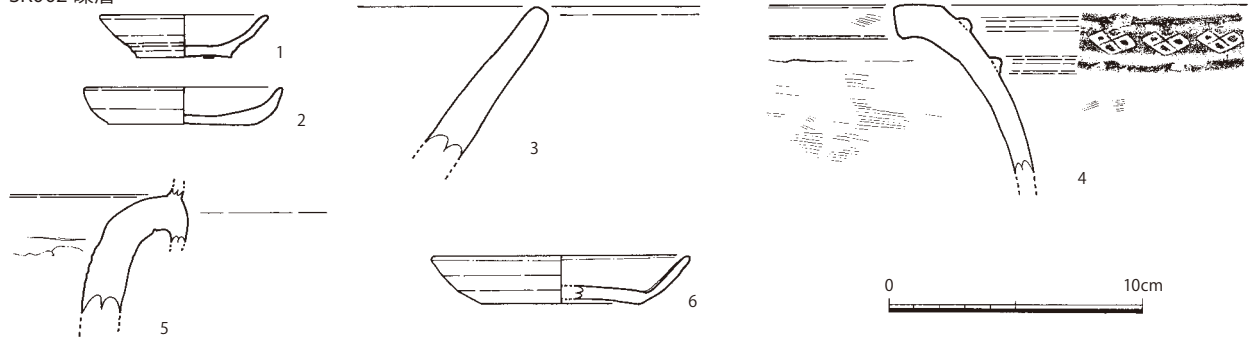
椀 (12～15) 12はⅢ-1Aa類。内外面とも緑灰色釉を厚く施す。13はⅣ類。内外面に緑青色釉を厚く施し、内面底部にへら描き文様を施す。復元高台径7.1cm。14はⅣ類。内外面とも緑灰色釉を施し、内面底部にへら描き文様を施す。高台内面は露胎。復元高台径7.0cm。15はⅣ類。外面にはへら描き文様を施す。

火入 (16) 復元口径7.5cm。外面に一部ハケ目があり、内外面とも淡緑色釉を厚く施す。

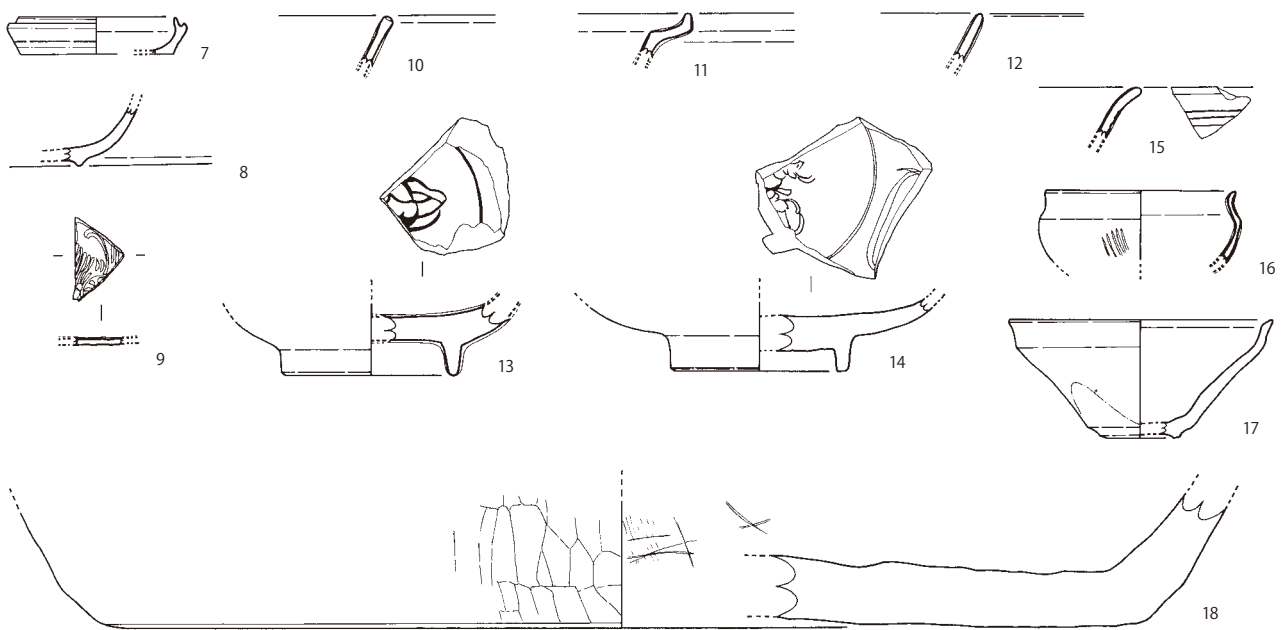
黒釉陶器

天目椀 (17) 復元口径10.4cm、器高4.65cm、復元底径3.2cm。胎土は精製され暗灰色を呈する。内外面とも黒色釉や茶黄色釉を施すが、外面下半は露胎である。

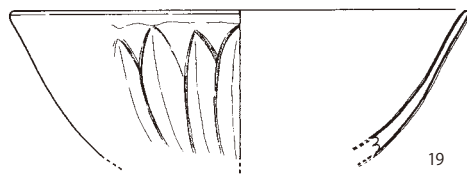
SK002 礫層



暗茶灰色粘土



茶色砂



カクラン



0 5cm

Fig. 56 42SK002、現代耕作土、攪乱出土遺物実測図 (1/3、18は1/2)

石製品

石鍋 (18) 復元底径 27.2 cm。内外面ともケズリ成形され、ケズリ痕を残す。滑石製。

茶色砂出土遺物 (Fig. 56)

龍泉窯系青磁

碗(19,20) 19はⅡ-b類。復元口径 18.0 cm。20はⅢ-2C類。細い鎬蓮弁を施し、青緑色釉を厚く施す。

攪乱出土遺物 (Fig. 56)

中世国産陶器

壺 (21) 復元口径 5.7 cm。胎土は淡灰色で、微細な白色砂を含む。外面と内面上部に光沢のある緑灰色釉を薄く施し貫入が入る。東海産か。

(5) 小結

今回の調査では遺構がほとんど確認されず、石垣と築地状遺構の一部が検出されたのみであった。石垣は北に面するように築かれていることから、その南側に屋敷の存在を窺わせる状況であった。しかし、第35次調査とほぼ同レベルで、石垣上に築地状遺構が僅かに残されている状況にもかかわらず、全く遺構が確認できない状況は大きく削平されたと考えより、当初から目立った掘削が行われなかったとみる方が妥当と考える。また、調査地南側約60mには現在でも御笠川が流れているが、河川改修される以前は調査地に近いもっと北寄りを行っており、石垣と御笠川の距離は約30～40m程であった。もちろん御笠川が中世にどこを流れていたかは明確ではないが、南岸の地形が北岸より高いことを考えると、御笠川の河道が現状より南側を流れることが考えられない。

また、区画整理される以前は周辺一帯には田圃が広がり、東側の御笠川にある露切堰から取水された水が、調査地北側を西に向かって流れ、露切地区一帯の水田を潤していた。調査でも石垣前面の底面でそれを裏付けるような砂礫層が検出されたが、耕作土は石垣上面を覆っていた。以上のことから築地状遺構と石垣は、全容こそ不明な点が多いが、北側の第35次調査で確認された中世館跡に関連して築造されたものと推測され、中世館が廃絶した後も土砂に覆われながらも田圃と水路の段差として現代まで残されたものと推測される。

参考文献

太宰府市『太宰府市史 環境資料編』2001年

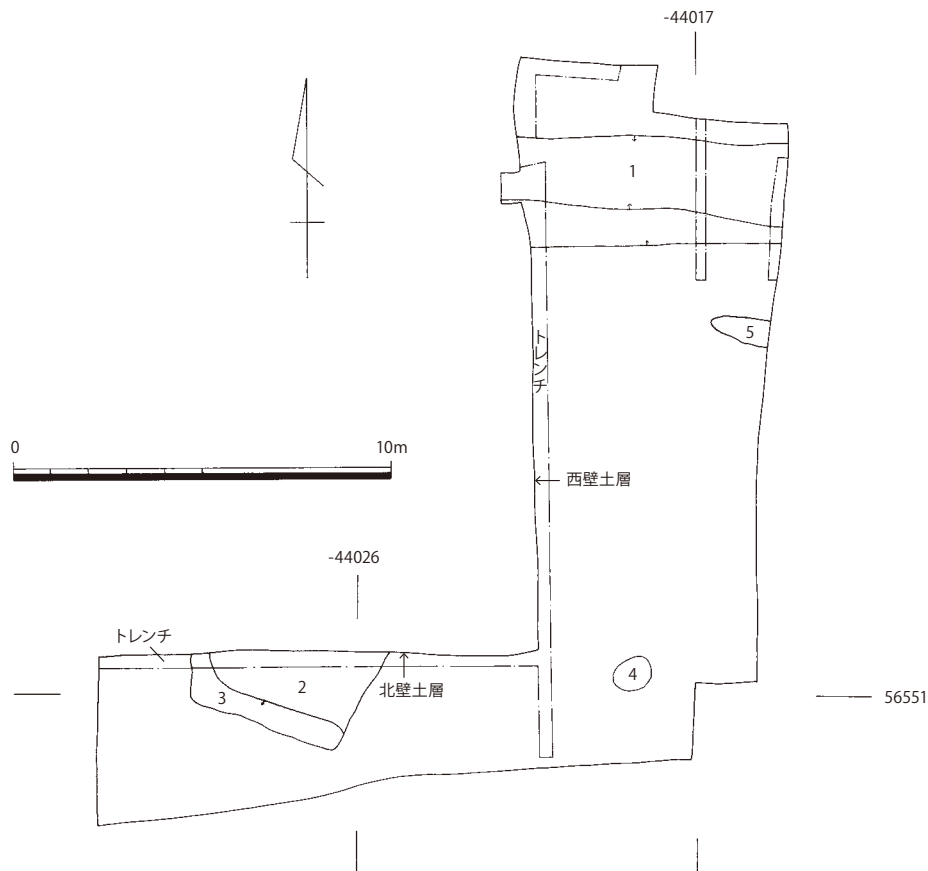


Fig. 57 第42次調査遺構略測図 (1/200)

表8 第42次調査 遺構一覧表

S-番号	遺構番号	種別	埋土等	時期	地区
1	42SX001	石垣	築地状遺構の下端部分の可能性もある。	14世紀前半～	
2	42SK002	土坑	礫が多く含まれる。S-3と同一遺構	近世以降	
3		土坑	S-2と同一遺構	近世以降	
4		ピット	埋土は黄色砂など。整地層より上方からの攪乱。	近世以降	
5		土坑	埋土は黄色砂。茶褐色土上面より掘削。土坑のプラン明瞭ではない。攪乱か？	近世以降	
暗褐色土(S-2西方)				13世紀～	
暗茶灰色粘土		床土		近世～	
茶色砂(第1砂層)			床土の一部か	13世紀後半～	
茶褐色土		整地		14世紀～	
灰色砂(トレンチ内)		整地	薄い層	14世紀～	
黄色砂(第2砂層、トレンチ内)		整地			
暗茶褐色土		整地	S-1の裏込め	14世紀前半～	
茶灰色粘土		整地	S-1築造前の整地	14世紀前半～	
第3砂層(トレンチ内)		整地	S-1築造前の整地 礫層の上	14世紀前半～	
礫層		整地	最下層	13世紀中頃～	

表9 第42次調査 出土遺物一覧表

暗褐色土(S-2西方)	
須恵器	破片
土師器	坏a
白磁	椀；V内面樋目(1)
龍泉窯系青磁	椀；I? (1)、II-b(1)
同安窯系青磁	椀；I-1b(1)
中国陶器	C群(1)

暗青灰色粘土	
龍泉窯系青磁	椀；I-1a(1)、I×II(1)

暗茶灰色粘土	
須恵器	坏c、甕
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)
黑色土器B類	破片
瓦質土器	椀c
土師質土器	鍋、破片
瓦質土器	鉢
肥前系陶磁器	磁器；椀 陶器；椀
中世国産陶器	甕(東海)、甕、破片
国産陶器	破片
国産磁器	椀、破片
白磁	椀；II-1(1)、IV(4)、IV-1a(1)、V-2b(1)、V-4c(1)、V-4×VIII-1×3(2)、VII-b(1)、VIII(2)、VIII? (1) 直口縁(1)、外面へラ(1)、椀破片(10) 皿；V~VII(2)、VI-1a(1)、VI-b(1)、IX(1)、広東系(1) 白磁破片(12)、直口縁(2) II水注×壺(1) 蓋×皿(1)、椀(1)、合子身(1)
青白磁	壺(1)
越州窯系青磁	椀；I(2)、I-1a(4)、I-4(2)、II-a?(2)、II-b(11)、III-1Aa(1) III-2C(4)、IV(4)、IV?(1)、小椀I-1(1)、椀破片(1) 坏；III-3(1)、IV(1) 皿；I(1) 連弁(1)、IV系小壺(1) 白磁破片；I(3)、III(2)
同安窯系青磁	椀；I-1(1)、I-1b(2)、III-1c(1) 皿；I(1)、I-1(1)
青磁	椀(1)
高麗青磁	椀；III-1(1)
黒釉陶器	天目椀(2)
中国陶器	A1群(2)、A群(1)、B群(5)、C群(3)、A1群耳壺?(1)、B群壺(2)、壺(1)、耳壺V-1(1) 鉢II-1(1)、鉢I-1b(1)、鉢IV(1) 水注?(1) 盤；I-1(1)、II-1(1) 甕III(1)、破片(4)
瓦類	平瓦
石製品	石鍋

茶色砂	
須恵器	破片
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)
瓦質土器	破片
瓦質土器	鉢、挿鉢
白磁	椀；V-4×VIII-1×3(1)、IX(1)、破片(2) 白磁破片(1)
龍泉窯系青磁	椀；II-b(1)、III-2C(1)、上田分類C?(1)
中国陶器	甕(2)、B群壺(1)
瓦類	破片

S-1南茶色砂	
土師器	小皿a、坏a、椀c
土師質土器	破片
瓦質土器	鉢
中世国産陶器	破片 瀬戸?
白磁	椀；II(1)、II-1(1)、IV(1) 皿；IX(1) 白磁破片(1)
龍泉窯系青磁	椀；II-b(1)
瓦類	破片

S-1直上	
中世国産陶器	甕
中国陶器	甕(1)

S-1茶褐色土	
須恵器	破片
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)、椀c
中世国産陶器	甕(東海)、甕(備前)、破片
白磁	椀；I-1(1)、IV(2)、V(1)、V-4×VIII-1×3(1)、XI-5(1) 皿；IX-1a(1) 白磁破片(1) 壺広東系(1)
越州窯系青磁	椀；I? (1)
龍泉窯系青磁	椀；I(2)、I-1a(1)、I-2(2)、II-b(1)、III(1) 皿；I(1) 壺?(1)
同安窯系青磁	椀；I-1b(1) 皿；I-1(1)
中国陶器	甕(3) 鉢(1) 壺IV-1a(1) B群壺(2) 破片；B群(1)、C群(1)

S-1下灰色砂	
土師器	坏a
瓦質土器	火舎の底?
白磁	椀；外反口縁(1)
青白磁	破片(1)
龍泉窯系青磁	椀；II-b(1)
瓦類	破片

灰色砂(側溝)	
須恵器	破片
土師器	坏
瓦質土器	鉢
白磁	椀；破片(1) 白磁破片；(1)、屈折口縁(1)
龍泉窯系青磁	椀；I(1)、I×II(1)
中国陶器	耳壺(1)

S-1南暗茶褐色土	
須恵器	蓋3、甕
土師器	坏a(イト)、坏c?
瓦質土器	挿鉢、火舎
土師質土器	鉢、甕
中世国産陶器	鉢、甕
白磁	椀；IV(3)、V-2a(1)、V-1×VIII-2(1)、IX(1) 白磁破片；(1)、直口縁(1)
越州窯系青磁	椀；I(1)
龍泉窯系青磁	椀；I(2)、I-2(1)、I-3(1)、IV(1)
同安窯系青磁	椀；I-1b(2)
中国陶器	甕(2) 破片；C群(1)

S-1茶灰色粘土 (S-1南茶灰色粘土)	
須恵器	蓋
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)
須恵質土器	鉢
白磁	椀；V-4×VIII-1×3(1) 皿；VI-a(1) 皿×椀；IX(1) 白磁破片；(3)、直口縁(1)
青白磁	小壺(2)
越州窯系青磁	椀；I-2(1)
龍泉窯系青磁	椀；II-b(1)、III-2C(1)
同安窯系青磁	椀；I-1b(2) 皿；I-1(1)
中国陶器	耳壺VII(1) 破片；C群(2)
瓦類	破片
石製品	砥石

第3砂層(側溝)	
須恵器	蓋c3、坏c、甕
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)、高台
瓦質土器	椀c
中世国産陶器	甕、破片
国産陶器	破片
白磁	椀；II-1(1)、IV(3)、V(1)、V-2a(1)、V-2b(1) V-4(1)、V-4c(1)、IX(2) 皿；IX(1)、IX-1b(1)、IX-b(1)、枢府(1) 白磁破片(1)、外反口縁(1) 壺(1)
龍泉窯系青磁	椀；I-1a(1)、II-b(3)、II-b?(1)、III-1Aa(1) 皿；I-2C(1) 坏；III(1)
同安窯系青磁	椀；I(1)、I-1b(1)、I-2b(1)、III-1c(1) 皿；I(1)
中国陶器	甕(3) 鉢I(1)、B群鉢?(1) B群(2)
須恵質土器	鉢
瓦質土器	鉢
瓦類	平瓦
石製品	石鍋

磔層	
須恵器	破片
土師器	小皿a、坏a(イト)、甕
中世国産陶器	甕
白磁	椀；IV(2)、V(1)、V-1a(1)、VIII(1) 皿；III-1(1) 壺?(1) 白磁片；直口縁(1)
龍泉窯系青磁	椀；I(1)、III-2C(1)
同安窯系青磁	椀；I-1b(1) 皿；I(1)
中国陶器	B群(1)
須恵質土器	鉢
瓦質土器	挿鉢

S-2	
須恵器	破片
土師器	坏a(イト)

S-2磔層	
土師器	小皿a、小皿b、坏a、小椀c
土師質土器	鉢
瓦質土器	火鉢
中世国産陶器	甕(東海)、破片
肥前系陶磁器	磁器片(現代) 陶器片
白磁	椀；V-4(1)、VIII(3)、椀破片(3) 皿；II-1a(1)、IX(1)、IX-1b(1) 壺(1) 白磁破片；(1)、直口縁(1)
龍泉窯系青磁	椀；I(1)、I-1a(1)、I-2(2)、I-4(1)、II-b(1)、III-2C(1)
同安窯系青磁	皿；I(1)
中国陶器	盤；II-1(1) B群壺(2)
瓦類	破片

S-3	
須恵器	破片
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)
瓦質土器	椀
土師質土器	挿鉢、鍋?
中世国産陶器	壺?(瀬戸?)
白磁	椀；IV(1)、V-4×VIII-1×3(1)、VIII?(1) 皿；II-1(1) 四耳壺III-3(1) 白磁破片；(1)、直口縁(1)、広東系(1)
龍泉窯系青磁	椀；I(2)、I-1(1)、III-2C(1)
中国陶器	甕(1) A2群壺×水注(1) C群(1)

S-5灰色砂	
土師器	小皿a、坏
越州窯系青磁	破片I(1)
同安窯系青磁	椀；I(1)、I×II(1)
中国陶器	破片C群(1)

攪乱土中	
須恵器	蓋、甕
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)
瓦質土器	破片
瓦質土器	鉢
中世国産陶器	甕、壺
肥前系陶磁器	椀(現代)
白磁	椀；II-1(1)、V(2)、椀破片(2) 白磁破片(1)
龍泉窯系青磁	椀；II-b(1)
同安窯系青磁	皿；I(1)
中国陶器	鉢；I-1(3) B群(2)
瓦類	破片

3、第 309 次調査

(1) 調査に至る経緯

調査地は太宰府市観世音寺 1-1-1 の太宰府市役所敷地内で、庁舎の東側にある庁舎別棟の北隣である。2015(平成 27)年 2 月中旬、太宰府市役所庁舎の非常用電源設備改修工事に先立ち、市管財課が庁内職員に対し工事予告を行ったことにより、事前に文化財課と協議が行われていなかったことが発覚した。その後緊急に協議が行われ、工事内容が深さ 3m の掘削を行うこと、年度内の事業として発注されていたことなどから、急遽 3 週間の調査期間を確保し、調査を行うこととなった。なお、2 月 24 日の部長会議において、工事に先立つ文化財の取り扱いについて、十分な調整を行うことを周知徹底するよう要請された。

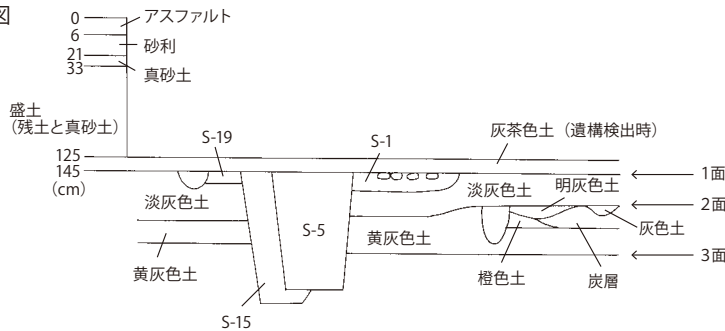
発掘調査は、他の現場が切迫している関係で少数の作業員で行わざるを得なかったが、作業員の努力と協力により予定通りに終了することができた。また、市役所敷地内という立地から、職員が埋蔵文化財を気軽に見学できる絶好の場所であり、また、確定申告の時期と重なり、一般来庁者にも目に触れる機会となり、狭くて短い調査期間ではあったが、普及啓発には有効な機会となった。

発掘調査は 2015(平成 27)年 2 月 24 日～3 月 12 日に実施した。開発対象面積は 18 m²だが、若干広めに工事掘削を行うため、調査面積は 21.3 m²であった。調査は宮崎亮一が担当した。

(2) 基本層位 (Fig. 58)

最上面はアスファルトで、その下にはそれに関連した碎石と真砂土が均等に入り、合せて厚さ 0.3m 程である。その下は市役所造成時の盛土が真砂土や残土等で厚さ 0.9m 程行われ、遺物包含層は地上から 1.2m の深さから確認できるが、耕作土は残されていない。

調査区土層模式図



調査区北壁土層

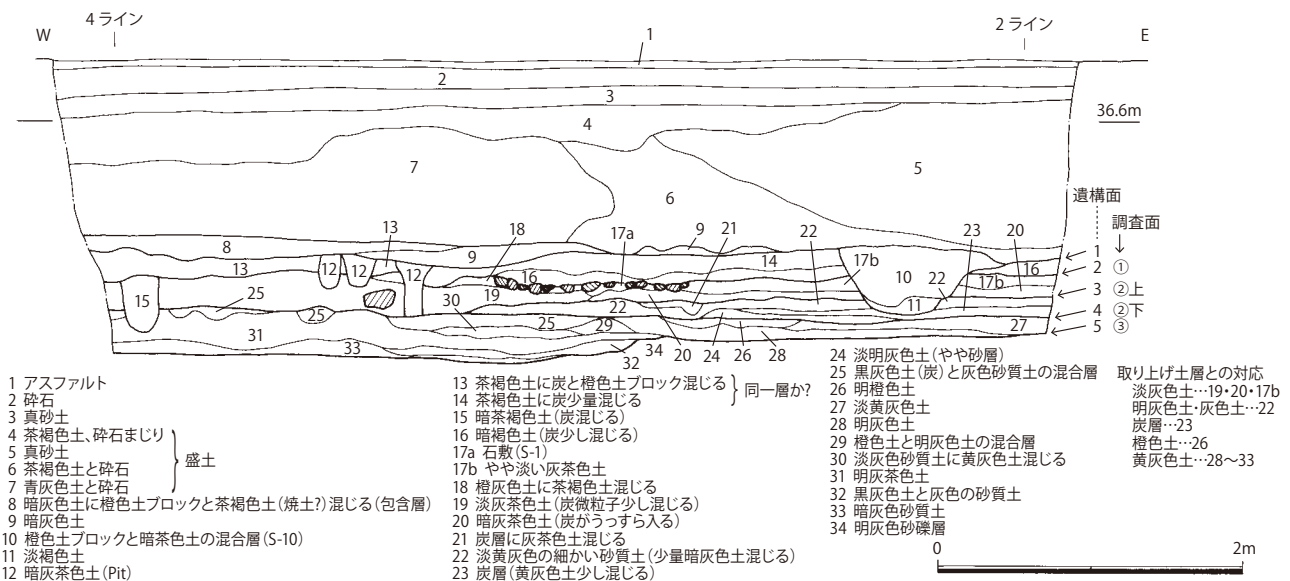
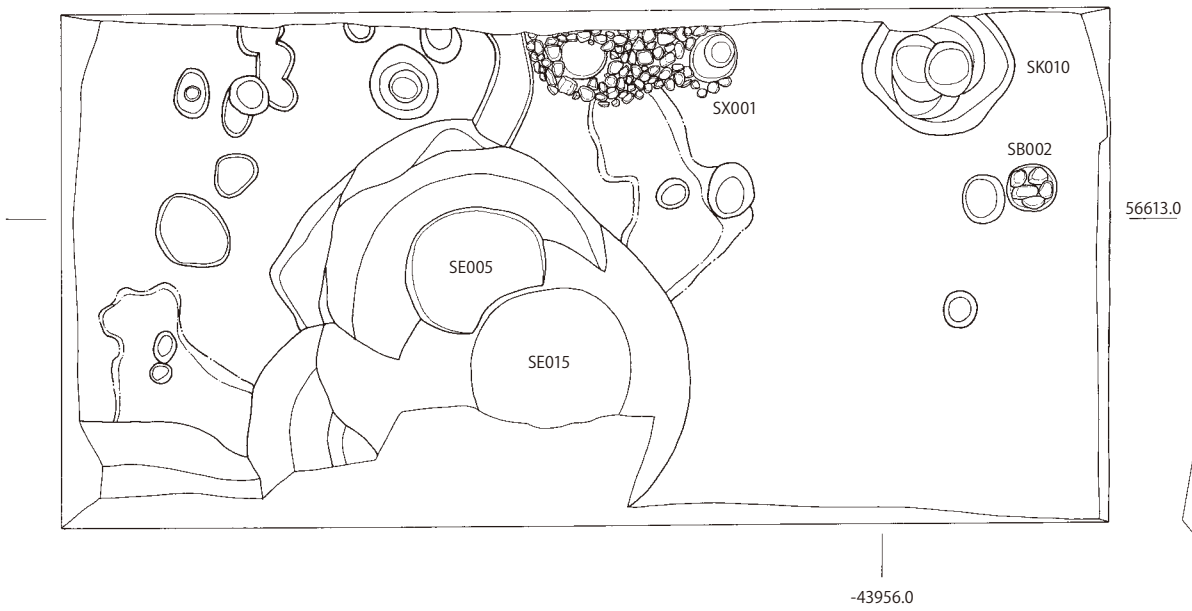
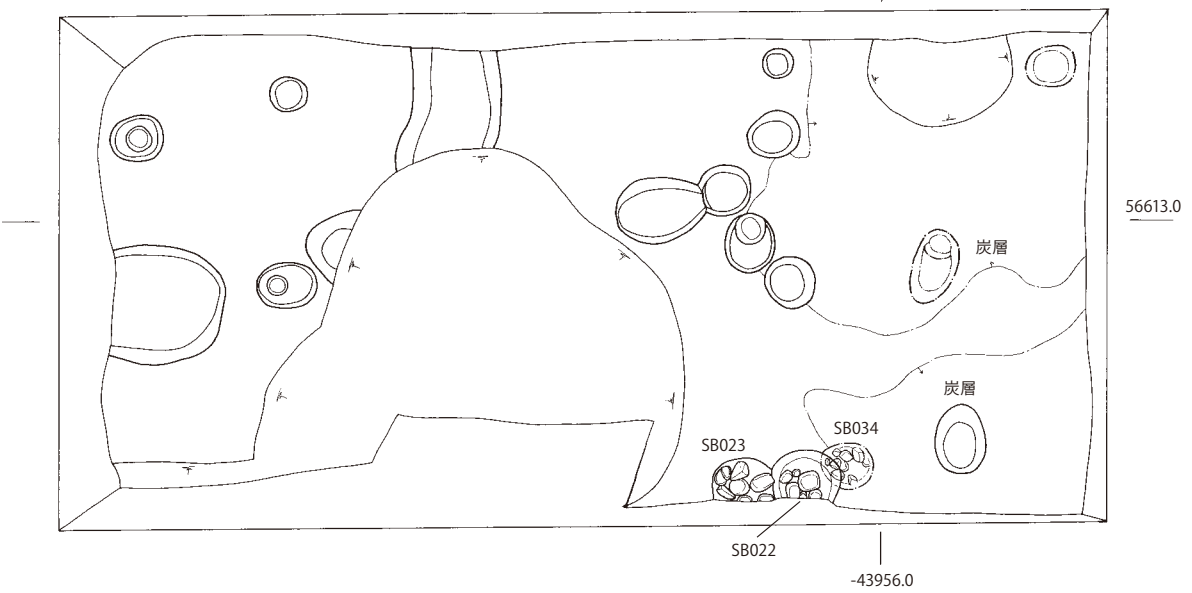


Fig. 58 第 309 次調査区土層模式図・実測図 (1/50)

第1調査面



第2調査面



第3調査面

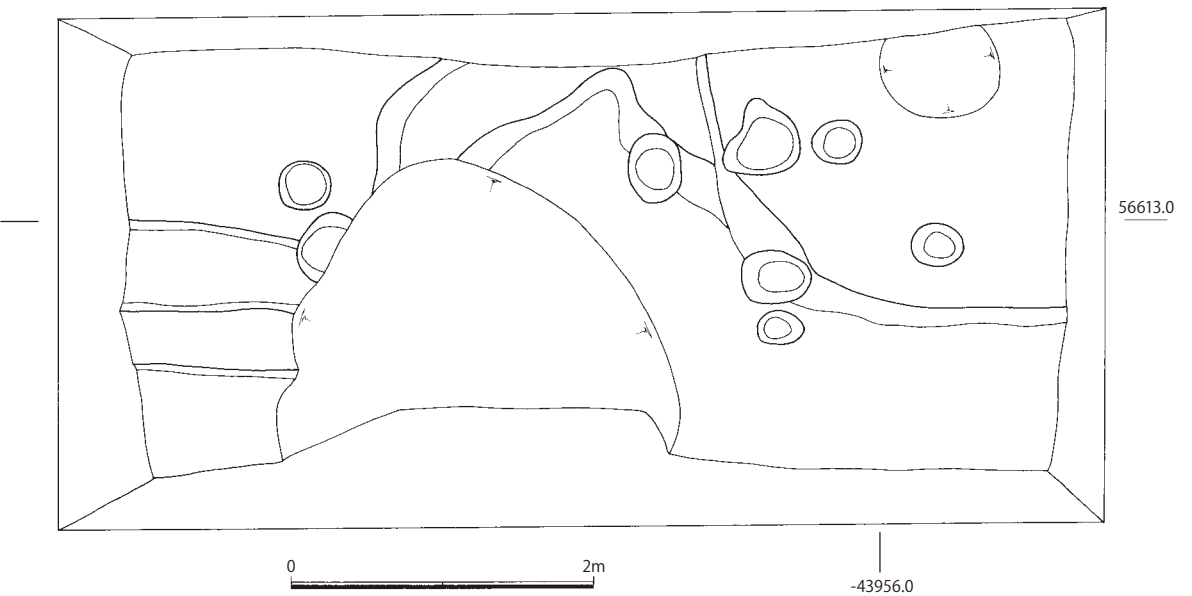


Fig. 59 第309次調査遺構全体図 (1/50)

遺構面は調査最終段階で、壁面精査等により全体で5面とされる。しかし、最上面については厚さ0.1m前後の包含層と共にバックホウで除去してしまい、調査時に1面目（第1調査面）としたのは遺構面と言えば2面目（第2遺構面）であった。その基盤層とした淡灰色土を除去した面が第3遺構面（第2調査面上）で、調査区の東側に灰色土や炭層が確認され、それらを除去した面を第4遺構面（第2調査面下）とした。その第4遺構面の基盤層である黄灰色土を除去した面が第5遺構面（第3調査面）で、その基盤層は遺物を含まない砂礫層で、河川堆積層ではあるが、いわゆる地山に該当する地盤で、地上からこの地盤まで深さ1.9mを測る。

(3) 検出遺構

○第1調査面（第2遺構面）

礎石建物跡

309SB002 (Fig. 60)

柱穴1個を検出ただけであるが、柱穴には礫が敷かれており、礎石の根石と推測される。柱穴は径0.32m。建物は調査区の北もしくは東方向に展開すると予想される。

井戸

309SE005 (Fig. 60)

井戸枠は上部が石組み、下部が結桶で構成された井戸である。石組みは径0.76m前後の円形で、大きさ0.2～0.3m前後の礫を積むが、高さは約3段分しか残っていなかった。最下段付近については結桶に隠れていたとみられる。

結桶は3段残っているが、最上段の結桶は高さ0.05m程しか遺存していなかった。中段の結桶は上部が腐食し現存高0.55mで復元高約0.7mと推測される。桶は27枚の板材で作られ、外側の下端近くには幅0.02～0.03mのタガ痕跡が残っていた。結桶の径は上部が小さく下部がやや広く、上部径は0.76～0.77m、下部は0.8mで、これは下段の結桶と同形である。下段の結桶は現存高0.65m前後で、約24枚の板材で構成され、板材は最も残りが良いもので厚さ約0.03mである。結桶外側では上下2ヶ所にタガ痕跡が確認された。特に上部のタガは上の結桶を受けている状態であった。中段結桶と下段結桶は0.17m重なりあっていた。下段結桶内の中位付近には礫が並んでいたため、当初井戸底の礫敷きと考えられたが、その下位に砂層があり、砂層の下には焼土や炭（橙灰色土）が0.2m前後堆積していた。橙灰色土は明らかに湧水には不適格な土壌であることと、橙灰色土の最上面から銭が多く出土したことなどから、井戸埋没時に橙灰色土や銭を入れ、祭祀を行ったものと推測される。よって、礫敷は埋没時に投げ込まれた礫がたまたま並んでいたものと考えられる。なお、井戸底には礫敷などの痕跡は全く存在していなかった。

遺構検出時は、礫が円形に確認できなかったため、石組み上部は意図的に破壊されたものと考えられ、埋土にも礫が多く含まれていた。井戸の掘り方は径1.8mの円形で、井戸底近くは、下段の結桶が設置できる分の大きさだけ掘り込んでいた。遺構検出面からの深さは1.95mである。

309SE015 (Fig. 60)

SE005に切られた井戸で、掘り方の一部は遺構検出時に確認できていたが、井戸と明確に確認できたのはSE005の下段結桶の上部と同じレベルくらいからである。掘り方は径2.4m、深さ2.15mである。

結桶は1段のみ遺存し、径は上部が0.76～0.77m、下部が0.79mと下部がやや広い。現存高は0.78m前後である。桶を構成する板材は22枚であった。底面近くには礫が多くみられたが、礫敷と呼べるものではなかった。結桶の裏込め土のうち井戸底から0.2m付近までは大きさ0.5～0.1m程の礫のみで埋められており、湧水を考慮したものと推測される。井戸底で板材を1片検出したが、板材の端に結桶が

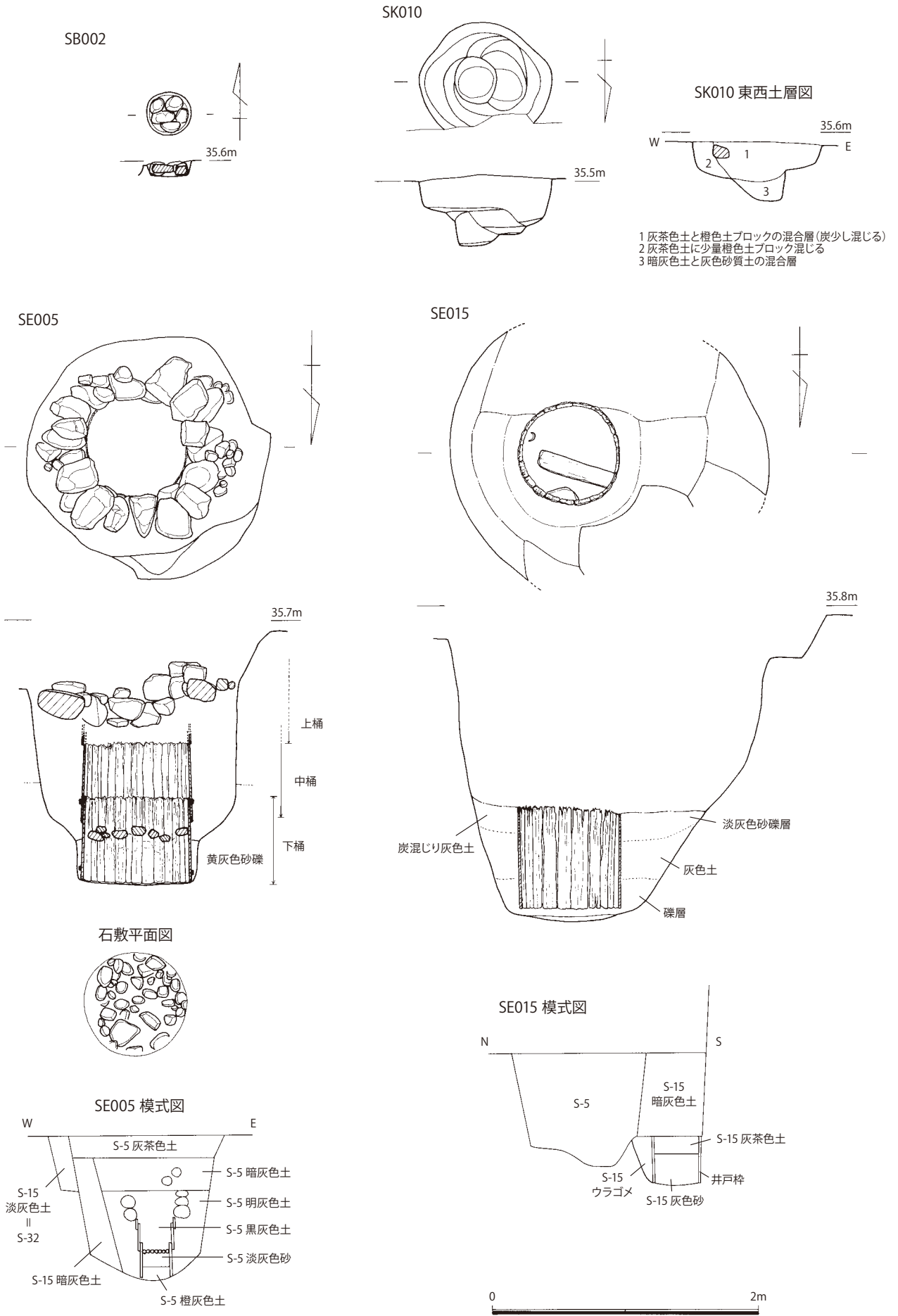


Fig. 60 309SB002、SE005・015、SK010 遺構実測図 (1/40)

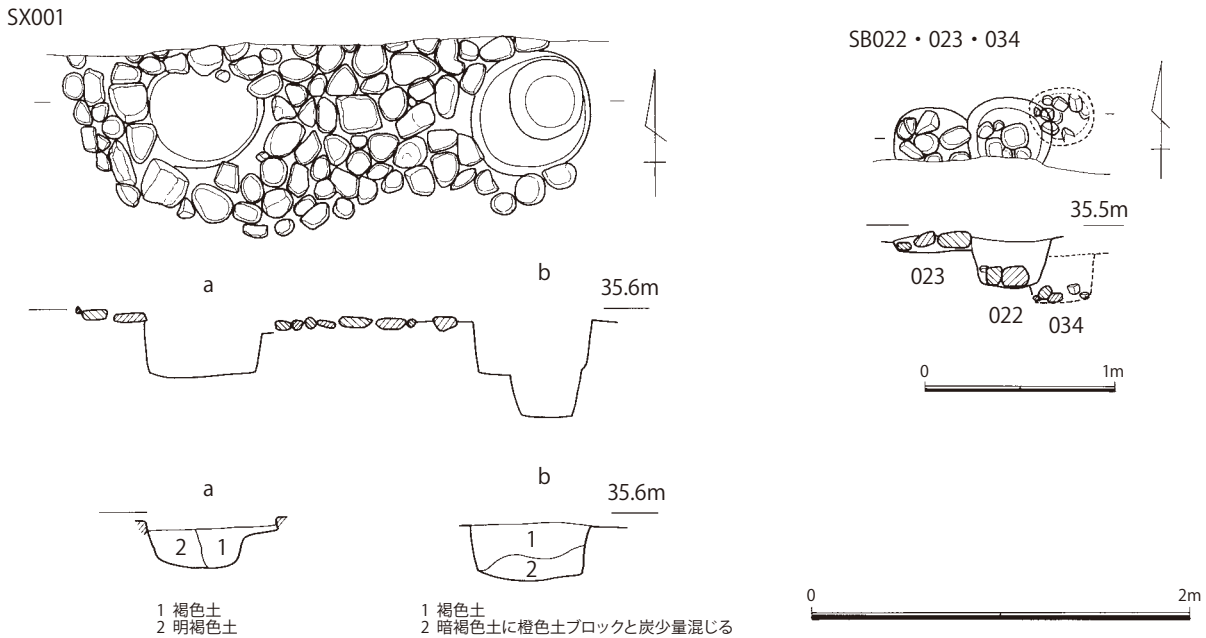


Fig. 61 309SX001 (1/20)、SB022・023・034 遺構実測図 (1/40)

乗っており、当初からあったものと推測される。

土坑

309SK010 (Fig. 60)

調査区北辺で検出されたもので、東西 1.0m、南北 0.8m、深さ 0.5m の円形状の土坑である。埋土は上層が橙色土や炭を多く含み、下層は暗灰色土や灰色砂質土であった。調査区壁の土層では盛土直下から切り込み、上層の埋土が SE005 の井戸桶内の最下層で検出された橙灰色土とした埋土と似ており、同時期の可能性が考えられる。

石敷遺構

309SX001 (Fig. 61)

調査区北辺で検出されたもので、北側に続いている。大きさ 0.1m 前後のやや扁平の礫を、面を揃えるように敷き並べている。範囲は東西 1.36m、南北 0.53m で、厚さは礫 1 個分で、下部に遺構は見られなかった。また、石敷きの 2ヶ所にピットが掘られているが、埋土を見る限り柱が腐ったような明確な痕跡は確認できず、検出範囲で石敷の目的は明確にできなかった。

○第 1 調査面基盤層 (第 2 遺構面基盤層)

調査時は淡灰色土として取り上げていたもので、灰茶色土に炭粒が僅かに入っていた。厚さは 0.15 ~ 0.2m 程である。出土遺物から 12 世紀後半前後と推測される。

○第 2 調査面 (第 3・4 遺構面)

礎石建物跡

309SB022・023・034 (Fig. 61)

礎石建物の柱穴と推測される遺構であるが、調査区南辺で検出したため、どのような規模かは全く不明。遺構は礫が敷かれているピットだが、石敷きの上には土が充満しており、礎石は残っていなかったが根石と推測される。これらはほぼ同じ位置で検出されたため、建て替えの可能性が考えられる。

○第 2 調査面基盤層 (第 3・4 遺構面基盤層)

主に淡黄灰色の細かい砂質土と炭層で構成されているが、この整地は調査区の東半分では確認でき

なかったが、炭層は厚さ 0.05m ほどで、土が混ざることなく広く均一にあることから、燃えカスを均した可能性が考えられる。出土遺物から 12 世紀中頃～12 世紀後半と推測される。

○第 3 調査面（第 5 遺構面）

浅い流路のような暗灰色砂礫層とピットが見られたが、目立った遺構は確認できなかった。僅かに検出された遺構の遺物から 11 世紀後半～12 世紀前半と推測されることから、平安後期以降に遺構が展開したことがわかった。

なお、3 面目の基盤層は砂礫層で、御笠川の堆積層と推測されるが遺物は見られない。

(4) 出土遺物

○第 1 面

井戸

309SE005

309SE005 灰茶色土出土遺物 (Fig. 62)

土師器

坏 a(1) 体部が大きく開く。底部切り離しは回転糸切り。復元口径 14.15 cm。色調は黄橙色を呈する。

土師質土器

脚付鉢 (2) 内外面ともナデ調整である。底部端に幅 3.3 cm 前後、厚さ 1.5 cm 程の脚を貼付する。黄白色を呈する。

須恵質土器

鉢 (3、4) 3 は口縁端部を大きく肥厚させ、端部外面のみ黒色化する。東播系。4 は灰色を呈し、底部は糸切りである。復元底径 6.8 cm。

甕 (5) 胎土は白色砂粒を多く含み、灰色を呈する。外面はハケ目、内面はヘラケズリである。

瓦質土器

鉢 (6) 内面はハケ調整だが使用により摩滅する。復元底径 9.5 cm。

金属製品

銭貨 (7) 劣化が目立つが「淳熙元寶」(1174 年初鑄) とある。径 2.5 cm。

309SE005 暗灰色土出土遺物 (Fig. 62)

土師器

小皿 b (8) 底部切り離しは回転糸切りで、板状圧痕を残す。

坏 a (9～11) 底部切り離しは回転糸切りで、板状圧痕を残す。復元口径 12.0～12.6 cm。

須恵質土器

鉢 (12) 東播系。

甕 (13) 胎土は白色砂粒を多く含み、焼成良好で暗灰色を呈する。内面は同心円の当て具の後に平行叩きを行い、外面は平行叩きである。

瓦質土器

鉢 (14、15) 14 は内外面ともハケ調整するが外面は摩滅する。色調は淡灰色を呈する。15 は内面ハケ調整、外面はナデ調整で指頭圧痕が残る。色調は白灰色を呈する。

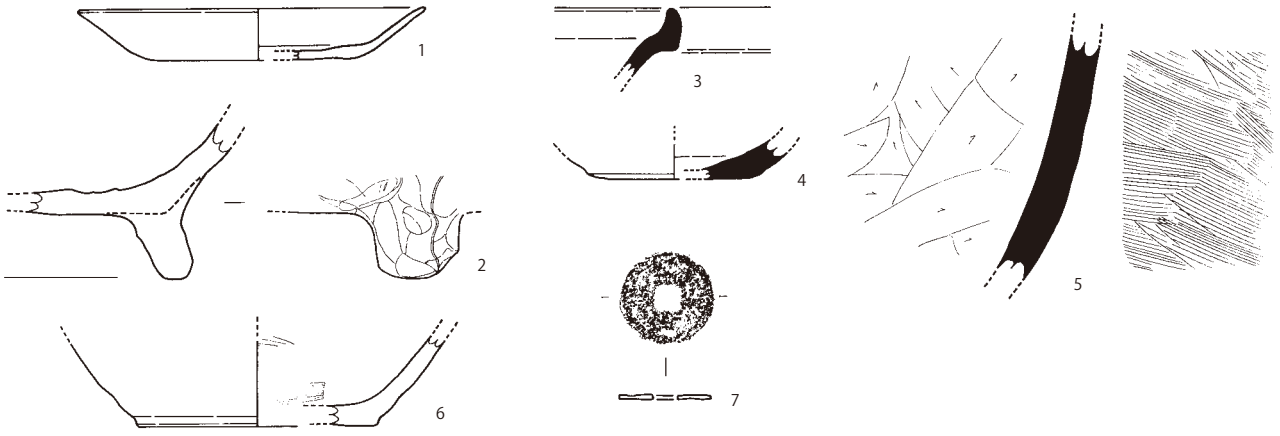
白磁

椀 (16) IX-1 類。

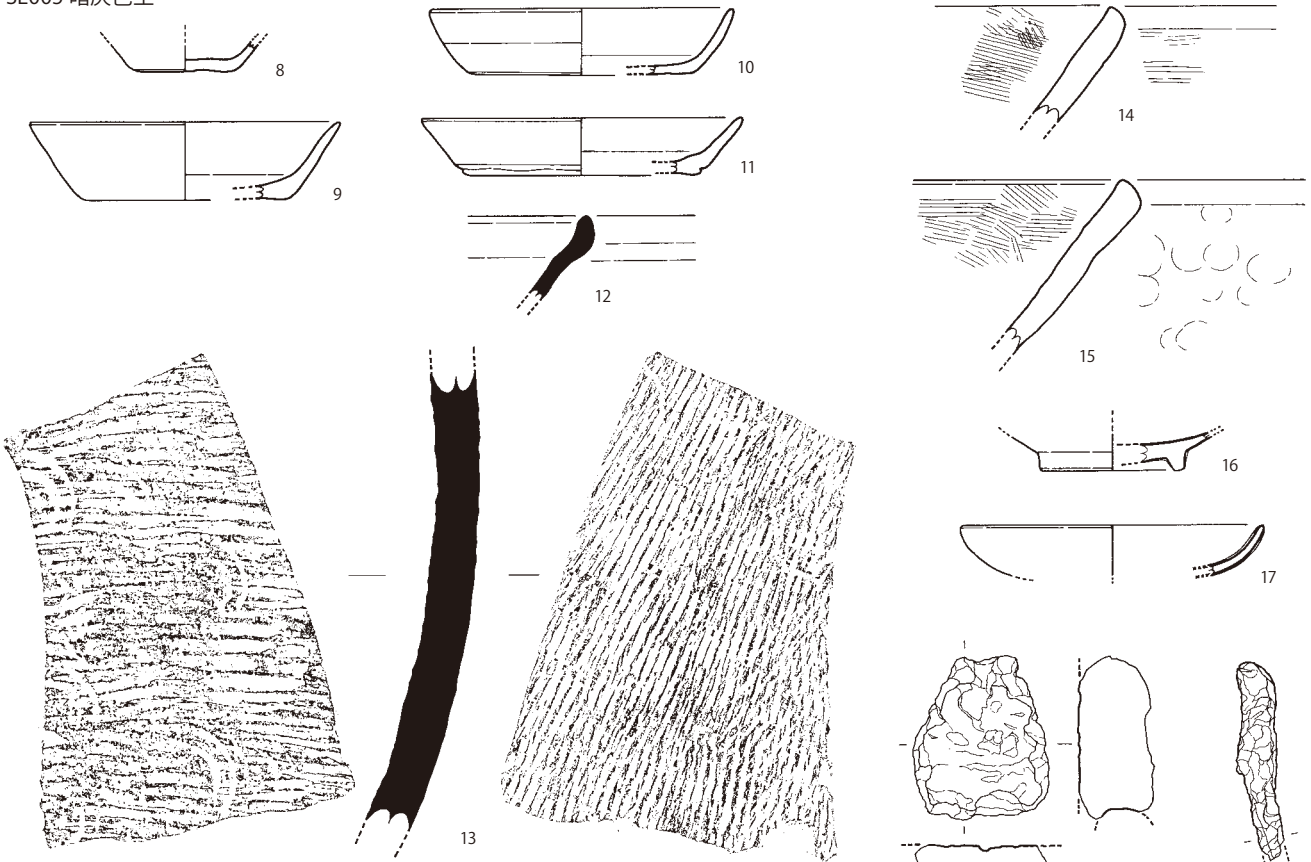
龍泉窯系青磁

皿 (17) IV 類。光沢のある薄緑色釉を厚く施す。復元口径 12.0 cm。

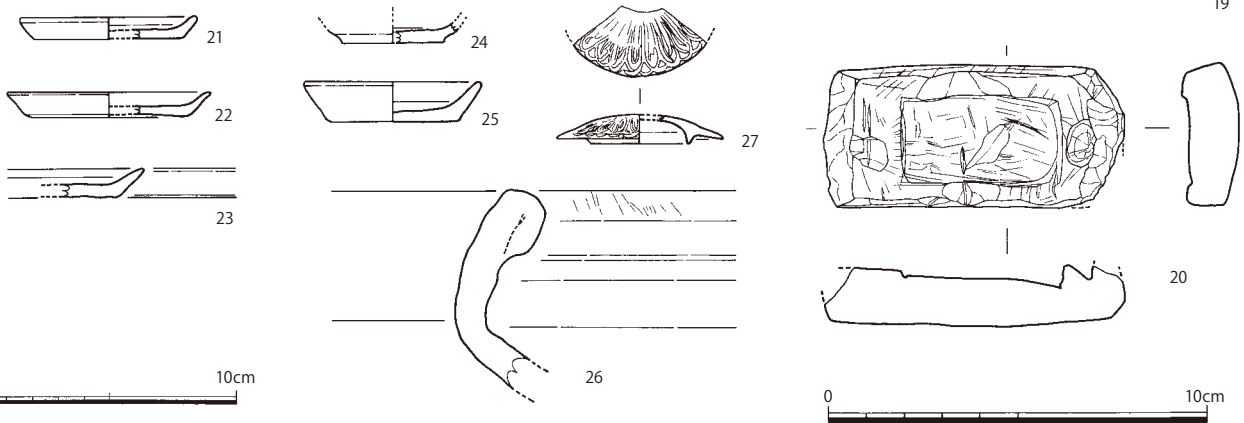
SE005 灰茶色土



SE005 暗灰色土



SE005 黒灰色土



0 10cm

0 10cm

Fig. 62 309SE005 出土遺物実測図① (1/3、金属製品・石製品は1/2)

土製品

土壁 (18) 片面に平坦面を作り、断面に小舞痕が残る。

金属製品

鉄釘 (19) 若干曲がった角釘で、先端を欠損する。現存長 5.2 cm。

石製品

滑石硯 (20) 長さ 7.9 cm、幅 3.8 cm、厚さ 1.1 ~ 1.5 cm。中央を 2.3 × 4.3 cm、深さ 0.15 ~ 0.6 cm ほど方形に彫り込む。石鍋の転用で外面の一部に煤が残る。

309SE005 黒灰色土出土遺物 (Fig. 62)

土師器

小皿 a (21 ~ 23) 底部切り離しは回転糸切りで、板状圧痕を残す。復元口径は 21 が 7.0 cm、22 が 8.0 cm。

小皿 a もしくは小皿 b (24) 底部切り離しは回転糸切りで、板状圧痕を残す。復元底径 4.0 cm。

小皿 b (25) 底部切り離しは回転糸切りで、板状圧痕を残す。復元口径 7.0 cm。

中世国産陶器

甕 (26) 口縁部を折り曲げ、玉縁状に肥厚させる。胎土は白色砂粒を含み、焼成良好で暗灰色を呈する。備前産。

青白磁

蓋 (27) 外面に蓮弁状の浅い彫り込みを行い、外面のみ透明度の高い透明釉を施し、内面は露胎である。復元口径 6.6 cm。

309SE005 淡灰色砂出土遺物 (Fig. 63)

土師器

小皿 a (28) 底部切り離しは回転糸切りである。復元口径 8.0 cm。

坏 a (29) 底部切り離しは回転糸切りである。復元口径 12.2 cm。色調は黄橙色を呈する。

龍泉窯系青磁

椀 (30) 内外面に黄緑色がかった透明釉を厚く施す。IV類。

中世国産陶器

甕 (31) 口縁端部を折り曲げ玉縁状に肥厚させる。胎土は黄橙色で、内面は暗灰褐色や茶色、外面は灰褐色を呈する。備前産。

金属製品

鋌 (32) 長さ 1.3 cm、幅 1.5 ~ 1.8 cm。銅製で緑青に覆われている。

銭貨 (33 ~ 44) 宋銭で、径は 2.3 ~ 2.5 cm。33 は「天聖元寶」(1023 年初鑄)。34・35 は「皇宋通寶」(1038 年初鑄)。36 は「明道元寶」(1032 年初鑄) で、半分欠損する。37 は「天禧通寶」(1017 年初鑄)。38・39 は「熙寧元寶」(1068 年初鑄)。40・41 は「元祐通寶」(1086 年初鑄)。42 は「元豐通寶」(1078 年初鑄)。43 は「元符通寶」(1098 年初鑄)。44 は「政和通寶」(1111 年初鑄) で、半分欠損する。

309SE005 明灰色土出土遺物 (Fig. 63)

土師器

小皿 a (45、46) 底部切り離しは回転糸切り。口径は 7.8 cm と 8.2 cm。

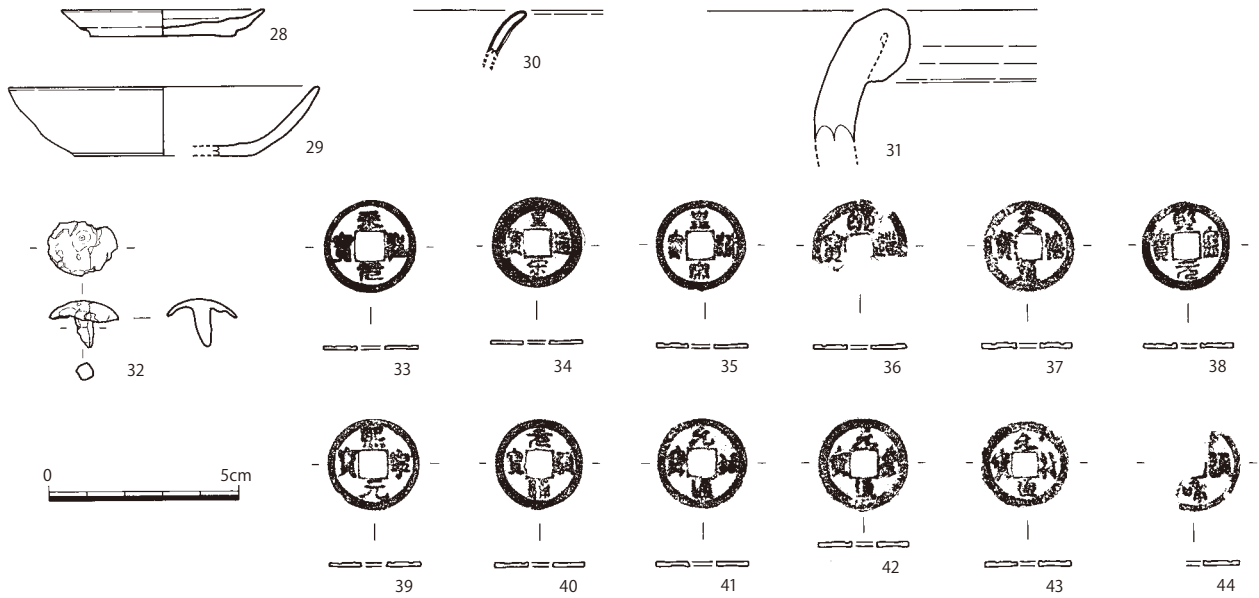
坏 a (47) 底部切り離しは回転糸切りで、板状圧痕を残す。口径は 12.0 cm。色調は黄橙色を呈する。

瓦器

椀 (48) 内外面に細かくミガキを施し、口縁端部内面に沈線を施す。

須恵質土器

SE005 淡灰色砂



SE005 明灰色土

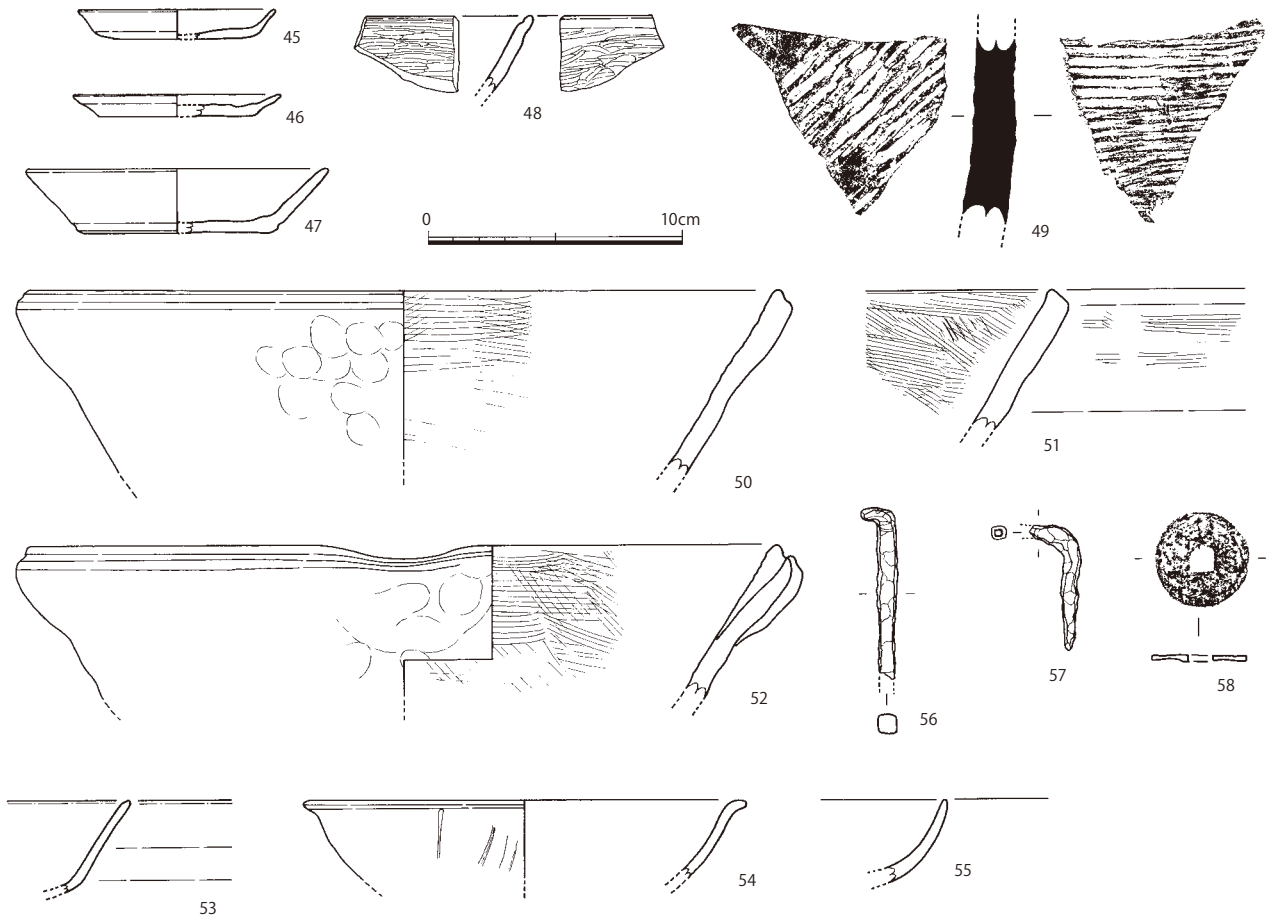


Fig. 63 309SE005 出土遺物実測図② (1/3、金属製品は1/2)

甕 (49) 胎土は白色砂粒を多く含み、色調は黒灰色を呈する。内外面に平行叩きを施す。

瓦質土器

鉢 (50 ~ 52) 50 は内面ヨコハケ、外面はナデ調整で指頭圧痕を残す。復元口径 30.6 cm。51 は内外

SE005 橙灰色土

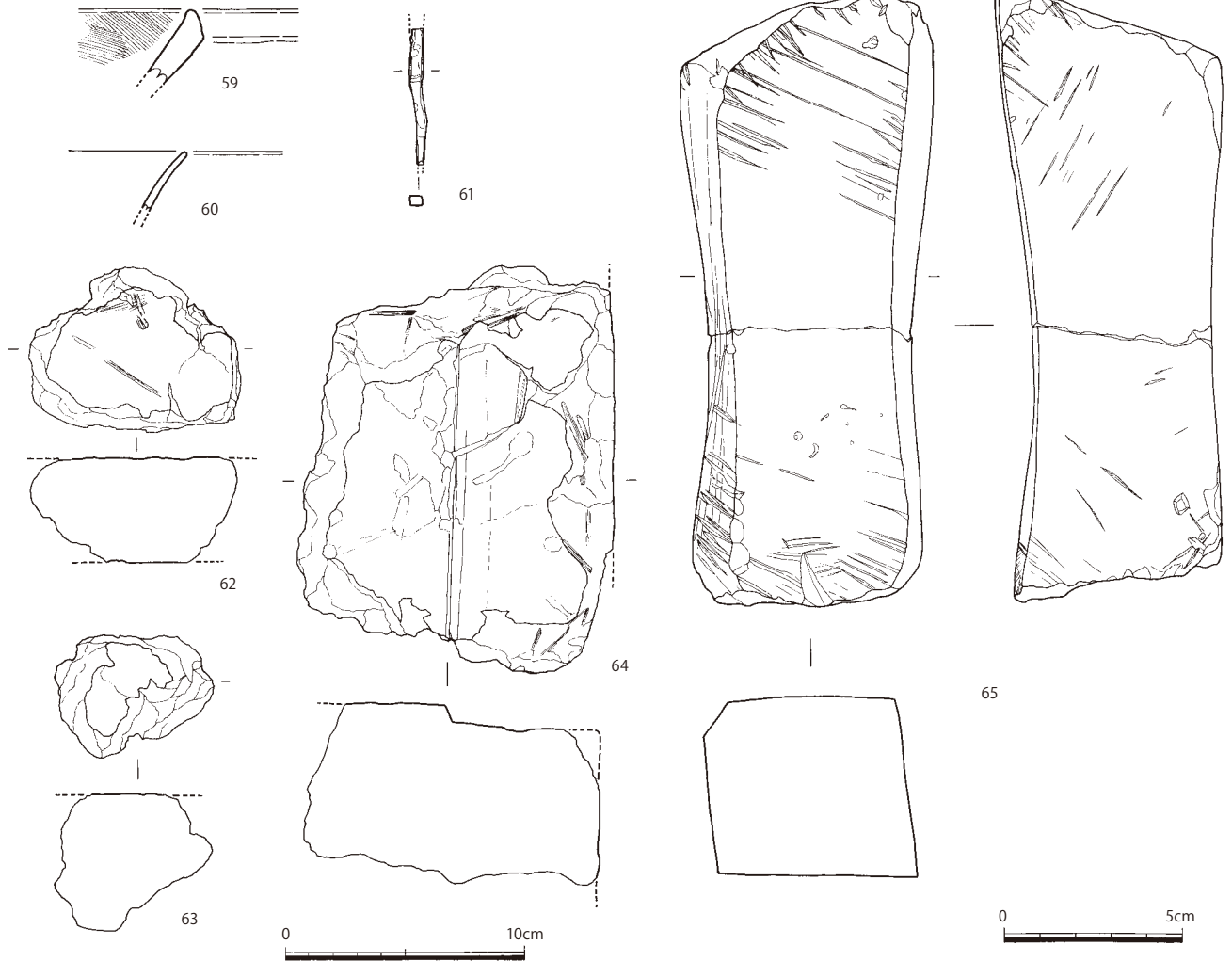


Fig. 64 309SE005 出土遺物実測図③ (1/3、金属製品・石製品は1/2)

面に細かくハケ目を施すが、外面は摩滅する。52は片口鉢で、内面はハケ目、外面はナデ調整で指頭圧痕を残す。復元口径 30.6 cm。

白磁

皿 (53) IX-c 類。口縁端部の釉を拭き取る。

龍泉窯系青磁

碗 (54、55) 54は口縁端部を外反させ、外面に縦篋描き文を施し、内外面に灰緑色釉を施す。上田分類D類。復元口径 17.5 cm。55は丸味のある体部で、内外面に淡い青緑色がかかった釉を薄く施す。

金属製品

鉄釘 (56、57) 角釘で、56は頂部をL字形に曲げる。先端は欠損する。現存長 4.6 cm、幅 1.0 × 1.1 cm。57は頂部をL字形に曲げる。現存長 3.3 cm。

銭貨 (58) 径 2.5 cm。劣化が目立ち銘文は不明瞭。

309SE005 橙灰色土出土遺物 (Fig. 64)

瓦質土器

鉢 (59) 内面は細かいナナメハケ調整、外面はナデ調整か。

白磁

碗 (60) 内外面に水色がかかった光沢のある透明釉を施す。

金属製品

鉄釘 (61) 角釘で上部を欠損する。現存長 3.8 cm。幅 0.35 × 0.5 cm。

土製品

土壁 (62 ~ 64) 62 は胎土に白色砂粒を多く含み、スサ痕がみられる。片面に平坦面がある。63 は胎土に白色砂粒を多く含み、スサ痕がみられる。両面に平坦面を残す。厚さ 4.5 cm。64 は胎土に白色砂粒を多く含み、スサ痕が多くみられる。上面と側面に平坦面があるが、上面には僅かな段を有する。

石製品

砥石 (65) 大きさは 17.3 cm、厚さ 6.3 × 7.1 cm。使用面は 5 面で、部分的に擦痕や傷が付く。

309SE015

309SE015 暗灰色土出土遺物 (Fig. 65)

土師器

小皿 a (1 ~ 5) 復元口径 7.0 ~ 10.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

瓦器

椀 (6) 若干内湾しながら立ち上がる。内外面ともミガキ c が残る。

須恵質土器

甕 (7, 8) 内面ナデ、外面に平行叩きを施す。色調は 7 が灰色、8 は青灰色を呈する。

高麗青磁

椀 (9) 内外面に淡く緑色がかった釉を施釉し、内面に草花文の象嵌を施す。

309SE015 灰茶色土出土遺物 (Fig. 65)

須恵質土器

鉢 (10) 口縁端部は断面三角形をなし、内外面とも回転ナデ調整。色調は暗灰色を呈する。

金属製品

鉄釘 (11) 角釘で上半部を大きく折り曲げ、先端は欠損する。

309SE015 灰色砂出土遺物 (Fig. 65)

土師器

小皿 a (12 ~ 14) 復元口径 8.2 ~ 8.6 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (15) 復元口径 12.1 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

須恵質土器

鉢 (16) 内外面とも使用により平滑である。

中世国産陶器

小皿 (17) 口縁端部を肥厚させる。胎土は黄白色で、内外面に濃い緑黄色釉を薄く施す。

石製品

丸石 (18) 大きさは 2.0 ~ 2.6 cm。

金属製品

鉄釘 (19) 先端部が大きく湾曲する角釘。長さ 7.85 cm。

309SE015 裏込め出土遺物 (Fig. 65)

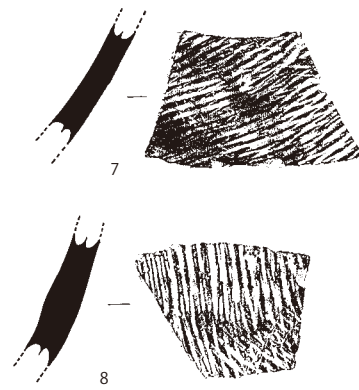
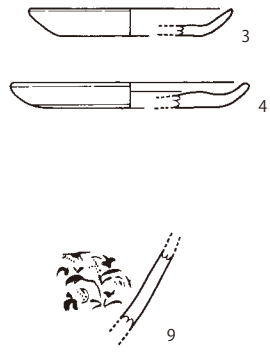
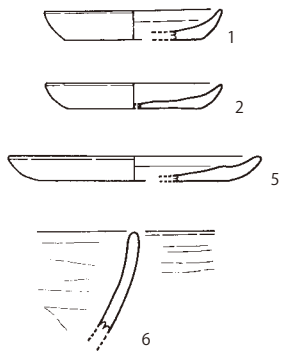
土師器

坏 a (20) 復元口径 12.0 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

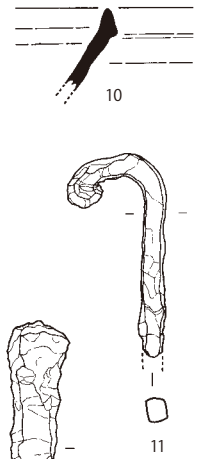
土師質土器

甕 (21) 胎土は淡橙黄色を呈する。内面はナデ、外面は叩きを施す。

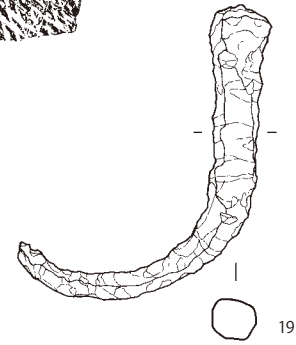
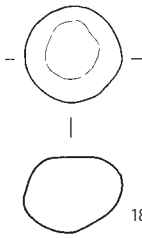
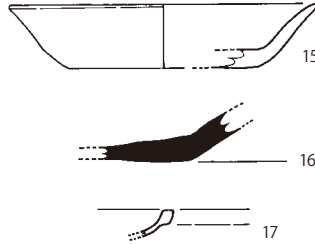
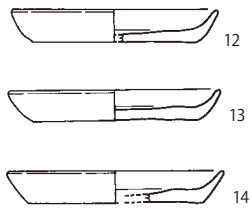
SE015 暗灰色土



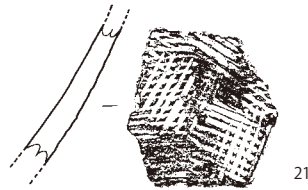
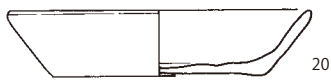
SE015 灰茶色土



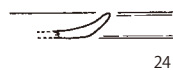
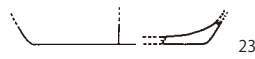
SE015 灰色砂



SE015 裏込め



SK010



SK017



SK032

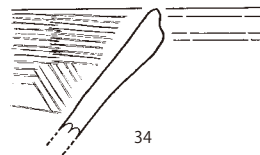
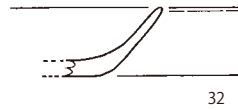
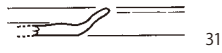


Fig. 65 309SE015、SK010・017・032 出土遺物実測図 (1/3、金属製品・石製品は 1/2)

土坑

309SK010 出土遺物 (Fig. 65)

土師器

小皿 a (22 ~ 24) 底部切り離しは回転糸切り。復元口径は 22 が 8.6 cm。

須恵質土器

鉢 (25) 若干肥厚させた口縁部で、内外面とも回転ナデ調整。色調は暗灰色を呈する。

309SK017 出土遺物 (Fig. 65)

土師器

小皿 a (26 ~ 28) 復元口径 8.6 ~ 9.85 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (29、30) 底部切り離しは回転糸切り。色調は黄橙色を呈する。復元口径は 11.6 cm と 12.6 cm。

309SK032 出土遺物 (Fig. 65)

土師器

小皿 a (31) 底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (32) 底部切り離しは回転糸切りである。

須恵質土器

甕 (33) 胎土は白色砂粒を多く含み、色調は灰黒色を呈する。

瓦質土器

鉢 (34) 口縁部を若干肥厚させる。内面はハケ調整、外面はナデ調整。内外面とも平行叩きである。

金属製品

鉄釘 (35) 角釘で、頭部を若干曲げ、先端部は欠損する。

その他の遺構

309SX001

309SX001a 出土遺物 (Fig. 66)

瓦器

椀 (1) 内外面ともミガキ c を施す。

309SX001b 出土遺物 (Fig. 66)

土師器

小皿 a (2) 底部切り離しは回転糸切りである。

瓦器

小皿 (3) 小片で全形がつかみにくい。内外面ともミガキ c を施す。

須恵質土器

鉢 (4) 内外面とも回転ナデ調整。口縁端部のみ黒色を呈する。東播系。

第 1 面基盤層

淡灰色土出土遺物 (Fig. 66)

土師器

小皿 a (5 ~ 7) 復元口径 8.4 ~ 9.4 cm。底部切り離しは回転糸切りで、板状圧痕を残す。

坏 a (8 ~ 12) 8・9 は復元口径 11.0 cm と 12.0 cm。底部切り離しは回転糸切り。10 ~ 12 は復元口径 15.8 ~ 16.6 cm。底部切り離しは回転糸切り。色調は淡橙色を呈する。

丸底坏 a (13) 復元口径 16.0 cm。内面はミガキ b でコテ当て痕が残る。底部はヘラ切り後板状圧痕を残し押し出す。

SX001a

SX001b

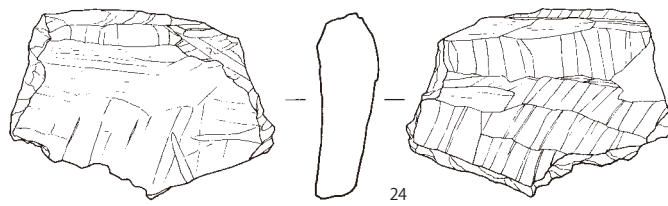
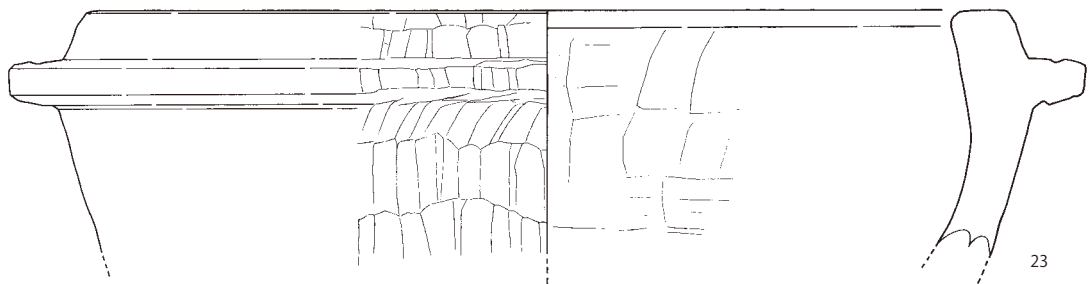
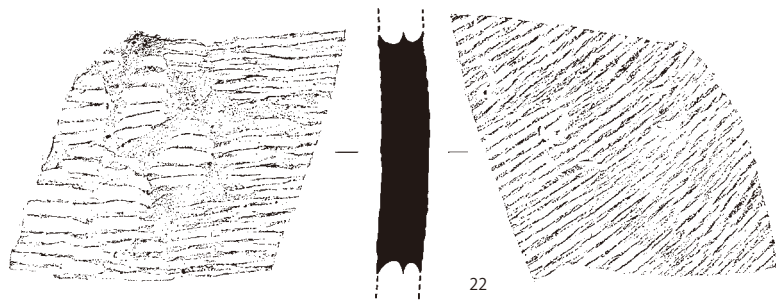
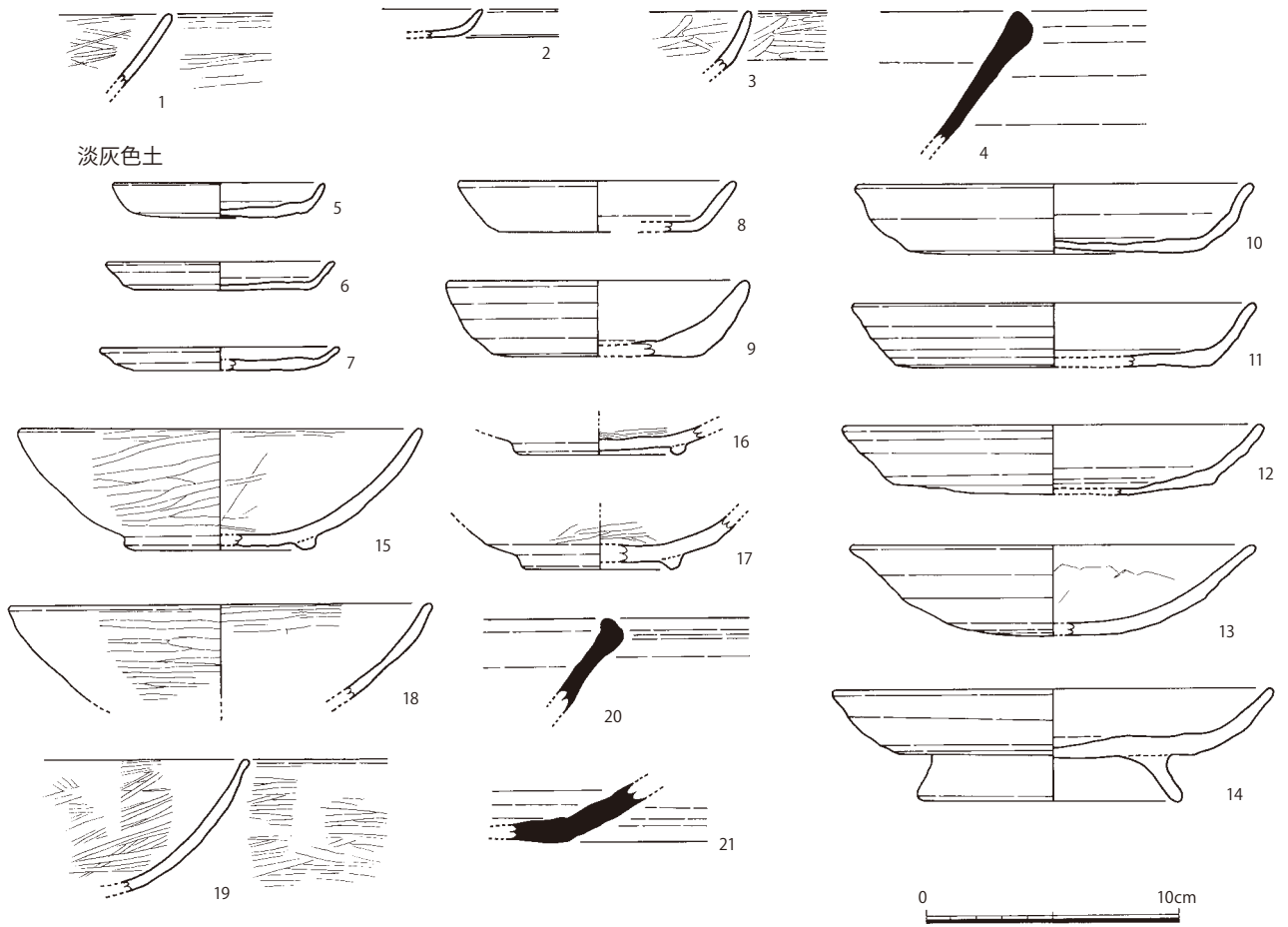


Fig. 66 309SX001、第1面基盤層出土遺物実測図 (1/3、石製品は1/2)

大坏 c (14) 底部切り離しが糸切りの坏 a に高い高台を貼付する。体部は回転ナデ調整である。

瓦器

椀 c (15～17) 15 は復元口径 16.0 cm。内外面ともミガキ c で内面の器面が粗い。底部外面にはヘラ記号が施される。16 は低い高台を貼付し、内面はミガキ b の後ミガキ c である。17 は断面逆台形の高台を貼付する。体部は内外面ともミガキ c を施す。

椀 (18、19) 18 は復元口径 16.6 cm。内外面ミガキ c だが、外面はミガキが疎らである。19 は内外面ともミガキ c で、色調は灰色を呈する。

須恵質土器

鉢 (20、21) 20 は口縁部を若干肥厚させる。東播系。21 は内外面とも回転ナデで、底部外面は糸切りである。

甕 (22) 内外面とも平行叩き痕が残る。色調は暗灰色を呈する。

石製品

石鍋 (23) 復元口径 24.3 cm。内外面ともケズリ成形する。滑石製。

石鍋加工品 (24) 石鍋の鏝を削り取っている。断面部にはケズリ調整する。石鍋使用時の外面下半には煤が付着する。

○第 2 面

建物

309SB022 出土遺物 (Fig. 67)

土師器

小皿 a (1) 復元口径 8.1 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

309SB034 出土遺物 (Fig. 67)

土師器

丸底坏 a (2) 底部切り離しは回転ヘラ切りである。復元口径 15.8 cm。色調は赤褐色を呈する。

第 2 面基盤層

309SX027 出土遺物 (Fig. 67)

土師器

小皿 a (3、4) 底部切り離しは、3 は回転糸切り、4 は回転ヘラ切りか。

瓦器

椀 c (5) 低い高台を貼付し、復元高台径 7.5 cm。体部内外面にミガキ c を施す。

石製品

石鍋 (6) 復元口径 32.6 cm。瘤状把手を削り出し、外面には煤が付着する。滑石製。

明灰色土出土遺物 (Fig. 67)

土師器

小皿 a (7) 復元口径 8.8 cm。底部切り離しは回転ヘラ切りである。

丸底坏 (8) 復元口径 19.6 cm。内面はミガキ b で、コテ当て痕が残る。

炭層出土遺物 (Fig. 67)

土師器

小皿 a (9～13) 復元口径 8.2～9.6 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (14、15) 14 は復元口径 15.6 cm。底部に板状圧痕が残るが、底部切り離しは回転ヘラ切りか。15 は底部切り離しが回転糸切りで、板状圧痕が残る。

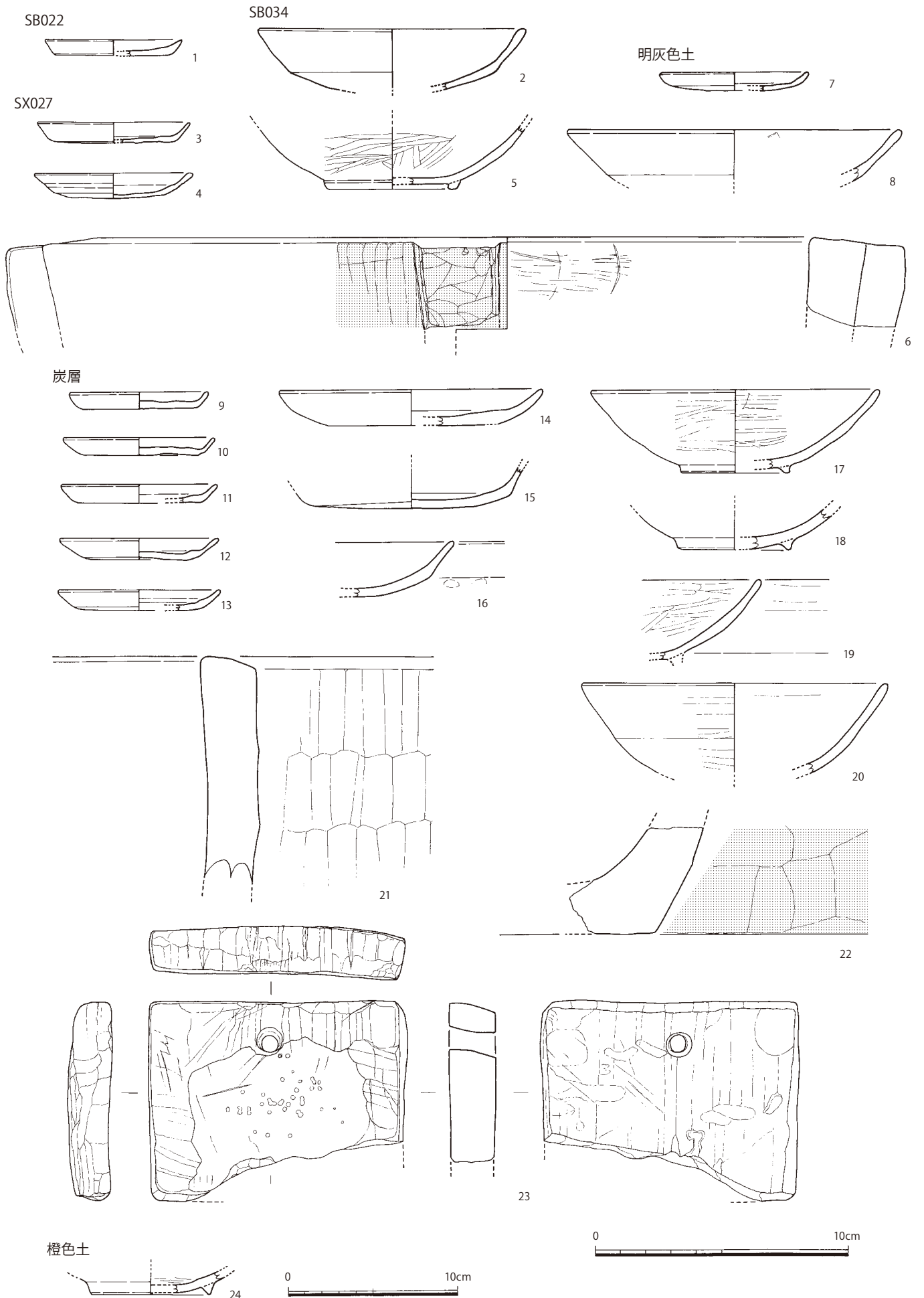
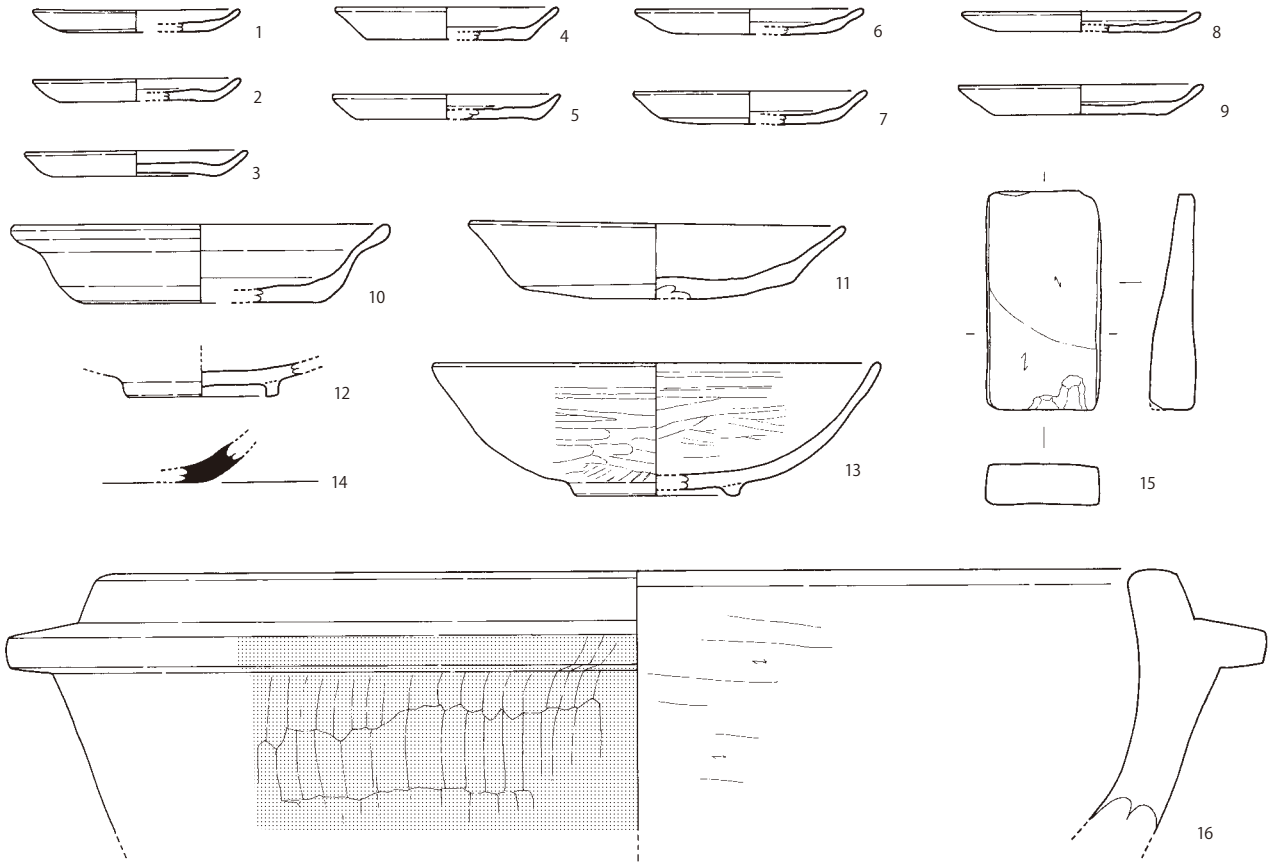
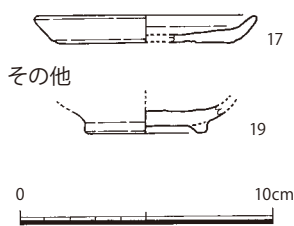


Fig. 67 309SB022・034、第2面基盤層①出土遺物実測図 (1/3、石製品は1/2)

黄灰色土



灰茶色土



その他



Fig. 68 第2面基盤層②出土遺物実測図 (1/3、石製品は1/2)

丸底坏 a (16) 底部押し出しで外面中位に指頭圧痕が残る。

瓦器

椀 c (17 ~ 19) 17は復元口径 17.0 cm。内外面にミガキ c を施し、灰黒色を呈する。18は断面三角形の高台を貼付する。内外面とも摩滅する。19は内外面ともミガキ c を施し、外面は摩滅が目立ち、内面は使用による擦痕があり平滑である。

椀 (20) 復元口径 18.0 cm。内外面ともミガキ c だが、内面は使用により摩滅が目立つ。

石製品

石鍋 (21, 22) 21は内外面ともケズリ調整し、口縁端部上面と内面が使用により平滑となる。滑石製。22は石鍋の底部で、欠損後に断面部には削ったような痕跡があり、欠損後全面に煤が付着する。滑石製。

滑石加工品 (23) 幅 10.2 cm、厚さ 1.8 cm。石鍋を方形に加工し、円孔を穿っている。滑石製。温石の可能性はある。

橙色土出土遺物 (Fig. 67)

瓦器

椀 c (24) 断面三角形の高台を貼付する。外面は回転ナデ、内面はミガキ c を施す。

黄灰色土出土遺物 (Fig. 68)

土師器

小皿 a (1~9) 復元口径 8.2~9.6 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (10) 復元口径 15.0 cm。底部切り離しは回転ヘラ切り。体部中位で若干外反する。

丸底坏 a (11) 口径 14.8 cm。底部は若干押し出しだが、内面にミガキ b はなくヨコナデ調整。

椀 c (12) 内面はミガキ c を施す。色調は黄白色を呈する。高台径 6.0 cm。

瓦器

椀 c (13) 復元口径 17.6 cm。内外面にミガキ c を施す。外面底部には板状圧痕を残す。

須恵質土器

鉢 (14) 底部は回転糸切りである。

石製品

砥石 (15) 縦 5.7 cm、幅 3.0 cm、厚さ 1.1 cm。全面研磨されている。

石鍋 (16) 復元口径 28.4 cm。内外面ともケズリ痕が残り、外面には煤が付着する。

その他の出土遺物

灰茶色土出土遺物 (Fig. 68)

土師器

小皿 a (17) 復元口径 8.8 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

須恵質土器

甕 (18) 胎土は白色砂粒や黒色粒を若干含み、灰色を呈する。外面叩き目、内面はナデ調整である。

その他の出土遺物 (Fig. 68)

灰釉陶器

椀 (19) 胎土は灰白色で、内面の一部に緑灰色釉がみられる。内面には重ね焼き痕が残る。復元高台径 4.8 cm。S-38 より出土。

(5) 第 309 次調査出土獣骨の同定

株式会社古環境研究所

1. 試料

試料は、大宰府条坊跡第 309 次調査より出土した動物骨 3 試料である。試料の詳細は、同定結果表に示す (表 1)。

2. 方法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。なお、試料の状態によってはパラロイド (5%アセトン溶液) を塗布して強化した後、セメダインおよびエポキシ樹脂を用いて接合し、試料の形態を復原した。

3. 結果

(1) 分類群

同定結果を表 10 に示し、写真 2 に示す。以下に、同定結果を遺構別に記載する。

1) 大宰府条坊跡第 309 次調査

①No. 1 (S-5 黒灰色土)

イノシシ?の尺骨骨幹左 1 点が同定された。

②No.2 (S-15 暗灰色土)

マダイの歯骨左 1 点、ウマの中心足根骨右 1 点が同定された。

4. 考察

大宰府条坊跡第 309 次調査で出土した動物骨は、マダイ、ウマ、イノシシ?の 3 種類であった。

野生動物はマダイ、イノシシ?の 2 種類である。マダイは群れをなす回遊魚で、沿岸の岩礁域や周辺の砂礫底などの水深 30m から 200m の深い海域に生息する。その漁獲は船釣りが代表であるが、底曳網、刺網などの網漁でも漁獲される。福岡県の玄界灘は平安時代には「延喜式」(927 年)において全国に 10 余りあるタイの産地の一つとして名があげられ、古くから天然のマダイが漁獲されてきたことがわかる。

飼育動物はウマの 1 種類である。ウマは市中では乗馬、荷物の牽引など役畜として使役されたのちに解体されて、皮や肉、骨を資源として利用したのち投棄された可能性がある。

5. まとめ

大宰府条坊跡第 309 次調査で出土した動物遺存体の同定を行った。同定された動物は、いずれも食用や資源を利用できる種類ばかりであった。マダイは、本遺跡より北に位置する玄界灘に属する博多湾より流通によってもたらされと考えられる。ウマは市中で使役されていたと考えられる。

参考文献

- 阿部永 (1994) 『日本の哺乳類』 東海大学出版会, 195p.
- 望月賢二 (2005) 『魚と貝の事典』 魚類文化研究会, 433p.

表 10 第 309 次調査における動物遺存体同定結果

No.	遺跡名	調査回数	検出層位	結果 (学名/和名)	部位	部分	左右	個数	備考
1	大宰府条坊跡	第309次	S-5黒灰色土	<i>Sus scrofa</i> ? イノシシ?	尺骨	骨幹	左	1	
2-1	大宰府条坊跡	第309次	S-15暗灰色土	<i>Pagrus major</i> マダイ	歯骨	破片	左	1	
2-2				<i>Equus caballus</i> ウマ	足根骨	中心足根骨	右	1	

写真 2 太宰府市内遺跡出土の動物遺存体



(6) 小結

調査地は12世紀前半から14世紀中頃にかけて、何度も整地を繰り返されていることがわかった。今回調査としては3面で実施したが、最上面を表土剥ぎ時点で除去してしまったことと、部分的に2面存在していることを考慮すると遺構としては5面あったと推測される。また、井戸や石敷(SX001)が検出されたことから、この付近は屋敷内の一面であったと推測され、炭層や焼土が多くみられたことから、12世紀中頃～後半に火災が起きた、もしくは炊事場など火を使う場所の近辺であった可能性が考えられる。

また、奈良・平安期の遺構が未確認で、遺物もごく僅かしか出土しなかった。河川氾濫で流出した可能性もあるのだが、宅地があまり広がっていなかった可能性も考えられる。

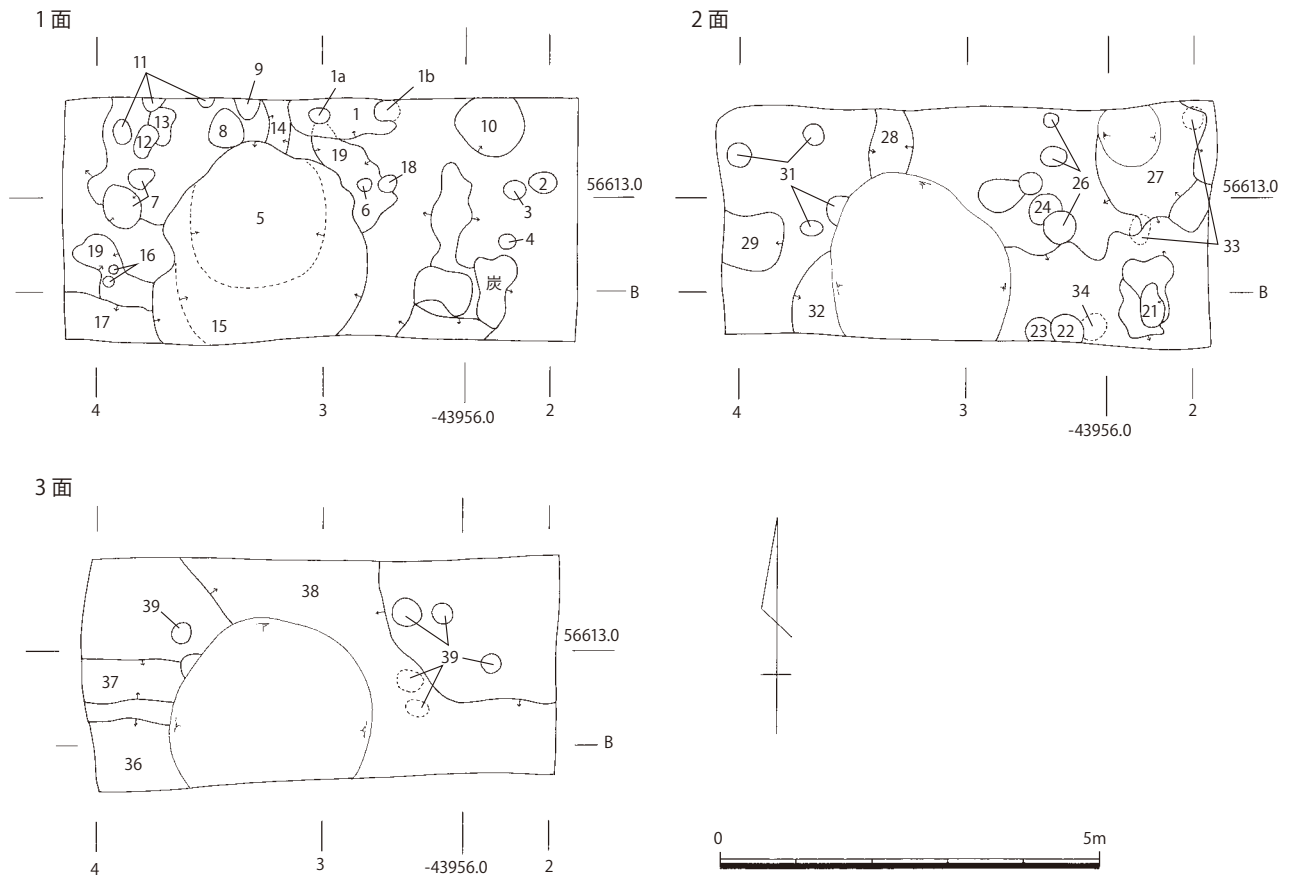


Fig. 69 第309次調査遺構略測図 (1/100)

表 11 第 309 次調査 遺構一覽表

S-番号	遺構番号	種別	埋 土 等	時 期	地区	調査面
1	309SX001	石敷		13世紀前半?	B2・3	1
2	309SB002	柱穴	礎石の根石か	13世紀～	B2	1
3		ピット		13世紀～	B2	1
4		ピット		13世紀	B2	1
5	309SE005	井戸	暗灰色土 S-32→15→5	14世紀中頃前後	AB3	1
6		ピット	橙色土に切り込む	13世紀～	B2	1
7		ピット群	炭混じり灰茶色土	13世紀～	B3	1
8		ピット		13世紀	B3	1
9		ピット		13世紀～	B3	1
10	309SK010	土坑	橙色土混じり灰茶色土。礫多い。	14世紀?	B2	1
11		ピット群	炭混じり灰茶色土	13世紀～	B3	1
12		ピット	炭混じり灰茶色土	13世紀～	B3	1
13		ピット	炭混じり橙色土・灰茶色土	13世紀～	B3	1
14		溝		13世紀～	B3	1
15	309SE015	井戸	S-32→15→5	13世紀後半～14世紀前半	B3	1
16		ピット群	橙色土に切り込む	13世紀～	B3	1
17	309SK017	土坑	暗灰色土	13世紀	A3・4	1
18		ピット	橙色土に切り込む	13世紀～	B2	1
19		整地	橙色土	13世紀～	AB・3.4	1
21		ピット		12世紀後半	A2	2
22	309SB022	柱穴	礎石の根石か	12世紀中頃～	A2	2
23	309SB023	柱穴	礎石の根石か	12世紀中頃～	A2	2
24		ピット		12世紀中頃～後半?	B2	2
26		ピット群		12世紀中頃～後半?	B2	2
27		整地層	2面目基盤層 灰色土	12世紀中頃	B2	2
28		溝×土坑		12世紀中頃	B3	2
29		土坑		12世紀中頃～後半	B3	2
31		ピット群		12世紀中頃	B3	2
32	309SK032	土坑	炭混じり灰茶色土。調査時はS-15淡灰色土で遺物取り上げ。 S-32→15→5	12世紀中頃～後半	A3	2
33		ピット群	炭層の下	12世紀中頃	B2	2
34	309SB034	柱穴	炭層の下。礎石の根石か	12世紀中頃～後半	A2	2
36		たまり	暗灰色砂礫層	11世紀後半～12世紀前半	AB3	3
37		たまり	暗灰色砂礫層	12世紀前半	B3	3
38		たまり	暗灰色砂礫層	12世紀?	AB・2.3	3
39		ピット群		11世紀後半～12世紀前半	B2	3
	灰茶色土		遺構検出時の土層			
	淡灰色土		第1面基盤層	12世紀後半～13世紀前半?		
	明灰色土		第2面基盤層の一部	12世紀中頃～後半		
	炭層		第2面基盤層の一部	12世紀中頃～後半		
	橙色土		第2面基盤層の一部			
	黄灰色土		第2面基盤層	11世紀後半～12世紀前半		

表 12 第 309 次調査 出土遺物一覽表

S-1a		土 師 器 小皿a×坏a(イト)、坏
瓦	器	椀
須 恵 質 土 器		甕
S-1b		土 師 器 小皿a(イト)
瓦	器	小皿?
須 恵 質 土 器		鉢(東播系)
石 製 品		滑石
S-2		土 師 器 坏
S-3		土 師 器 坏×小皿
S-4		土 師 器 小皿a(イト)、坏、坏a(イト)
瓦	器	椀
S-5 灰茶色土		土 師 器 坏a(イト)、椀c
須 恵 質 土 器		甕、鉢、鉢(東播系)
土 師 質 土 器		脚付鉢
瓦 質 土 器		鉢
越 州 窯 系 青 磁		椀; I?(1)
中 世 国 産 陶 器		甕(東海、備前)
白 磁		椀; IV(1) 皿; 広東系(1)
中 国 陶 器		甕(1) 盤I-1(1)、I-2(1)
瓦 類		平瓦(無文)
金 属 製 品		鋳滓、銅銭
S-5 暗灰色土		土 師 器 小皿a(イト)、小皿b(イト)、坏a(イト)
瓦	器	椀c
土 師 質 土 器		甕?
須 恵 質 土 器		鉢、鉢(東播系)
瓦 質 土 器		鉢、挿鉢
中 世 国 産 陶 器		甕(東海、備前)
白 磁		椀; V(1)、V-1×Ⅷ-2(1)、IX-1(1) 皿; 広東系(1)
龍 泉 窯 系 青 磁		椀; I(1)、I-1a(1)、I-4a(1)、II-b(1) 皿; IV(1)
同 安 窯 系 青 磁		皿; I(1)
中 国 陶 器		甕(7) 破片; A2群(2)、B群(1)、C群(2)
瓦 類		丸瓦(格子)
金 属 製 品		鋳滓、鉄釘
石 製 品		滑石製碗、挿石、丸石
土 製 品		土壁
S-5 黒灰色土		土 師 器 小皿a(イト)、小皿b(イト)、小皿a×b(イト)、坏a(イト)
瓦	器	椀
須 恵 質 土 器		鉢
瓦 質 土 器		鉢
中 世 国 産 陶 器		甕(東海、備前)
白 磁		椀破片(1) 皿; IX-1(2) 白磁破片(1)
龍 泉 窯 系 青 磁		椀; I(1)、II-b(1) 龍泉破片(1)、龍泉?(1)
中 国 陶 器		甕(2) 盤; I-2(1)
金 属 製 品		鉄釘、鋳滓
石 製 品		丸石、石鍋
土 製 品		土壁
そ の 他		骨
S-5 淡灰色砂		須 恵 器 蓋
土 師 器		小皿a(イト)、坏a(イト)
瓦	器	椀
須 恵 質 土 器		鉢、甕
瓦 質 土 器		鉢
国 産 陶 器		甕
瓦 類		平瓦(縄目)
金 属 製 品		鋳滓、鉄釘
石 製 品		丸石
S-5 橙灰色土		須 恵 器 坏
土 師 器		小皿a(イト)、坏a(イト)
瓦 質 土 器		鉢
白 磁		椀破片(1) 破片板府?(1)
金 属 製 品		鉄釘
石 製 品		砥石
土 製 品		土壁
S-5 明灰色土		土 師 器 小皿a(イト)、坏、坏a(イト)
黒 色 土 器 A		坏
瓦	器	椀、椀c
土 師 質 土 器		鍋×鉢
須 恵 質 土 器		鉢
瓦 質 土 器		鉢
中 世 国 産 陶 器		甕(東海)
須 恵 質(輸 入)		朝鮮系無釉陶器
白 磁		椀; V-3(1)、V-2a(1)、Ⅷ(1)、IX-c(1)、内面櫛目(1)、破片(4) 皿; II-1a(1)、III-1(1)、V-2(1)、V~Ⅶ(1)、広東系(1) 白磁破片(1)、外反口縁(1)
龍 泉 窯 系 青 磁		椀; I-2(1)、上田分類D(1) 小椀(1)
同 安 窯 系 青 磁		椀; I-1b(1)
中 国 陶 器		B群壺(1) 甕(6) 盤; II-1(1) 破片B群(1)、C群(3)
金 属 製 品		鋳滓、鉄釘、銅銭
S-6		土 師 器 坏、甕類
S-7		土 師 器 坏、坏a(イト)、甕類
瓦	器	椀
S-8		土 師 器 小皿a(イト)、坏a(イト)
瓦	器	椀c
龍 泉 窯 系 青 磁		椀; II-b(1)
中 国 陶 器		盤I-1b(1)
S-9		土 師 器 小皿a(イト)
白 磁		白磁破片内面櫛目(1)
中 国 陶 器		B群壺(1)
土 製 品		土塊
S-10		土 師 器 小皿a(イト、ヘラ)、坏a(イト)
須 恵 質 土 器		鉢、破片
龍 泉 窯 系 青 磁		椀; I-3a(1)
中 国 陶 器		C群(1)
瓦 類		破片(格子)
S-11		土 師 器 坏a(イト、ヘラ?)
瓦	器	椀
S-12		土 師 器 小皿a(イト)、坏、坏a×小皿a(イト)
須 恵 質 土 器		破片
瓦 質 土 器		甕×鉢
中 国 陶 器		C群(1)
S-13		土 師 器 破片
龍 泉 窯 系 青 磁 ?		I(1)
S-14		土 師 器 小皿a(イト)、坏a×小皿a(イト)、椀c
白 磁		椀; V-1×Ⅷ-2(1)
中 国 陶 器		C群(1)
土 製 品		土塊
S-15 暗灰色土		土 師 器 小皿a(イト)、坏a(イト、ヘラ)、丸底坏a、椀c
瓦	器	椀
須 恵 質 土 器		甕、挿鉢
瓦 質 土 器		鉢
中 世 国 産 陶 器		甕(東海、備前)
白 磁		椀; 破片(1) 壺Ⅲ(1) 皿; III-1(1)、VI-1b(1)、IX(1)、IX-1(1)
龍 泉 窯 系 青 磁		椀; I-1a(1)、II-a(1)、II-b(1)
同 安 窯 系 青 磁		皿; I(1)
高 麗 青 磁		椀象嵌(1)
中 国 陶 器		壺×水注(1) 甕(3) 盤I(1)、I-1b(1) C群(4)
金 属 製 品		鉄釘、鉄片、鋳滓
そ の 他		骨
S-15 淡灰色土		須 恵 器 蓋
土 師 器		小皿a(イト)、坏a(イト)
瓦	器	椀
須 恵 質 土 器		鉢、甕
瓦 質 土 器		鉢
国 産 陶 器		甕
瓦 類		平瓦(縄目)
金 属 製 品		鋳滓、鉄釘
石 製 品		丸石
S-15 灰茶色土		土 師 器 小皿a(イト)、坏a(イト)
須 恵 質 土 器		鉢(東播系)
中 世 国 産 陶 器		甕(備前)
白 磁		椀; II-1(1)、V-4×Ⅷ-1×3(1)
中 国 陶 器		C群(1)
金 属 製 品		鉄釘
S-15 灰色砂		土 師 器 小皿a(イト)、坏a(イト)、椀c、大椀c、甕類
瓦	器	椀
須 恵 質 土 器		鉢
中 世 国 産 陶 器		甕(備前)、小皿
白 磁		椀; V-4×Ⅷ-1×3(1) 皿; II-1×III-2(1)、V~Ⅶ(1)
中 国 陶 器		B群(1)
金 属 製 品		鉄釘、鉄製フック
石 製 品		丸石、剥片(安山岩)

S-15 ウラゴメ

土 師 器	坏a(イト)、丸底坏a、甕類
瓦	椀
土 師 質 土 器	甕
瓦 質 土 器	鉢
中世国産陶器	甕(備前)
白 磁	皿；Ⅳ-2b(1)、Ⅸ(1)
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ-4(1)
同安窯系青磁	破片(1)
金 属 製 品	鋳滓

S-16

土 師 器	坏
-------	---

S-17

土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)
瓦	椀
白 磁	破片(1)
中 国 陶 器	B群(1)
石 製 品	石鍋

S-18

土 師 器	坏、坏a×小皿a(イト)
土 師 質 土 器	鍋×鉢
国 産 陶 器	甕
土 製 品	土塊

S-19

土 師 質 土 器	小皿a(イト)
瓦 質 土 器	鉢
白 磁	椀；Ⅱ(1)、破片(1) 白磁破片；直口縁(1)、外反口縁(1)
中 国 陶 器	A1群(1)

S-21

土 師 器	小皿a(イト)
土 師 質 土 器	鍋×鉢
瓦 質 土 器	鉢

S-22

土 師 器	小皿a(イト)、坏
-------	-----------

S-24

土 師 器	小皿a(イト)、坏
-------	-----------

S-26

土 師 器	坏、丸底坏
黒色土器 A	破片
白 磁	椀；Ⅳ(1)

S-27

土 師 器	小皿a(イト、ヘラ)、坏、坏a(ヘラ)
瓦	椀c
白 磁	広東系(1)
石 製 品	石鍋

S-28

土 師 器	小皿a(ヘラ)、坏a(イト)、丸底坏a
白 磁	椀；Ⅴ-1a(1)、Ⅴ-4b(1)

S-29

土 師 器	小皿a(イト)、坏、椀c
瓦	椀
白 磁	皿；Ⅵ-1a(2)
中 国 陶 器	B群(1)

S-31

土 師 器	小皿a(イト、ヘラ)、坏a(イト)
石 製 品	石鍋

S-32

土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、丸底坏a
瓦	椀
国 産 陶 器	甕
須 恵 質(輸 入)	朝鮮系無釉陶器
白 磁	椀；Ⅳ(1)、破片(1) 皿；Ⅵ-1a(2) 白磁破片(1)
同安窯系青磁	椀；Ⅰ-1b(1)
石 製 品	石鍋

S-33

土 師 器	小皿a(イト、ヘラ)、坏a(イト)
白 磁	椀；広東系(1)

S-34

土 師 器	坏、坏a(イト)
中 国 陶 器	C群耳壺(1)

S-36

土 師 器	坏
須 恵 質 土 器	破片
須 恵 器(輸 入)	朝鮮系無釉陶器壺

S-37

土 師 器	小皿a、坏
瓦	椀c
白 磁	破片(3)

S-38

須 恵 器	坏、甕、つまみ
土 師 器	小皿a(ヘラ)、坏a(ヘラ)、丸底坏、椀c、甕類
瓦	椀
須 恵 質 土 器	壺?
灰 釉 陶 器	椀
白 磁	椀；Ⅳ(1)、Ⅶ-b?(1)、広東系(1)

S-39

土 師 器	坏、甕類
黒色土器 A	椀
白 磁	椀；Ⅴ?(1)、Ⅴ-1a(1)

淡灰色土

土 師 器	小皿a(イト、ヘラ)、坏a(イト、ヘラ)、大坏c、丸底坏a、椀c、破片
瓦	椀、椀c
土 師 質 土 器	鍋×鉢、甕
須 恵 質 土 器	甕、鉢、鉢(東播系)
白 磁	椀；Ⅱ-1(1)、Ⅳ(1)、Ⅷ(1)、Ⅷ-2(1)、Ⅴ-4b(1) Ⅴ-1×Ⅷ-2(2)、Ⅴ-4×Ⅷ-1×3(2)、Ⅵ-1a?(1)、内面櫛目(2)、破片(6) 皿；Ⅵ-1a(4)、破片(1) 破片；(2)、直口縁(2)、広東系(1)
青 白 磁	破片(1)
同安窯系青磁	椀；Ⅰ-1b(1) 耳壺；Ⅲ(1)、ⅩⅡ?(1) 壺；B群(1)、C群(1) 盤；Ⅰ-2(2) 破片；A群(1)、B群(1)、C群(6)
中 国 陶 器	
瓦 類	平瓦(櫛目)
土 製 品	土塊
石 製 品	石鍋、滑石加工品

明灰色土

土 師 器	小皿a(ヘラ)、坏、坏a(イト)、丸底坏
-------	----------------------

炭層

土 師 器	小皿a(イト、ヘラ)、坏、坏a(イト)、丸底坏a
瓦	椀、椀c
白 磁	椀；Ⅷ(1)、破片(2) 皿；Ⅱ-1(1) 壺Ⅲ(2) 白磁破片(2)
中 国 陶 器	B群(1)
朝鮮系無釉陶器	破片
瓦 類	丸(格子(大))
石 製 品	石鍋、滑石加工品

橙色土

須 恵 器	蓋?、甕
土 師 器	坏
瓦	椀c
白 磁	椀；破片(1)

黄灰色土

須 恵 器	甕、破片
土 師 器	小皿a(イト、ヘラ)、坏、坏a(イト、ヘラ)、坏a×丸底坏、丸底坏a、椀c、甕類
瓦	椀、椀c
須 恵 質 土 器	甕、鉢
瓦 質 土 器	甕
白 磁	椀；Ⅳ(8)、Ⅳ-1a(1)、Ⅴ-2a(1)、Ⅴ-4×Ⅷ-1×3(1) 破片(6) 皿；Ⅴ~Ⅶ(2)、Ⅵ-1(1)、Ⅵ-b(1)、広東系(2) 破片；(1)、広東系(3) 直口縁(1)
中 国 陶 器	破片(1)
瓦 類	平瓦(格子)
石 製 品	滑石、砥石、石鍋

灰茶色土

土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、椀c
黒色土器 A	椀
瓦	椀、椀c
須 恵 質 土 器	甕、鉢
白 磁	椀；Ⅴ-4×Ⅷ-1×3(1)、破片(1) 白磁破片；直口縁(1)
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ(1)、Ⅰ-2(1)
同安窯系青磁	椀；Ⅰ-1b(1)
中 国 陶 器	甕(2) 破片；B群(1)、C群(2)
石 製 品	平玉石

表土

土 師 器	小皿a(イト)、坏、坏a(イト)
瓦	椀、椀c
土 師 質 土 器	鍋×鉢
須 恵 質 土 器	鉢、破片
白 磁	椀；Ⅳ-1a(1)、Ⅵ-2a(1)、内面櫛目(2)、破片(2) 小椀(1) 壺Ⅲ(2)
龍泉窯系青磁	椀；Ⅰ-1a(1)
同安窯系青磁	椀；Ⅰ-1b(1)、Ⅲ-1c(1)

表13 第309次調査 土器供膳具計測表

A: 内底ナテ B: 板状圧痕

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
瓦器	椀		R-001	Fig.66-1		2.9+α			

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-001	Fig.66-2		1.1			
瓦器	小皿?		R-002	Fig.66-3		2.3+α			

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-001	Fig.63-45	(7.8)	1.15	(5.7)	○	○
	小皿a	イト	R-002	Fig.63-46	(8.2)	0.85	(6.2)	○	
	坏a	イト	R-003	Fig.63-47	(12.0)	2.55	(8.0)		
瓦器	椀		R-005	Fig.63-48		3.0+α			

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	イト	R-003	Fig.62-1	(14.15)	2.05	(8.0)	○	○

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-001	Fig.63-28	(8.0)	1.05	(5.6)	○	
	坏a	イト	R-002	Fig.63-29	(12.2)	2.7	(7.2)	○	

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-004	Fig.62-21	(7.0)	0.9	(6.0)	○	○
	小皿a	イト	R-001	Fig.62-22	(8.0)	1.0	(6.6)	○	○
	小皿a	イト	R-002	Fig.62-23		1.15+α		○	○
	小皿a×b	イト	R-005	Fig.62-24		0.75+α	(4.0)	○	○
	小皿b	イト	R-003	Fig.62-25	(7.0)	1.6	(5.2)	○	○

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿b	イト	R-006	Fig.62-8		1.1+α	(4.0)		
	坏a		R-005	Fig.62-9	(12.0)	3.1	(8.2)		
	坏a	イト	R-004	Fig.62-10	(12.0)	2.65	(8.8)		
	坏a	イト	R-003	Fig.62-11	(12.6)	2.25	(10.0)		

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	－	R-001	Fig.65-22	(8.6)	0.6	(6.6)	○	○
	小皿a	イト	R-002	Fig.65-23		0.9+α	(7.0)	○	
	小皿a	イト	R-003	Fig.65-24		1.0			

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	－	R-002	Fig.65-1	(7.0)	1.15	(5.4)	○?	○
	小皿a	イト	R-005	Fig.65-2	(7.0)	1.0	(5.2)	○?	
	小皿a	イト	R-003	Fig.65-3	(8.0)	1.1	(5.5)	○?	
	小皿a	イト	R-001	Fig.65-4	(9.4)	1.0	(8.0)	○	○
	小皿a	イト	R-004	Fig.65-5	(10.0)	1.0	(7.4)	○	
瓦器	椀		R-006	Fig.65-6		4.0+α			

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-001	Fig.65-31		1.1		○	
	坏a	イト	R-002	Fig.65-32		2.7			

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	イト	R-001	Fig.65-20	(12.0)	2.6	(8.4)	○	○

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト?	R-006	Fig.65-12	(8.2)	1.3	(6.6)	○	○
	小皿a	イト	R-005	Fig.65-13	(8.4)	1.25	(6.5)	○	
	小皿a	イト	R-007	Fig.65-14	(8.6)	1.25	(7.0)	○	○
	坏a	イト	R-004	Fig.65-15	(12.1)	2.5	(7.4)		

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-001	Fig.65-26	(8.6)	1.15	(7.0)	○	
	小皿a	イト	R-002	Fig.65-27	8.8	0.7~0.9	7.2	○	○
	小皿a	イト	R-003	Fig.65-28	9.85	0.85~1.05	8.0	○	○
	坏a	イト	R-005	Fig.65-29	(11.6)	2.2	(7.7)	○	
	坏a	イト	R-004	Fig.65-30	(12.6)	2.4	(8.6)	○	

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-001	Fig.67-1	(8.1)	0.9	(6.8)	○	○

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-003	Fig.67-3	(9.0)	1.25	(7.0)	○	○
	小皿a	ヘラ?	R-002	Fig.67-4	9.4	1.5	6.1	○	○
	瓦器	椀c		R-001	Fig.67-5		3.7+α	(7.5)	

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	ヘラ	R-001	Fig.67-2	(15.8)	3.6+α		○	

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ?	R-012	Fig.68-1	(8.2)	0.9	(6.2)	○	－
	小皿a	ヘラ?	R-013	Fig.68-2	(8.2)	0.9	(6.2)	○	○
	小皿a	イト	R-001	Fig.68-3	(8.8)	1.0	6.5	○	○
	小皿a	イト	R-004	Fig.68-4	(8.8)	1.3	(6.4)	○	○
	小皿a	イト	R-002	Fig.68-5	(9.0)	1.0	(7.3)	○	○
	小皿a	ヘラ?	R-003	Fig.68-6	(9.0)	1.0	(6.1)	○	○
	小皿a	イト	R-014	Fig.68-7	(9.2)	1.3	(7.2)	○	○
	小皿a	ヘラ	R-011	Fig.68-8	(9.4)	0.8	(6.8)	○	○
	小皿a	イト	R-010	Fig.68-9	(9.6)	1.2	(6.9)	○	○
	坏a	ヘラ	R-006	Fig.68-10	(15.0)	3.1	(10.0)	○	
	丸底坏a	ヘラ	R-016	Fig.68-11	14.8	3.0	10.8	○	○
	瓦器	椀c		R-005	Fig.68-12		1.3+α	6.0	
	椀c		R-007	Fig.68-13	(17.6)	3.25	(6.6)		

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-002	Fig.67-9	(8.2)	1.0	(6.8)	○	○
	小皿a	イト	R-001	Fig.67-10	8.9	1.05	6.7	○	○
	小皿a	イト	R-003	Fig.67-11	(9.2)	1.1	(7.4)		
	小皿a	ヘラ	R-004	Fig.67-12	(9.4)	1.3	(6.8)	○	○
	小皿a	－	R-005	Fig.67-13	(9.6)	1.2	(7.8)	○	－
	坏a	ヘラ?	R-007	Fig.67-14	(15.6)	2.1	(10.3)	○	○
	坏a	イト	R-008	Fig.67-15		2.4+α	11.6	○	○
	丸底坏a	ヘラ	R-006	Fig.67-16		3.2			
瓦器	椀c		R-010	Fig.67-17	(17.0)	4.9	(6.4)		
	椀c		R-009	Fig.67-18		2.4+α	(6.7)		
	椀c		R-011	Fig.67-19		4.7+α			
	椀c		R-012	Fig.67-20	(18.0)	5.3+α			

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.67-7	(8.8)	1.1	(7.4)	○	○
	丸底坏		R-002	Fig.67-8	(19.6)	3.0+α			

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-005	Fig.66-5	(8.4)	1.4	(6.9)	○	○
	小皿a	イト	R-004	Fig.66-6	9.0	1.15	7.7	○	○
	小皿a	イト	R-006	Fig.66-7	(9.4)	0.95	(6.8)	○	○
	坏a	イト	R-007	Fig.66-8	(11.0)	2.0	(7.8)	－	○
	坏a		R-008	Fig.66-9	(12.0)	3.0	(8.4)	○	○
	坏a	イト	R-010	Fig.66-10	(15.8)	2.8	(11.5)	○	○
	坏a	イト	R-009	Fig.66-11	(16.0)	2.6	(12.6)	○	－
	坏a	イト	R-012	Fig.66-12	(16.6)	2.75	12.5	○	○
	丸底坏a	ヘラ	R-011	Fig.66-13	(16.0)	3.6			○
	大坏c	イト	R-013	Fig.66-14	17.4	4.4	10.5	○	○
	瓦器	椀c		R-014	Fig.66-15	(16.0)	4.8	(7.5)	
椀c			R-001	Fig.66-16		1.1+α	(6.7)	○	○
椀c			R-018	Fig.66-17		2.0+α	(6.2)		○
椀			R-015	Fig.66-18	(16.6)	3.7+α			
椀			R-016	Fig.66-19		5.2+α			

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
瓦器	椀c		R-001	Fig.67-24	－	1.35+α	(7.1)		

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-001	Fig.68-17	(8.8)	1.1	(6.9)	○	－

②五条地区の調査

1、第37次調査

(1) 調査に至る経緯

調査地は、太宰府市大字太宰府字五条（現在、五条2丁目）2476-2で、西鉄五条駅の北隣に位置する。

1982（昭和57）年4月21日、鉄筋コンクリート造4階建て共同住宅（車屋第三ビル）建設のため、所有者より文化財保護法第57条の届出があり、遺構の破壊は明確であったことから、調査費を開発者が負担し、発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、建物が建つ対象地中央に調査区を設定したほか、その南北に2ヶ所トレンチを設定し実施した。よって、建物部分以外の対象地北辺・南辺は、遺構は残されている。

調査期間は、1982（昭和57）年12月8日～12月23日。調査対象面積2027㎡。調査面積154.4㎡。調査・遺物選別は山本信夫が担当した。

(2) 基本層位 (Fig. 70)

最上面に暗灰色の耕作土があり、その下に茶褐色の床土があり、それを除去すると黄色粘土の地山があり、その面で遺構が確認できる。遺構検出レベルは標高37.3m前後である。なお、地山は黄色粘土の下に灰色微砂が堆積している。

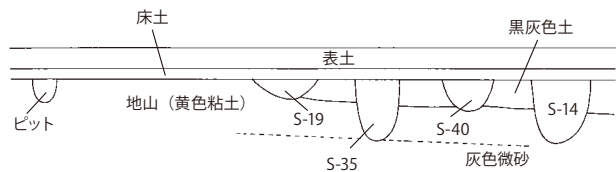


Fig. 70 第37次調査基本土層模式図

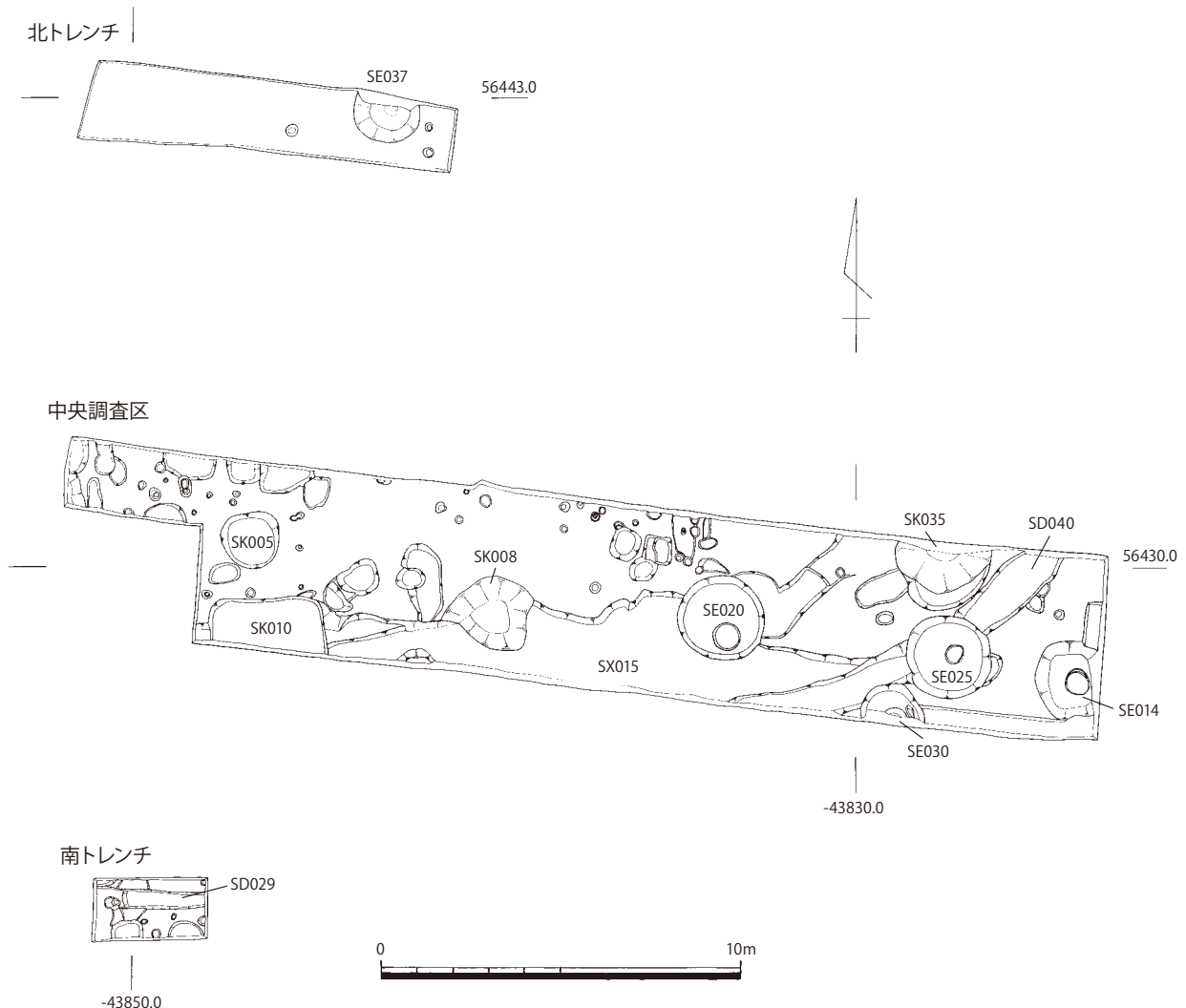


Fig. 71 第37次調査全体図 (1/200)

(3) 検出遺構

溝

37SD029

南トレンチで検出された東西溝で、長さ3m以上、幅0.4～0.53m、深さ0.1m前後を測る。振れはW-0° 43' 53" -Nである。

37SD040

長さ10.1m以上、幅1.0～1.25m、深さ0.3m前後のやや斜行する溝で、振れはE-32° 36' 7" -Nである。

井戸

37SE014 (Fig. 72)

掘り方は径2.1m、深さ2.4mの円形で、結桶の井戸枠を用いた井戸で、桶は2段分遺存していた。結桶は下段が高さ1m、幅0.08m前後、厚さ3cmの縦板を21枚束ね、上段は幅0.1m前後の縦板を20枚束ね井戸枠としている。

37SE020 (Fig. 72)

掘り方は径2.32～2.45m、深さ3.1mの円形で、井戸枠に結桶を用いた井戸で、桶は4段分遺存していた。結桶は幅0.1m前後、厚さ2.5cmの縦板を22枚束ね、上下2ヶ所をタガで締めている。タガは幅1～2cmの竹ひご4本をねじって作られていた。桶は内法最大径0.7m、最小径0.66m、高さ0.66mで、最下の桶材下端には方形割り込みや方形孔が穿たれていた。なお、埋土下半には礫が埋められていた。

また、SE020の最上層では1.2×1.25mの範囲で礫群(SX021)が検出された。礫の大きさは0.4m前後と0.1m前後である。SE020の井戸枠上に位置するため、埋土の窪みに埋められた礫群と推測される。

37SE025 (Fig. 72)

掘り方は径2.3m、深さ3.0mの円形で、井戸枠に結桶を用いた井戸で、桶が3段分遺存していた。結桶は下段が縦板を18～19枚で作り内法径0.48m、中段が幅0.05～0.1mの縦板を18枚で作り内法最大径0.54m、上段が幅0.08～0.1mの縦板17枚で作り内法径0.54mを測る。中段の縦板には一部方形孔が穿たれている。上段は半分以上腐食し土圧でやや変形している。

37SE030 (Fig. 72)

掘り方は径1.8m、深さ2.27m以上の円形で、井戸枠に結桶を用いた井戸で、桶が1段分遺存していた。半分以上が調査区外となり、全容は確認できていない。桶内の底面には曲物が据えられていた。

37SE037 (Fig. 72)

掘り方は径1.82m、深さ2.03mの円形で、底面で径0.38mの曲物が検出されたが、腐食が目立ち僅かに残る程度であった。写真を確認すると、埋土に井戸枠材や井戸枠痕は確認できない。

土坑

37SK005 (Fig. 73)

大きさ1.54～1.6m、深さ0.28mの円形状の土坑である。

37SK008 (Fig. 73)

東西2.65m、南北2.04m、深さ0.57mの不定円形の土坑である。SX015との切り合いは不明瞭である。

37SK010 (Fig. 73)

東西3.2m、南北1.5m以上、深さ0.45mの隅丸方形形状の土坑で、南側は調査区外へと続いている。

37SK035 (Fig. 73)

半分以上が調査区外となっている。大きさは径2.65m、深さ1.71mの円形で、写真を見ると埋土中央

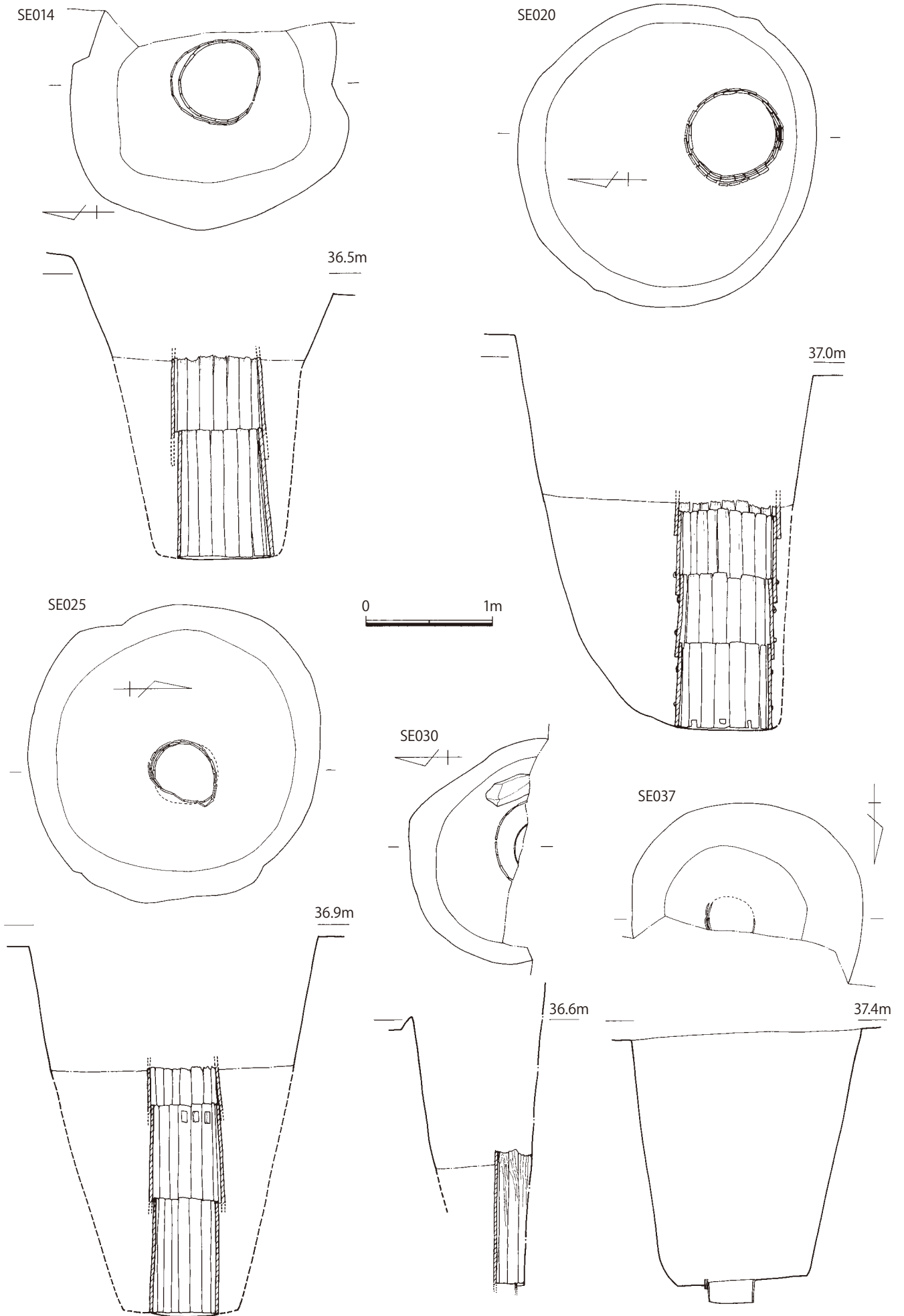


Fig. 72 37SE014・020・025・030・037 遺構実測図 (1/40)

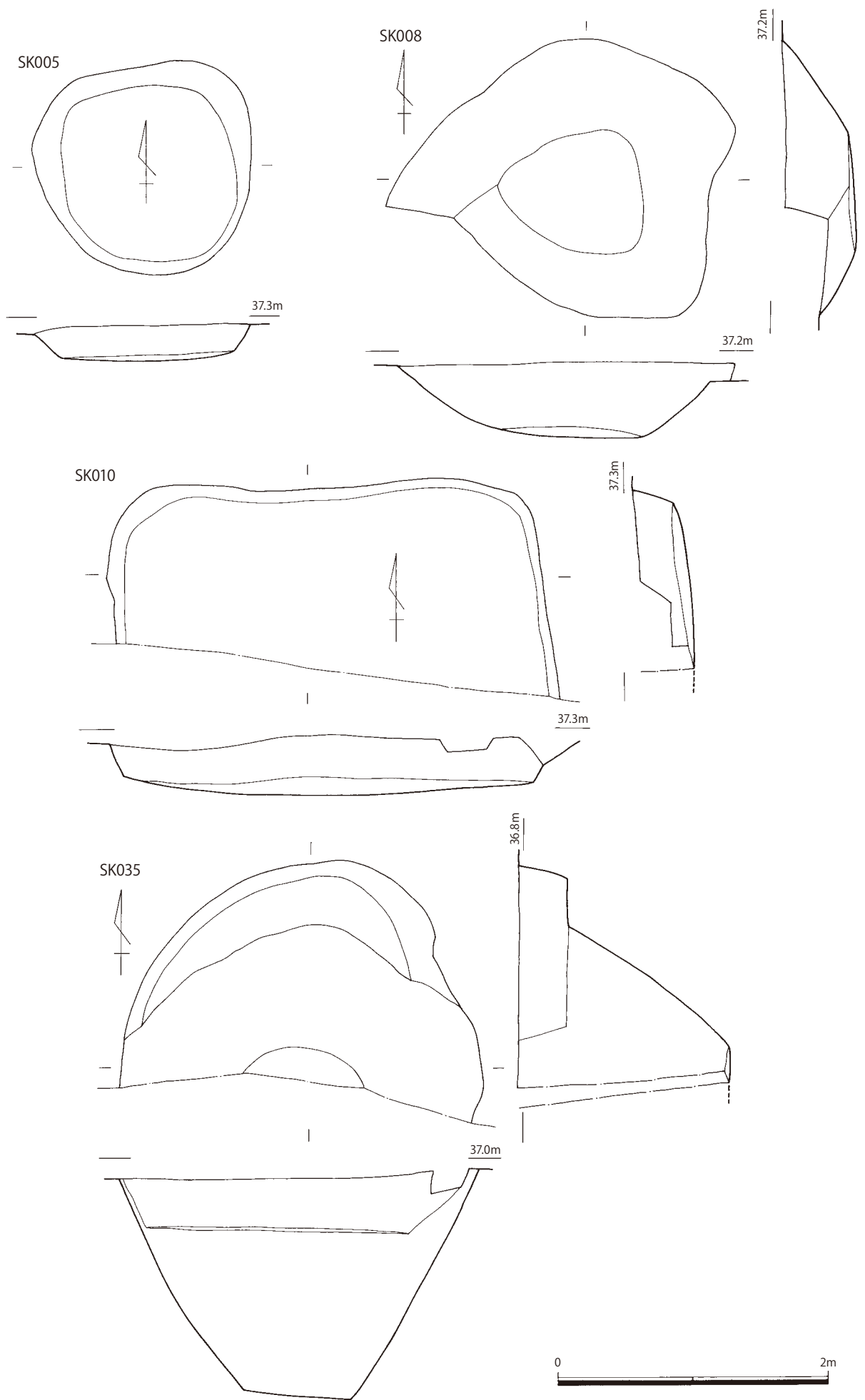


Fig. 73 37SK005・008・010・035 遺構実測図 (1/40)

に暗灰色土が真っすぐ見られることから、井戸枠こそ遺存していないが、井戸の可能性も考えられる。

その他の遺構

37SX015

中央調査区の南辺に沿って検出された溝状の窪みで、東西 15m、南北 2.8m 以上、深さ 0.15m 前後である。

(4) 出土遺物

溝

37SD040 出土遺物 (Fig. 74)

土師器

小皿 a (1～4) 復元口径 9.2～10.8 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

井戸

37SE014 出土遺物 (Fig. 75)

土師器

小皿 a (1) 口径 9.6 cm、底部切り離しは回転糸切り。全体的に歪みがある。

白磁

皿 (2) 復元口径 10.0 cm。口縁端部は釉を拭き取る。IX-1b 類。

石製品

滑石加工品 (3) 滑石を円柱状に削っている。縦 3.2 cm、断面径 1.4 cm。

37SE014 井戸内出土遺物 (Fig. 75)

木製品

板状木製品 (4～6) 4 は縦 21.7 cm、幅 4.2 cm、厚さ 0.4 cm。側面にやや挟り込みがあるが全形は不明である。5 は縦 20.9 cm、幅 9.6 cm、厚さ 0.4 cm。両端部は若干丸味がある。両側面は欠損しているのか生きているのか不明瞭である。6 は縦 21.3 cm、幅 4.7 cm、厚さ 0.4 cm。両側面は欠損しているものと推測される。

37SE025 出土遺物 (Fig. 75)

土師器

小皿 a (7～11) 復元口径 9.2～9.75 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (12、13) 復元口径 12.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

土師質土器

鍋 (14) 口縁部を L 字形に屈曲させ、口縁端部上面に押圧文を施す。外面は全面に煤が付着する。

青白磁

合子蓋 (15) 口径 6.0 cm、器高 1.65 cm。外面に花文を描き、淡く青みがかった透明釉を施すが、口縁端部から内面は露胎である。

土製品

棒状土製品 (16) 長さ 10.8 cm、幅 2.8 × 3.7 cm。色調は黄灰色を呈する。

石製品

石鍋補修具 (17) 滑石製で、突出部を削り出し、その中央に鉄金具が錆び付き遺存する。

石鍋加工品 (18) 滑石製石鍋の底面を切断し再利用している。外面には煤が付着する。大きさは縦 9.6 cm、幅 3.2 cm。

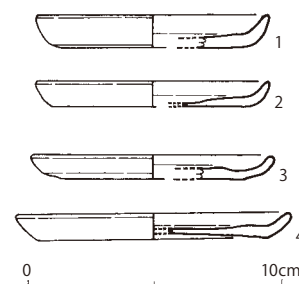


Fig. 74 37SD040 出土遺物
実測図 (1/3)

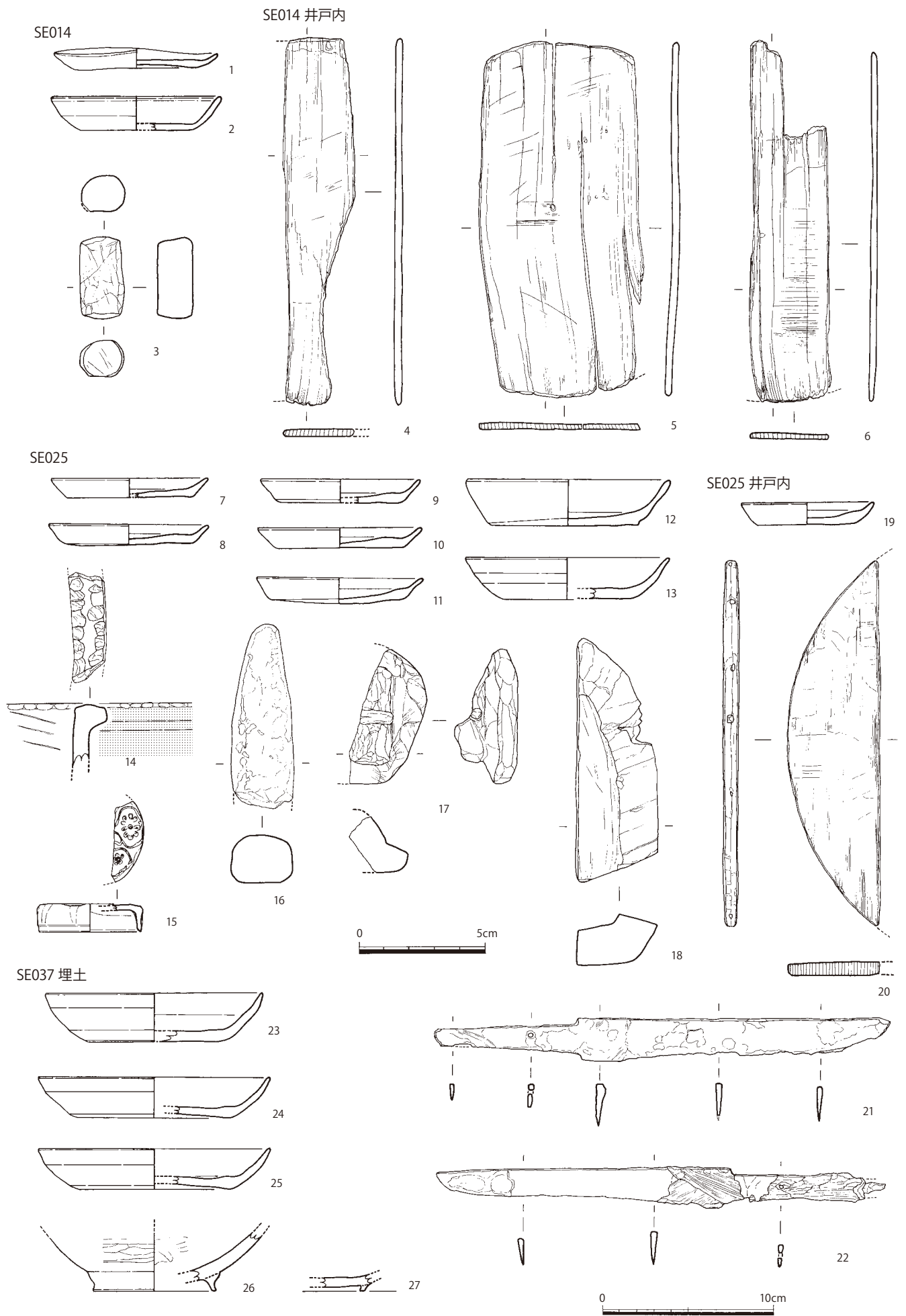


Fig. 75 37SE014・025・037 出土遺物実測図 (1/3、石製品は1/2)

37SE025 井戸内出土遺物 (Fig. 75)

土師器

小皿 a (19) 口径 7.8 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

木製品

曲物底板 (20) 底板の一部で復元径は 27 cm、厚さ 0.9 cm。側面には木釘穴が遺存する。

金属製品

鉄製短刀 (21、22) 21 は全長 26.8 cm、上身の長さ 18.5 cm、茎の長さ 8.3 cm、最大幅 2.5 cm。茎には目釘穴が確認できる。上身の根元 2.6 cm程が他と錆具合や刃こぼれ状況が異なっており、何か巻かれていたと推測される。22 は全長 26.4 cm、上身の長さ 17.3 cm、茎の長さ 9.1 cm、最大幅 2.0 cm。茎がやや折れ曲がっている。刃部には鋭さが残る。茎下半には木質が、茎から上身根元にかけて植物繊維が残る。茎中央には目釘穴が確認できる。

37SE037 埋土出土遺物 (Fig. 75)

土師器

坏 a (23～25) 復元口径 12.8～13.6 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

瓦器

椀 c (26、27) 底部に貧弱な高台を貼付する。体部内外面にミガキ c を施す。

土坑

37SK005 出土遺物 (Fig. 76)

土師器

小皿 a (1、2) 底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (3～6) 復元口径 12.3～12.5 cm。底部切り離しは全て回転糸切りである。

瓦器

椀 c (7) 復元口径 16.3 cm、器高 6.5 cm。潰れた高台を貼付する。内面にコテ当て痕が残る。

37SK010 出土遺物 (Fig. 76)

土師器

小皿 a (8～15) 復元口径 8.0～9.0 cm。底部切り離しは全て回転糸切りである。

坏 a (16～23) 復元口径 12.0～13.4 cm。底部切り離しは全て回転糸切りである。

甕 (24) 内外面ともヨコナデ調整で、外面には煤が付着する。

その他の遺構

37SX015 出土遺物 (Fig. 76)

土師器

小皿 a (25～27) 復元口径 10.0～11.0 cm。底部切り離しは回転ヘラ切りで板状圧痕を残す。

小皿 a2 (28) 口径 10.9 cm。底部切り離しは回転ヘラ切りで板状圧痕を残す。

丸底坏 a (29) 口縁端部を僅かに外反させる。内面はミガキ b を施す。口径 15.1 cm。

丸底坏 c (30～32) 口縁端部を僅かに外反させる。内面はミガキ b でコテ当て痕が残る。復元口径 14.6～15.6 cm。

黒色土器

鉢 (33) A 類。復元口径 29.7 cm。口縁部を内湾させる。胎土は明橙色で内外面ともミガキ c を施す。

灰釉陶器

皿 (34) 復元高台径 8.5 cm。外面回転ナデ、内面は施釉する。

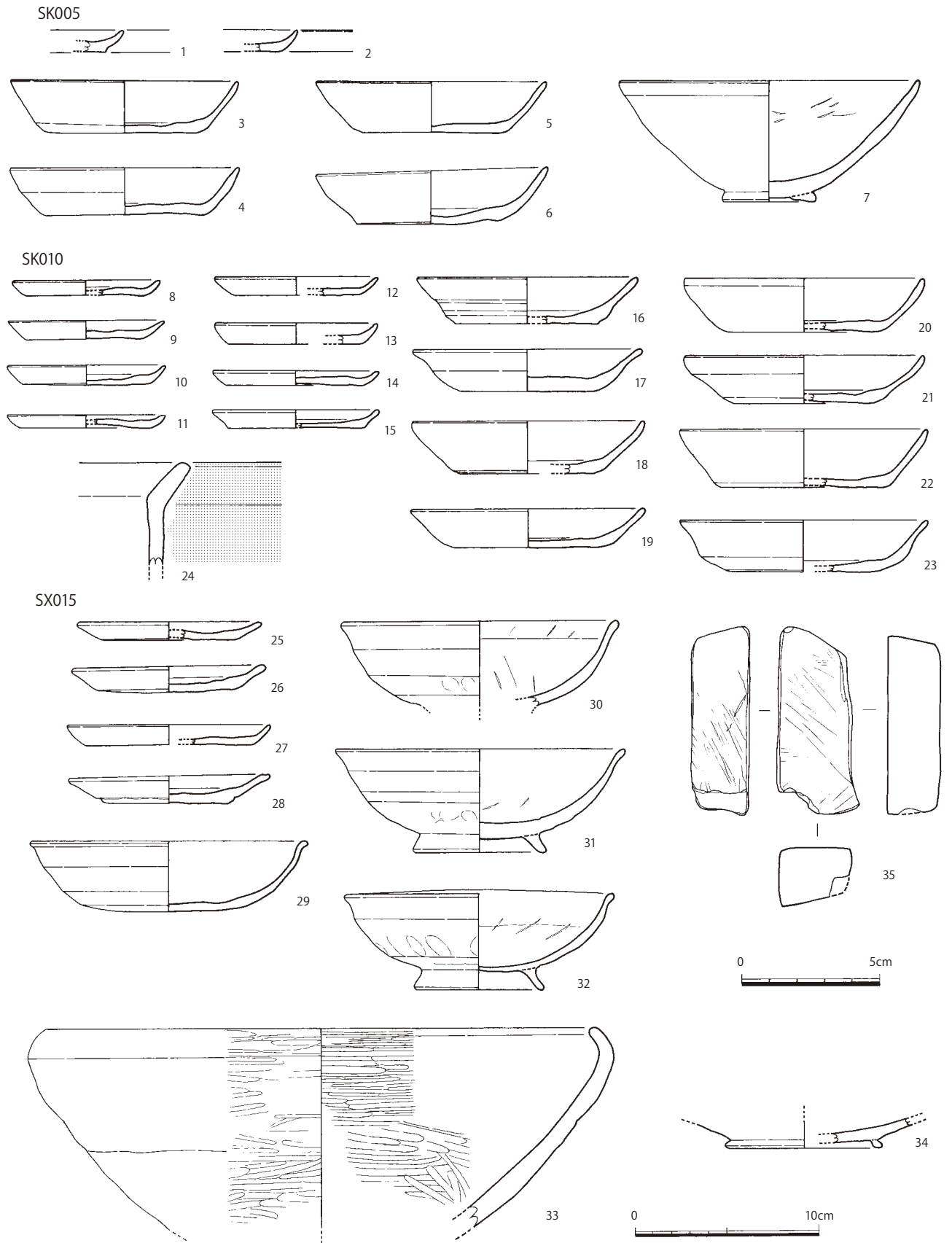


Fig. 76 37SK005・010、SX015 出土遺物実測図 (1/3、石製品は1/2)

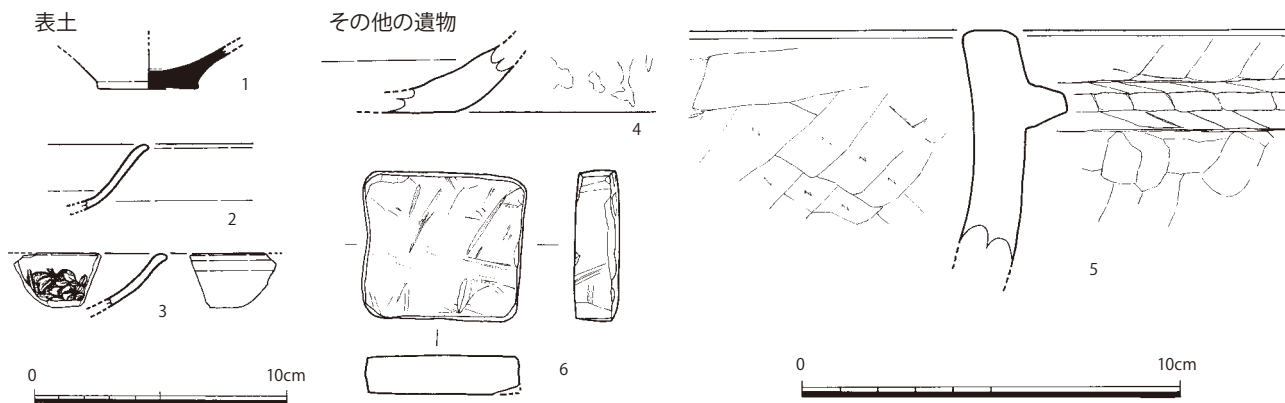


Fig. 77 第37次調査表土、その他の遺構出土遺物実測図(1/3、石製品は1/2)

石製品

砥石 (35) 縦6.8 cm、幅2.0 × 2.7 cm。6面使用され、擦痕が残る。

表土出土遺物 (Fig. 77)

須恵器

椀 (1) 復元底部径4.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。篠窯。

緑釉陶器

椀 (2) 胎土は須恵質で淡灰色を呈し、内外面に黄緑色釉を薄く施す。東海産か。

高麗青磁

椀 (3) 胎土は精製され灰色を呈する。内面には花文を施し、内外面に光沢のある淡い緑青灰色釉を施す。

その他の出土遺物 (Fig. 77)

中世国産陶器

壺 (4) 胎土は白色砂粒や黒色粒を含み、灰色を呈する。内外面ともナデ調整し、外面には緑色味のある灰色釉が部分的に残る。瀬戸産か。第37次調査地内出土。

石製品

石鍋 (5) 滑石を削り出し外面に鏝を作る。37SX021より出土。

滑石加工品 (6) 滑石を大きさ3.9 × 4.3 cm、厚さ1.05 cmの直方体に削り出している。第37次調査地内出土。

(5) 小結

この調査では、出土遺物に奈良時代のものは含まれるものの、検出した遺構は11世紀後半～14世紀にかけてのものであった。調査地は、井上条坊案の左郭11坊路が南北に通ると推定され、左郭7条12坊の一面にあったと推定されている「府中宇佐町」(『宇佐大鏡』)も付近一帯とされているが、南北溝など坊路に係る遺構は確認できていない。しかし、南隣の第157次調査では7条路と11坊路の分岐のような遺構が検出されている状況から、中世の街が形成されるにあたって大きく削平を受け、7坊路が消滅した可能性も考えられる。また、12世紀中頃～後半埋没の溝(SD040)が斜行している状況は、条坊の規格がこの頃には崩壊している状況を示している。

また、調査地と五条駅を挟んだ南側で実施された大宰府史跡第33次調査では、「貞應三年」(1224年)の紀年銘を持つ墨書木札が出土した南北溝(SD605)があったため、この調査では、その溝の延長部の確認がひとつのテーマであったが、同様の溝は検出されず、その後第138・157次調査で同時期の東西溝

が検出されたことにより、第37次調査地の手前で東に曲がっていると推測されることとなった。また、隣接して調査され報告されている第157・158次調査の個別遺構に続くものはないものは未検出であったものの、同時期の遺構が広がっており、13世紀前後から急速に街が発展していったことが理解できる。

参考文献

- 九州歴史資料館『大宰府史跡 昭和49年度発掘調査概報』1975
- 太宰府市教委『大宰府条坊跡VI』太宰府市の文化財第23集 1994
- 太宰府市教委『大宰府条坊跡21』太宰府市の文化財第61集 2002
- 井上信正「特論 大宰府条坊研究の現状」『大宰府条坊跡44』太宰府市教委 2014

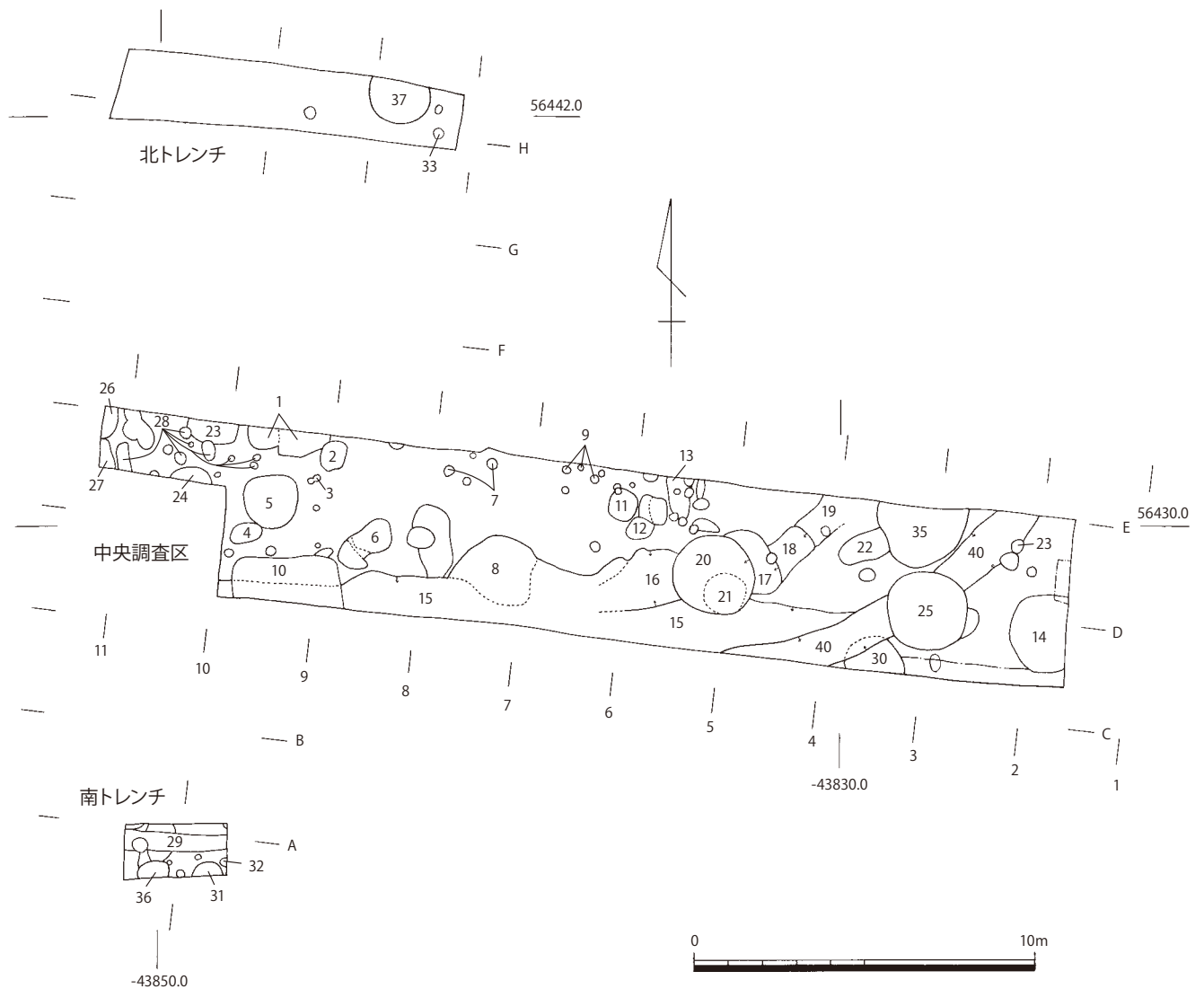


Fig. 78 第37次調査遺構略測図 (1/200)

表 14 第 37 次調査 遺構一覧表

S-番号	遺構番号	種別	埋 土 等	時 期	地 区
1		土坑	2つの穴からなるが切り合い不明。	14世紀前半～中頃	D9
2		ピット	S-1→2	14世紀～	D9
3		ピット		中世	D9
4		ピット		13世紀～	C9
5	37SK005	土坑		13世紀後半～	D9
6		土坑		中世?	CD8
7		ピット群		中世?	D7
8	37SK008	土坑	S-15との切り合いが不明。	平安時代?	C7
9		ピット群			D6
10	37SK010	土坑	S-15→10	14世紀前半～	C8・9
11		ピット		中世	D6
12		ピット		13世紀～	D5・6
13		ピット		中世?	D5
14	37SE014	井戸		14世紀前半～	C1
15	37SX015	溝状遺構	S-15→10、S-15→40	11世紀後半前後	C3～9
16		溝	S-16→20、S-15→16。16と17は同じか。	11世紀後半	CD5
17		土坑	S-18→17→20。16と17は同じか。	13世紀	D4
18		溝	S-19→18	13世紀	D4
19		溝		13世紀後半前後	D4
20	37SE020	井戸		13世紀～	D5
21	37SX021	礫群	SE020の最上面。S-20→21	13世紀～	D5
22		土坑		11世紀後半～12世紀	D3
23		ピット		13世紀～	D2
24		土坑		13世紀～	D10
25	37SE025	井戸		14世紀前半～	D3
26		土坑		13世紀?	D11
27		土坑		13世紀?	D11
28		ピット群		13世紀～	D9・10
29	37SD029	溝		平安時代?	A9・10
30	37SE030	井戸		12世紀後半?	C3
31		土坑		12世紀後半～	A9
32		ピット			A9
33		ピット		12世紀後半～	H8
35	37SK035	土坑		12世紀中頃～	D2・3
36		土坑		13世紀?	A10
37	37SE037	井戸		13世紀前半～	H8
40	37SD040	溝	S-15→40	12世紀後半	CD2～4

表 15 第 37 次調査 出土遺物一覽表

S-1	
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)
瓦 質 土 器	鉢
龍泉窯系青磁	碗：I-1a(1)、II-b(2)
瓦 類	平瓦
石 製 品	滑石片
S-2	
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト、ヘラ)
S-3	
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)
S-4	
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)
白 磁	碗：V×Ⅷ内面櫛目(1) 白磁破片：(1)、直口縁(1)、広東系(1)
同安窯系青磁	碗：I-1b(1) 皿：I(1)
土 製 品	棒状土製品
S-5	
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)
瓦 器	碗c
瓦 質 土 器	鉢
白 磁	合子蓋(1)
同安窯系青磁	碗：I-1b(1)
土 製 品	鋳型?
S-6	
土 師 器	小皿a(イト)
S-7	
土 師 器	坏a(イト)
S-8	
須 惠 器	破片
土 師 器	坏a(イト)、甕
越州窯系青磁	破片I(1)
S-9	
土 師 器	破片
S-10	
須 惠 器	甕
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、甕
瓦 質 土 器	鉢
白 磁	碗：IV(1)、V(1)、V-4×Ⅷ-1×3(1)、Ⅷ(1)、 内面櫛目(1)、碗破片(2) 皿：Ⅲ-1(1)、Ⅷ-1(1)、Ⅷ-2a?(1)、IX-1b(2) 白磁破片：(1)、内面櫛目(1)、広東系(1) 白磁?(1)
龍泉窯系青磁	碗：I(2)、I?(1)、I-2(2)、II-b(2) 龍泉破片：I(1)、IV?(1)
同安窯系青磁	碗：I-1(1)
中国 陶 器	A群(1)、A類壺(1)
S-11	
土 師 質 土 器	火舎
S-12	
須 惠 器	破片
土 師 器	坏a(イト)
瓦 質 土 器	鉢
白 磁	碗破片(1) 白磁破片(2)
S-13	
土 師 器	甕、破片
瓦 器	破片
瓦 質 土 器	鉢
同安窯系青磁?	壺?(1)
S-14	
須 惠 器	破片
土 師 器	小皿a(イト)、坏a
瓦 質 土 器	鉢
瓦 類	平瓦
中世国産陶器	甕(滑)
白 磁	皿：IX-1b(1) 白磁破片(1)
青 白 磁	皿(1)
龍泉窯系青磁	碗：I(2)、II-b(3) 破片Ⅲ外連弁(1)
同安窯系青磁	碗：I-1b(4)、破片(1)
中国 陶 器	鉢?B群(1)、壺B群(1)、耳壺XII(1)
石 製 品	石鍋、滑石加工品
S-14井戸内	
須 惠 器	破片
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)
白 磁	碗：IV(1)、V-3a(1)
同安窯系青磁	碗：I-1b(1)
中国 陶 器	耳壺XII(3)
木 製 品	板状木製品
S-15	
須 惠 器	坏蓋、坏、甕、破片
土 師 器	小皿a、小皿a2、坏c(ミガキa)、丸底坏a、丸底坏c、甕
黒色土器A類	碗、鉢
黒色土器B類	碗c
灰 釉 陶 器	皿
白 磁	碗：Ⅷ(1) 白磁破片(1)
越州窯系青磁	碗：I(1)、I-2(1) 越破片I托?(1)、II(1)
石 製 品	砥石
S-16	
土 師 器	小皿a(ヘラ)、小皿c、碗c、丸底坏a
石 製 品	石鍋
S-17	
須 惠 器	破片
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト、ヘラ)、丸底坏a、坏c、甕
瓦 器	碗c
中世国産陶器	甕
白 磁	碗：V(1) 皿：IX(1)、IX-2(1) 白磁破片(1)
龍泉窯系青磁	碗：I-2?(1)
同安窯系青磁	碗：I(1)、I-1b(3)
S-18	
須 惠 器	破片
土 師 器	坏a(イト)、坏c(ヘラ)、丸底坏a、甕
黒色土器B類	破片
瓦 器	碗c
S-19	
須 惠 器	破片
土 師 器	坏a(ヘラ)、甕
緑 釉 陶 器	破片
龍泉窯系青磁	坏：Ⅲ(1)
S-21	
須 惠 器	坏、甕
土 師 器	小皿a(イト)、小皿b、丸底坏?、碗c
瓦 器	破片
龍泉窯系青磁	碗：II-a(1) 皿：I(1)
中国 陶 器	B群(1)
瓦 類	平瓦
石 製 品	石鍋
S-22	
須 惠 器	破片
土 師 器	小皿a(イト、ヘラ)、坏c(ヘラ)、丸底坏a
越州窯系青磁	皿：II(1)
土 製 品	棒状土製品
S-23	
須 惠 器	破片
土 師 器	坏a(イト)
土 師 質 土 器	鍋
白 磁	碗：Ⅷ(1)、破片(1)
S-24	
土 師 器	坏a(イト)
瓦 器	破片
瓦 質 土 器	鉢
龍泉窯系青磁	碗：II-b(1)
同安窯系青磁	碗：I-1b(2)
S-25	
須 惠 器	破片
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)
土 師 質 土 器	鍋
黒色土器B類	碗c
瓦 器	碗c
土 師 質 土 器	鉢
瓦 質 土 器	鉢
越州窯系青磁	破片I(1)
白 磁	碗：IV(1)、V(2)、V-1×Ⅷ-2(1)、V-4×Ⅷ-1×3(1) Ⅶ?(1)、Ⅷ(1)、碗破片(4) 皿：Ⅷ-1b(1)、IX(2)、IX-2(2) 四耳壺Ⅲ(1)、破片(1)
青 白 磁	合子蓋(2)
龍泉窯系青磁	碗：I(1)、I-2(2)、II-a(1)、II-b(5)、Ⅲ-1A(1) Ⅲ-2C(5)、碗×坏Ⅲ外面連弁 坏：Ⅲ-4(1) 皿：I-3a(1)
同安窯系青磁	碗：I-1b(5) 皿：I(1)
高 麗 青 磁	碗(1)
中国 陶 器	甕(1)、耳壺(1)、耳壺XII(1)、B群壺(1)、盤I-b(1) 鉢IV-1(1)、鉢Ⅲ(1)、B群鉢?(1)、A群(2)
石 製 品	石鍋加工品、石鍋補修具
土 製 品	柱状土製品

S-25井戸内

土師器	小皿a(イト)、椀c
越州窯系青磁	破片I(1)
龍泉窯系青磁	椀：I×II-b(1)、II-b(2)、II-c(1) 盤III内面連弁(1)
同安窯系青磁	椀：I-1b(1)
金属製品	短刀
木製品	曲物底板

S-26

須恵器	破片
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)

S-27

土師器	坏a(イト)
白磁	椀：V(1)
瓦類	平瓦

S-28

須恵器	破片
土師器	小皿a(イト)、坏a、把手
瓦質土器	鉢
白磁	椀(1)
龍泉窯系青磁	椀：II-b(1) 龍泉破片I(1)
中国陶器	B群(1)

S-29

須恵器	破片
土師器	坏c(へら)、破片
瓦類	平瓦

S-30井戸内

土師器	坏a(イト)、甕
白磁	椀：VIII(1)
瓦類	平瓦

S-31

須恵器	破片
土師器	坏a(イト)

S-32

土師器	破片
-----	----

S-33

土師器	小皿a(イト)
白磁	椀：IV(1) 皿：IV?(1)

S-35

須恵器	破片
土師器	小皿a(へら)、坏a(へら、イト)、椀c(へら)、甕
黒色土器B類	破片
白磁	椀：IV(1)
同安窯系青磁	椀：I-1b(1)
中国陶器	盤(1)

S-36

須恵器	破片
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)
中世国産陶器	壺?(1)
白磁	破片(2)
中国陶器	B群(1)

S-37埋土

須恵器	破片
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)、甕
瓦類	椀c
瓦質土器	鉢
国産磁器	破片
白磁	椀：IV(2)、V~VIII(1)、V-1×VIII-2(1)、V-4×VIII-1×3(4)
青白磁	破片(1)
龍泉窯系青磁	椀：I(2)、I?(1)、I-1a(1)、I-2(2)、I-4(1)、II-b(1)
同安窯系青磁	椀：I-1b(2)
中国陶器	壺IV(1)、B群(5)、B群?壺(1)

S-40

土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)、坏c(へら)、丸底坏a、甕
白磁	椀：IV(2)、V-4b(1)、V-4×VIII-1×3(1)、V×VIII(1) VIII(1)、椀破片(2) 壺III(1)
青白磁	皿?(1)
同安窯系青磁	椀：I-1(1)、I-1a(1)、I-1b(3)
中国陶器	B群壺(1)、C群壺(2)、盤I-2(1)
瓦類	破片
石製品	石鍋、破片(安山岩)

表土

須恵器	椀(篠窯)、破片
土師器	小皿a、小皿b、坏a(イト)、甕
黒色土器A類	破片
須恵質土器	鉢
土師質土器	鉢
緑釉陶器	椀
国産陶器	蓋、破片
国産磁器	紅皿
肥前系磁器	椀、破片
中世国産陶器	甕
白磁	椀：V(2)、V×VIII白堆線(1)、V-4×VIII-1×3(8)、 V-1×VIII(2)、VIII(1)、内面櫛目(1)、破片(4) 皿：II×III(1)、III-2(1)、破片?(1) 椀×皿IX(1) 壺III(1)、小壺?(1)、広東系(1)、破片(3)
越州窯系青磁	椀：I-2イ(1)、I縦線(1) 大椀I-2ア(1)
龍泉窯系青磁	椀：I(4)、I-2(4)、I-3(1)、I-4(2)、I×II(2)、II-a(1)、 II-b(8)、III-2(1)、III-2C(4)、I×IV(1) 坏：III-3b(1)、IV(1) 皿：I(1) 龍泉破片：III(1)、III連弁(1)、盤IV(1)
同安窯系青磁	椀：I(1)、I-1b(7)、内底釉剥ぎ(1)、小椀?(1)、 同安?破片(1)
高麗陶器	皿(1)
黒釉陶器	破片(1)
中国陶器	鉢I(1)、B群(1)
瓦類	破片
石製品	剥片(黒曜石)、滑石加工品

出土地不詳

中世国産陶器	壺(瀬戸?)、甕
白磁	合子蓋(1)、壺III(1)
青白磁	破片(1)
越州窯系青磁	椀：II(1)
龍泉窯系青磁	椀：I-2?(1)、II-b(3)
同安窯系青磁	椀：I(2)、I-1b(1)、III(1)
石製品	滑石加工品

表 16 第 37 次調査 土器供膳具計測表

A: 内底ナデ B: 板状圧痕

S-5

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-002	Fig.76-1	—	1.2	—	—	—
	小皿a	イト	R-001	Fig.76-2	—	1.2	—	—	—
	坏a	イト	R-004	Fig.76-3	12.3	2.9	8.2	○	—
	坏a	イト	R-003	Fig.76-4	12.4	2.6	-8.6	○	○
	坏a	イト	R-005	Fig.76-5	12.45	2.8	7.5	○	○
	坏a	イト	R-006	Fig.76-6	12.5	2.95	7.8	○	○
瓦器	椀c		R-007	Fig.76-7	16.3	6.5	5.1		

S-10

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-013	Fig.76-8	(8.0)	0.85	(6.3)	○	○
	小皿a	イト	R-008	Fig.76-9	8.45	1.05	6.2	○	○
	小皿a	イト	R-009	Fig.76-10	8.6	1.1	(7.0)	○	○
	小皿a	イト	R-014	Fig.76-11	(8.6)	0.7	(7.0)	○	○
	小皿a	イト	R-010	Fig.76-12	(8.8)	1.0	(6.8)	○	○
	小皿a	イト	R-011	Fig.76-13	(8.8)	1.15	(7.8)	—	—
	小皿a	イト	R-015	Fig.76-14	(9.0)	0.8	(7.4)	○	○
	小皿a	イト	R-001	Fig.76-15	(9.0)	1.05	(7.4)	○	○
	坏a	イト	R-005	Fig.76-16	(12.0)	2.55	(7.8)	○	○
	坏a	イト	R-003	Fig.76-17	(12.4)	2.3	(7.4)	○	○
	坏a	イト	R-007	Fig.76-18	(12.6)	2.9	(7.2)	○	—
	坏a	イト	R-002	Fig.76-19	(12.6)	2.1	(8.0)	○	○
	坏a	イト	R-016	Fig.76-20	(13.0)	2.9	(8.2)	○	○
	坏a	イト	R-017	Fig.76-21	(13.0)	2.6	(7.6)	○	—
	坏a	イト	R-006	Fig.76-22	(13.4)	3.15	(9.0)	○	○
坏a	イト	R-004	Fig.76-23	(13.4)	2.8	(8.4)	○	○	

S-14

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-001	Fig.75-1	9.6	0.9~1.3	7.2	○	○

S-15

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-002	Fig.76-25	(10.0)	0.95	(7.6)		○
	小皿a	ヘラ	R-004	Fig.76-26	10.5	1.5	7.8	○	○
	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.76-27	(11.0)	1.1	(9.0)	○	○
	小皿a2	ヘラ	R-003	Fig.76-28	10.9	1.6	7.3	○	○
	丸底坏c	ヘラ	R-010	Fig.76-29	15.1	3.8	9.0	○	○
	丸底坏c		R-009	Fig.76-30	(15.0)	4.6+ α			
	丸底坏c		R-008	Fig.76-31	(15.6)	5.6	7.2		
	丸底坏c		R-007	Fig.76-32	14.6	5.1~5.4	7.0		○

S-25

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-005	Fig.75-7	(9.2)	1.15	(7.4)	○	○
	小皿a	イト	R-001	Fig.75-8	9.4	1.25	7.3	○	○
	小皿a	イト	R-004	Fig.75-9	(9.4)	1.4	(7.2)	○	○
	小皿a	イト	R-003	Fig.75-10	(9.6)	1.25	7.6	○	○
	小皿a	イト	R-002	Fig.75-11	9.75	1.55	7.8	○	○
	坏a	イト	R-007	Fig.75-12	(12.0)	2.75	8.6	○	○
	坏a	イト	R-008	Fig.75-13	(12.0)	2.5	(7.6)	○	—

S-25井戸内

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-003	Fig.75-19	7.8	1.35	5.6	○	○

S-37埋土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	イト	R-003	Fig.75-23	(12.8)	2.9	(8.0)	○	○
	坏a	イト	R-002	Fig.75-24	(13.6)	2.4	(8.9)		○
	坏a	イト	R-001	Fig.75-25	(13.6)	2.4	(9.0)	○	○
瓦器	椀c		R-004	Fig.75-26		3.4+ α	(7.2)		
	椀c		R-005	Fig.75-27		1.0+ α			

S-40

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-002	Fig.74-1	(9.2)	1.3	(7.8)	—	—
	小皿a	イト	R-003	Fig.74-2	(9.2)	1.0	(8.0)	○	—
	小皿a	イト	R-004	Fig.74-3	(9.6)	0.95	(7.2)	○	—
	小皿a	イト	R-001	Fig.74-4	(10.8)	1.0	(9.0)	○	○

2、第41次調査

(1) 調査に至る経緯と成果

調査地は、太宰府市大字太宰府（現・五条3丁目）字泉水2750-1で、土地の北側には、1806年作製の『太宰府旧蹟全図北図』にも描かれている東西方向の水路が走っている。

対象地は、1981（昭和56）年10月7日、資材置場の目的で農地転用届が出されている。1983（昭和58）年2月18日の立会調査で、調査地内に東西に長いトレンチを1本設定したが、顕著な遺構は確認されなかった。地盤状況について記録が残されていないが、1978（昭和53）年に調査地西側で福岡県教育委員会文化課によって行われたトレンチ調査でも、遺構が希薄な部分が続くことから、現在北側を流れる水路が一時期氾濫し、遺構を消滅させた可能性も考えられる。対象面積330㎡。調査は山本信夫が担当した。調査後は共同住宅が建設された。

参考文献

九州歴史資料館『大宰府史跡 昭和53年度発掘調査概報』1979年

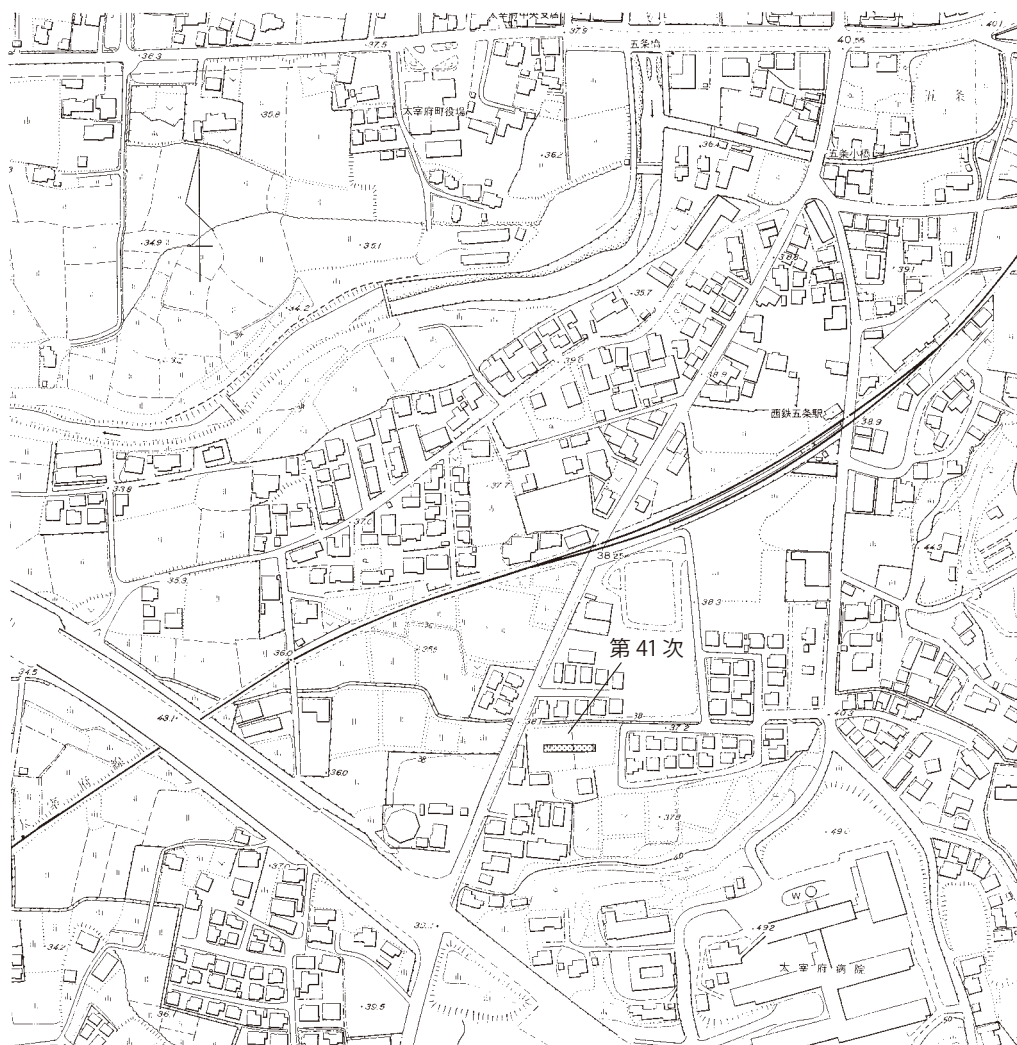


Fig. 79 第41次調査トレンチ位置図と周辺図（昭和52年、1/5000）

3、第 57 次調査

(1) 調査に至る経緯

調査地は、太宰府市大字太宰府（現在、五条2丁目）字月見山2740-6で、西鉄太宰府線沿線に位置する。

1986（昭和61）年4月10日、鉄筋コンクリート造4階建の共同住宅建築計画に先立ち、文化財保護法第57条の届出があった。調査地は、1978（昭和53）年に福岡県教育委員会文化課がトレンチ調査を実施し、遺構の存在を確認していたため、発掘調査を実施することとなった。調査期間は1986（昭和61）年7月29日～8月1日で、調査対象面積942㎡、調査面積36㎡である。調査は狭川真一が担当した。

調査地は、上述のとおり、福岡県教育委員会が一部調査を行っており、その調査トレンチの一部が今回の調査区と重複している。今回は建物部分をトレンチ状に調査したため、敷地北側の駐車場などは未調査のまま遺構は保存されている。

なお、調査では、レベル計測は任意で行われ、基準レベルの測量が未測定のままのようで、遺構の正確な標高は不明である。

参考文献

九州歴史資料館『大宰府史跡 昭和53年度発掘調査概報』1979年

(2) 基本層位

表土の下に茶灰色粘土があり、それを除去すると黄色粘土の地山に遺構が確認できる。なお、黄色粘土の下層には灰色砂が堆積している。遺構面の標高は約35mである。

(3) 検出遺構

溝

57SD005

北半分は1978年にSD04・SK24として調査されていた遺構で、検出範囲が狭いため明確に言い切れないが南北溝と推測される。今回はさらに1mほど検出した。溝は幅0.72m、深さ0.38mである。

井戸

57SE010 (Fig. 81)

東西1.45m、南北1.5m以上、深さ0.85mの円形の掘り方で、中央底面には径0.43～0.46m、深さ0.2mの曲物が据えられていた。曲物の裏込めには河原石が多く詰められていた。曲物の上面レベルで丸太材

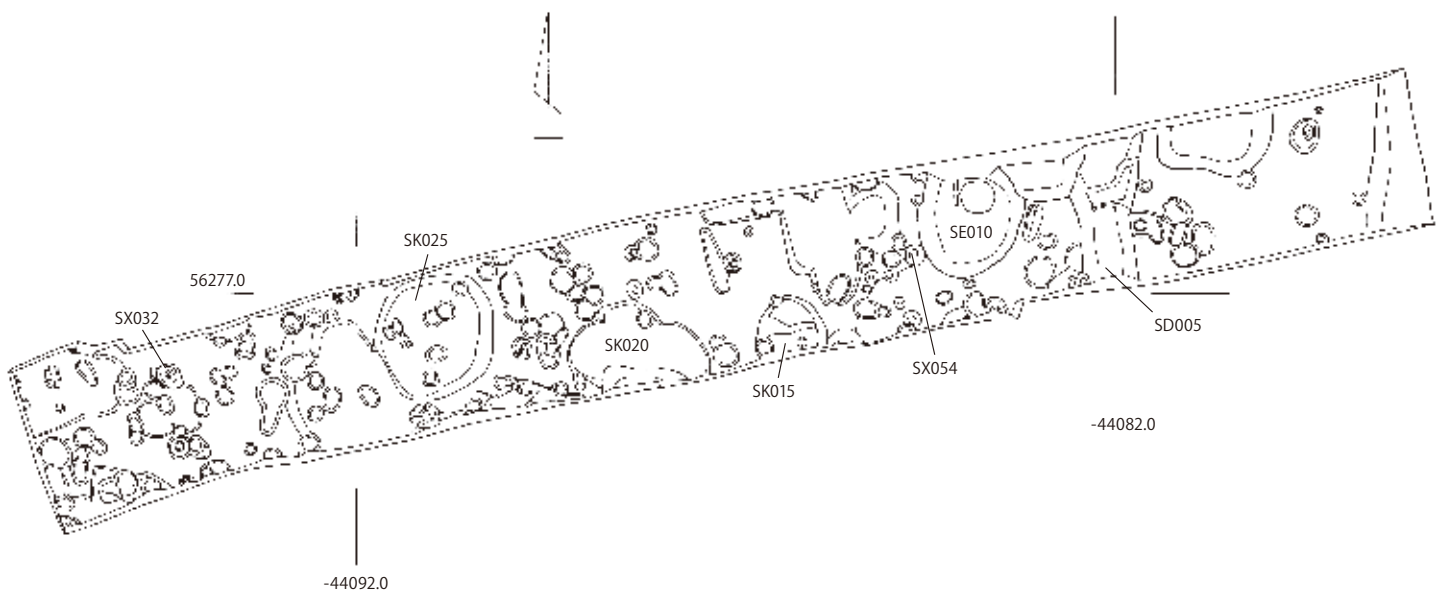


Fig. 80 第 57 次調査遺構全体図 (1/100)

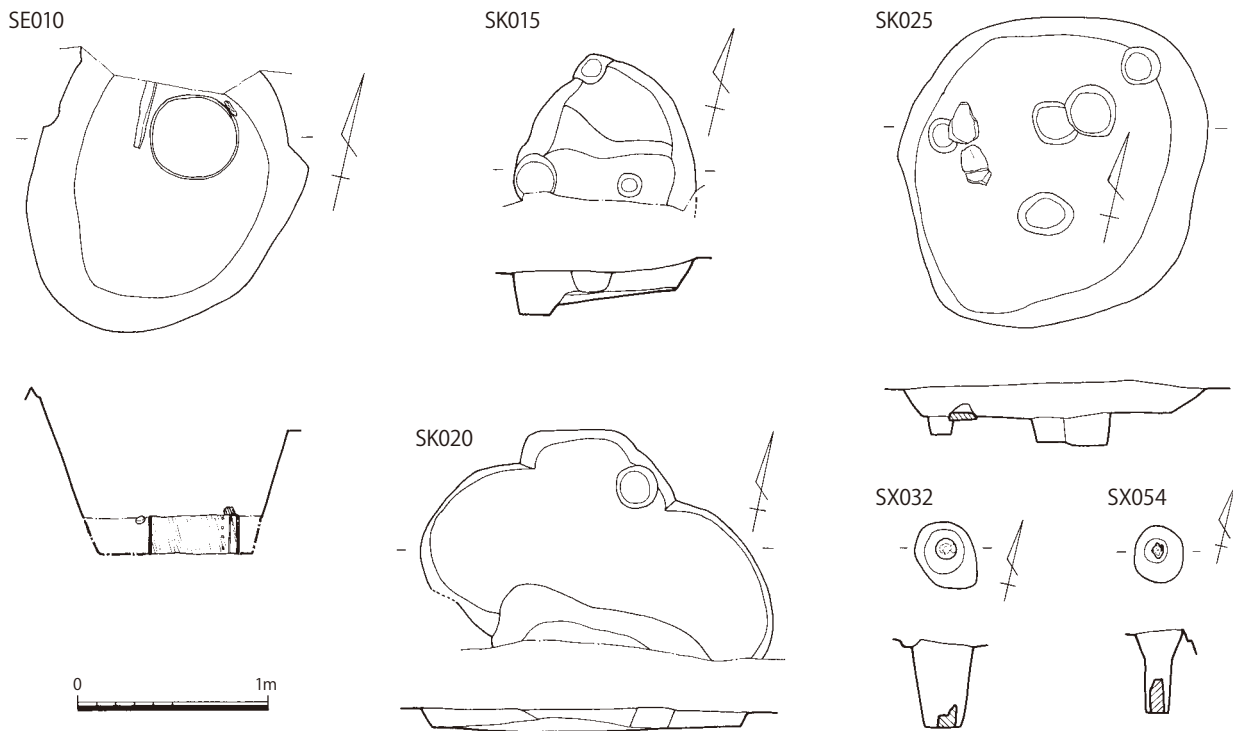


Fig. 81 57SE010、SK015・020・025、SX032・054 遺構実測図 (1/40)

や板材が検出されたことから、この曲物は井戸底の浄化装置で、井戸枠は板材で組み上げられていたものと推測される。

土坑

57SK015 (Fig. 81)

東西 0.95m、南北 0.8m 以上、深さ 0.3m の円形状土坑で、南に向かってやや深くなり調査区外へと続く。

57SK020 (Fig. 81)

東西 1.9m、南北 1.25m、深さ 0.1m の楕円形土坑である。

57SK025 (Fig. 81)

東西 1.62m、南北 1.62m、深さ 0.2m の円形土坑である。

その他の遺構

57SX032 (Fig. 81)

径 0.32 ~ 0.35m、深さ 0.46m の円形ピットで、ピット底面で径 0.1m の円形木材を検出した。掘立柱建物の一部である可能性が高い。

57SX054 (Fig. 81)

径 0.26 ~ 0.28m、深さ 0.43 の円形ピットで、先端部を五角形に面取りした幅 0.07m の木材を検出した。掘立柱建物の一部である可能性が高い。

(4) 出土遺物

溝

57SD005 出土遺物 (Fig. 82)

土師器

小皿 a (1) 復元口径 10.4 cm。底部切り離しは摩滅し不明。

碗 a (2) 復元口径 12.4 cm。口縁端部を僅かに外反させる。底部切り離しはヘラ切りで若干押し出

しているか。

丸底坏 a (3) 復元口径 12.2 cm。口縁端部を僅かに外反させ、内面はミガキ b、底部はヘラ切りで押し出しする。

井戸

57SE010 上層出土遺物 (Fig. 82)

土師器

小皿 a (4～7) 復元口径 9.4～9.8 cm。底部切り離しは回転ヘラ切りである。

丸底坏 a (8、9) 底部切り離しは回転ヘラ切り。8は復元口径 15.4 cm。9は内面にミガキ bが残る。

中国陶器

鉢 (10) 復元口径 24.3 cm。口縁端部を折り曲げ玉縁状に作る。胎土は白色砂粒や褐色粒を多く含み灰色を呈する。内面と外面上半部には明茶色釉を施す。

57SE010 下層出土遺物 (Fig. 82)

土師器

小皿 a (11～13) 復元口径 9.4～10.6 cm。底部切り離しは 11 が糸切り、12・13 は回転ヘラ切りである。

皿 (14) 小片で明確ではないが皿状のものと推測される。底部切り離しは回転ヘラ切り。色調は黄橙色を呈する。復元高台径 20.2 cm。

丸底坏 a (15) 底部切り離しは回転ヘラ切りで、内面はミガキ b を施す。

椀 c (16) 高い高台を貼付し復元高台径 8.0 cm。色調は淡黄橙色を呈する。

土坑

57SK015 出土遺物 (Fig. 82)

瓦質土器

鉢 (17) 復元口径 23.4 cm。外面はタテハケの後ナデ調整、内面はヨコナデの後使用により平滑となっている。外面には粘土帯の継ぎ目が残されている。

57SK020 出土遺物 (Fig. 82)

土師器

小皿 a (18) 復元口径 10.4 cm。底部切り離しは回転糸切り。一部に煤が付着する。

坏 a (19、20) 復元口径は 11.85 cm と 12.0 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

瓦器

椀 c (21) 丸い底部に断面三角形の高台を貼付する。内面は単位不明だがミガキ c が施される。

土師質土器

鍋 (22) 口縁部を外反させる。内外面ともナデ調整で、外面に煤が付着する。

57SK025 出土遺物 (Fig. 82)

土師器

小皿 a (23) 復元口径 10.4 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

坏 a (24～26) 復元口径は 12.0 cm と 12.3 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

瓦質土器

鉢 (27) 内外面とも回転ナデで、色調は黒灰色を呈する。

その他の遺構

57SX054 出土遺物 (Fig. 82)

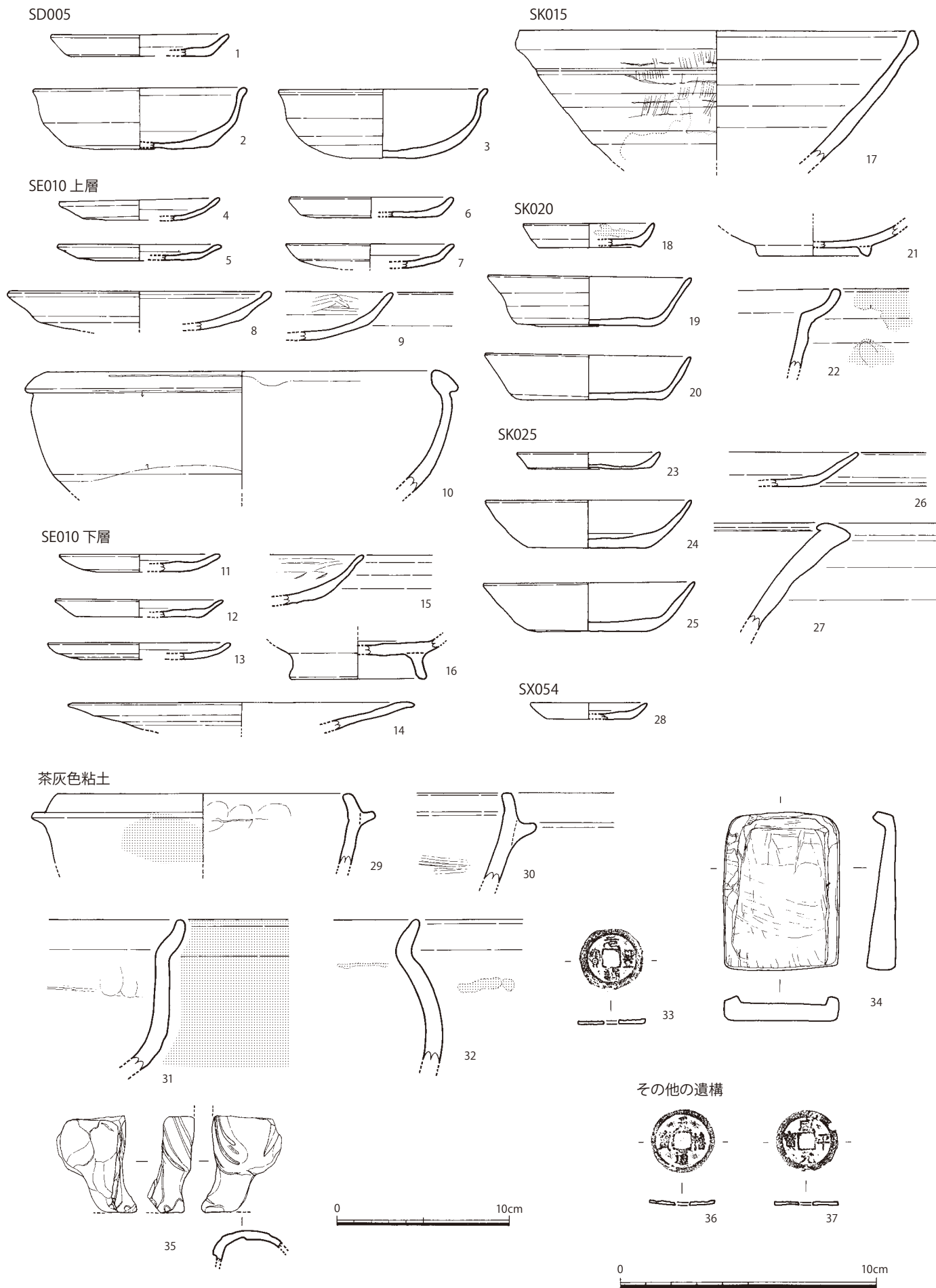


Fig. 82 第57次調査出土遺物実測図 (1/3、金属製品・石製品は1/2)

土師器

小皿 a (28) 復元口径 6.8 cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

土層

茶灰色粘土出土遺物 (Fig. 82)

土師質土器

鍋 (29 ~ 31) 29・30 は外面上部に鏢状の突起を巡らす。29 は復元口径 17.0 cm。外面には煤が付着する。31 は口縁端部を外反させる。外面は被熱で剥落もみられ、煤が厚く付着する。

瓦質土器

壺もしくは釜 (32) 胎土は白色砂粒を少量含み、色調は灰色を呈する。内外面ともヨコナデ調整である。内外面とも一部に煤が付着する。

金属製品

銭貨 (33) 北宋銭で初鑄 1078 年の「元豊通寶」。径 2.6 cm。

石製品

滑石硯 (34) 縦 6.2 cm、幅 4.5 cm、最大厚 1.1 cm。内外面とも横方向のケズリ痕が残る。

土製品

人形 (35) 大きく破損するが、胴部から脚部にかけての破片である。内面ナデ調整で、外面には衣のシワが残る。色調は橙黄色を呈する。

その他の遺構出土遺物 (Fig. 82)

金属製品

銭貨 (36、37) 36 は北宋銭で初鑄 1017 年の「天禧通寶」、径 2.6 cm。SX023 より出土。37 は北宋銭で初鑄 998 年の「咸平元寶」、径 2.5 cm。SX026 より出土。

(5) 小結

律令期の遺構として、57SD005 (10 世紀後半～11 世紀前半)、57SE010 (11 世紀後半前後) を検出したが、それ以外に律令期の遺構は確認されていない。57SD005 は南北溝で、調査区東端の溝状遺構と対になっているように見えるが、これは九州歴史資料館が調査した遺構で、南北延長上に続きの遺構が検出されていないことから溝とは言いきれない。よって、57SD005 は条坊内を細分した区画溝の可能性が考えられる。

上述した遺構以外はほとんど 12 世紀以降のもので、主要な遺構は 13 世紀後半～14 世紀前半のものであった。福岡県教育委員会文化課のトレンチ調査では今回の調査地南側付近では遺構が希薄となっているが、それ以外にはピットや浅い土坑が多く検出されており、中世の五条のマチが広がっていたことが理解できる。

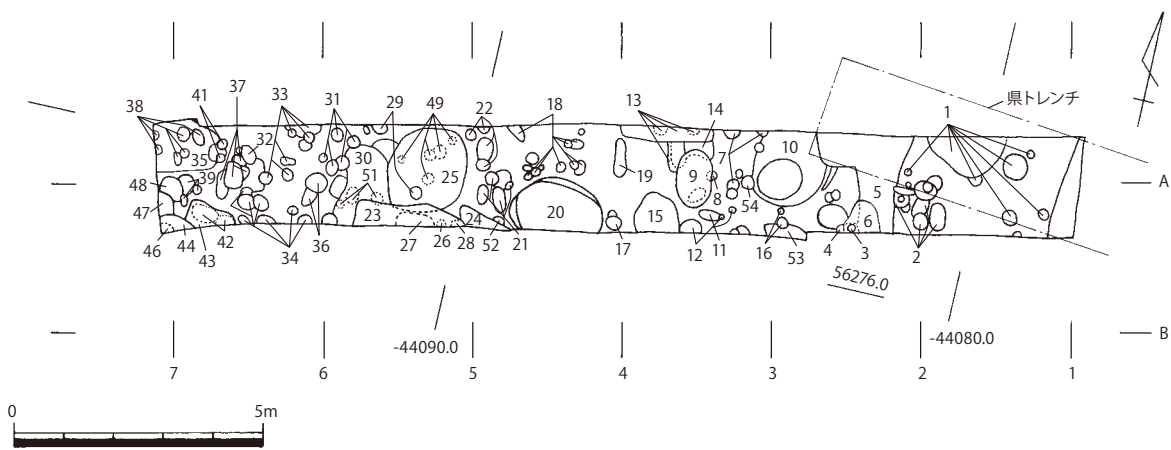


Fig. 83 第57次調査遺構略測図 (1/150)



Fig. 84 第57次調査と福岡県調査地関係図 (1/600)

表 17 第 57 次調査 遺構一覧表

S-番号	遺構番号	種 別	埋 土 等	時 期	地 区
1		土坑群	県調査済		AB1・2
2		ピット群		古代	B1・2
3		ピット		平安後期	B2
4		ピット		12世紀～	B2
5	57SD005	溝	南北溝	X期(10c後～11c前)	B2
6		ピット		平安後期～	B2
7		ピット群		13世紀	A3
8		ピット	S-8→9	13世紀	A3
9		窪み		13世紀	AB3
10	57SE010	井戸		11世紀後半前後	AB2
11		ピット		13世紀～	B3
12		ピット群		12世紀～	B3
13		ピット群		13世紀後半～14世紀前半	A3
14		ピット			A3
15	57SK015	土坑		13世紀～	B3
16		ピット群			B2
17		ピット			B4
18		ピット群		13世紀～	A4
19		ピット		平安以降	A4
20	57SK020	土坑		13世紀後半～14世紀前半	B4
21		ピット群		12世紀～	B4
22		ピット群		12世紀～	A4
23		窪み		13世紀後半～14世紀前半	B5
24		窪み		12世紀後半	B4・5
25	57SK025	土坑		13世紀後半～14世紀前半	AB5
26		ピット		13世紀後半～14世紀前半	B5
27		ピット			B5
28		ピット		13世紀～?	B5
29		ピット群	S-25→29、S-30→29		B5
30		土坑	S-30→25	13世紀～	AB5
31		ピット群		13世紀後半	A5
32	57SX032	ピット			A6
33		ピット群			A6
34		ピット群			B6
35		土坑			A6・7
36		ピット群		12世紀～	B6
37		ピット群		12世紀～	A6
38		ピット群		12世紀～	A6・7
39		ピット群		12世紀後半～	B6
41		ピット群		平安後期～	A6
42		ピット群			B6
43		ピット		12世紀～	B6
44		ピット	S-46→44	12世紀後半～	B6・7
46		ピット			B7
47		ピット	S-48→47→44	古代	B7
48		ピット		12世紀後半～	B7
49		ピット	S-25下層のピット		AB5
51		ピット群	S-30の下層のピット	12世紀後半～	AB5
52		ピット	S-52→24		B4
53		ピット	S-53→16		B2
54	57SX054	ピット	S-10→54	13世紀～	A3
茶灰色粘土		遺構検出時の土色		中世	

表 18 第 57 次調査 条坊関連遺構座標値

遺構番号	位置	遺構中点座標値		南門からの距離		方位
		X	Y	X方向(m)	Y方向(m)	
57SD005	北端中点	56278.290	-44082.160	-422.978	742.839	N-6° 20' 25" -W
	南端中点	56277.300	-44082.050	-423.967	742.959	

表 19 第 57 次調査 出土遺物一覧表

S-1

須 恵 器	甕、破片
土 師 器	小皿a(イト)、坏、坏a(イト)、甕類
土 師 質 土 器	鉢
瓦 質 土 器	鉢
緑 釉 陶 器	破片
白 磁	皿破片(1) 白磁破片(3)
龍泉窯系青磁	椀：II-a×b(1)、II-b(1) 皿：I(1)
中国 陶 器	破片B群(1)
瓦 類	燻し瓦?
金 属 製 品	鉛滓

S-2

須 恵 器	坏c
土 師 器	坏、坏d?
瓦 類	破片
そ の 他	炭

S-3

須 恵 器	坏
土 師 器	小皿a(へら)、坏

S-4

土 師 器	坏a×小皿a(イト)、破片
-------	---------------

S-5

須 恵 器	蓋3、甕
土 師 器	小皿a(へら)、高坏、丸底坏a、椀a、椀c、甕、破片
黒色土器B類	椀
緑 釉 陶 器	破片
瓦 類	平瓦(縄目)
石 製 品	石鍋
そ の 他	珪化木

S-6

土 師 器	小皿a(へら)、破片
-------	------------

S-7

土 師 器	坏a×小皿a(イト)、破片
龍泉窯系青磁	椀：II-b(1)
中国 陶 器	甕(1)
瓦 類	丸瓦(無文)
土 製 品	土壁

S-8

土 師 器	坏a(イト)
龍泉窯系青磁	椀：II-b(1)
土 師 質 土 器	鍋類
須 恵 質 土 器	破片

S-9

土 師 器	坏、坏a(イト)
土 師 質 土 器	鍋類
龍泉窯系青磁	椀：II-a×b(1)
土 製 品	土塊

S-10上層

須 恵 器	蓋3、坏、坏c、高坏、甕、壺
土 師 器	小皿a(へら)、小皿a2、坏a(イト)、坏c、丸底坏a、椀c、甕類
黒色土器A類	椀
黒色土器B類	椀c
須 恵 質(輸 入)	朝鮮系無釉陶器
白 磁	椀：IV(1)、XII?(1)、広東系(2)、広東系輪花有(1) 破片(2)
越州窯系青磁	椀：I(1) 越破片Iへら押線(1)
龍泉窯系青磁	椀：I-2(1)、II-b(1)
高 麗 青 磁	破片III(1)
中国 陶 器	鉢：I-3?(1)
瓦 類	平瓦(縄目)、丸瓦(無文)
石 製 品	石鍋
土 製 品	土壁

S-10下層

須 恵 器	蓋、蓋c?、甕
土 師 器	小皿a(へら)、小皿c?、皿、坏、坏c、丸底坏a、椀c、甕類
黒色土器B類	破片
土 師 質 土 器	鍋
須 恵 質(輸 入)	朝鮮系無釉陶器
白 磁	椀：XI(1)、XII(1)、XII?(2)、破片(1)
中国 陶 器	甕破片(1)
瓦 類	平瓦(格子)

S-10曲物内

須 恵 器	甕
土 師 器	坏a(へら)、甕

S-11

土 師 器	坏a(イト)
越州窯系青磁	椀：I-2(1)

S-12

土 師 器	小皿、甕類、破片(イト)
-------	--------------

S-13

須 恵 器	破片
土 師 器	小皿a(イト、へら?)、坏
黒色土器A類	破片
白 磁	皿：IX(1)
龍泉窯系青磁	椀：I(1)、II-b(1)
土 師 質 土 器	鍋

S-14

土 師 器	坏、破片(イト)
石 製 品	石鍋

S-15

須 恵 器	甕、破片
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、坏c
瓦 類	破片?
土 師 質 土 器	鍋
須 恵 質 土 器	鉢
瓦 質 土 器	鉢
白 磁	破片IX(1)
龍泉窯系青磁	椀：II-b(1) 龍泉破片III大形?(1)
石 製 品	扁平石

S-16

土 師 器	甕類、破片
-------	-------

S-17

土 師 器	小皿a(イト)、坏
-------	-----------

S-18

土 師 器	坏、坏a(イト、へら)
龍泉窯系青磁	椀：I-4(1)、II-b(1)

S-19

土 師 器	破片
瓦 類	椀

S-20

須 恵 器	坏
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、椀c
黒色土器B類	椀c
瓦 類	椀c、破片
土 師 質 土 器	鍋、破片
須 恵 質 土 器	鉢?
須 恵 質(輸 入)	朝鮮系無釉陶器
白 磁	皿：IX(1) 白磁破片(1)、IX(1)
龍泉窯系青磁	椀：I×II(1)、II-b(1)、III-2C(1) 白磁破片III連弁(1)
瓦 類	平瓦(格子)、破片
土 製 品	土壁

S-21

土 師 器	小皿a(イト)、坏、甕類
黒色土器A類	椀

S-22

須 恵 器	甕
土 師 器	小皿a(イト)、坏、甕、破片、破片(イト)
土 師 質 土 器	鍋?

S-23

須 恵 器	破片
土 師 器	小皿a(イト)、坏、坏a(イト)
瓦 類	椀
土 師 質 土 器	火鉢?
白 磁	皿：IX-1c(1)
青 白 磁	破片(1)
瓦 類	平瓦(縄目)
金 属 製 品	銭貨「天禧通寶」

S-24

土 師 器	坏a(イト)
龍泉窯系青磁	椀：I-2(1)
土 師 質 土 器	鍋

S-25

須 恵 器	甕
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、坏d、椀c
白 磁	破片IX(1)
龍泉窯系青磁	椀：II-b(3)
須 恵 質 土 器	鉢
瓦 質 土 器	鉢
瓦 類	平瓦(格子)
石 製 品	扁平石

S-26

土 師 器	小皿a×坏a(イト)、破片
白 磁	破片IX(1)
金 属 製 品	銭貨「咸平元寶」、鉛滓

S-27	
土 師 器	小皿a
S-28	
須 惠 器	甕
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)
S-29	
須 惠 器	甕
土 師 器	坏
S-30	
須 惠 器	蓋3、甕、破片
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、坏d、破片
瓦	椀
土 師 質 土 器	鍋
瓦 質 土 器	鉢
須 惠 質(輸入)	朝鮮系無軸陶器
白	磁 破片口縁屈折(1) 壺：Ⅲ(1)
瓦	類 平瓦(縄目)
石 製 品	砥石?
S-31	
須 惠 器	坏c
土 師 器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、坏a(イト)
土 師 質 土 器	鍋?
白	磁 椀：XI-5(1)
龍泉窯系青磁	椀：II-b(1)
S-32	
土 師 器	小皿a、坏
S-33	
須 惠 器	甕
土 師 器	小皿a(イト、ヘラ)、坏、甕
須 惠 質 土 器	破片
白	磁 破片(1)
S-34	
須 惠 器	蓋3、蓋c、坏
土 師 器	小皿a(イト)、坏、甕、破片
須 惠 質(輸入)	朝鮮系無軸陶器
中国 陶 器	盤鉄絵(1)
S-36	
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト、ヘラ)、坏d?、甕
白	磁 破片直口(1)
中国 陶 器	壺B群(1)
S-37	
須 惠 器	甕×壺
土 師 器	坏、坏a(イト)、甕類
S-38	
須 惠 器	破片
土 師 器	坏、坏a(イト)、甕類
黒色土器A類	破片
須 惠 質 土 器	鉢(東播系)
中国 陶 器	甕(1)
S-39	
須 惠 器	坏c、破片
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)
黒 釉 陶 器	破片(1)
中国 陶 器	破片B群(1)
石 製 品	石鍋

S-41	
土 師 器	坏、坏a(イト)
土 製 品	土壁
S-42	
土 師 器	破片
S-43	
須 惠 器	蓋3、甕
土 師 器	坏、坏a(イト)
S-44	
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、破片
須 惠 質 土 器	破片
金 属 製 品	鍍洋
S-47	
須 惠 器	蓋3、坏a
土 師 器	蓋×皿、小皿a、坏
S-48	
須 惠 器	坏
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、椀c、甕類
瓦	類 平瓦(縄目)
S-49	
土 師 器	坏、破片
須 惠 質 土 器	鉢
瓦	類 平瓦(二重格子)
S-51	
土 師 器	小皿a(イト)、坏、坏a(イト)
土 師 質 土 器	鍋
須 惠 質 土 器	鉢(東播系)
S-52	
土 師 器	坏、坏a(イト)
須 惠 質 土 器	鉢
S-53	
土 師 器	坏、壺?、破片
中国 陶 器	甕(1)
土 製 品	土壁
S-54	
土 師 器	小皿a(イト)、破片
茶灰色粘土	
須 惠 器	蓋、蓋3、坏、坏c、甕、破片
土 師 器	小皿a(イト)、坏、坏a(イト)、坏c、椀c、甕、甕類、鍋?
瓦	椀
土 師 質 土 器	鍋
須 惠 質 土 器	鉢、破片
瓦 質 土 器	鉢、壺×鉢
白	磁 椀：II-5(1)、IV(2)、XII-1b(1)、破片(3) 皿：V-2(1)、V~VII(1)、IX(1)、IX-1(2)、IX-1d(1) 壺(2) 破片(1)、IX(1)
青 白 磁	壺(1)、蓋(1)
龍泉窯系青磁	椀：I-6b?(1)、II-b(12) 坏Ⅲ-2(1)、大坏Ⅲ-3b(1) 龍泉破片Ⅲ(1)
同安窯系青磁	椀：I-1b(1)
高 麗 青 磁	椀×皿(1)
中国 陶 器	耳壺：A群(3)、B群(1) 破片：A群(3)、B群(2)、C群(1)
縄 文 土 器	破片?
瓦	類 平瓦(縄目、格子、二重格子、無文)、丸瓦(無文)
金 属 製 品	錢貨「元豐通寶」、鍍洋
石 製 品	石鍋、滑石製硯、滑石片、砥石
土 製 品	人形

表 20 第 57 次調査 土器供膳具計測表

A: 内底ナデ B: 板状圧痕

S-5

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.82-1	(10.4)	1.3	(8.4)	○	—
	椀a	ヘラ	R-002	Fig.82-2	(12.4)	3.55	(8.6)	○	—
	丸底坏a		R-003	Fig.82-3	(12.2)	4.0	8.8	○	—

S-10上層

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-004	Fig.82-4	9.4	1.2	7.0	○	○
	小皿a		R-003	Fig.82-5	(9.6)	0.95	(7.1)	○	○
	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.82-6	(9.6)	1.2	(8.1)	○	○
	小皿a		R-002	Fig.82-7	(9.8)	1.45+ α	(8.0)	—	—
	丸底坏a	ヘラ	R-005	Fig.82-8	(15.4)	2.25+ α		—	—
	丸底坏a	ヘラ	R-006	Fig.82-9		2.8+ α		—	○

S-10下層

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001	Fig.82-11	(9.4)	1.05	(6.3)	○	×
	小皿a	ヘラ	R-003	Fig.82-12	(9.8)	1.0	(7.4)	○	○
	小皿a	ヘラ	R-002	Fig.82-13	(10.6)	1.0	(9.4)	○	×
	皿		R-006	Fig.82-14	(20.2)	1.5+ α			
	丸底坏a		R-005	Fig.82-15		2.9+ α			
	椀c		R-004	Fig.82-16		2.2+ α	(8.0)		

S-20

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-003	Fig.82-18	(7.6)	1.4	6.0	○	×
	坏a	イト	R-002	Fig.82-19	11.85	2.9	8.2	○	○
	坏a	イト	R-001	Fig.82-20	12.0	2.65	8.5	○	○
瓦器	椀c		R-004	Fig.82-21		1.8+ α	(6.4)	—	×

S-25

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-005	Fig.82-23	8.4	1.0	7.2	○	○
	坏a	イト	R-003	Fig.82-24	(12.0)	2.8	(7.0)	○	○
	坏a	イト	R-002	Fig.82-25	12.3	2.9	7.0	○	○
	坏a	イト	R-004	Fig.82-26		2.0			

S-54

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-001	Fig.82-28	(6.8)	0.95	(5.0)	○	○

4、第130次調査

(1) 調査に至る経緯

調査地は、太宰府市大字太宰府（現在・五条2丁目）字月見山2739-1で、西鉄太宰府線の沿線に位置する。

1979（昭和54）年11月、農地転用の手続きがなされ、1980（昭和55）年10月、地権者より排水工事を行うにあたり文化財の問い合わせがあり、埋蔵文化財の存在について説明した。1989（平成元）年1月から専用住宅建築に対する文化財の取り扱いについて問い合わせが始まった。対象地は南側隣接地で遺構が確認されていることから、遺構が存在することは間違いなく、協議の結果、建物が建築される土地の東側について、国庫補助で発掘調査を実施することとなった。

調査期間は1992（平成4）年9月7日～9月22日で、調査対象面積827㎡、調査面積66㎡である。調査は緒方俊輔が担当した。

(2) 基本層位

現況面は、最上層は厚さ0.5mの耕作土で、その下に厚さ0.2m程の表土（包含層？）があり、それを除去すると遺構が確認できる。地山は黄白色粘土である。

(3) 検出遺構

○第1面

130SK001 (Fig. 86)

東西1.68m、南北1.96m、深さ0.1mの方形土坑で、底面にはピットと小土坑が掘られている。

130SK005 (Fig. 86)

東西1.42m、南北1.2m以上、深さ0.1mの円形土坑で、底面中央にはさらに深さ0.08mの小土坑やピットが掘られている。

130SK010 (Fig. 86)

東西1.92～2.3m、南北4.4m、深さ0.1m前後の長方形土坑である。底面には大きさ1.73×1.9m、深さ0.1m前後の隅丸方形の土坑が掘られている。埋土は暗褐色土や灰褐色土で、最下層の暗灰褐色土には炭が混じっている。

130SK020 (Fig. 86)

東西1.5m、南北1.4m以上、深さ0.96mの円形土坑で、土坑東端埋土中位からは獣骨が出土している。



Fig. 85 第130次調査遺構全体図 (1/150)

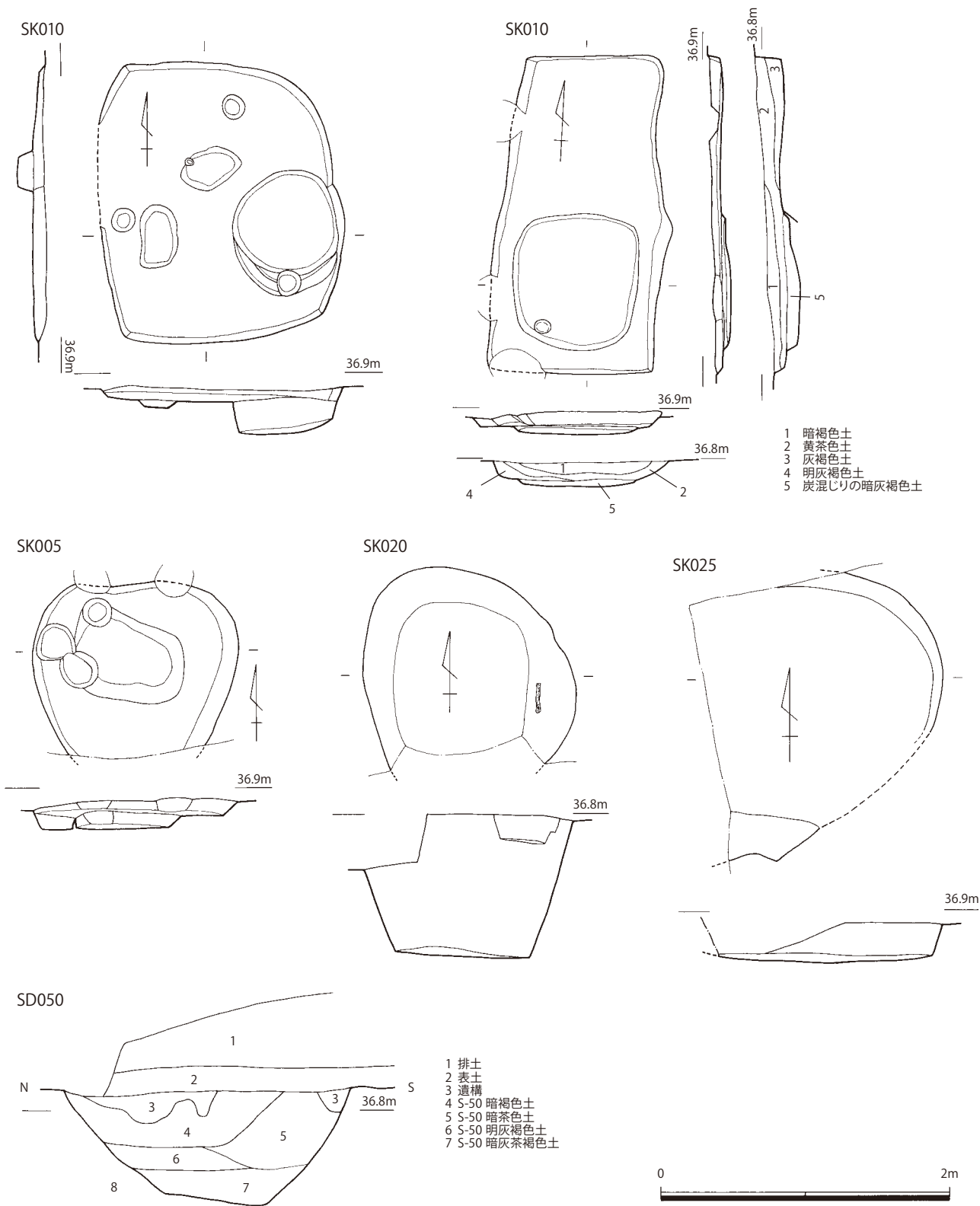


Fig. 86 130SK001・005・010・020・025、SD050 遺構実測図 (1/40)

130SK025 (Fig. 86)

調査区西端で検出された円形状土坑で、東西 1.55m 以上、南北 1.8m 以上、深さ 0.38m である。

○第 2 面

溝

130SD050 (Fig. 86)

L字形の溝で、東西方向の振れは $W-8^{\circ} 27' -N$ で、調査区西端で北へL字形に折れ、調査区外へ続いている。しかし、調査区外にも平行もしくは直交する溝が存在している可能性があり、L字形で完結した溝とは限らない。溝は幅2.0～2.5m、深さ0.73～1.07mの断面逆台形で、確認のため掘削したトレンチでは、南北溝の幅は約2.5mであった。埋土は暗茶褐色土や暗灰褐色土などで、遺物の取り上げ土層は、上から暗茶色土、黒茶色土、灰茶色土で、灰茶色土からはセンダンの種実遺体が検出されている。

(4) 出土遺物

○第1面

130SK001 出土遺物 (Fig. 87)

土師器

小皿 a (1～12) 復元口径9.0～10.2 cm、底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (13～24) 復元口径14.2～15.3 cm、底部切り離しは回転糸切り。18は底部中央に孔を穿つ。

須恵質土器

鉢 (25、26) 東播系。内外面とも回転ナデ調整である。25は復元口径27.0 cm。

金属製品

鉄釘 (27、28) 断面方形の和釘。27は長さ3.8 cm。木質が遺存するが上部に木目の違いが残る。28は現存長4.2 cm。

130SK005 出土遺物 (Fig. 87)

土師器

小皿 a (29～31) 復元口径9.3～9.6 cm、底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (32～34) 復元口径14.0～14.4 cm、底部切り離しは回転糸切りである。

須恵質土器

鉢 (35、36) 東播系。

130SK010 暗褐色土出土遺物 (Fig. 88)

土師器

小皿 a (1～5) 復元口径8.8～9.8 cm、底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

坏 a (6～14) 復元口径13.5～16.0 cm、底部切り離しは回転糸切り。8の口縁端部には煤が付着する。

瓦器

椀 c (15) 復元高台径5.8 cm。内面にはミガキ cが残る。

130SK010 茶褐色土出土遺物 (Fig. 88)

土師器

小皿 a (16) 口径9.8 cm、底部に板状圧痕が残るが切り離しは不明。

坏 a (17) 口径14.6 cm、底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

須恵質土器

鉢 (18) 東播系。片口で色調は灰色で、口縁部は暗灰色を呈する。

130SK020 褐色土出土遺物 (Fig. 88)

土師器

小皿 a (19～27) 復元口径8.1～9.0 cm、底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。24の内外面は、一部朱塗りする。

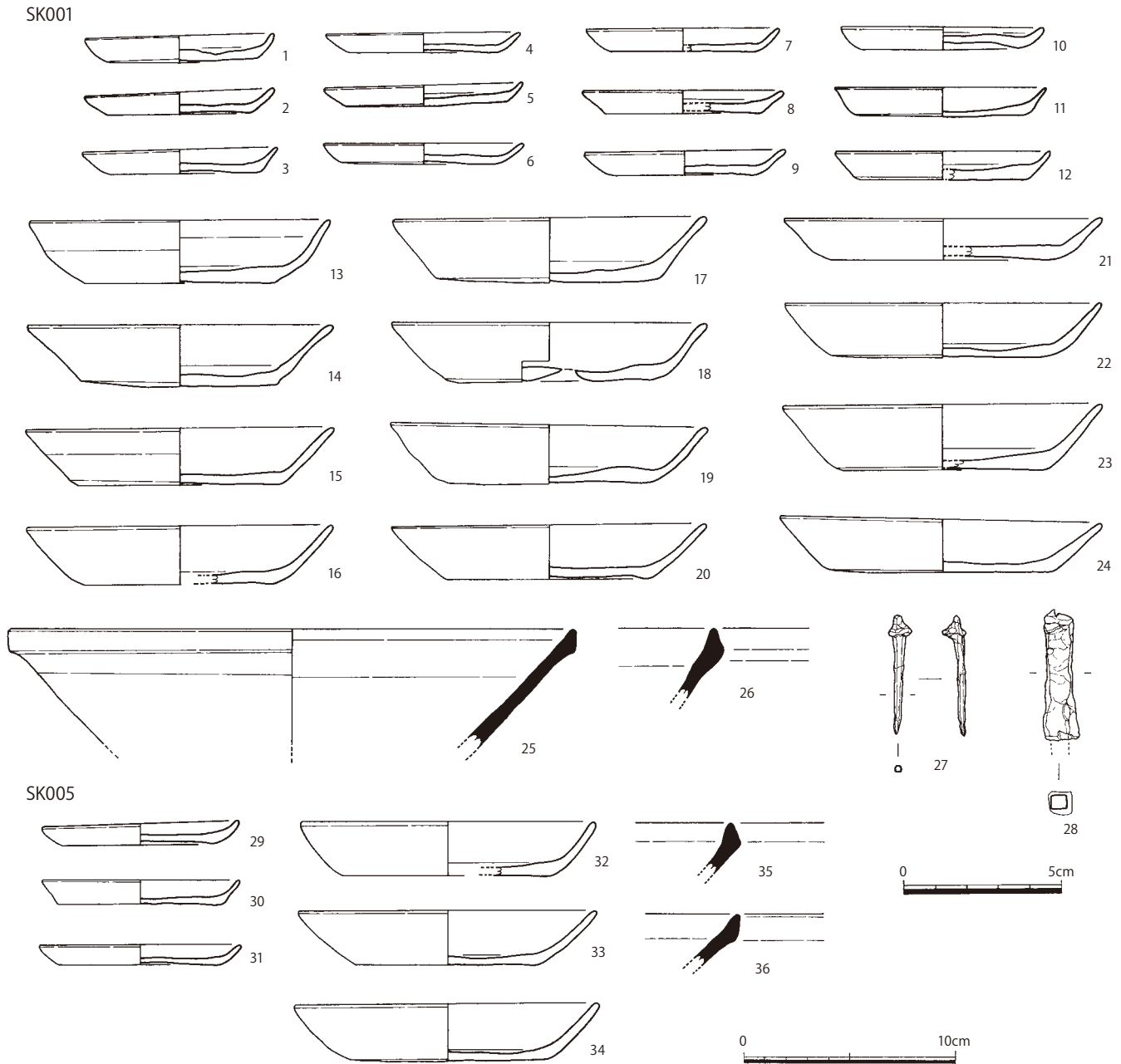


Fig. 87 130SK001・005 出土遺物実測図 (1/3、金属製品は1/2)

坏 a (28～44) 復元口径 12.1～13.4 cm、底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

土師質土器

鍋 (45) 口縁部をL字形に屈曲させる。外面ナデ、内面はヨコナデ調整である。

中世国産陶器

甕 (46) 口縁端部で外面には2条の突帯を巡らす。胎土は白色砂粒を多く含み灰色を呈する。焼成は須恵質である。

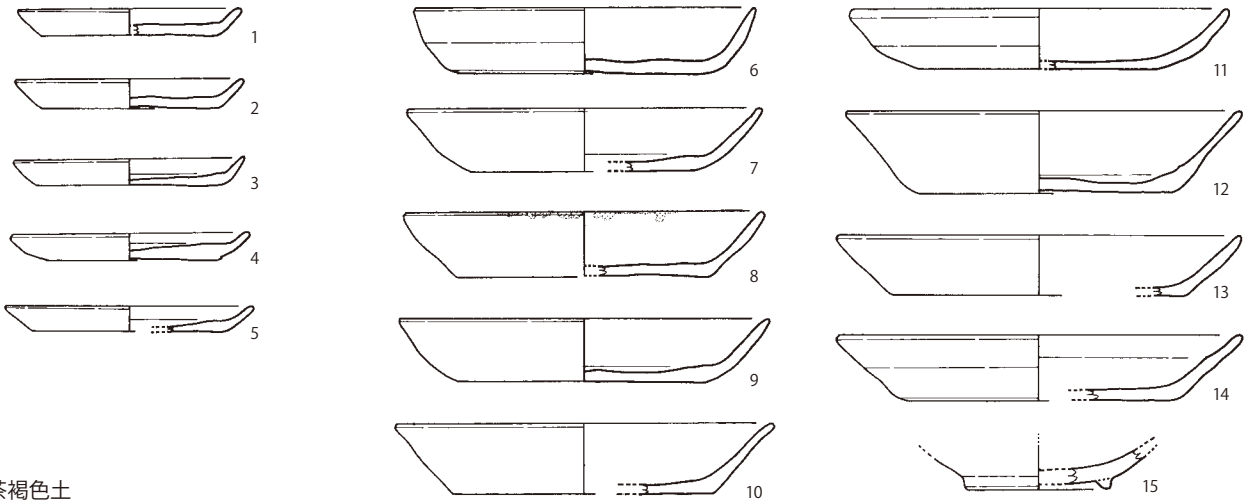
白磁

皿 (47) IX-1b 類。口縁端部は釉を拭き取り、外面下半は露胎。口径 9.2 cm、器高 2.55 cm。

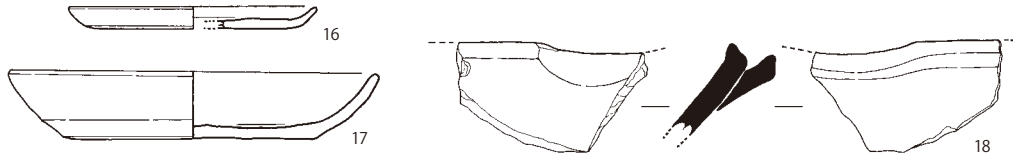
130SK020 暗茶灰色土出土遺物 (Fig. 88)

土師器

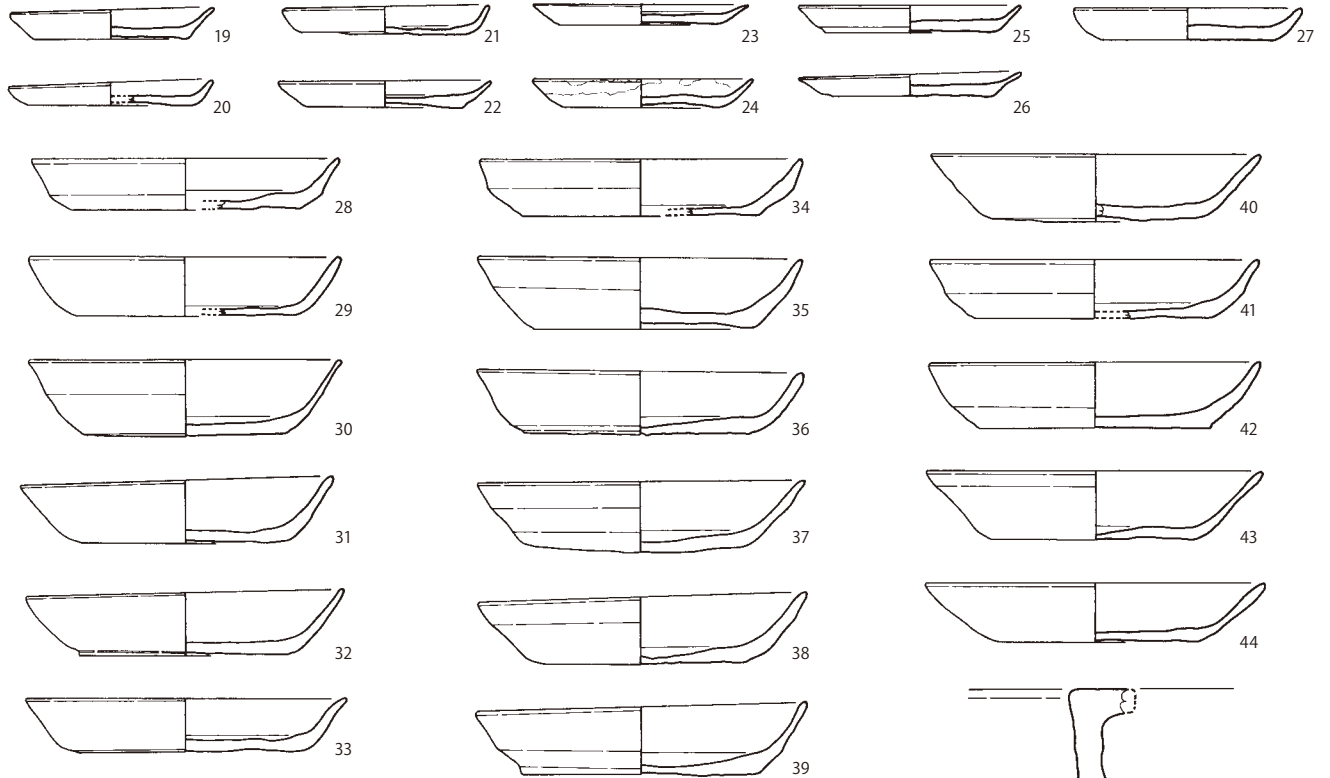
SK010 暗褐色土



SK010 茶褐色土



SK020 褐色土



SK020 暗茶灰色土

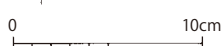
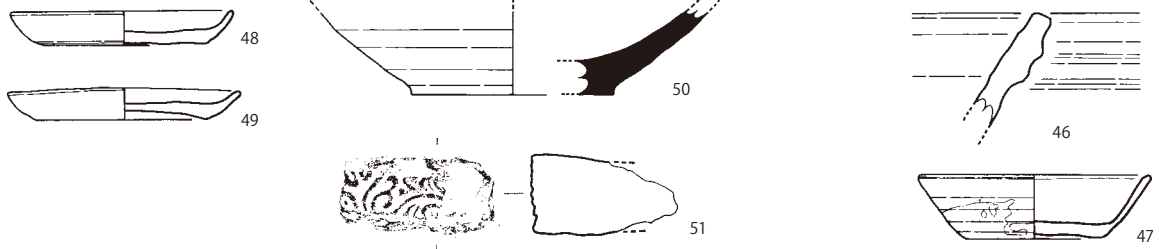


Fig. 88 130SK010・020 出土遺物実測図 (1/3、瓦は1/4)

SK025 黒褐色土

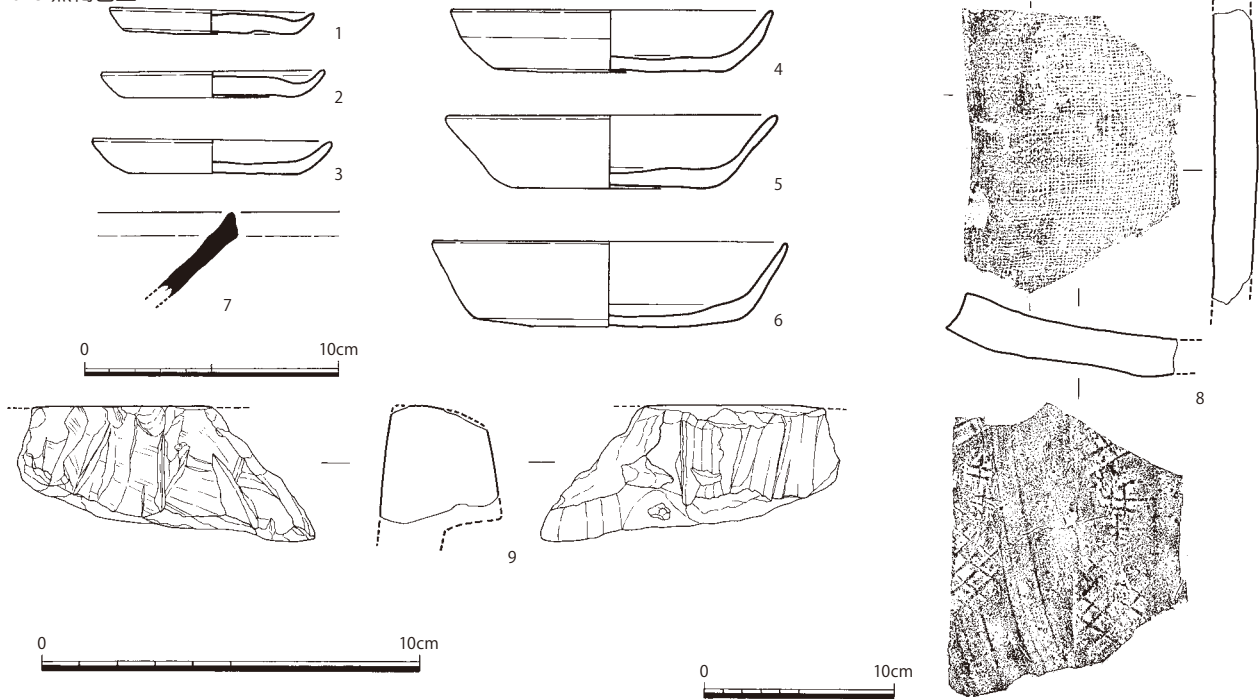


Fig. 89 130SK025 出土遺物実測図 (1/3、瓦は1/4、石製品は1/2)

小皿 a (48、49) 口径は 8.8 cm と 9.2 cm、底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

須恵質土器

鉢 (50) 東播系。内面は使用により平滑である。復元底径 8.0 cm。

瓦類

軒平瓦 (51) 瓦当面に唐草文を施す。

130SK025 黒褐色土出土遺物 (Fig. 89)

土師器

小皿 a (1 ~ 3) 口径 8.0 ~ 9.4 cm、底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (4 ~ 6) 復元口径 12.7 ~ 14.0 cm、底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

須恵質土器

鉢 (7) 東播系。内外面とも回転ナゲ調整で、色調は灰褐色を呈する。

瓦類

平瓦 (8) 凸面に「平井」の左字を含む格子叩きを施す。九歴分類 901J。

石製品

石鍋 (9) 瘤状の突起を削り出している。内面には深い傷が多く残る。滑石製。

○第2面

溝

130SD050 暗茶色土出土遺物 (Fig. 90)

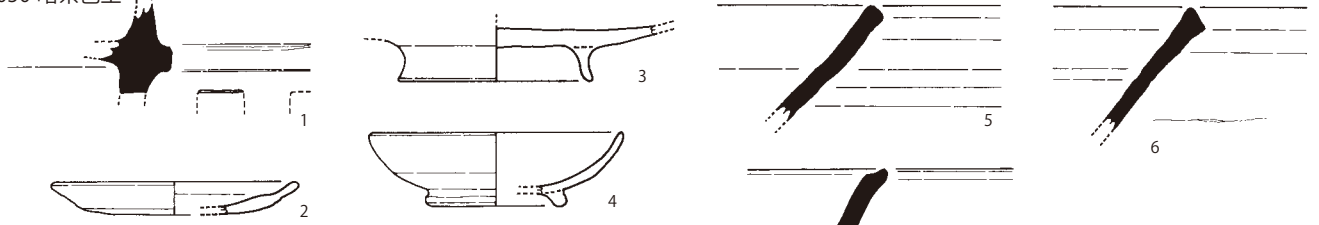
須恵器

円面硯 (1) 小片だが透かし孔が残る。色調は暗灰色を呈する。

土師器

小皿 a (2) 復元口径 9.8 cm。底部切り離しは回転ヘラ切りである。

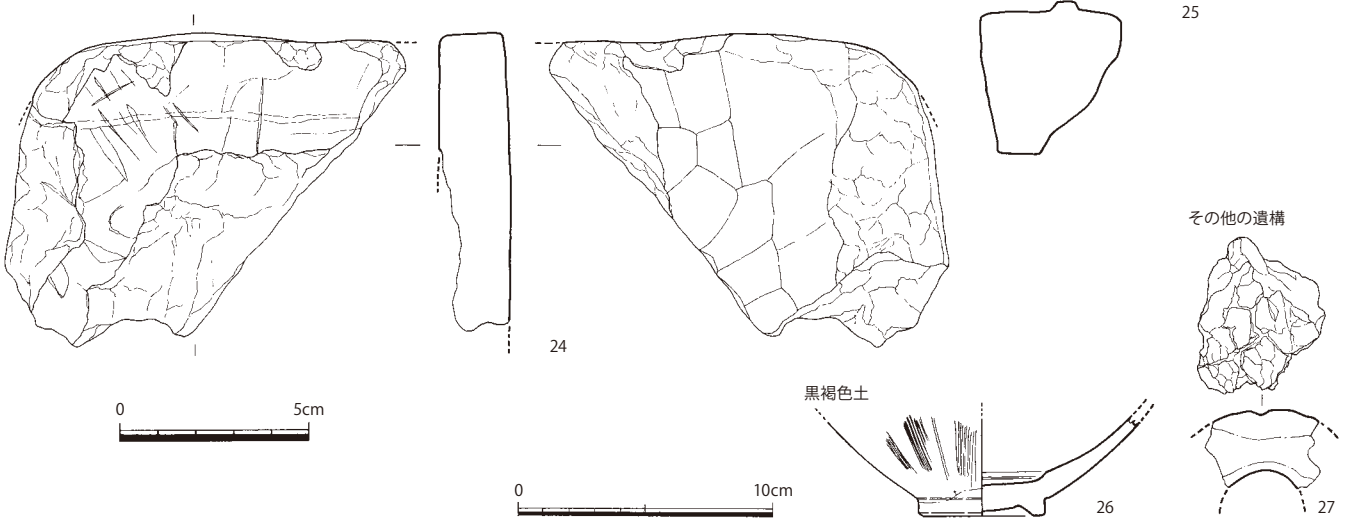
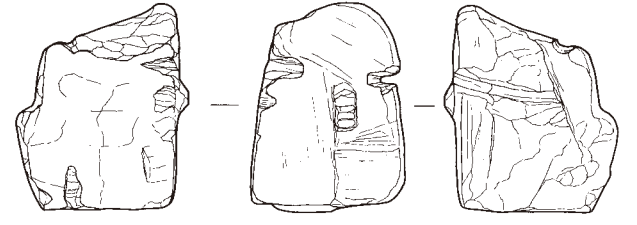
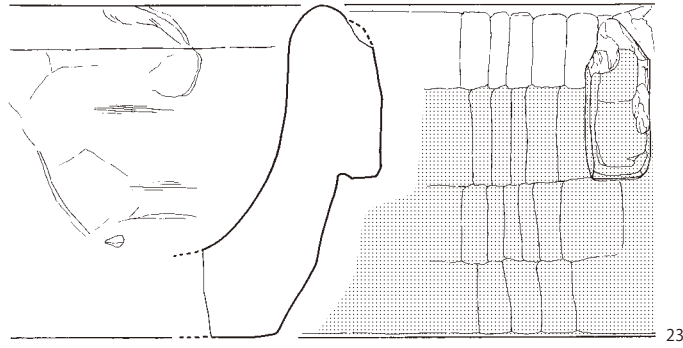
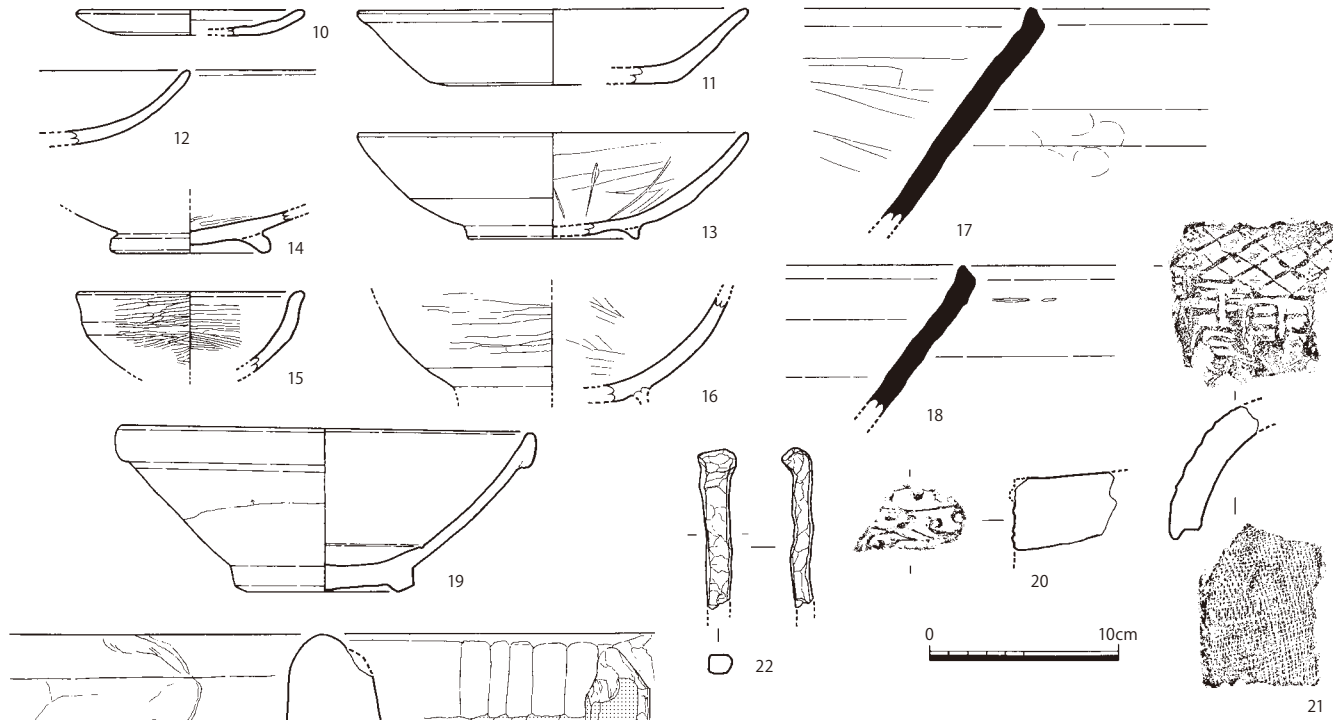
SD050 暗茶色土



SD050 黒茶色土



SD050 灰茶色土



その他の遺構

黒褐色土

Fig. 90 130SD050、その他の遺構出土遺物実測図 (1/3、瓦は1/4、金属製品・石製品は1/2)

皿 c (3) 高い高台を貼付する。底部切り離しは回転ヘラ切りである。

小椀 c (4) 復元口径 10.0 cm。外面ヨコナデ、内面は摩滅し調整不明。

須恵質土器

鉢 (5～7) 5 は口縁部をほとんど肥厚させない。東播系。6 は口縁部を若干肥厚させる。東播系。7 は小片だが全形が不明瞭だが鉢と推測される。

130SD050 黒茶色土出土遺物 (Fig. 90)

土師器

小皿 a (8) 復元口径 10.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (9) 復元口径 15.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

130SD050 灰茶色土出土遺物 (Fig. 90)

土師器

小皿 a (10) 復元口径 9.0 cm。底部切り離しは不明瞭だが回転ヘラ切りか。

坏 a (11) 復元口径 15.8 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

丸底坏 a (12) 全体的に摩滅し調整不明瞭。

丸底坏 c (13) 一見瓦器椀のような器形だが、色調は白黄橙色を呈する。復元口径 15.4 cm。断面三角形の高台を貼付する。内面はミガキ b を施し、コテ当て痕が残る。

黒色土器

椀 c (14) B 類。内面にミガキ c が残る。復元高台径 6.4 cm。

瓦器

小椀 (15) 復元口径 9.0 cm。内外面にミガキ c を細かく施し、銀色のような光沢を持つ。

椀 c (16) 内外面ともミガキ c を施す。

須恵質土器

鉢 (17、18) 東播系。口縁部はほとんど肥厚せず、重ね焼きで黒変している。

白磁

椀 (19) IV -1a 類。復元口径 16.5 cm、器高 6.45 cm。

瓦類

軒平瓦 (20) 瓦当に唐草文を施す。

丸瓦 (21) 格子叩きの「門司」の文字瓦。九歴分類 908。

金属製品

鉄釘 (22) 断面方形の和釘。先端を欠損し、頭部は L 字形に曲げる。現存長 4.3 cm。

石製品

石鍋 (23) 器高 8.8 cm。外面には瘤状突起が削り出す。外面には煤が付着する。滑石製。

滑石加工品 (24、25) 24 は石鍋を再利用し隅丸形状に削り出している。25 は大きさ 5.6 × 4.0 × 4.2 cm の直方体状で一部僅かな突起を削り出している。

その他の出土遺物 (Fig. 90)

青磁

椀 (26) 福建系青磁椀と推測される。胎土は黄白色で、内外面には光沢のある淡い緑黄色釉を薄く施し、高台周辺は露胎である。内面底部は大きく窪み、高台は白磁椀 XI 類のような断面形状を呈する。外面には間隔をあけて縦ハケが施されている。高台径 5.0 cm。黒褐色土より出土。

土製品

鞆羽口 (27) 外面は被熱により暗灰色に変色し、表面はヒビ割れがみられる。SX046 より出土。

(5) 小結

遺構は 12 世紀以降のものばかりで、主要遺構は 12 世紀末前後のものが多かった。東西方向と南北方向に続く SD050 は、しっかりとした溝であるが、条坊路の推定ラインからやや外れている。また、若干方位が正方位を示していないため、条坊と直接関係があるようにも見えない。調査範囲が狭く、それぞれの延長部の調査例もないため、この溝の意味が明確ではなく、今後の調査例を待たざるを得ない。

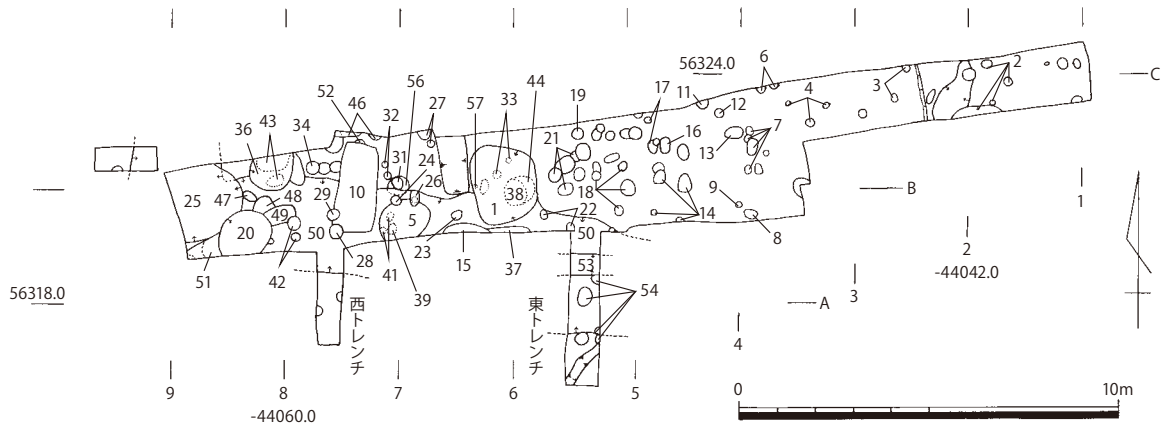


Fig. 91 第 130 次調査遺構略測図 (1/200)

表 21 第 130 次調査 遺構一覧表

S-番号	遺構番号	種 別	埋 土 等	時 期	地 区
1	130SK001	土坑		12世紀末前後	AB5・6
2		ピット群		12世紀～	BC1
3		ピット群		平安時代～	B2
4		ピット群		12世紀～	B3
5	130SK005	土坑		12世紀末前後	A6・7
6		ピット群		13世紀～	B3
7		ピット群		12世紀～	B3
8		ピット		12世紀～	A3
9		ピット		13世紀	A4
10	130SK010	土坑		12世紀末前後	AB7
11		ピット		12世紀～	B4
12		ピット		13世紀～	B4
13		ピット		平安時代～	B4
14		ピット群		12世紀～	AB4
15		土坑		13世紀	A6
16		ピット		平安時代～	B4
17		ピット群		12世紀～	B4
18		ピット群		12世紀～	B5
19		ピット		12世紀～	B5
20	130SK020	土坑	S-25→20	13世紀後半～14世紀初頭	A8
21		ピット群		12世紀～	B5
22		ピット群		13世紀～	A5
23		ピット		12世紀～	A6
24		ピット	S-5→24	12世紀後半～	A6
25	130SK025	土坑	S-25→20	13世紀前半前後	A8
26		ピット	S-5→26	12世紀～	A6
27		ピット群		平安時代～	B6
28		ピット	S-10→28	12世紀～	A7
29		ピット	S-10→29	12世紀後半～	A7
31		ピット		12世紀～	B7
32		ピット群		12世紀～	B7
33		ピット群	S-33→1	12世紀後半～	B6
34		ピット		12世紀～	B7
36		浅い窪み		12世紀後半～	B8
37		土坑	S-37→15	平安時代～	A6
38		ピット	S-38→1	12世紀後半?	B6
39		ピット	S-39→5	12世紀後半～	A7
41		ピット群	S-41→5	12世紀～	A7
42		ピット群		13世紀～	A7
43		ピット群		13世紀～	B8
44		ピット	S-44→38→1		B5
46		ピット群		12世紀～	B7
47		ピット		12世紀～	A8
48		ピット	S-48→49→20 48→49→42	12世紀～?	A8
49		ピット		13世紀～	A8
50	130SD050	溝		12世紀中頃	AB5～8
51		ピット	S-51→25→20	12世紀～	A8
52		ピット	S-52→10		B7
53		小溝		平安後期～	A5
54		ピット群		13世紀～	A5
56		ピット	S-56→50	平安時代～	B7
57		ピット	S-57→1	13世紀～	A6
黒褐色土		西トレンチ	S-50→黒褐色土	13世紀	

表 22 第 130 次調査 出土遺物一覽表

S-1	
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、高坏、供膳具
同安窯系青磁	皿；I-1b(1)
須 惠 質 土 器	鉢(東播系)
須 惠 質(輸 入)	朝鮮系無軸陶器
瓦	平瓦(小格子)
金 属 製 品	鉄釘
S-2	
土 師 器	小皿a(イト)、坏、碗c、供膳具
白 磁	碗；V~Ⅷ内面櫛目(1)
S-3	
土 師 器	甕類、供膳具
S-4	
土 師 器	小皿a(イト)、甕類、供膳具
S-5	
須 惠 器	蓋3、甕
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、碗c、甕類、供膳具
須 惠 質 土 器	鉢(東播系)
瓦	平瓦(格子)
S-6	
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)
S-7	
土 師 器	小皿a、坏a(イト)
黒色土器B類	碗c
S-8	
土 師 器	坏、坏a(イト)
S-9	
土 師 器	坏a(イト)
S-10暗褐色土	
須 惠 器	甕、壺?、破片
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、坏、甕類、供膳具
瓦	碗c
龍泉窯系青磁	碗；I(1)、I-3(1)
同安窯系青磁	碗；I-1b(1) 皿；I-1b(1)
金 属 製 品	鋳滓
そ の 他	炭
S-10茶褐色土	
須 惠 器	甕
土 師 器	小皿a(イト)、坏、坏a(イト)、供膳具
須 惠 質 土 器	鉢(東播系)
瓦	破片
S-11	
土 師 器	小皿a(イト)、供膳具
金 属 製 品	鋳滓、鉄釘
S-12	
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、甕類
S-13	
土 師 器	供膳具
黒色土器A類	破片
S-14	
土 師 器	坏a(イト)、供膳具
石 製 品	滑石片
S-15	
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)
須 惠 質(輸 入)	朝鮮系無軸陶器壺
S-16	
土 師 器	坏、供膳具
金 属 製 品	用途不明鉄製品
S-17	
土 師 器	坏、坏a(イト)、供膳具
瓦	破片
S-18	
土 師 器	坏a(イト)、供膳具
S-19	
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)
龍泉窯系青磁	碗；I-4(1)
S-20褐色土	
須 惠 器	甕
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、供膳具
瓦	碗
土 師 質 土 器	鍋
須 惠 質 土 器	鉢
中世国産陶器	甕
白 磁	碗；V~Ⅷ口縁外反(1)、碗破片(2) 皿；Ⅷ-2(2)、IX(1)、IX-2(1)
龍泉窯系青磁	碗；I-2(1)、I-2~4(1)、I×II(1)、II-b(9)、II-b?(1) III-2(3)、III-2c(1) 坏；III-1(1)
瓦	類 平瓦(無文)
金 属 製 品	鋳滓、鉄釘
そ の 他	炭
S-20暗茶灰色土	
須 惠 器	蓋×高坏、甕
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、坏d、皿c、碗c、甕、供膳具
黒色土器A類	破片
須 惠 質 土 器	鉢
須 惠 質(輸 入)	朝鮮系無軸陶器
瓦	類 平瓦(繩目、格子)、丸瓦(斜格子、無文)、軒平瓦
そ の 他	炭
S-21	
土 師 器	小皿a、坏a(イト)
須 惠 質 土 器	鉢(東播系)
S-22	
須 惠 器	破片
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、盤、供膳具
土 製 品	土塊
S-23	
土 師 器	小皿a(イト)、供膳具
中 国 陶 器	壺B群(1)
S-24	
土 師 器	坏a(イト)、供膳具
S-25黒褐色土	
須 惠 器	蓋1、高坏、壺
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、碗、甕類、盤×高坏
黒色土器A類	碗、碗c
瓦	碗c
須 惠 質 土 器	鉢
白 磁	碗；V内面櫛目(1)、V~Ⅷ内面櫛目(1)、Ⅶ?(1) 白磁破片(1)、広東系(1)
越州窯系青磁	碗；I-5?(1) 皿；I-2(1) 越破片(1)
龍泉窯系青磁	碗；I-1a(1)、I-2(1)、II-a(3)、II-b(2)、束口碗?I(1)
同安窯系青磁	碗；I-1(1)、I-1b(3) 皿；I-1(1)
中 国 陶 器	壺；XII(1)
瓦	類 平瓦(格子、二重格子、無文)、丸瓦(繩消し)
石 製 品	石鍋、砥石
S-26	
土 師 器	小皿a(イト)、供膳具
S-27	
土 師 器	供膳具
S-28	
土 師 器	坏a(イト)
黒色土器B類	破片
S-29	
土 師 器	小皿a(イト)、供膳具
S-31	
土 師 器	坏a(イト)、供膳具
須 惠 質 土 器	破片?
S-32	
土 師 器	小皿a×坏a(イト)、供膳具
S-33	
土 師 器	坏a(イト)、供膳具
S-34	
土 師 器	小皿a(イト)、坏
S-36	
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)
黒色土器A類	碗
須 惠 質 土 器	鉢(東播系)

S-37

土 師 器	供膳具
黒色土器A類	破片

S-38

須 恵 器	破片
土 師 器	坏a(イト)、甕類、供膳具
白 磁	碗；XⅢ-2b(1)
石 製 品	石鍋

S-39

土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、供膳具
黒色土器A類	破片
須 恵 質 土 器	破片
瓦 類	平瓦(無文)、破片
石 製 品	平玉石

S-41

須 恵 器	甕?
土 師 器	小皿a(イト、ヘラ)、甕類、供膳具
瓦 類	丸瓦(無文)

S-42

須 恵 器	甕
土 師 器	坏a(イト)、供膳具、破片
龍泉窯系青磁	碗；I-6a(1)、II-b(1)
須 恵 質 土 器	鉢

S-43

土 師 器	坏a(イト)、供膳具
須 恵 質 土 器	甕

S-44

土 師 器	坏a(イト)、供膳具
-------	------------

S-46

土 師 器	坏a(イト)、破片
土 製 品	鞆羽口

S-47

須 恵 器	破片
土 師 器	坏a(イト)、供膳具
黒色土器B類	碗c

S-48

須 恵 器	甕
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、器台?、供膳具
緑 釉 陶 器	破片
中国 陶 器	壺B群(1)
瓦 類	破片

S-49

土 師 器	小皿a、坏a(イト)、供膳具、破片
-------	-------------------

S-50暗茶色土

須 恵 器	蓋3、坏、高坏、甕、壺、高坏脚部、円面硯、破片
土 師 器	小皿a(イト、ヘラ)、坏a(イト)、皿c、丸底坏a、小碗c、碗、碗c、脚付碗?、甕、甕類、器台、鉢?
黒色土器A類	碗
黒色土器B類	碗c
須 恵 質 土 器	鉢
須 恵 質(輸入)	朝鮮系無釉陶器
白 磁	碗；IV(1)、V-1×Ⅷ-2(1) 皿；V-1a(1) 白磁破片内面櫛目(1)
瓦 類	平瓦(縄目、小格子、格子、無文)、(格子、無文)
金 属 製 品	錆塊
石 製 品	石鍋
そ の 他	炭

S-50黒茶色土

須 恵 器	蓋3、坏a、坏c、甕、鉢?
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト、ヘラ)、坏c、碗c、鉢、供膳具
黒色土器A類	碗
須 恵 質(輸入)	朝鮮系無釉陶器甕
白 磁	碗；IV(1)、Ⅷ-2(1)
同安窯系青磁	皿；I(1)
中国 陶 器	壺C群(1)
瓦 類	平瓦(格子、無文)、丸瓦(格子)
土 製 品	土壁

S-50灰茶色土

須 恵 器	蓋、蓋3、坏c、甕、壺
土 師 器	小皿a(ヘラ)、坏a(イト、ヘラ)、坏c、丸底坏a、丸底坏c、高坏、甕、甕類、破片
黒色土器A類	碗
黒色土器B類	碗c
瓦 類	小碗、碗c
須 恵 質 土 器	鉢(東播系)
緑 釉 陶 器	破片
白 磁	碗；IV(2)、IV-1a(3)、V内面櫛目(1)、碗破片(1) 皿；V×Ⅵ-b(1)
中国 陶 器	鉢；I-1a(1) 水注；X(1)
須 恵 質(輸入)	朝鮮系無釉陶器
瓦 類	軒平瓦、平瓦(縄目、小格子、格子、二重格子)、丸瓦(格子、無文)
金 属 製 品	鉄釘、鋳滓
石 製 品	石鍋、石鍋加工品

S-51

土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト、ヘラ?)、丸底坏?
瓦 類	丸瓦(無文)

S-52

土 師 器	供膳具
-------	-----

S-53

須 恵 器	甕
土 師 器	小皿a(イト、ヘラ?)、丸底坏、甕類
黒色土器A類	碗c
瓦 類	碗?
須 恵 質 土 器	鉢
白 磁	碗；IV(1)、V-1×Ⅷ-2(1)
中国 陶 器	壺B群(1)
瓦 類	平瓦(縄目)、丸瓦(格子)
石 製 品	石鍋

S-54

須 恵 器	甕
土 師 器	坏a(イト)、甕、供膳具
龍泉窯系青磁	碗；II-b(1)
石 製 品	滑石片

S-56

土 師 器	甕類、供膳具
瓦 類	破片(無文)

S-57

土 師 器	坏a(イト)
中国 陶 器	壺B群(1)

黒褐色土

土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、甕類
瓦 類	碗c
須 恵 質 土 器	鉢(東播系)
白 磁	碗；IV(2)、V(1) 皿；Ⅷ-1a(1) 壺Ⅲ(2)
越州窯系青磁	碗；I(1) 碗×皿I(1)
龍泉窯系青磁	碗；I-1a(1)、I-4(1)、II-b(1)
青 磁	皿；I-2b×c(1) 龍泉×同安0(1)
瓦 類	福建系青磁碗(1)
石 製 品	平瓦(縄目)
石 製 品	石鍋

西拡張トレンチ表土

青 白 磁	皿(1)
龍泉窯系青磁	盤Ⅲ(1)、盤?Ⅲ(1)

表土

須 恵 器	蓋3、坏、坏c、甕
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、碗c、供膳具、破片
黒色土器B類	碗
瓦 類	碗、碗c
須 恵 質 土 器	鉢(東播系)
瓦 質 土 器	鉢
肥 前 系 磁 器	破片
須 恵 質(輸入)	朝鮮系無釉陶器
中世国産陶器	甕
白 磁	碗；Ⅷ(1)、IX?(1)、碗?IX(2)、直口縁(1)、碗破片(2) 皿；Ⅷ-2b(1) 蓋?(1) 壺Ⅲ(1) 四耳壺Ⅲ?(1) 白磁破片(3)、広東系(1) 合子蓋(1)、破片(1)
龍泉窯系青磁	碗；I(1)、I-1a(7)、I-2(1)、I-2~4(1)、I-4(1)、 I×II(3)、II-a(2)、II-b(10)、III-2(1)、III-2C(3) 坏；III(1) 盤Ⅲ(1) 龍泉破片Ⅲ(2)
同安窯系青磁	碗；I-1b(1) 皿；I-1(1)、I-1a(2)、I-1b(1)、I-2b(2)
青 磁	福建系青磁碗(2)
中国 陶 器	壺B群(1) 甕(2) 盤；I(1)、I-b(1)、I-2b(1)
瓦 類	平瓦(縄目、格子)、丸瓦(格子、無文)
金 属 製 品	鋳滓、鉄釘
石 製 品	滑石加工品、砥石、丸石
土 製 品	土塊、土壁
そ の 他	炭

表 23 第 130 次調査 土器供膳具計測表

A : 内底ナテ B : 板状圧痕

S-1

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-007	Fig.87-1	(9.0)	1.35	7.2	○	○
	小皿a	—	R-008	Fig.87-2	9.0	1.05	6.9	○	○
	小皿a	イト	R-006	Fig.87-3	9.2	1.15	7.0	—	○
	小皿a	—	R-025	Fig.87-4	9.2	0.95	7.0	○?	○
	小皿a	—	R-009	Fig.87-5	9.4	1.05	7.5	○	○
	小皿a	—	R-010	Fig.87-6	9.5	1.0	7.4	○	—
	小皿a	イト	R-028	Fig.87-7	9.6	1.1	6.8	○?	○
	小皿a	—	R-027	Fig.87-8	9.6	1.1	7.4	○?	○
	小皿a	イト	R-026	Fig.87-9	9.6	1.15	7.0	○	○
	小皿a	イト	R-023	Fig.87-10	9.6	1.1	7.4	○	○
	小皿a	イト	R-024	Fig.87-11	(10.0)	1.4	8.0	—	○
	小皿a	イト	R-005	Fig.87-12	(10.2)	1.35	(8.4)	○	○
	坏a	—	R-015	Fig.87-13	(14.2)	3.0	(9.2)	○?	○
	坏a	イト?	R-016	Fig.87-14	14.5	3.0	9.4	○	○
	坏a	イト?	R-011	Fig.87-15	(14.6)	2.7	(9.6)	○?	○
	坏a	イト	R-012	Fig.87-16	(14.6)	2.8	(9.2)	—	○
	坏a	イト?	R-017	Fig.87-17	14.9	3.1	10.5	○	○
	坏a	—	R-018	Fig.87-18	14.9	2.8	9.9	○?	○
	坏a	イト?	R-021	Fig.87-19	15.0	2.85	9.7	○?	○
	坏a	—	R-022	Fig.87-20	(15.0)	2.6	(9.8)	○?	○
	坏a	イト?	R-014	Fig.87-21	(15.0)	2.0	(10.6)	○?	○
	坏a	イト	R-020	Fig.87-22	15.0	2.6	10.6	○	○
坏a	イト	R-013	Fig.87-23	(15.2)	3.1	(10.3)	○?	○	
坏a	イト	R-019	Fig.87-24	15.3	2.55	10.5	○	○	

S-5

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-004	Fig.87-29	9.3	1.05	7.2	○	○
	小皿a	イト	R-006	Fig.87-30	(9.4)	1.2	(7.8)	○?	○
	小皿a	イト	R-005	Fig.87-31	(9.6)	0.95	(7.6)	○?	○
	坏a	イト?	R-003	Fig.87-32	(14.0)	2.6	(10.0)	○	○
	坏a	イト	R-002	Fig.87-33	(14.2)	2.6	(8.8)	○	○
	坏a	イト	R-001	Fig.87-34	14.4	2.75	9.5	○	○

S-10暗褐色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B	
土師器	小皿a	イト	R-007	Fig.88-1	(8.8)	1.1	(7.0)	○?	—	
	小皿a	イト	R-001	Fig.88-2	(9.0)	1.2	(7.0)	○	○	
	小皿a	イト	R-002	Fig.88-3	9.1	1.1	7.2	○	○	
	小皿a	イト	R-003	Fig.88-4	9.5	1.1	7.0	○	○	
	小皿a	—	R-006	Fig.88-5	(9.8)	1.05	(7.7)	○?	○	
	坏a	イト	R-010	Fig.88-6	(13.5)	2.6	(10.0)	○	○	
	坏a	イト	R-008	Fig.88-7	(14.0)	2.5	(9.0)	—	○	
	坏a	—	R-013	Fig.88-8	(14.2)	2.6	(10.0)	—	○	
	坏a	—	R-014	Fig.88-9	(14.6)	2.55	(10.2)	○	○	
	坏a	—	R-012	Fig.88-10	(15.0)	2.8	(10.4)	○	○	
	坏a	—	R-004	Fig.88-11	(15.0)	2.4	(9.4)	—	—	
	坏a	イト	R-015	Fig.88-12	(15.6)	3.25	(10.0)	○	○	
	坏a	イト	R-011	Fig.88-13	(16.0)	2.4	(11.6)	○	○	
	坏a	イト	R-009	Fig.88-14	(16.0)	2.6	(10.8)	○?	○	
	瓦器	椀c		R-005	Fig.88-15		1.6+ α	(5.8)		

S-10茶褐色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001	Fig.88-16	9.8	0.95	8.4	○	○
	坏a	イト	R-002	Fig.88-17	14.6	2.7	9.9	○	○

S-25黒褐色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-001	Fig.89-1	8.0	0.9	6.8	○	○
	小皿a	イト	R-002	Fig.89-2	8.85	1.05	7.0	○	—
	小皿a	イト	R-003	Fig.89-3	9.4	1.35	6.8	○?	○
	坏a	イト	R-006	Fig.89-4	12.7	2.45	9.2	○	○
	坏a	イト	R-005	Fig.89-5	(13.1)	2.9	8.0	○?	○
	坏a	イト	R-004	Fig.89-6	(14.0)	3.5	(10.2)	○	○

S-20褐色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	M-008	—	(7.6)	1.0	(5.8)	○	○
	小皿a	イト	R-008	Fig.88-19	8.1	1.15	6.1	○	○
	小皿a	イト	R-003	Fig.88-20	8.1	0.9	6.4	○	○
	小皿a	イト	R-006	Fig.88-21	8.2	1.1	6.3	○	○
	小皿a	イト	M-012	—	(8.2)	1.1	(6.6)	○	×
	小皿a	イト	M-019	—	(8.4)	1.0	(6.6)	○	○
	小皿a	イト	R-007	Fig.88-22	8.45	1.05	6.2	○	○
	小皿a	イト	R-001	Fig.88-23	8.5	0.8	6.35	○	○
	小皿a	イト	M-015	—	(8.6)	1.4	6.0	○	○
	小皿a	イト	M-017	—	(8.6)	0.9~1.2	6.4	○	×
	小皿a	イト	M-018	—	8.6	0.8	6.0	○	○
	小皿a	イト	R-009	Fig.88-24	8.7	1.1	6.2	○	○
	小皿a	イト	R-002	Fig.88-25	8.8	1.1	6.6	○	○
	小皿a	イト	R-004	Fig.88-26	8.8	0.9	6.3	○	○
	小皿a	イト	M-013	—	(8.8)	1.05	(6.2)	○	○
	小皿a	イト	M-014	—	(8.8)	1.3	(6.8)	○	○
	小皿a	イト	M-011	—	(8.8)	1.1	(6.6)	○	○
	小皿a	イト	R-005	Fig.88-27	(9.0)	1.3	(6.7)	○	○
	小皿a	イト	M-007	—	(9.0)	1.2	(7.0)	○	○
	小皿a	イト	M-009	—	(9.2)	1.25	(6.6)	○	○
	小皿a	イト	M-010	—	(9.2)	1.2	(7.6)	○	○
	小皿a	イト	M-016	—	(9.4)	1.4	(6.6)	○	○
	坏a	イト	R-010	Fig.88-28	(12.1)	2.8	(9.0)	○	×
	坏a	イト	M-005	—	12.2	2.2~2.6	7.8	○	○
	坏a	イト	R-011	Fig.88-29	(12.3)	2.35	(9.0)	○	○
	坏a	イト	R-016	Fig.88-30	(12.3)	3.05	8.0	○	○
	坏a	イト	R-025	Fig.88-31	12.3	2.5	8.1	○	○
	坏a	イト	R-021	Fig.88-32	12.55	2.5	8.3	○	○
	坏a	イト	R-022	Fig.88-33	(12.7)	2.1	(9.5)	○	○
	坏a	イト	R-014	Fig.88-34	(12.8)	2.25	(9.4)	○	○
	坏a	イト	M-002	—	(12.8)	2.4	(9.0)	○	—
坏a	イト	M-003	—	(12.8)	2.5	(8.8)	○	○	
坏a	イト	R-023	Fig.88-35	12.85	2.8	8.6	○	○	
坏a	イト	R-020	Fig.88-36	12.9	2.5	9.0	○	○	
坏a	イト	R-018	Fig.88-37	12.9	2.8	8.4	○	○	
坏a	イト	R-024	Fig.88-38	12.9	2.45~2.9	7.8	○	○	
坏a	イト	R-019	Fig.88-39	13.0	2.5~2.9	9.5	○	○	
坏a	イト	R-012	Fig.88-40	(13.0)	2.65	(8.0)	○	○	
坏a	イト	R-013	Fig.88-41	(13.0)	2.3	(9.4)	○	○	
坏a	イト	M-001	—	(13.0)	2.3	(8.8)	○	○	
坏a	イト	R-015	Fig.88-43	(13.0)	2.7	8.1	○	○	
坏a	イト	R-026	Fig.88-42	13.1	2.6	9.1	○	○	
坏a	イト	R-017	Fig.88-44	(13.4)	2.3	8.0	○	○	
坏a	イト	M-004	—	(13.4)	2.2	(7.8)	○	○	
坏a	イト	M-006	—	13.4	2.4~2.8	8.3	○	○	

S-20暗茶灰色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-002	Fig.88-48	(8.8)	1.35	6.65		
	小皿a	イト	R-001	Fig.88-49	9.2	1.1~1.3	6.8		

S-50暗茶色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-004	Fig.90-2	(9.8)	1.3	(7.2)	○	—
	皿c		R-003	Fig.90-3		2.1+ α	7.6	—	—
	小椀c		R-005	Fig.90-4	(10.0)	2.9	(5.6)	—	—

S-50黒茶色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-001	Fig.90-8	(10.0)	1.3	(7.8)	—	—
	坏a	イト	R-002	Fig.90-9	(15.0)	2.9	(10.3)	○	×

S-50灰茶色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a		R-008	Fig.90-10	(9.0)	1.05	(6.4)	—	—
	坏a	イト	R-003	Fig.90-11	(15.8)	3.0	(9.6)	—	—
	丸底坏a		R-010	Fig.90-12		2.8+ α			
	丸底坏a	ヘラ?	R-009	Fig.90-13	(15.4)	4.15	(6.8)	—	—
黒色土部	椀c		R-014	Fig.90-14		1.65+ α			
	小椀		R-004	Fig.90-15	(9.0)	3.1+ α			
瓦器	椀c		R-013	Fig.90-16		3.5+ α			

5、第304次調査

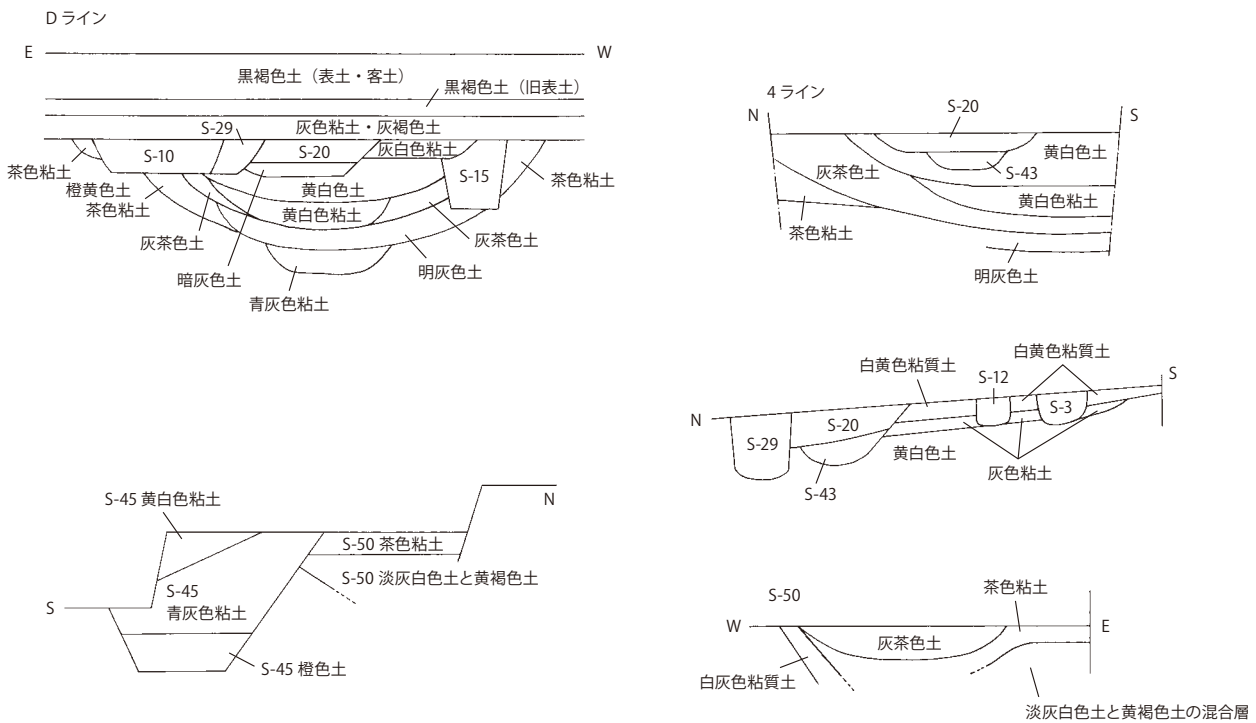
(1) 調査に至る経緯

調査地は、太宰府市五条3丁目2763番で、県立太宰府病院が所在する丘陵の北裾部に位置する。

2013(平成25)年4月、太宰府市公共施設整備推進課から、総合子育て支援施設(五条保育所、子育て支援センター等の複合施設)の新築に伴う文化財の取り扱いについて問い合わせが始まり、2013(平成25)年6月13・14日、2014(平成26)年3月19日に確認調査を実施し、現況面より深さ0.8mで遺構が確認された。

その後、建築内容を協議した結果、保育所建物のうち遺構に影響がある部分(1区)と深く掘削が入る雨水管敷設部分(2区)の2ヶ所を発掘調査することとなった。2ヶ所とも工事の影響がある深さま

1区



2区

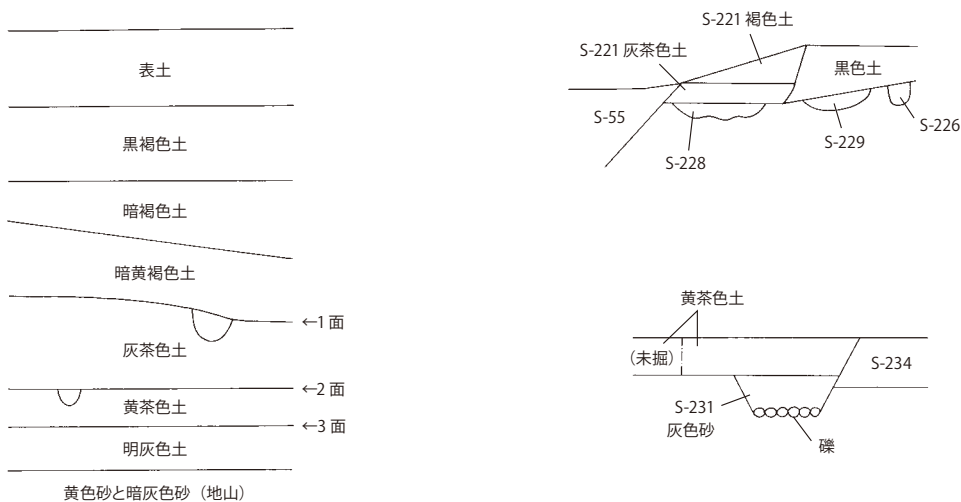


Fig. 92 第304次調査基本土層模式図

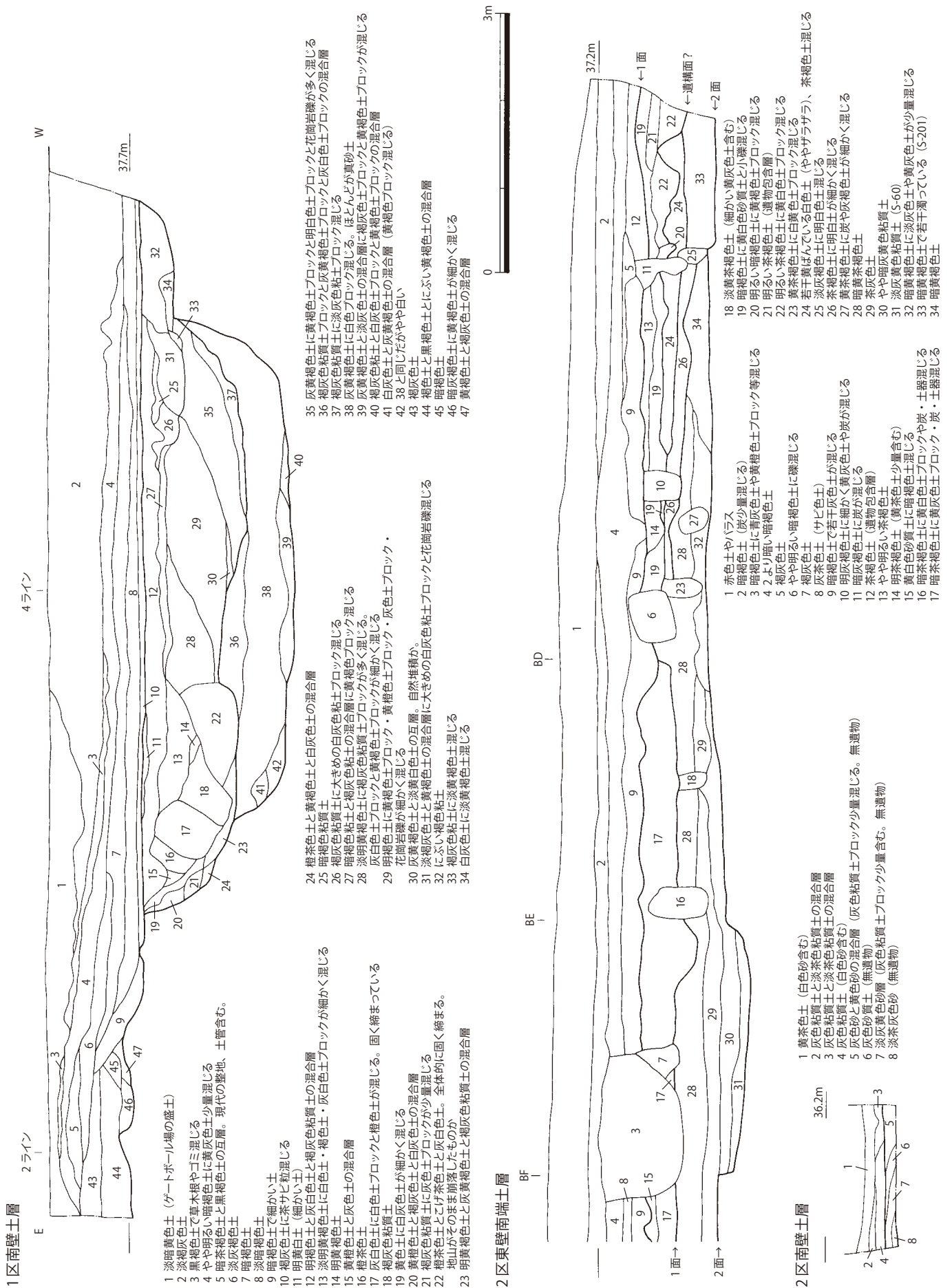
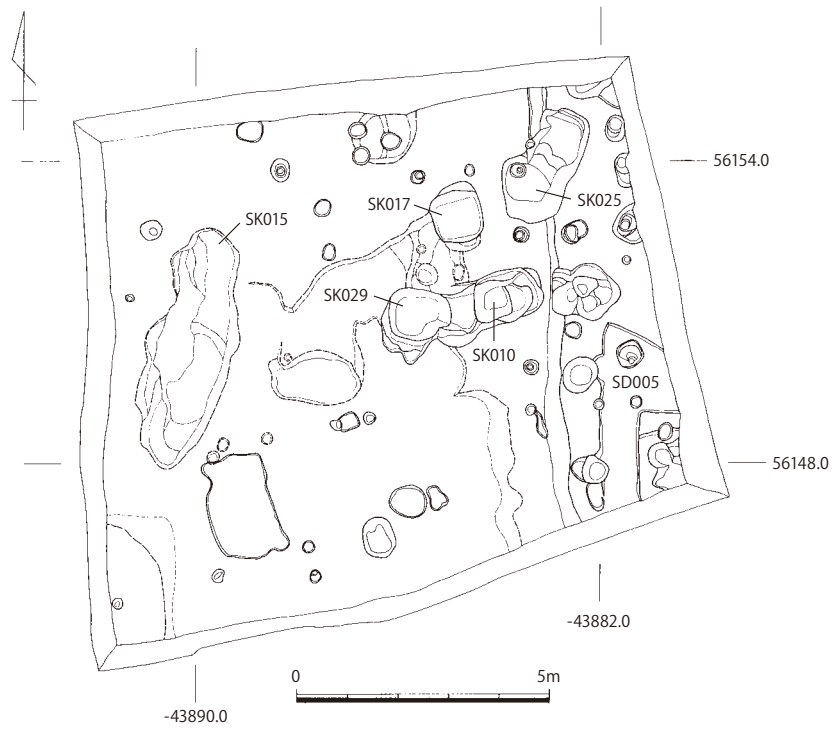


Fig. 93 第304次調査区土層実測図 (1/60)

1面



2面

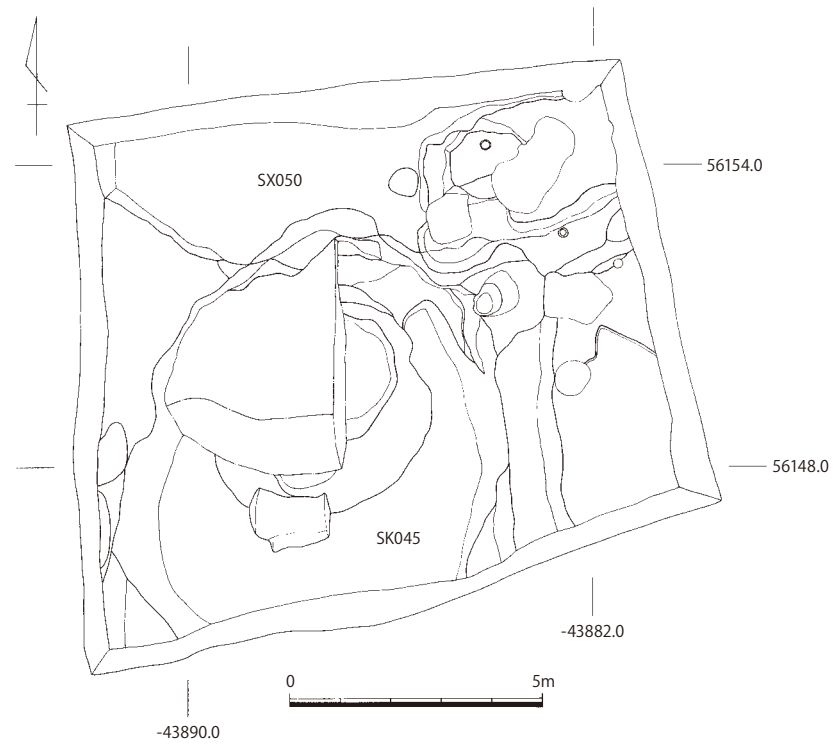
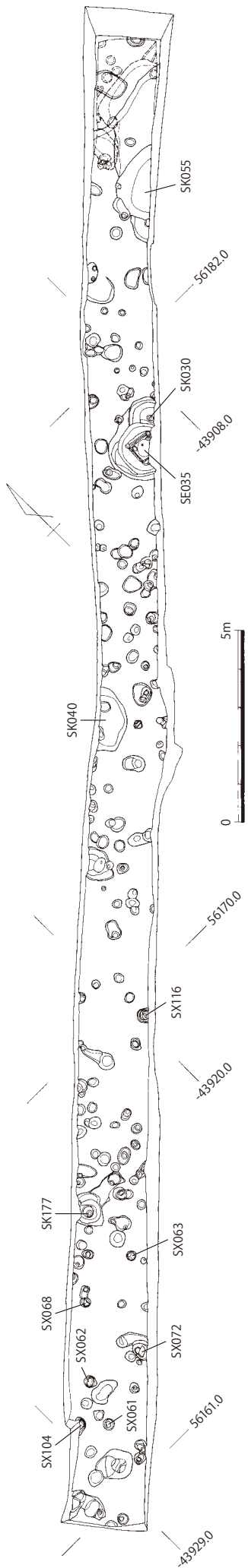
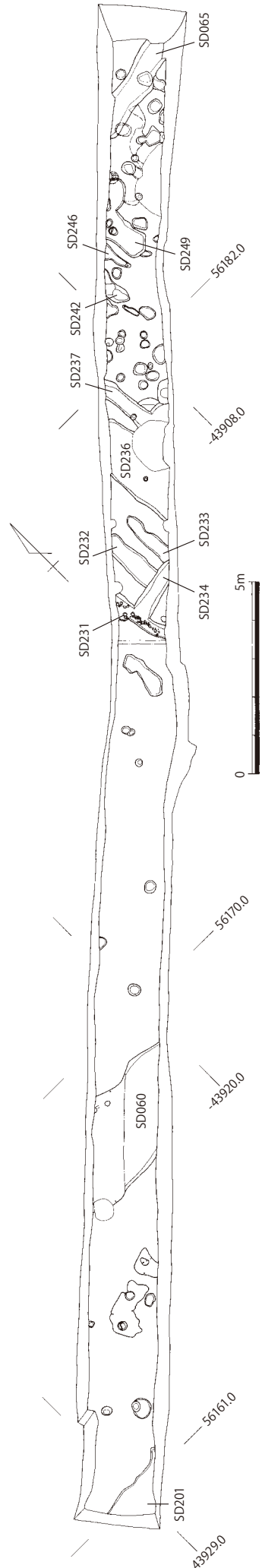


Fig. 95 第304次調査1区遺構全体図 (1/150)

1面



2面



172 Fig. 96 第304次調査2区遺構全体図 (1/150)

では調査を行ったが、工事による影響がない深い遺構については、一部掘削したが調査をせずに保存している。

調査期間は2014（平成26）年4月11日～5月30日。開発面積5808 m²、調査面積186.3 m²。調査は沖田正大、宮崎亮一が担当した。

(2) 基本層位 (Fig. 92・93)

1区は丘陵裾部に位置しており、最上面に部分的にゲートボール場として利用した際の真砂土の整地層があり、その下層は細かく分かれてはいるが、大きく暗褐色土の表土で、それを除去すると真砂土の地山に遺構が確認できる。遺構検出面の標高は第1面で37.2～37.7m、第2面で36.8～37.3mである。現況面から深さは第1面で約1mである。

2区は、表土として赤土やバラスなどの現代整地層とその下に暗褐色土などの耕作土が厚さ0.8m程あり、東側ではさらに黄灰色土ブロックや土器片などを含む暗褐色土や暗茶褐色土が0.4m程の厚さで広く堆積している。これらを除去すると第1遺構面となる。第1面の基盤層は、茶褐色土や暗黄茶褐色土など（略土層：灰茶色土）が厚さ0.7m前後あり、西側には白色土や茶褐色土等の整地層も確認できる。それらを除去すると第2面となり、その基盤は黄茶色土が厚さ0.3m程あり、僅かに遺物も出土した。その下層は明灰色土で、その下に地山とみられる黄色砂・灰色砂の砂層となっている。遺構の検出面の標高は、第1面が36.4m前後、第2面が36～36.6mで北に傾斜する。第3面は35.7～36mで、第1面は現況面から深さ1.2mである。

(3) 検出遺構

柱穴

304SX061・304SX062・304SX063・304SX068・304SX072・304SX104・304SX116 (Fig. 97)

ピットの底面で大きさ0.15～0.2mの礫が検出され、建物の根石と推測される。304SX177にも長方形の石材がみられ、304SX063と304SX068の3基の間隔は約1.8mであり、同一の建物を構成する柱穴と考えられる。

溝

304SD005 (Fig. 97)

L字形に検出された溝で、南北部分は幅0.8m、深さ0.1m前後。東西部分は幅1.48～1.8m、深さ0.07m前後である。埋土は灰褐色土で、僅かに炭化物を含む。溝に囲まれた範囲に特別目立った遺構は確認できない。

304SD060

幅2.2m、深さ0.3m前後の東西溝で、埋土は淡灰褐色土である。

304SD065

幅0.7m前後、深さ0.2m前後の東西溝である。

304SD201

調査区端で検出された遺構で、南肩が調査区外へ続いているため、明確に溝とは言い難いが、SD060と同じ方位であることから、溝と推測した。遺構は幅0.9m以上、深さ0.07m、埋土は暗黄褐色土であるが、調査区の壁面を観察すると検出面よりやや高い位置から掘られているように見え、それをみると深さ0.35mとなる。

304SD231

この溝付近から黄茶色土の整地層が始まり、それを除去すると検出された南北溝。幅0.32～0.52m、深さは0.05m前後で、溝内は灰色砂と共に大きさ0.05～0.1m程の礫が検出された。

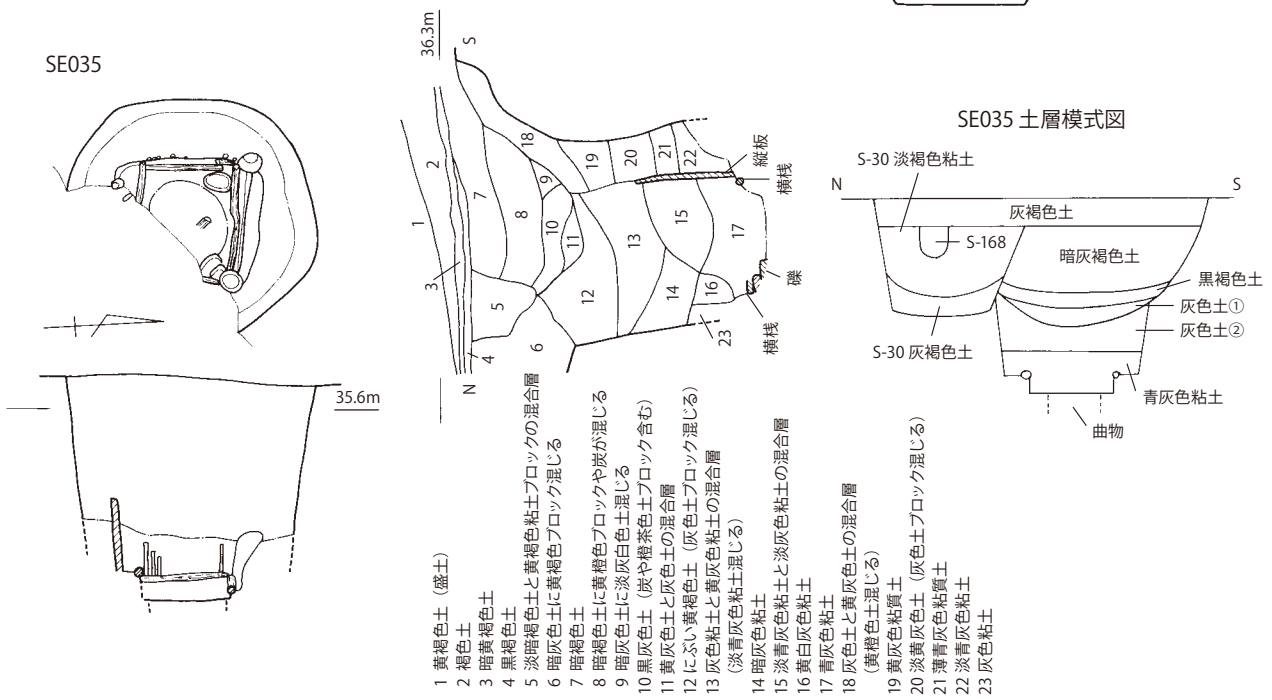
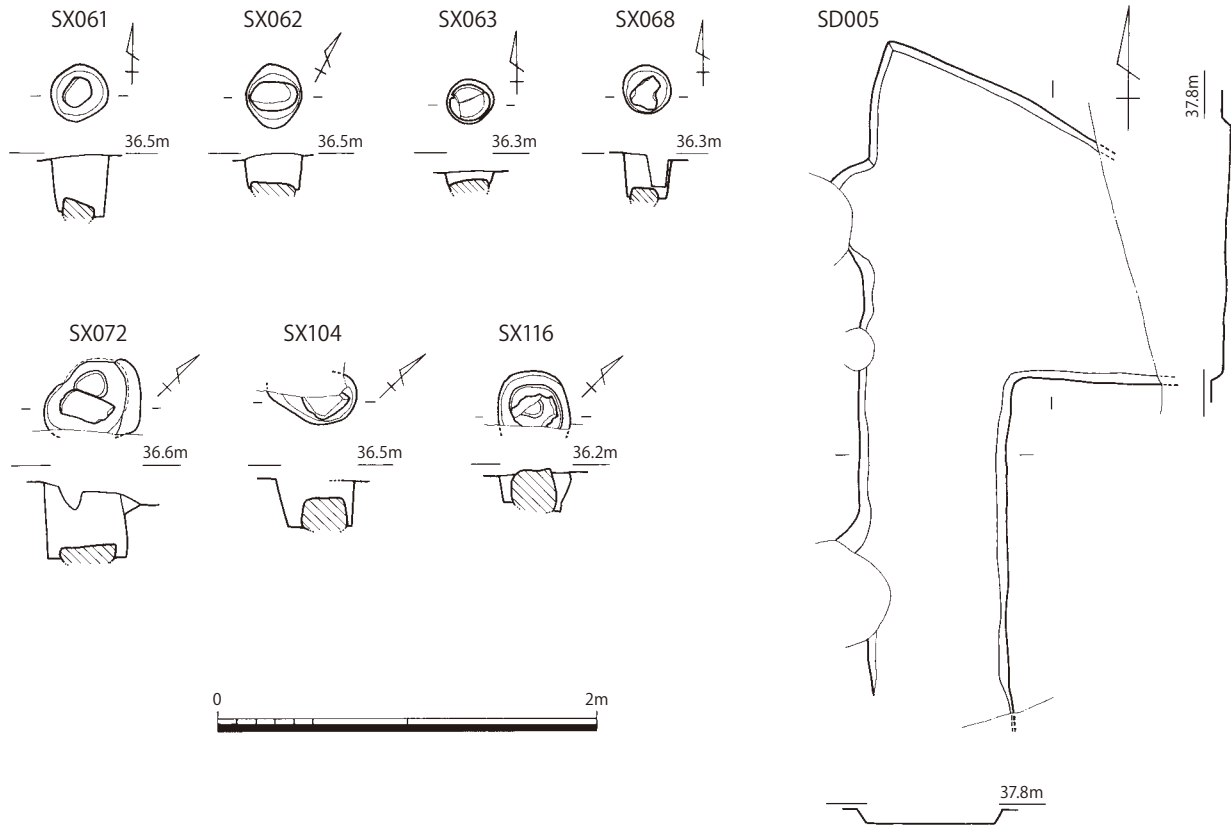


Fig. 97 第304次調査柱穴、SD005、SE035 遺構実測図 (1/40)

304SD232

幅 0.46m、深さ 0.11m の南北溝で、調査範囲が狭いため明確に言い難いが検出長は 1.52m で、南側は SD234 に切られている。

304SD233

検出長は 1.54m、幅 0.38m、深さ 0.03m 前後の南北溝で、南側は SD234 に切られている。

304SD234

幅 0.5m、深さ 0.25m の東西溝。西側は SD231 と黄茶色土層に切られている。

304SD236

幅約 1.3m、深さ 0.1m の南北溝である。

304SD237

幅 0.45m 前後、深さ 0.1m 前後の南北溝である。

304SD242・246・249

検出範囲が 1m 前後のため、土坑の可能性もあるが、3 条とも南北方向に長い溝と推測した。溝は 2m の範囲に平行して並び、幅 0.18 ～ 0.7m、深さ 0.02 ～ 0.18m を測る。

井戸

304SE035 (Fig. 97)

掘り方は径 1.35m、深さ 1.2m 以上の楕円形で南西部が調査区外へと続く。埋土は下層ほど草木片がみられたが遺物は少ない。そして、青灰色粘土に混じって方形の井戸枠痕跡が検出された。枠内を掘り下げると横棧が残っていて、横棧の内法は南北 0.47m、東西約 0.52m で、横棧は径 2.5 ～ 3 cm の自然木を使用し、樹皮も残っている。隅柱は北辺の 2ヶ所は腐っており穴となっていた。南西隅には径 0.04m ほどの円柱の隅柱が残っていた。井戸枠材の残りは悪いが、西辺は横棧の背後に径 0.1 ～ 0.2m 程の自然木もしくは草の茎のようなものを隙間なく並べている。南辺は調査区際に縦板のような板片がみえる。北辺は横方向の木質がみられるため、横板の可能性も考えられる。このように各辺とも井戸枠の材質が異なる可能性がある。井戸枠の底面には径 0.38m 程の円形の青灰色土が検出され、曲物の痕跡と推測されるが、埋土は掘削していない。曲物の周りには花崗岩礫を敷いている部分もあるが全体にはみられない。

なお、この井戸は、工事による影響がなかったため、埋土を除去した状態で完掘せず埋戻し保存した。

土坑

304SK010 (Fig. 98)

長さ 2.3m 以上、幅 1.05m、深さ 0.8m の長方形土坑で、西側は SK029 により切られている。

304SK015 (Fig. 98)

南北 4.85m、南北 1.72m、深さ 0.62m の長楕円形を呈する。埋土は暗褐色土や灰褐色土で、多量の焼土や炭化物が含まれていた。

304SK017 (Fig. 98)

大きさは 1.06 × 1.1m、深さ 0.74m の隅丸方形の土坑である。埋土は灰茶色土や灰色土で炭化物を少量含む。

304SK025 (Fig. 99)

規模は長さ 2.43m、幅 0.96 ～ 1.32m の不正長方形の土坑で、床面は南側が深く掘り込まれ、深さは北側で 0.3m、南側で 0.6m を測る。土坑内部には 0.1 ～ 0.4m 程度の礫が充満し、埋土には焼土が多く入っていた。

304SK029 (Fig. 98)

東西 1.4m、南北 1.5m、深さ 0.75m の不定形だが、一段下がると隅丸方形を呈する。埋土は黒褐色土や炭化物を含む暗灰色粘質土などである。

304SK030 (Fig. 99)

大きさは 1.2m × 0.7m 以上、深さ 0.5m の円形土坑であるが、半分以上は調査区外へと続く。埋土は、

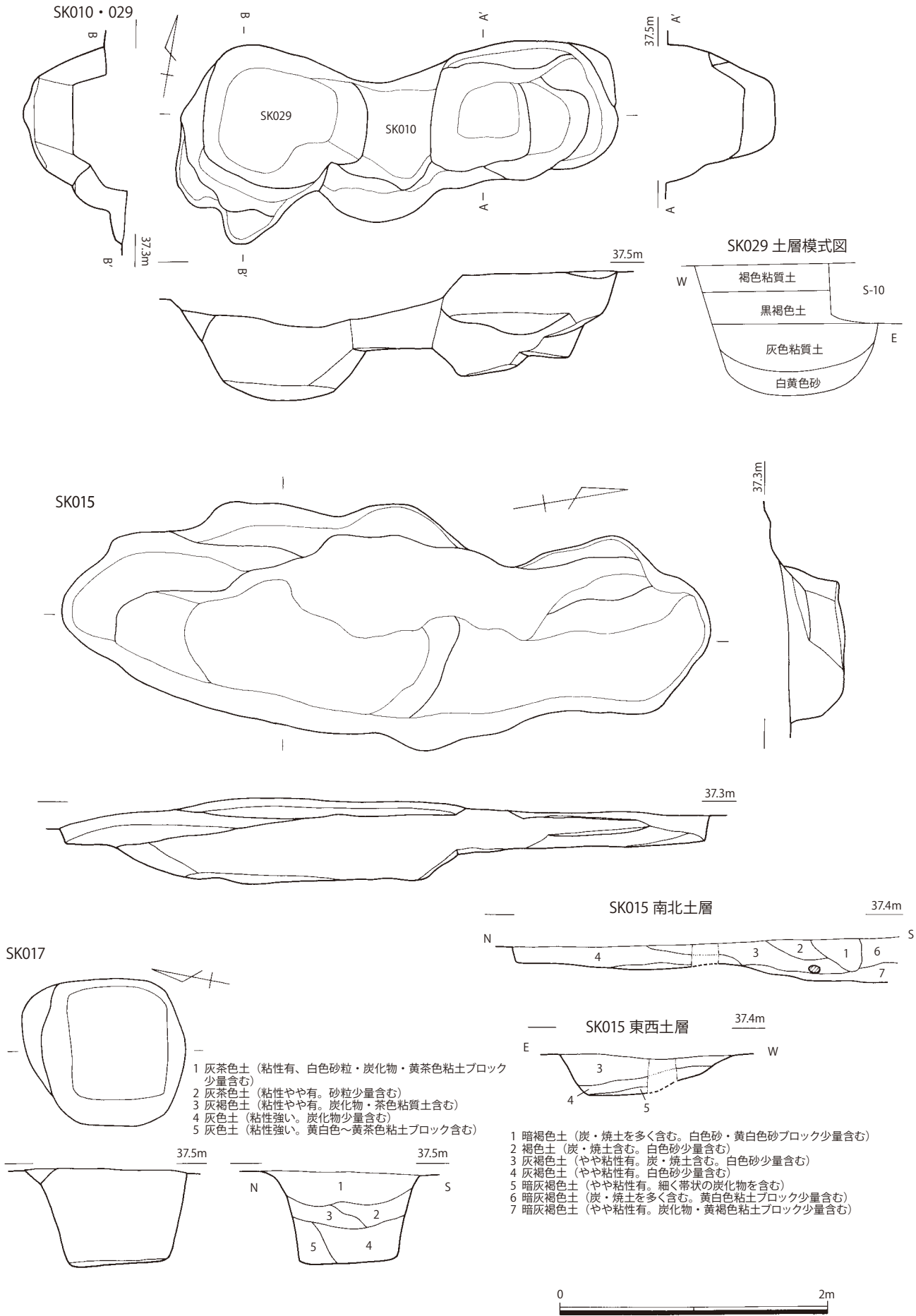


Fig. 98 304SK010・015・017・029 遺構実測図 (1/40)

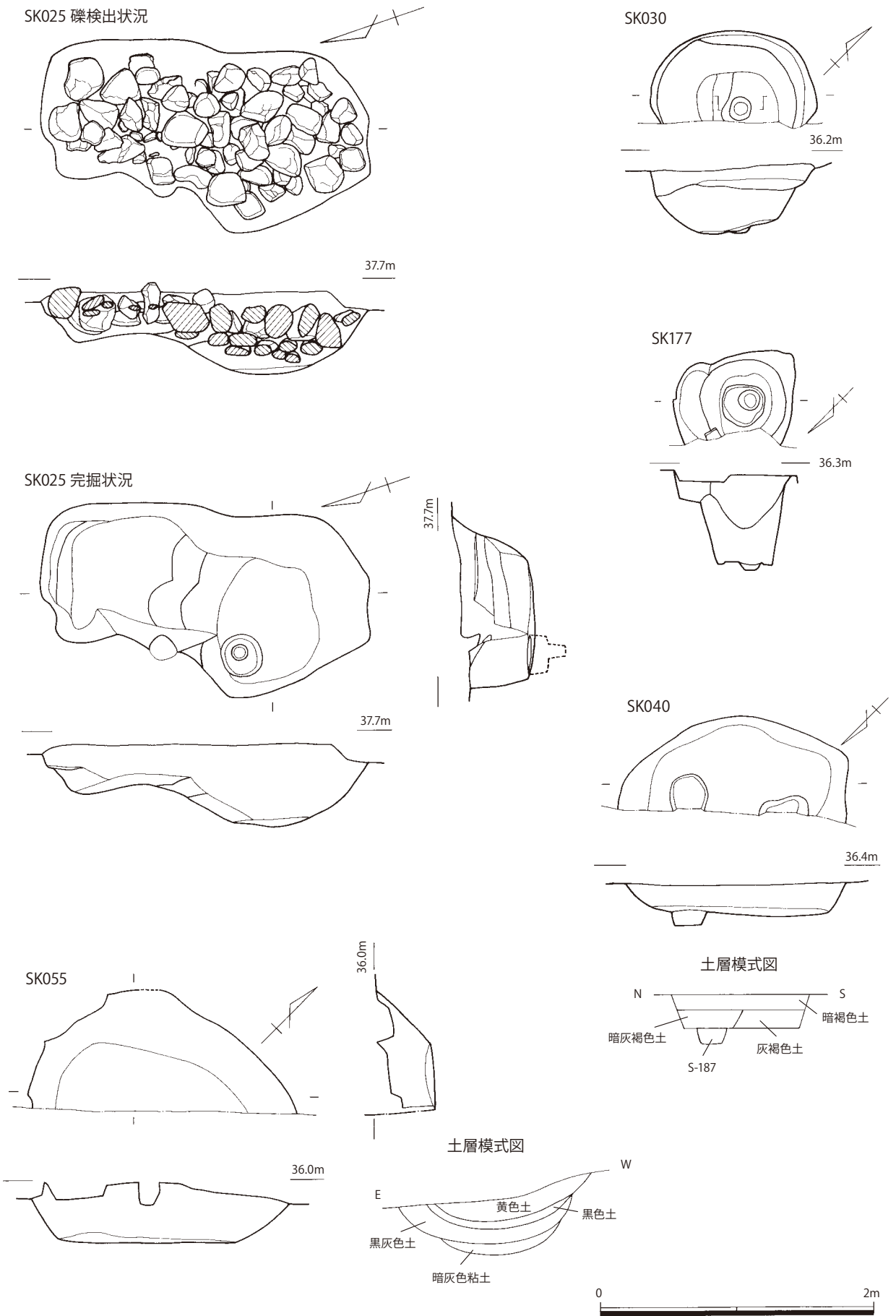


Fig. 99 304SK025・030・040・055・177 遺構実測図 (1/40)

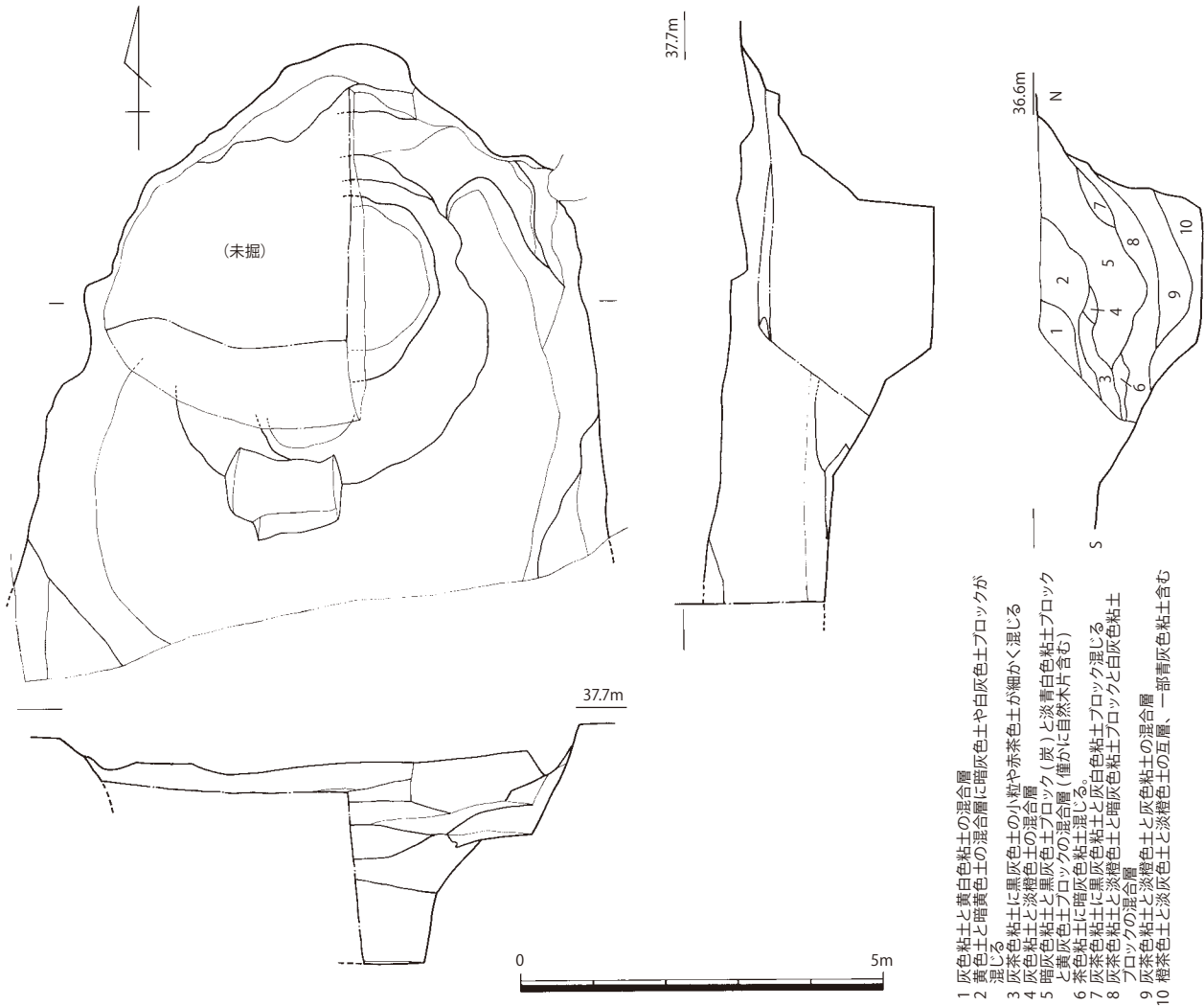


Fig. 100 304SK045 遺構実測図 (1/100)

上層が灰褐色土と淡褐色粘土の混合層（取上げは淡褐色粘土）、下層は暗灰褐色土と淡褐色粘土ブロックの混合層（取上げは灰褐色土）である。

304SK040 (Fig. 99)

大きさは 1.65m × 0.7m 以上、深さ 0.2m の長楕円形だが、半分以上は調査区外へと続いている。

304SK045 (Fig. 100)

調査区南端で検出した巨大な不正円形土坑で、SK050 の埋土に切り込む。東西 8.05m、南北は確認範囲で 8.2m、南は調査区外に続いている。全体の深さは検出面から最深 3.25m である。構造としては 2 段になっており、大きな穴は深さ 1.8m 前後で、埋土は大きく上下 2 層からなり、下層は真砂土のような土層が 0.5m 程あり、上層は黄褐色土・黄橙色土・明白色土が混じる層で、西方向からの傾斜で堆積している。この上層の東側には地山がそのまま堆積したような塊があり、土砂は比較的近いところから運搬されてきた可能性が推測される。大穴の底面北側に径 4.5m、深さ 1.5m 前後の円形状土坑が掘られている。この下位の土坑は半分ほどしか調査していないため全容が掴みにくい。調査中湧水があり、土坑の周囲の地盤が細かい土で崩落し抉れていったが、検出段階では遺構そのものは抉れていなかったため、湧水がなかったか、抉れる前に埋められた可能性が考えられる。埋土は中位に北側上面から暗灰色粘土に青白色粘土が混じる層が厚く堆積する。この層には僅かに自然木片を含むが、その他の層では木

片は含まない。土坑の最下層は橙色土でいわゆる錆色土で遺物は含まれず、自然堆積の可能性がある。土層観察を東西で行い、南北土層は北半分を中心に残したため、南北方向の連続的な状況が全く分からないが、円形土坑付近で残した埋土の堆積層と同じ土層が南壁の土層では確認されていない。もしかして、大穴と底面の円形土坑は別遺構の可能性も考えられる。つまり、大穴埋没後に大穴北側付近に掘削された土坑という見方も考えておく必要がある。このような巨大な土坑は太宰府市内でも珍しく、井戸枡のようなものは未検出で、用途についてもわからない。

304SK055 (Fig. 99)

大きさは1.95m以上×0.9m以上、深さ0.44の楕円形土坑であるが、調査区際のため半分以上は調査区外へと続く。

304SK177 (Fig. 99)

大きさは東西0.9m、南北1.0m、深さ0.73mの円形土坑である。

その他の遺構

304SX050

SK045の北側に広がる。工事による影響がなかったため、上面のみの掘削に留めた。大きさは東西10.4m以上、南北2.8m以上、深さは0.4m以上である。埋土は最上層が灰茶色土、その下が茶色粘土、その下に淡灰白色土と黄褐色土の混合層となっている。土坑か堆積層か明確でないが、SX050の埋土に切り込んでSK045が掘り込まれている。

(4) 出土遺物

柱穴

304SX104 出土遺物 (Fig. 101)

土師器

坏 a (1) 復元口径10.6 cm。底部切り離しは回転糸切り。色調は淡黄色を呈する。

304SX116 出土遺物 (Fig. 101)

土師器

小皿 a (2) 復元口径10.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

溝

304SD060 出土遺物 (Fig. 101)

土師器

碗 c (3、4) 3はハ字形に開く高台を貼付する。色調は淡白黄茶色を呈する。4はしっかりとした高台を貼付する。色調は淡灰茶色を呈する。

304SD201 出土遺物 (Fig. 101)

土師器

坏 a (5) 内外面とも摩滅し底部切り離し・調整とも不明。復元底径7.8 cm。色調は淡橙色を呈する。

瓦類

平瓦 (6) 外面に斜格子叩きを施す。

井戸

304SE035

304SE035 暗灰褐色土出土遺物 (Fig. 101)

青白磁

皿 (7) 復元口径10.2 cm。口縁端部を僅かに外反させ、内外面には淡緑灰色釉を施す。

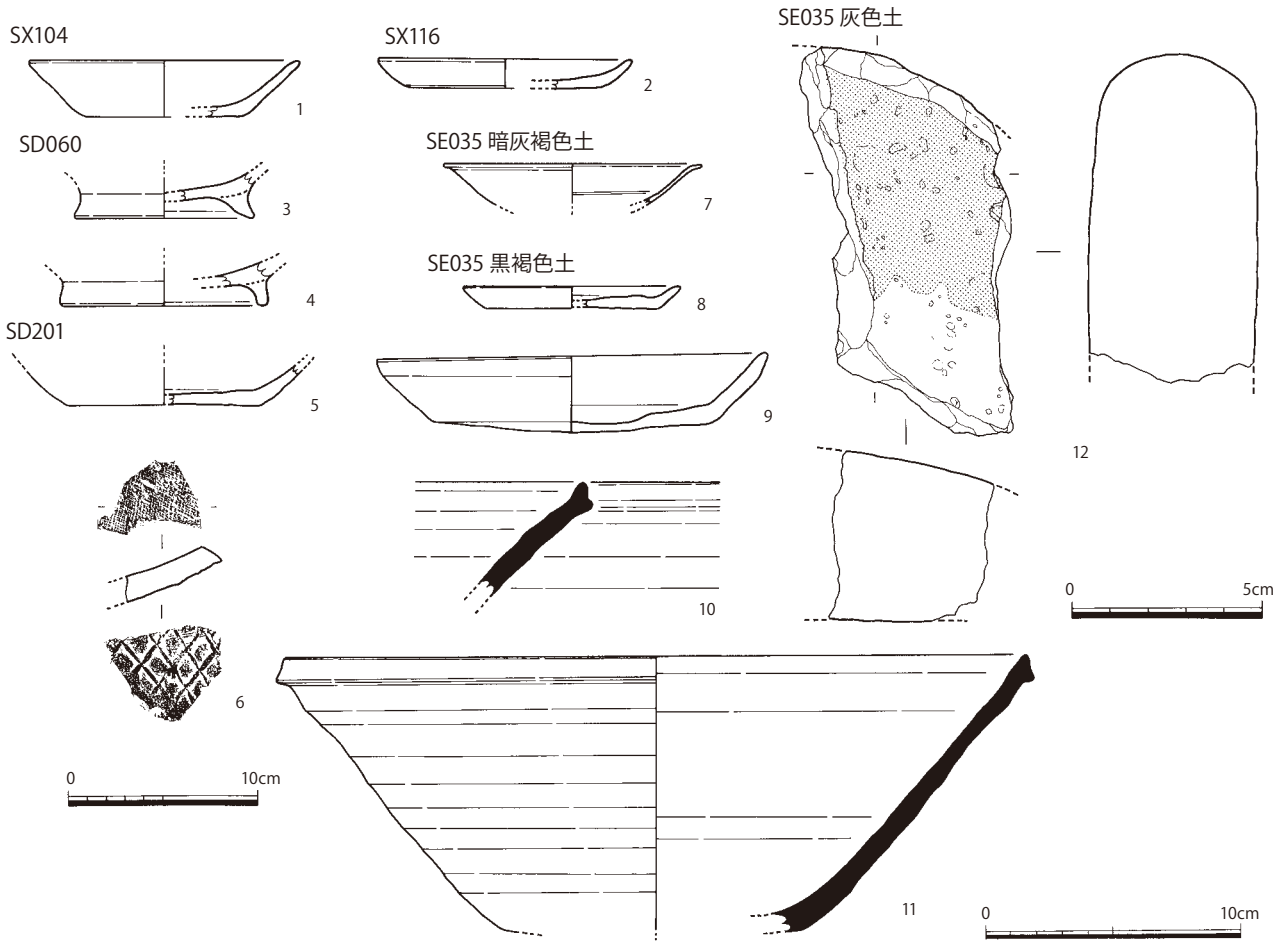


Fig. 101 304SX104・116、SD060・201、SE035 出土遺物実測図 (1/3、瓦は 1/4、石製品は 1/2)

304SE035 黒褐色土出土遺物 (Fig. 101)

土師器

小皿 a (8) 復元口径 8.6 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (9) 口径 15.4 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

須恵質土器

鉢 (10、11) 東播系。口縁端部のみ僅かに肥厚させ黒色化する。11 は復元口径 29.8 cm、復元底径 11.8 cm。内外面ともヨコナデ調整され、内面下半は使用によりやや平滑となる。

304SE035 灰色土出土遺物 (Fig. 101)

石製品

台石 (12) 円形状の台石の一部とみられる。表裏ともやや平滑で、全体的に被熱し煤が薄く付着する。

土坑

304SK010

304SK010 灰褐色土出土遺物 (Fig. 102)

土師器

小皿 a (2) 復元口径 7.6 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

小皿 b (1) 復元口径は 7.5 cm と 12.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (3、4) 復元口径は 11.6 cm と 12.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

土師質土器

鉢 (5) 胎土は黄白色で、口縁部を肥厚させ、外面にはナデ痕が残る。

黒釉陶器

天目碗 (6、7) 6は復元口径 12.6 cm。胎土は淡灰黄色を呈し、内外面に黒色釉や茶色釉を施すが、外面下半は露胎である。7は胎土に白色砂粒を含み内外面に茶色釉を施す。

石製品

石鍋 (8) 復元口径 39.2 cm。外面には小さく削り出した鏝を巡らす。滑石製。

平玉石 (9) 大きさは 1.64 × 1.9 cm、厚さ 0.3 cm。色調は暗灰色を呈する。

304SK010 暗褐灰色砂土出土遺物 (Fig. 102)

土師器

小皿 a (10～12) 復元口径 7.4～8.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

杯 a (13、14) 復元口径は 12.0 cm と 12.4 cm。13の底部切り離しは回転糸切りである。

龍泉窯系青磁

碗 (15) 復元高台径 8.2 cm。内外面に青緑色釉を施し、内面にはへら描き文が施され、高台内面は釉が拭き取られている。

304SK015

304SK015 暗茶色土出土遺物 (Fig. 102)

土師器

杯 a (16、17) 復元口径は 11.4 cm と 12.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

304SK015 暗灰褐色土出土遺物 (Fig. 102)

土師器

小皿 a (18～23) 復元口径 8.0～9.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

杯 a (24、25) 復元口径は 11.0 cm と 11.8 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

土師質土器

鍋 (26) 胎土は微細な雲母や白色砂粒を含む。内外面にはハケ目が残る。

土製品

轆羽口 (27) 轆羽口の先端部で、外面は被熱で溶解し暗灰色を呈する。径 7.5 cm 程に復元できる。

土壁 (28～36) 胎土は白色砂粒を含み橙色を呈し、スサ痕が残る。部分的に平坦面が残り、円形や方形状の小舞痕も確認できることから土壁の破片と理解できる。

304SK017 灰茶色土出土遺物 (Fig. 103)

土師器

小皿 a (1、2) 復元口径は 7.6 cm と 8.4 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

杯 a (3) 復元口径 11.8 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

石製品

丸石 (4) 大きさ 4.35 × 2.35 cm。厚さ 0.95 cm。表面の研磨は自然か。

304SK020 暗褐色土出土遺物 (Fig. 103)

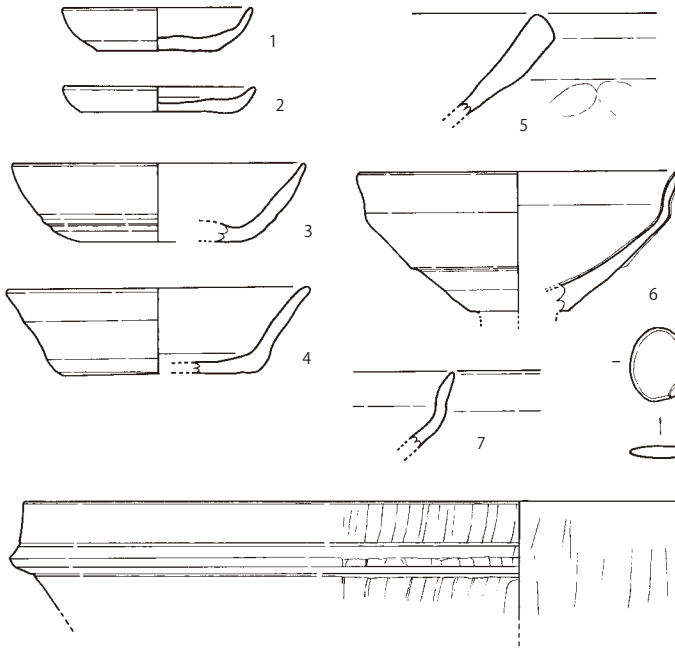
土師器

小皿 a (5～7) 復元口径 8.2～8.5 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

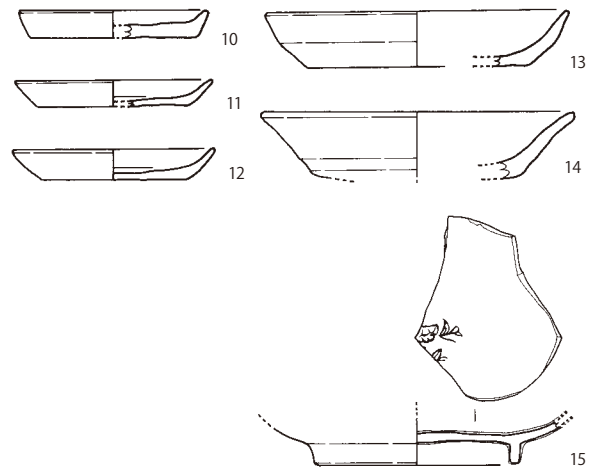
杯 a (8) 口径 12.5 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

須恵質土器

SK010 灰褐色土



SK010 暗褐色砂土



SK015 暗茶色土



SK015 暗灰褐色土

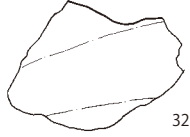
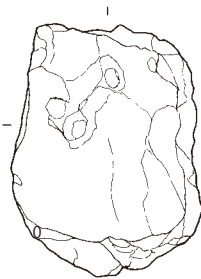
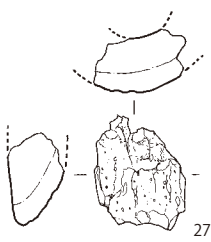
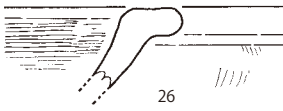
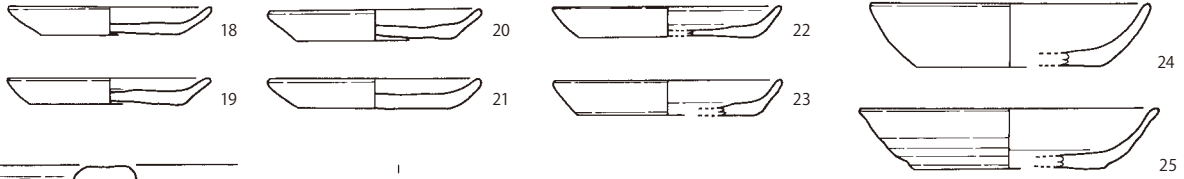
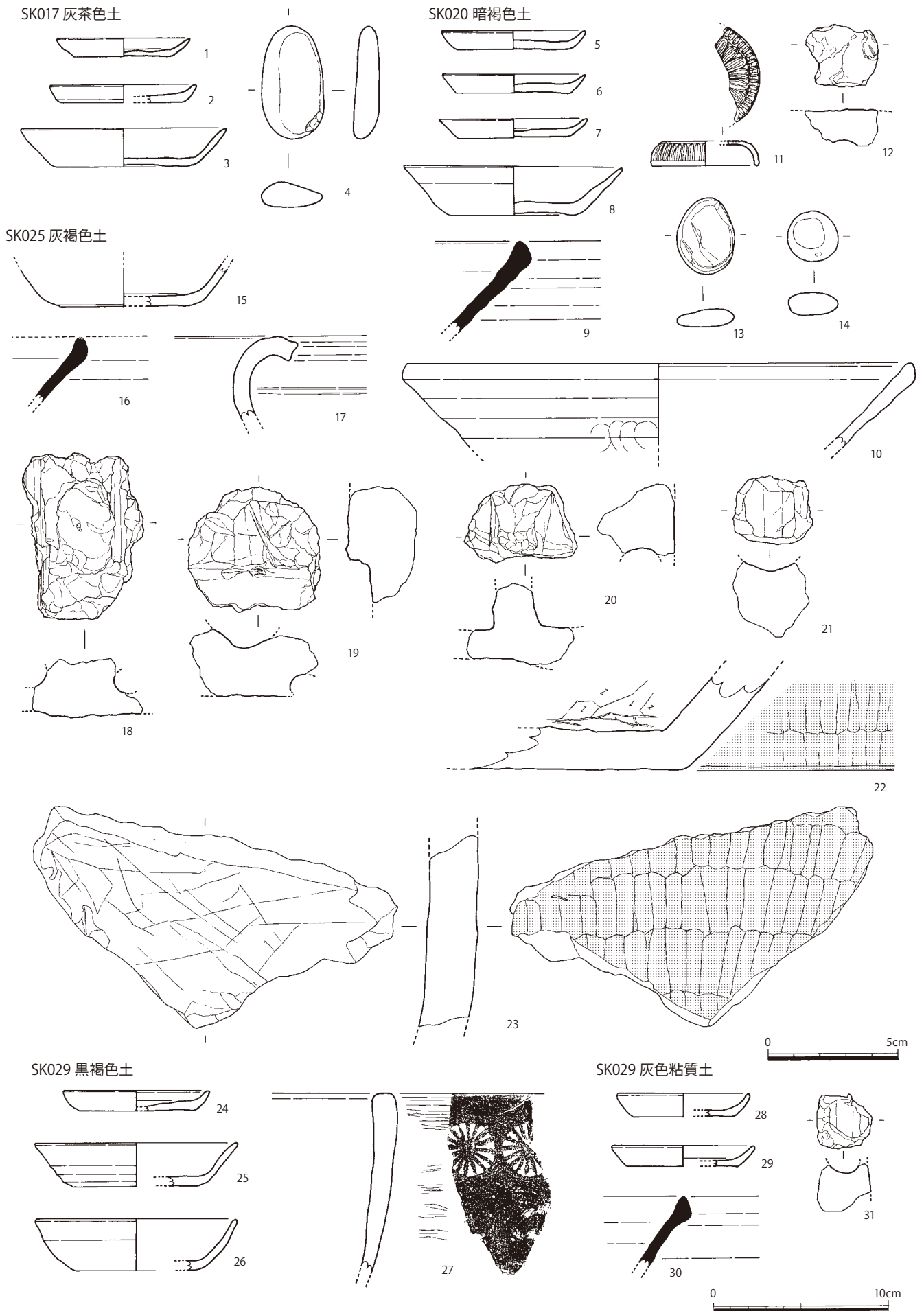


Fig. 102 304SK010・015 出土遺物実測図 (1/3、石製品は1/2)



鉢 (9) 東播系。内外面とも横ナデ調整し、体部は明灰色で、口縁端部のみ黒色を呈する。

瓦質土器

鉢 (10) 復元口径 29.4 cm。口縁部に向かって若干肥厚させ、外面下半に指頭圧痕が残る。

青白磁

合子蓋 (11) 復元口径 6.2 cm、器高 1.4 cm。外面には蓮弁を施し、灰緑色釉を施すが、内面下半は露胎である。

土製品

土壁 (12) 胎土は砂粒を含み、明橙色を呈する。平坦面と断面円形の小舞痕を残す。

石製品

平玉石 (13、14) 大きさは、13 が 2.95×2.2 cm、厚さ 0.7 cm。14 が 1.9×1.9 cm、厚さ 0.85 cm。人為的に研磨されている。

304SK025 灰褐色土出土遺物 (Fig. 103)

土師器

坏 a (15) 復元底径 8.0 cm。底部切り離しは糸切りか。

須恵質土器

鉢 (16) 東播系。

瓦質土器

鉢 (17) 胎土は灰色や黒灰色を呈し、外面はヨコナデ調整、内面は摩滅し調整不明。

土製品

土壁 (18 ~ 21) 胎土は白色砂粒を含み、スサ痕も残る。平坦面や断面円形や方形の小舞痕が確認できる。

石製品

石鍋 (22、23) 22 は石鍋の底部で、外面には煤が厚く付着する。内面は粗いケズリが施されている。滑石製。23 は外面に煤が付着し、内面は使用による細かい傷が残る。滑石製。

304SK029

304SK029 黒褐色土出土遺物 (Fig. 103)

土師器

小皿 a (24) 復元口径 8.4 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (25、26) 復元口径 11.6 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

瓦質土器

火鉢 (27) 口縁部外面に花文のスタンプを施す。内面はナデ調整、外面はミガキ c を細かく施す。器面の色調は黒灰色を呈する。

304SK029 灰色粘質土出土遺物 (Fig. 103)

土師器

小皿 a (28、29) 復元口径は 7.6 cm と 8.2 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

須恵質土器

鉢 (30) 東播系。

土製品

土壁 (31) 小片だが断面円形の小舞痕が残る。

304SK030 灰褐色土出土遺物 (Fig. 104)

土師器

小皿 a (1) 復元口径は 8.8 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

石製品

砥石 (2) 欠損し長さ 6.55 cm 以上、幅 4.7 cm、厚さ 1.4 cm。4 面が使用され研磨されている。

304SK040

304SK040 暗褐色土出土遺物 (Fig. 104)

土師器

小皿 a (3、4) 復元口径は 8.6 cm と 8.8 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (5) 底部切り離しは回転糸切りである。

石製品

平玉石 (6) 大きさ 1.75 cm × 1.55 cm、厚さ 0.65 cm。色調はくすんだ乳白色を呈する。

304SK040 灰褐色土出土遺物 (Fig. 104)

土師器

小皿 a (7) 口径 8.4 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (8、9) 復元口径は 12.0 cm と 13.2 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

金属製品

環状金具 (10) 端部は欠損するが、もう片方を環状に折り曲げている。

304SK045

304SK045 黄白色粘土出土遺物 (Fig. 104)

瓦質土器

鉢 (11) 復元底径 9.0 cm。色調は灰黄色を呈する。外面はヨコナデ、内面は使用により摩滅している。

304SK045 青灰色粘土出土遺物 (Fig. 104)

土師器

小皿 a (12) 復元口径 9.8 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (13) 復元口径 13.4 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

土師質土器

鉢もしくは壺 (14) 内外面とも回転ナデ調整。底部外面は摩滅するが糸切りか。復元底径 8.2 cm。

須恵質土器

鉢 (15) 東播系。内外面とも回転ナデで、その後内面はナデ調整する。

304SK055

304SK055 黄色土出土遺物 (Fig. 104)

土師器

坏 a (16、17) 復元口径は 11.8 cm と 12.7 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

土製品

土壁 (18、19) ナデ調整された平坦面があり、18 には小舞痕のような方形の窪みが残る。

石製品

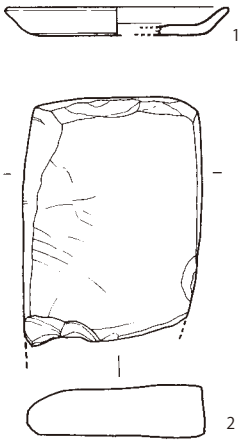
砥石 (20) 縦 8.1 cm、厚さ 5.2 cm × 6.1 cm。1 面使用。花崗岩製。

304SK055 黒色土出土遺物 (Fig. 104)

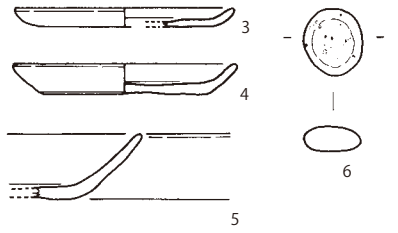
土師器

坏 a (21 ~ 23) 復元口径 12.6 ~ 13.0 cm。底部切り離しは回転糸切り。22 はやや丸味のある底部で

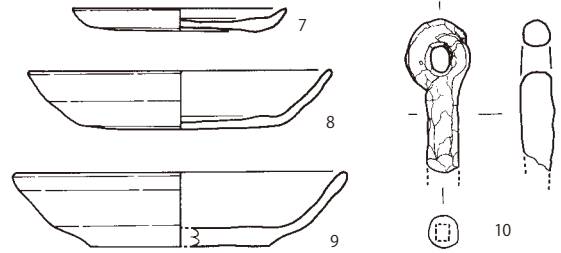
SK030 灰褐色土



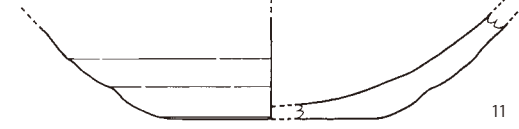
SK040 暗褐色土



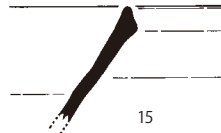
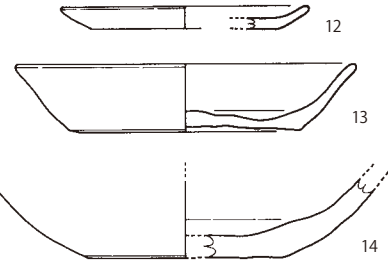
SK040 灰褐色土



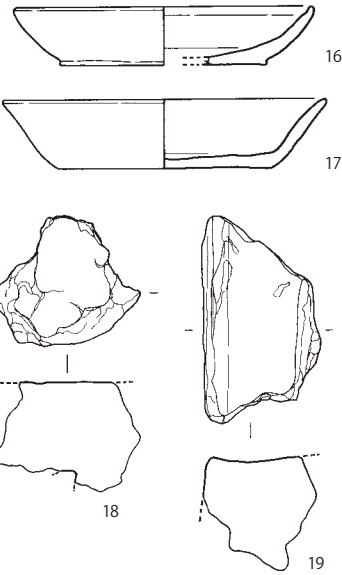
SK045 黄白色粘土



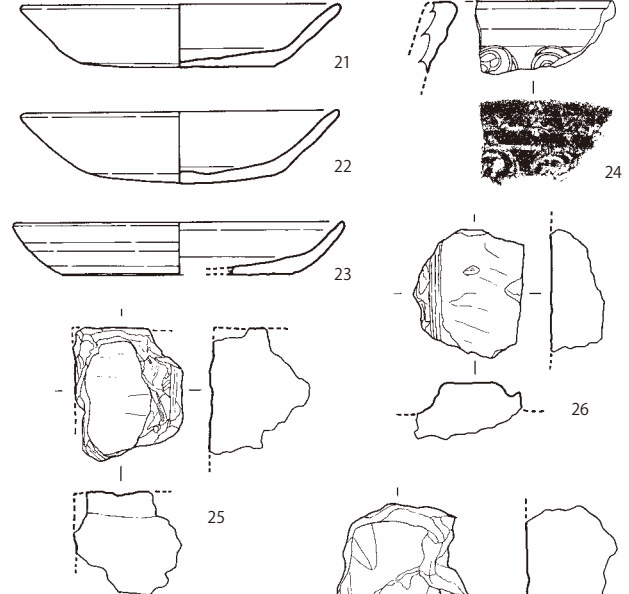
SK045 青灰色粘土



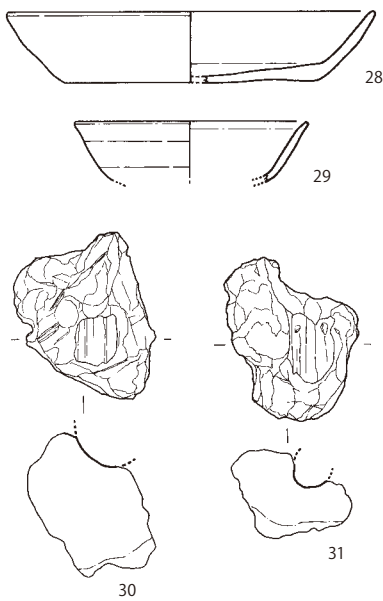
SK055 黄色土



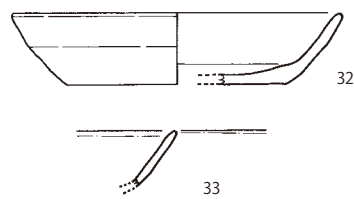
SK055 黑色土



SK055 黒灰色土



SK055 暗灰色粘土



SK177 灰褐色土

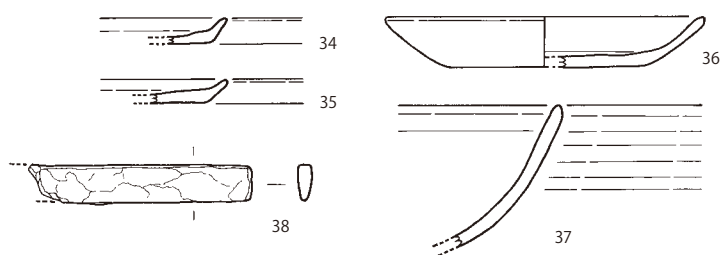


Fig. 104 304SK030・040・045・055・177 出土遺物実測図 (1/3、金属製品・石製品は1/2)

ある。

土師質土器

火鉢 (24) 小破片であるが、口縁部外面に巴文のスタンプが施されている。

土製品

土壁 (25～27) 胎土は橙色を呈し、砂粒を含み、スサ痕もみられる。ナデ調整された平坦面があり、その背面には小舞痕のような痕跡も確認できる。

304SK055 黒灰色土出土遺物 (Fig. 104)

土師器

坏 a (28) 復元口径 14.5 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

白磁

皿 (29) 口縁端部の釉を拭き取る。IX-1a 類。復元口径 9.2 cm。

土製品

土壁 (30、31) 胎土は灰茶色でスサ痕が残り、断面円形の小舞痕も残る。

304SK055 暗灰色粘土出土遺物 (Fig. 104)

土師器

坏 a (32) 復元口径 13.0 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

白磁

皿 (33) 口縁端部の釉を拭き取る。IX 類。

304SK177 灰褐色土出土遺物 (Fig. 104)

土師器

小皿 a (34、35) 34 の底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (36) 復元口径 12.6 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

瓦器

椀 (37) 口縁端部内面にうっすらと窪みが巡る。内外面とも摩滅し調整不明。

金属製品

刀子 (38) 刃部は確認できるが、丸くなっている。現存長 5.9 cm、幅 1.0 cm、最大厚 0.4 cm。鉄製。

その他の遺構

304SX050

304SX050 灰茶色土出土遺物 (Fig. 105)

土師器

小皿 a (1～4) 復元口径 7.8～9.2 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

須恵質土器

鉢 (5) 片口鉢で、復元口径 31.0 cm。内面下半は使用により平滑となる。東播系。

瓦質土器

鉢 (6、7) 内面は粗いハケ調整で、色調は暗灰色を呈する。

304SX050 茶色粘土出土遺物 (Fig. 105)

土師器

坏 a (8) 復元口径 12.6 cm。底部切り離しは回転糸切り。口縁端部内面には煤が付着する。

304SX097 出土遺物 (Fig. 105)

須恵器

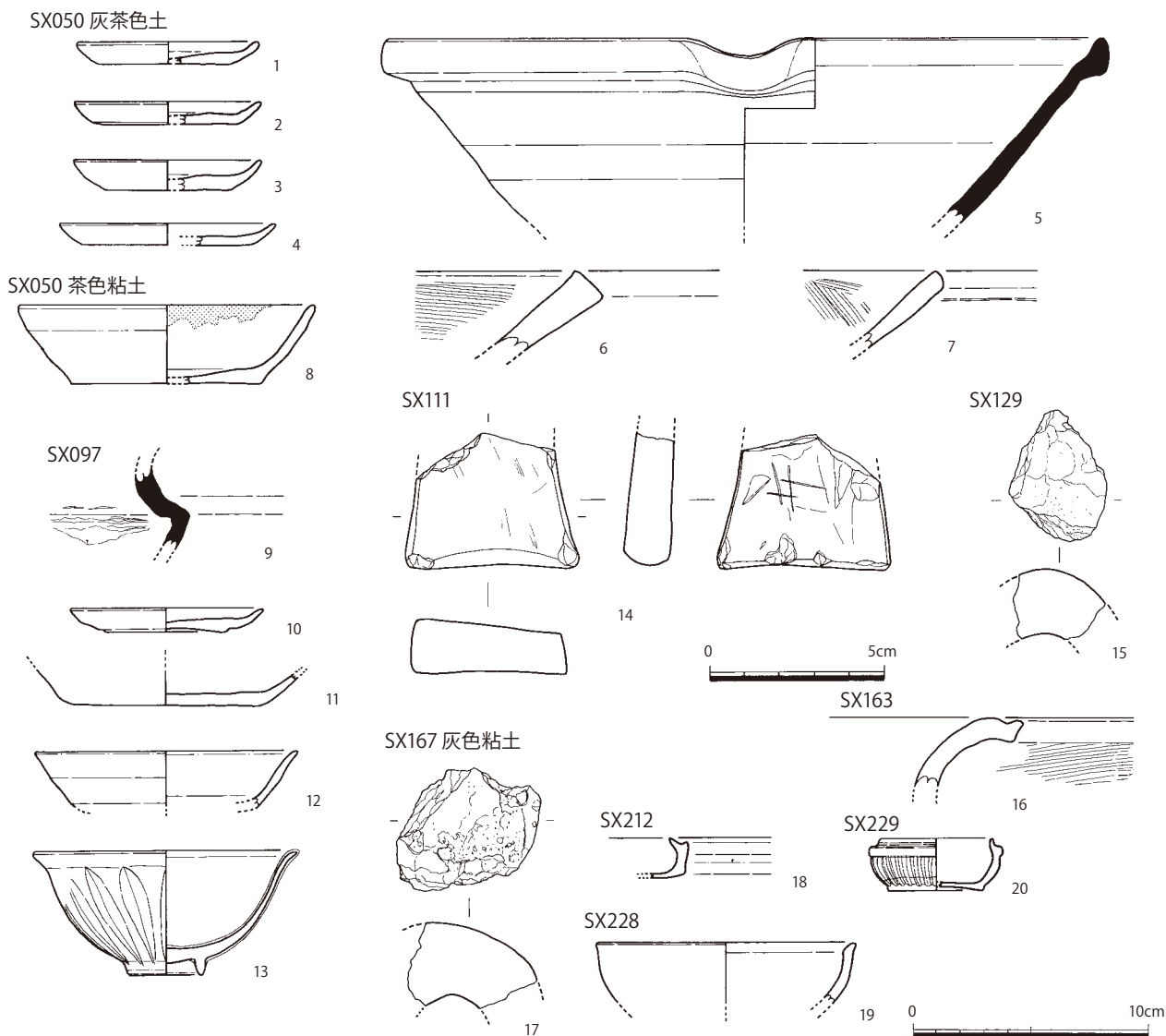


Fig. 105 304SX050、その他の遺構出土遺物実測図 (1/3、石製品は1/2)

平瓶 (9) 内面に白色の付着物があり、尿瓶として使用された可能性が高い。

土師器

小皿 a (10) 復元口径 8.2 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (11) 底径 7.9 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

白磁

皿 (12) 口縁端部の釉を拭き取る。IX -1c 類。復元口径 11.2 cm。

龍泉窯系青磁

椀 (13) 淡緑色釉を厚く施し、大きな貫入が入る。III -2C 類。復元口径 11.4 cm、器高 5.3 cm。

304SX111 出土遺物 (Fig. 105)

石製品

砥石 (14) 半分ほど欠損しているとみられ、最大幅 5.0 cm、厚さ 1.6 cm。5 面使用されている。

304SX129 出土遺物 (Fig. 105)

土製品

轆羽口 (15) 大きく欠損する。外面の一部が被熱で溶解する。

304SX163 出土遺物 (Fig. 105)

瓦質土器

甕 (16) 胎土外面は暗灰色を呈し、内面は回転ナデ調整、外面は斜めハケ調整される。

304SX167 灰色粘土出土遺物 (Fig. 105)

土製品

轆羽口 (17) 大きく欠損するが、外面が被熱で溶解する。

304SX212 出土遺物 (Fig. 105)

白磁

合子身 (18) 浅い受け部を持つ。内外面にやや黄色味のある透明釉を施し、口縁端部と底部外面は露胎である。器高 1.15 cm。

304SX228 出土遺物 (Fig. 105)

黒釉陶器

天目椀 (19) 口縁部は直線的で、内外面に黒色釉や黒茶色釉を施す。復元口径 11.0 cm。

304SX229 出土遺物 (Fig. 105)

青白磁

合子身 (20) 復元口径 5.6 cm、器高 2.25 cm、復元底径 4.0 cm。外面下半に文様を型押しし、内外面に青味がかかった透明釉を施し、受け部は釉を拭き取り、外面底部は露胎である。

土層

灰色粘土出土遺物 (Fig. 106)

瓦質土器

甕 (1) 胎土は白色砂粒を含み、断面淡灰色で、外面は暗灰色を呈する。内外面ともヨコナデ調整する。

灰褐色土出土遺物 (Fig. 106)

龍泉窯系青磁

束口椀 (2) III類。内外面に淡緑灰色釉を厚く施し貫入がみられる。上部で直上に屈曲させ、口縁端部を僅かに外反させる。外面には鎬のない蓮弁を施し、一部にうっすらと楯目がみられる。

灰白色粘土出土遺物 (Fig. 106)

石製品

石鍋 (3) 鏝の上に円孔が穿たれ、錆が一部残る。外面には煤が付着する。滑石製。

灰茶色土出土遺物 (Fig. 106)

土師器

小皿 a (5、6) 復元口径 8.0 cm と 8.5 cm。底部は板状圧痕が残るが、切り離しは不明。

小皿 b (4) 復元口径 7.5 cm。底部は板状圧痕が残るが、切り離しは不明。

坏 a (7～10) 復元口径 12.4～13.2 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

瓦器

椀 c (11、12) 断面三角形の低い高台を貼付する。11 は内外面ともミガキ c を施すが内面のミガキ単位は不明瞭。復元口径 17.4 cm。12 は内面ミガキ c、外面は回転ナデである。

白磁

皿 (13) IX-1a 類。全面施釉する。底径 4.7 cm。

石製品

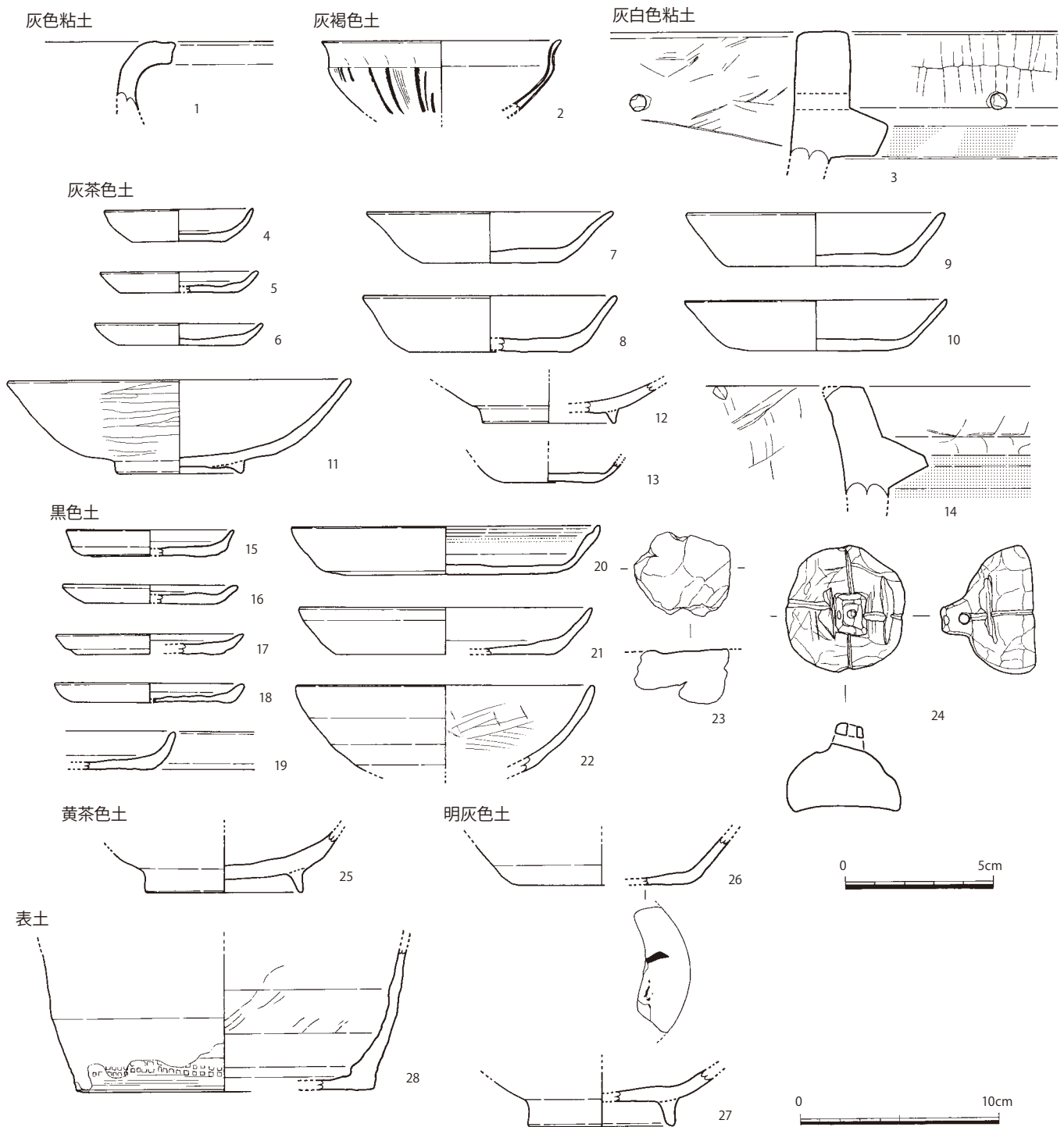


Fig. 106 第304次調査土層出土遺物実測図 (1/3、石製品は1/2)

石鍋 (14) 鏝より下半には煤が付着する。滑石製。

黒色土出土遺物 (Fig. 106)

土師器

小皿 a (15 ~ 19) 復元口径 8.4 ~ 9.6 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

皿 a (20) 復元口径 15.6 cm。胎土は橙黄色を呈する。口縁端部内面には沈線が巡る。奈良時代の遺物の混入と推測されるが、底部切り離しは回転糸切りである。

坏 a (21) 復元口径 14.8 cm。底部切り離しは回転糸切りである。

瓦器

椀 (22) 復元口径 15.0 cm。外面ヨコナデ、内面はミガキ b の後ミガキ c を施す。

土製品

土壁 (23) ナデ調整された平坦面が残る。胎土は砂粒を含み、色調は暗黄橙色を呈する。

石製品

権 (24) 幅 4.3 × 4.0 cm、高さ 3.2 cm、重さ 55.4 g。上面には十字に溝が彫られている。上部の突起には穿孔がある。滑石製石鍋を再利用している。

黄茶色土出土遺物 (Fig. 106)

土師器

椀 c (25) 内面は摩滅し調整不明、外面はヨコナデ調整する。色調は白黄色を呈する。

明灰色土出土遺物 (Fig. 106)

土師器

坏 a (26) 底部外面に墨痕が残る。底部切り離しは不明。色調は淡灰色を呈する。

椀 c (27) 内外面とも摩滅し調整不明。色調は淡灰茶色を呈する。

表土出土遺物 (Fig. 106)

輸入陶器

壺類 (28) 朝鮮系陶器と推測される。胎土は黒色砂粒や灰色砂粒を含みやや粗い。内面は当て具の後回転ナデ。外面は叩きの後回転ナデ調整。内外面に暗灰茶色釉を薄く施す。復元底径 15.0 cm。

(5) 小結

今回の調査では、1区で2面、2区では大半が2面で北端部のみ3面の遺構面が確認できた。各面の詳細は以下のとおりである。なお、両調査区の遺構面及び遺構の関連性は不明である。

○1区

- ・第1面の遺構時期は13世紀～14世紀。
- ・第2面の遺構時期は13世紀中頃以降か。

○2区

- ・第1面の遺構時期は13～14世紀。基盤層は12世紀後半～13世紀前半の遺物を含む黒色土と13世紀後半～14世紀前半の灰茶色土。
- ・第2面の遺構時期は12～13世紀。基盤層は11世紀後半～12世紀前半の遺物を含む黄茶色土。
- ・第3面の遺構主体は古代。基盤層は平安時代の遺物を含む明灰色土。

この調査地は、井上条坊案では左郭10条11坊にあたる。条坊道路の推定ライン上に調査区は設定されていないが、調査では古代の溝 (SD060・065・201・231・232・233・234・236・237) が検出された。そのうち平安前期の東西溝 SD060 と 065 の溝間は17mであった。これらの溝は、北に対しやや西に振れている。他地点の条坊関連遺構に比べ、その振れ方がやや大きいものの、規則性とその時期から道路側溝もしくは区画境の溝と推測され、平安時代にはこの付近にも条坊区画が施工されていたものと推測される。

今回の調査では、13世紀代の遺構や遺物が多く見つかったことから、その時期が最も土地利用がなされたものと推測される。調査区が狭小であり、明確な建物こそ確認できていないが、根石を持つ柱穴が多く検出され、土壁の破片も多く出土していることから、建物が建ち並んでいたものと推測される。本調査地の北に近接する西鉄五条駅周辺の調査でも溝や井戸、大型建物など平安時代～中世にかけ

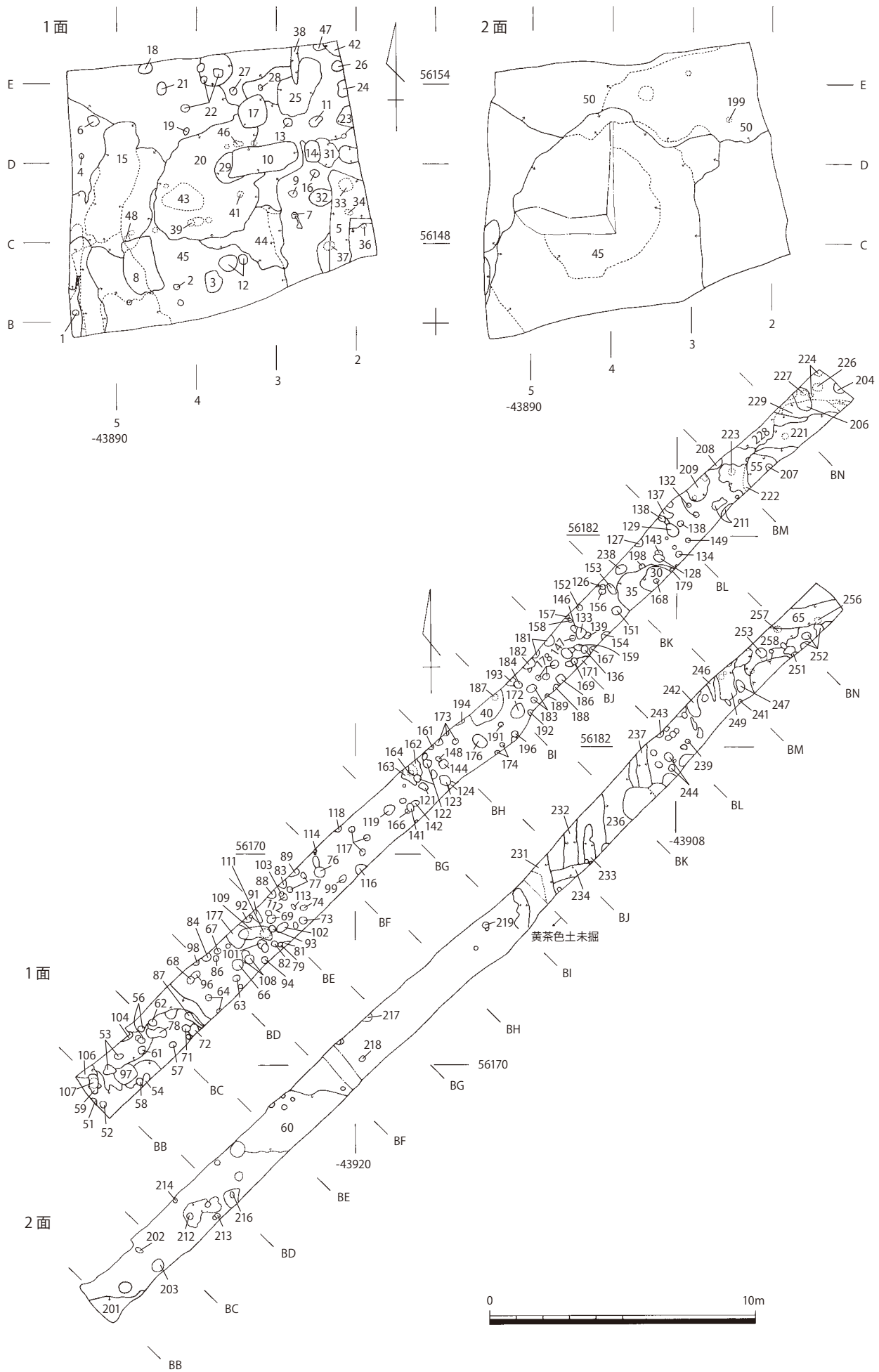


Fig. 107 第304次調査遺構略測図 (1/200)

ての遺構が確認されており、この付近まで中世五条のマチの広がっていたことが理解できる。調査地南隣には丘陵が張り出しているため、五条のマチの南端部であったと推測される。また、今回の調査で検出した土坑に焼土を多く含むものがあり、鞆羽口や鉾滓も出土することから、周辺で鍛冶が行われたことが考えられる。

なお、周辺一帯は今川了俊の居館があったと伝えられる地域の北側に位置するが、14世紀後半の遺構や遺物は明確に確認できなかった。

表 24 第 304 次調査 条坊関連遺構座標値

遺構番号	位置	遺構中点座標値		南門からの距離		方位
		X	Y	X方向(m)	Y方向(m)	
304SD060	東端中点	56155.540	-43921.378	-544.113	904.842	W-3° 37' 29" -N
	西端中点	56155.680	-43923.588	-543.995	902.631	
304SD065	東端中点	56187.207	-43902.087	-512.254	923.815	E-12° 55' 40" -N
	西端中点	56186.747	-43904.091	-512.735	921.816	
304SD201	北岸東端	56161.460	-43927.860	-538.258	898.301	E-9° 6' 41" -N
	北岸西端	56161.120	-43929.980	-538.619	896.184	
304SD231	北端中点	56177.644	-43913.022	-521.927	912.976	N-15° 42' 31" -W
	南端中点	56176.300	-43912.644	-523.267	913.368	
304SD232	北端中点	56178.716	-43911.840	-520.843	914.148	N-4° 23' 55" -E
	南端中点	56177.546	-43911.930	-522.014	914.069	
304SD233	北端中点	56178.970	-43911.220	-520.583	914.765	N-0° 59' 47" -W
	南端中点	56177.820	-43911.200	-521.732	914.796	
304SD234	東端中点	56177.360	-43911.460	-522.195	914.541	E-12° 17' 2" -N
	西端中点	56177.090	-43912.700	-522.477	913.304	
304SD236	西岸北端	56180.212	-43910.760	-519.336	915.212	N-4° 9' 39" -W
	西岸南端	56178.370	-43910.626	-521.177	915.365	
304SD237	北端中点	56181.712	-43909.240	-517.835	915.331	N-6° 12' 53" -W
	南端中点	56180.610	-43909.120	-518.922	916.848	
304SD242	遺構中点	56183.540	-43907.344	-515.974	918.595	-
304SD246	遺構中点	56184.120	-43906.680	-515.387	919.253	-
304SD249	遺構中点	56184.250	-43906.100	-515.252	919.832	-

表 25 第 304 次調査 遺構一覽表

S-番号	遺構番号	種別	埋 土 等	時 期	地区	調査面
1		ピット	暗褐色土		B5	1区1面
2		ピット	淡褐色土		B4	1区1面
3		ピット	灰褐色土	13世紀～	B3	1区1面
4		ピット	褐灰色土		D5	1区1面
5	304SD005	溝		近世	C2	1区1面
6		ピット			D5	1区1面
7		ピット			C2	1区1面
8		堆積層		中世～	B4	1区1面
9		ピット	底面中央に柱痕	13世紀～	C2	1区1面
10	304SK010	土坑	S-29→10	14世紀前半～	CD.2・3	1区1面
11		ピット		13世紀～	D2	1区1面
12		ピット		13世紀～	B3	1区1面
13		ピット		13世紀～	D2	1区1面
14		ピット		13世紀～	D2	1区1面
15	304SK015	土坑		13世紀末前後	CD.4・5	1区1面
16		ピット			C2	1区1面
17	304SK017	土坑		13世紀末前後	D3	1区1面
18		ピット	暗灰褐色土	13世紀後半～	E4	1区1面
19		ピット		13世紀～	D4	1区1面
20	304SK020	土坑×窪み	暗褐色土	13世紀後半～14世紀前半	CD.3・4	1区1面
21		ピット	底に小ピットあり。	13世紀後半～	D4	1区1面
22		ピット群		13世紀後半～	DE4	1区1面
23		ピット	暗灰褐色土	13世紀～	D2	1区1面
24		ピット		13世紀～	D2	1区1面
25	304SK025	土坑		13世紀後半?	DE2	1区1面
26		ピット		13世紀～	E2	1区1面
27		ピット	埋土に根石状の石あり。	13世紀～	D3	1区1面
28		ピット			D3	1区1面
29	304SK029	土坑	褐色土 S-29→10	13世紀後半～14世紀前半	C3	1区1面
30	304SK030	土坑	S-35→30	12世紀末前後?	BK	2区1面
31		ピット	S-31→14		D2	1区1面
32		ピット	S-32→5	13世紀後半～14世紀前半	C2	1区1面
33		ピット	S-5底面	13世紀～	C2	1区1面
34		ピット	S-5底面		C2	1区1面
35	304SE035	井戸	S-35→30	12世紀後半	BJ・BK	2区1面
36		ピット			C1	1区1面
37		ピット	S-37→5		B2	1区1面
38		溝	灰茶色土 S-38→25		E2	1区1面
39		ピット	黒褐色土	13世紀後半～	C4	1区1面
40	304SK040	土坑		13世紀前半	BH・BI	2区1面
41		ピット	黒褐色土	13世紀～	C3	1区1面
42		ピット	淡灰茶色土	13世紀～	E2	1区1面
43		土坑	暗灰褐色土 S-43→20	13世紀後半～14世紀前半	C4	1区1面
44		堆積層	褐灰色粘土と黄白色粘土の混合層	13世紀～	BC3	1区1面
45	304SK045	大型土坑	S-50→45	13世紀中頃?	B～D.3～5	1区2面
46		ピット	淡黄茶色砂土 S-20の底面	13世紀～	D3	1区1面
47		ピット	S-47→42	13世紀～	E2	1区1面
48		ピット	灰褐色粘土	13世紀～	C4	1区1面
49		土坑	灰茶色土(砂粒・黄褐色粘土ブロック少量含む)	13世紀後半～	E3	1区1面
50	304SX050	土坑×堆積層	未完掘。S-50→45	13世紀中頃?	DE.2～5	1区2面
51		ピット	暗褐色土(炭化物含む)	12世紀～	BA	2区1面
52		ピット	灰褐色土		BA	2区1面
53		ピット群			BB	2区1面
54		ピット	暗灰褐色土(炭化物含む)	13世紀～	BB	2区1面
55	304SK055	土坑	S-221→55	14世紀前半～	BM	2区1面
56		ピット群	灰褐色土	13世紀後半～	BB	2区1面
57		ピット	灰黄褐色土	12世紀後半～	BB・BC	2区1面
58		ピット	黒褐色土(褐色粘土・炭化物含む)	13世紀～	BB	2区1面

S-番号	遺構番号	種別	埋 土 等	時 期	地区	調査面
59		ピット	暗褐色土(炭化物含む)	13世紀～	BA	2区1面
60	304SD060	溝	淡灰褐色土	平安前期～中期?	BD・BE	2区2面
61	304SX061	ピット	根石あり。暗褐色土。	平安後期～	BB	2区1面
62	304SX062	ピット	根石あり。暗褐色土。	12世紀～	BC	2区1面
63	304SX063	ピット	根石あり。暗褐色土。	12世紀～	BD	2区1面
64		ピット群	にぶい褐色粘質土(白色粘土混ざる)		BC	2区1面
65	304SD065	溝	明茶色土	平安前期?	BM・BN	2区2面
66		ピット	灰褐色粘質土(炭化物含む)	12世紀～	BD	2区1面
67		ピット	暗褐色土(炭化物含む)	12世紀～	BD	2区1面
68	304SX068	ピット	根石あり。暗褐色土。	13世紀中期～14世紀初頭	BC	2区1面
69		ピット	淡灰褐色土(炭化物少量含む)		BO・BE	2区1面
71		ピット	S-72→71	12世紀～	BC	2区1面
72	304SX072	ピット	根石あり。暗褐色土(炭化物少量含む)	13世紀後半～14世紀前半	BC	2区1面
73		ピット	北側に柱痕状の小ピットあり。灰褐色土。		BE	2区1面
74		ピット	北側に柱痕状の小ピットあり。		BE	2区1面
76		ピット	暗褐色土	12世紀～	BE	2区1面
77		ピット群	暗褐色土		BE	2区1面
78		ピット	黒褐色土	12世紀～	BB・BC	2区1面
79		ピット	暗灰褐色土 S-81・82→79		BD	2区1面
81		ピット	暗褐色土		BD	2区1面
82		ピット			BD	2区1面
83		ピット	黒褐色土と褐色粘質土の混合層	12世紀～	BE	2区1面
84		ピット	暗褐色土(黄色粘土ブロック含む)		BD	2区1面
86		ピット	暗褐色土(炭化物含む)	12世紀～	BD	2区1面
87		ピット	暗灰褐色土(炭化物少量含む)	12世紀代	BC	2区1面
88		ピット	暗褐色土と黄褐色粘質土ブロック混じる	13世紀～	BE	2区1面
89		ピット	灰褐色粘質土(炭化物含む)		BE	2区1面
91		ピット	褐色土		BD	2区1面
92		ピット	暗褐色土(炭化物少量含む)		BD	2区1面
93		ピット	灰褐色土	12世紀～	BD	2区1面
94		ピット	灰黄色土(炭化物含む)	13世紀中期～14世紀初頭	BD	2区1面
96		ピット	灰茶色土(炭化物含む) S-96→68		BC	2区1面
97		ピット	暗灰褐色土 S-97→53	13世紀後半～14世紀前半	BB	2区1面
98		ピット	黒褐色土(炭化物含む)		BC	2区1面
99		ピット	黒褐色土。中央が柱痕状に掘り込む	12世紀～	BE・BF	2区1面
101		ピット	灰褐色土(炭化物含む)	13世紀後半～14世紀前半	BD	2区1面
102		ピット	暗褐色土(炭化物含む)		BD・BE	2区1面
103		ピット	暗褐色土		BE	2区1面
104	304SX104	ピット	根石あり。暗灰褐色土(炭化物含む)	13世紀～	BB	2区1面
106		ピット		13世紀後半～14世紀前半	BB	2区1面
107		ピット		12世紀～	BB	2区1面
108		ピット群			BD	2区1面
109		土坑		13世紀～	BD	2区1面
111		ピット	暗褐色土 S-109の下	12世紀～	BD	2区1面
112		ピット	暗褐色土		BE	2区1面
113		ピット	暗褐色土		BE	2区1面
114		ピット	暗褐色土		BE	2区1面
116	304SX116	ピット	根石あり。暗褐色土	12世紀～	BF	2区1面
117		ピット群	暗褐色土		BF	2区1面
118		ピット	暗褐色土	13世紀～	BF	2区1面
119		ピット	暗褐色土	12世紀～	BG	2区1面
121		ピット	暗褐色土		BG	2区1面
122		ピット群	暗褐色土	13世紀?	BG	2区1面
123		ピット	暗褐色土		BG	2区1面
124		ピット	暗褐色土 S-124→123		BG	2区1面
126		ピット	暗褐色土	12世紀～	BJ	2区1面
127		ピット	暗褐色土		BK	2区1面
128		ピット	暗褐色土	12世紀～	BK	2区1面

S-番号	遺構番号	種別	埋土等	時期	地区	調査面
129		ピット	暗褐色土		BL	2区1面
131		ピット	暗褐色土		BL	2区1面
132		ピット群	暗褐色土		BL	2区1面
133		ピット	暗褐色土		BJ	2区1面
134		ピット	暗褐色土		BK	2区1面
136		ピット	灰褐色土	12世紀～	BJ	2区1面
137		ピット	暗褐色土 S-137→131		BL	2区1面
138		ピット	暗褐色土		BL	2区1面
139		ピット	灰褐色土 S-139→133		BJ	2区1面
141		ピット			BG	2区1面
142		ピット		13世紀前半	BG	2区1面
143		ピット	灰褐色土 S-143→128	12世紀～	BK	2区1面
144		ピット	暗褐色土	12世紀～	BG	2区1面
146		ピット	灰褐色土 S-146→133		BJ	2区1面
147		ピット	灰褐色土(炭化物多い)	13世紀～	BJ	2区1面
148		ピット	灰褐色土と暗褐色土の混合土 S-148→144		BG	2区1面
149		ピット	灰褐色土		BL	2区1面
151		ピット	灰褐色土		BJ	2区1面
152		ピット	灰褐色砂土	13世紀～	BJ	2区1面
153		ピット	灰褐色土(炭化物、砂やや多い)	12世紀～	BJ	2区1面
154		ピット	焼土あり	12世紀中頃～	BJ	2区1面
156		ピット	灰褐色土(炭化物含む)	12世紀中頃～	BJ	2区1面
157		ピット	暗灰褐色土		BJ	2区1面
158		ピット	灰褐色土(炭化物少量含む) S-158→157		BJ	2区1面
159		ピット	暗灰褐色土 S-159→136		BJ	2区1面
161		ピット	灰褐色土		BG	2区1面
162		ピット	暗茶色土 S-162→122	12世紀中頃～	BG	2区1面
163		土坑	暗褐色土(炭化物少量含む) S-163→162→122	13世紀～	BG	2区1面
164		ピット	暗茶色土 S-164→163		BC	2区1面
166		ピット	暗褐色土 S-166→141		BG	2区1面
167		ピット			BJ	2区1面
168		ピット	黒色土 S-30→168	12世紀～	BK	2区1面
169		ピット	灰褐色土		BI・BJ	2区1面
171		ピット	淡灰褐色土(炭化物少量含む)		BI・BJ	2区1面
172		ピット		12世紀～	BH・BI	2区1面
173		ピット群	暗褐色土(炭化物含む)	12世紀～	BH	2区1面
174		ピット群	暗褐色土	12世紀～	BH	2区1面
176		ピット	灰褐色土		BH	2区1面
177	304SK177	土坑	S-177→109	13世紀前半?	BD	2区1面
178		ピット群	灰褐色土	12世紀～	BI	2区1面
179		ピット	灰褐色粘土 S-179→30		BK	2区1面
181		ピット群	暗褐色土	12世紀～	BI	2区1面
182		ピット		12世紀～	BI	2区1面
183		ピット群	暗褐色土	12世紀～	BI	2区1面
184		ピット		12世紀～	BI	2区1面
186		ピット	灰褐色土		BI	2区1面
187		ピット	暗褐色土 S-40の底面		BH	2区1面
188		ピット	暗褐色土		BI	2区1面
189		ピット	暗褐色土(焼土含む)	12世紀～	BI	2区1面
191		ピット	灰褐色土(炭化物少量含む)		BH	2区1面
192		ピット	灰褐色土(炭化物少量含む)	13世紀前半	BI	2区1面
193		ピット	灰褐色土(炭化物少量含む)		BI	2区1面
194		ピット	暗褐色土		BH	2区1面
196		ピット	暗灰茶色土(炭化物多く含む)		BH	2区1面
197		ピット	灰褐色土(炭化物含む) S-197→196	13世紀前半	BH	2区1面
198		ピット	灰褐色土(炭化物含む) S-198→30		BK	2区1面
199		ピット	茶色粘土		D2	1区2面
201	304SD201	溝	暗褐色土(炭化物少量含む)	平安後期	BA・BB	2区2面

S-番号	遺構番号	種別	埋 土 等	時 期	地区	調査面
202		ピット	暗褐色土		BB	2区2面
203		ピット	淡灰褐色土		BB	2区2面
204		ピット	暗褐色土	13世紀～	BN	2区1面
206		ピット	暗灰褐色土	12世紀後半～	BN	2区1面
207		ピット	灰褐色土	14世紀～	BM	2区1面
208		ピット	灰色土と褐色粘質土混じり		BL・BM	2区1面
209		土坑	灰色土と褐色粘質土混じり	12世紀後半～	BL	2区1面
211		ピット群	灰色土と淡褐色土混じり	12世紀～	BL	2区1面
212		ピット	暗褐色土	12世紀～	BC	2区2面
213		ピット	暗褐色土		BC	2区2面
214		ピット	灰褐色土		BC	2区2面
216		ピット	暗褐色土	12世紀～	BD	2区2面
217		ピット	暗褐色土		BF	2区2面
218		ピット	灰褐色土		BF	2区2面
219		ピット	灰褐色土		BH	2区2面
221		堆積層	段落ちの堆積層 S-221→55	13世紀後半～14世紀前半	BM・BN	2区1面
222		窪み			BM	2区1面
223		ピット			BM	2区1面
224		ピット群		12世紀～	BN	2区1面
226		ピット		12世紀中頃～後半	BN	2区1面
227		ピット		12世紀後半～	BN	2区1面
228		堆積層	段落ちの堆積層	12世紀後半～	BM	2区1面
229		段落ち		12世紀後半～	BN	2区1面
231	304SD231	溝	灰色砂	12世紀中頃～後半	BI	2区3面
232	304SD232	溝		古代	BJ	2区3面
233	304SD233	溝		古代	BJ	2区3面
234	304SD234	溝			BI	2区3面
236	304SD236	溝		古代?	BK	2区3面
237	304SD237	溝			BK	2区3面
238		ピット		12世紀～	BK	2区1面
239		ピット	明茶色土		BM	2区3面
241		ピット	暗灰色土		BM	2区3面
242	304SD242	溝	灰色土	奈良時代?	BL	2区3面
243		ピット	灰色土		BK	2区3面
244		ピット群	明茶色土		BK	2区3面
246	304SD246	溝	灰色土		BL	2区3面
247		ピット	灰色土	奈良時代?	BM	2区3面
248		ピット	明茶色土		?	2区
249	304SD249	溝	灰色土	8世紀	BL・BM	2区3面
251		ピット	暗灰褐色土		BM	2区3面
252		ピット群	灰色土	古代	BN	2区3面
253		ピット	明茶色土	平安時代	BM	2区3面
254		土坑	灰色土	8世紀	BM	2区3面
256		ピット	黄灰色土	古代	BN	2区3面
257		ピット	灰色土	古代	BM	2区3面
258		土坑	灰黄色土と灰色土の混ざり	古代	BM・BN	2区3面
	灰色粘土	第1遺構面の遺構検出時の土色		13世紀前半～		1区
	黄白色土	第1遺構面清掃時の土色				1区
	灰褐色土	第1遺構面の遺構検出時の土色。包含層		13世紀後半～14世紀前半		1区
	灰白色粘土	第1遺構面堆積層。S-15→灰白色粘土。褐色粘土・白色粘土・黄白色粘土の混合層		13世紀後半～14世紀前半		1区
	淡褐色土	第1面堆積層				1区南東隅
	白黄色土	第1遺構面の基盤層		13世紀前半		1区
	黄褐色土	第1遺構面検出時の土色。暗黄褐色土		13世紀前半		2区
	灰茶色土	第1遺構面の基盤層、第2遺構面検出時の土色		13世紀後半～14世紀前半		2区
	黒色土	第1遺構面の基盤層		12世紀後半～13世紀前半		2区東端
	黄茶色土	第2遺構面の基盤層		11世紀後半～12世紀前半		2区
	明灰色土	第3遺構面の基盤層		平安時代		2区
	暗褐色土	壁面精査時の土色				2区

表 26 第 304 次調査 出土遺物一覽表

S-1暗褐色土	
土 師 器	供膳具
S-2淡褐色土	
土 師 器	供膳具
S-3灰褐色土	
土 師 器	坏a(イト)、供膳具
石 製 品	丸石
S-4褐色土	
土 師 器	供膳具
S-5灰褐色土	
土 師 器	甕類、供膳具
土 師 質 土 器	掃鉢
須 恵 質 土 器	鉢
瓦 質 土 器	鉢
肥 前 系 磁 器	破片
国 産 陶 器	皿
龍 泉 窯 系 青 磁	椀: I(1)
同 安 窯 系 青 磁	皿: I(1)
中 国 陶 器	甕? (1)
瓦 類	平瓦(細目)
金 属 製 品	鋳滓
土 製 品	土壁
S-6	
土 師 器	小皿a×坏a、供膳具
S-7	
土 師 器	供膳具
S-8	
土 師 器	坏a
須 恵 質 土 器	鉢(東播系)
S-9	
土 師 器	坏a(イト)、供膳具
瓦 類	瓦玉
土 製 品	土壁
S-10灰褐色土	
須 恵 器	破片
土 師 器	小皿a(イト)、小皿b(イト)、坏a(イト)、供膳具
土 師 質 土 器	鉢
須 恵 質 土 器	鉢
須 恵 質(輸 入)	朝鮮系無軸陶器壺?
白 磁	椀: IV(1) 壺Ⅲ(1) 白磁破片(1)
龍 泉 窯 系 青 磁	椀: II-b(2)
黒 釉 陶 器	天目椀(2)
瓦 類	破片
石 製 品	石鍋、平玉石
土 製 品	土壁
そ の 他	炭
S-10暗褐色土	
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)
龍 泉 窯 系 青 磁	椀: I×II(1)、II-b(4)、IV(1) 龍泉破片(1)
石 製 品	平玉石
土 製 品	土壁
そ の 他	炭
S-10茶色粘土	
土 師 器	坏a(イト)、破片
S-11暗褐色土	
土 師 器	供膳具(イト)
金 属 製 品	鉄釘
S-11灰茶色土	
土 師 器	供膳具
須 恵 質(輸 入)	朝鮮系無軸陶器壺?
中 国 陶 器	褐釉陶器(1)
S-12	
土 師 器	坏a、供膳具
須 恵 質 土 器	破片
白 磁	破片(1)
龍 泉 窯 系 青 磁	椀: I-6b(1)
S-13	
土 師 器	供膳具、破片
S-14	
土 師 器	小皿b、坏a×小皿a、供膳具、甕類
須 恵 質 土 器	鉢(東播系)
土 製 品	土塊
S-15暗茶色土	
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)
須 恵 質 土 器	鉢
龍 泉 窯 系 青 磁	椀: II-2(2)、Ⅲ-2C(1)
中 国 陶 器	壺: I-2(1) 鉢: I-1b(1)
土 製 品	土壁

S-15暗灰褐色土	
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、甕
土 師 質 土 器	鍋
須 恵 質 土 器	鉢?
白 磁	椀: IV-2?(1)
越 州 窯 系 青 磁	椀: I×II(1)
龍 泉 窯 系 青 磁	椀: I-6a(1)、II-b(6)、II-c(1) 龍泉破片I(1)
中 国 陶 器	壺B群(1)
土 製 品	土壁、輪羽口
S-16	
土 師 器	破片
S-17灰茶色土	
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、供膳具
瓦 器	椀c、破片
須 恵 質 土 器	鉢
瓦 質 土 器	鉢?
龍 泉 窯 系 青 磁	椀: I(1)、II-b(1)
金 属 製 品	鋳滓
石 製 品	丸石
S-17灰色土	
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)
白 磁	破片(1)
土 製 品	土塊
S-18暗灰褐色土	
須 恵 器	甕
土 師 器	甕類、供膳具
須 恵 質 土 器	鉢(東播系)
白 磁	椀白堆線有(1)
S-19	
土 師 器	供膳具
瓦 質 土 器	鉢
S-20暗褐色土	
須 恵 器	坏c、甕
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、供膳具
瓦 器	椀
須 恵 質 土 器	鉢(東播系)、鉢
瓦 質 土 器	鉢
白 磁	椀: V(1) 白磁破片(1)
青 白 磁	皿: IX-1(2)、IX-1b(1)、IX-1d(1)
龍 泉 窯 系 青 磁	合子蓋(1)
中 国 陶 器	椀: I(1)、I-2(2)、I×II(2)、II-b(6)、II?(1)
石 製 品	皿: I-2b?(1) 龍泉(元~明)破片(1)
土 製 品	A群(1)、B群(6)
土 製 品	平玉石、石鍋
土 製 品	土壁
S-21灰色土	
土 師 器	供膳具
S-21暗灰褐色土	
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、供膳具
瓦 器	椀
金 属 製 品	鋳滓
土 製 品	土塊
S-22	
土 師 器	小皿b、坏a(イト)、供膳具
龍 泉 窯 系 青 磁	皿: I(1)
金 属 製 品	鋳滓?
そ の 他	炭
S-23暗灰褐色土	
土 師 器	坏a
中 国 陶 器	B群(1)
土 製 品	土壁
そ の 他	炭
S-24	
土 師 器	供膳具
須 恵 質 土 器	鉢?
石 製 品	石鍋
土 製 品	土壁
S-25灰褐色土	
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、甕類
須 恵 質 土 器	鉢甕
瓦 質 土 器	甕
白 磁	壺Ⅲ(1)
龍 泉 窯 系 青 磁	破片?(1)
金 属 製 品	用途不明鉄製品、鉄塊
石 製 品	石鍋
土 製 品	土壁
S-25灰茶色土	
土 師 器	小皿a、坏a(イト)、供膳具
瓦 類	破片(格子)
土 製 品	土壁
そ の 他	炭
S-26	
土 師 器	供膳具
金 属 製 品	鉄釘
土 製 品	土壁

S-27
土 師 器 供膳具

S-28
土 師 器 供膳具

S-29褐色土
土 師 器 小皿a(イト)、坏a(イト)
龍泉窯系青磁 椀；I(1)、I-4(1)
土 製 品 土壁
そ の 他 炭

S-29黒褐色土
須 恵 器 破片
土 師 器 小皿a(イト)、坏a(イト)
瓦 質 土 器 火鉢
同安窯系青磁 皿；I(1)
中国 陶 器 C群(1)
須 恵 質(輸入) 朝鮮系無軸陶器?
土 製 品 土壁

S-29灰色粘質土
土 師 器 小皿a(イト)、坏a(イト)、供膳具
須 恵 質 土 器 鉢(東播系)
土 製 品 土壁

S-29白黄色砂
土 師 器 小皿a×坏a

S-30淡褐色粘土
須 恵 器 甕
土 師 器 坏a(イト)、供膳具
瓦 器 椀c
須 恵 質 土 器 鉢
白 磁 椀；V(1)
龍泉×同安0類? 破片(1)

S-30灰褐色土
須 恵 器 坏a、甕
土 師 器 小皿a(イト)、坏a(イト)
瓦 器 椀
白 磁 椀；V-4×Ⅷ-1×3(1)、破片(1) 白磁破片(1)
同安窯系青磁 皿；I-1(1)
中国 陶 器 鉢；Ⅲ?(1) B群破片(2)
金属 製 品 鋳滓
石 製 品 砥石、滑石片
土 製 品 土壁

S-31
土 師 器 坏a、破片

S-32
土 師 器 坏a、供膳具
白 磁 皿；IX(1)

S-33
土 師 器 小皿a×小皿b、坏a
土 製 品 土壁

S-34
土 師 器 供膳具
石 製 品 平玉石

S-35暗灰褐色土
須 恵 器 甕
土 師 器 小皿a(イト)、坏a(イト)、椀c、供膳具、甕類
瓦 器 椀
須 恵 質 土 器 甕×鉢
白 磁 椀；V-4×Ⅷ-1×3(1)、破片(1) 白磁破片(1)
青 白 磁 皿(1)
龍泉窯系青磁 椀；I-2(1)、I×II(1)
同安窯系青磁 椀；I-1a(1)、I-1b(1) 皿；I-b(1)
中国 陶 器 壺；B群(1) 破片A群(1)
金属 製 品 鋳滓
石 製 品 丸石
土 製 品 土壁

S-35黒褐色土
須 恵 器 壺
土 師 器 小皿a(イト)、坏a(イト)
瓦 器 椀
須 恵 質 土 器 鉢(東播系)
龍泉窯系青磁 椀；I-3(1)
中国 陶 器 耳壺(1)
金属 製 品 鋳滓
石 製 品 石鍋

S-35灰色土①
石 製 品 台石

S-35灰色土②
土 師 器 坏a(イト)、椀、椀c、供膳具
白 磁 椀；Ⅷ?(1) 皿；Ⅵ×Ⅶ(1)

S-35青灰色粘土
土 師 器 甕類
白 磁 椀；V~Ⅷ内面櫛目(1)、Ⅷ(1)、破片(1)

S-36
土 師 器 供膳具

S-37
土 師 器 破片

S-38
須 恵 器 甕?
土 師 器 坏a(イト)、破片
瓦 類 平瓦、丸瓦
石 製 品 石鍋
土 製 品 土壁

S-39
土 師 器 坏a(イト)

S-40暗褐色土
須 恵 器 壺
土 師 器 小皿a(イト)、坏a(イト)
龍泉窯系青磁 椀；II-a(1)、II-b(1)
同安窯系青磁 皿；I-1a(1)
石 製 品 平玉石

S-40灰褐色土
須 恵 器 破片
土 師 器 小皿a(イト)、坏a(イト)、供膳具、甕類
龍泉窯系青磁 椀；I×II(1)
中国 陶 器 鉢；I(1)
金属 製 品 環状金具
土 製 品 土壁
そ の 他 炭

S-41
土 師 器 供膳具
土 製 品 土壁

S-42
土 師 器 供膳具
土 師 質 土 器 鍋類
白 磁 椀；破片(1)

S-43
須 恵 器 破片
土 師 器 小皿a、坏
白 磁 椀；IX(1)、破片(1)
龍泉窯系青磁 椀；I-2(1)、II-b(2)
土 製 品 土壁

S-44
土 師 器 坏a(イト)、供膳具、甕×鉢
同安窯系青磁 椀；I-1b(1)
中国 陶 器 鉢I(1)

S-45黄白色粘土
土 師 器 破片
瓦 質 土 器 鉢
白 磁 椀；Ⅲ-2(1)、V(1)
龍泉窯系青磁 椀；I-2(1)、II-b(1)
同安窯系青磁 皿；I-2b(1)
石 製 品 石鍋

S-45青灰色粘土
須 恵 器 甕
土 師 器 小皿a(イト)、坏a(イト)
土 師 質 土 器 鉢×壺
須 恵 質 土 器 鉢(東播系)、鉢
白 磁 皿；Ⅷ-2b(1)
龍泉窯系青磁 椀；I-2×3(1)、I-4(3)、II-b(1)
中国 陶 器 A群(1)

S-46
土 師 器 供膳具

S-47暗褐色土
須 恵 器 蓋c、椀c
土 師 器 坏a(イト)、供膳具
瓦 質 土 器 椀×鉢
白 磁 椀；破片(1)
中国 陶 器 B群(1)

S-48
土 師 器 供膳具

S-49
土 師 器 坏a(イト)
土 師 質 土 器 甕?
同安窯系青磁 椀；I-1b(1)
土 製 品 土壁

S-50灰茶色土
須 恵 器 蓋3、坏c、甕、壺、破片
土 師 器 小皿a(イト)、坏a、椀c、供膳具、甕、甕類
黒色土器A類 椀
須 恵 質 土 器 鉢
瓦 質 土 器 鉢
灰 軸 陶 器 破片
白 磁 椀；V-4×Ⅷ-1×3(1) 皿；Ⅵ×Ⅶ(1) 壺Ⅲ?(1)
龍泉窯系青磁 椀；I(1)、I-2~4(1)、I-4(1)、I×II(1)、II-a(1)、II-b(1)
中国 陶 器 鉢I(2) 耳壺B群(1)
瓦 類 平瓦(縄目)、丸瓦
金属 製 品 鋳滓
土 製 品 土壁

S-50茶色粘土

須 惠 器 甕
土 師 器 小皿a、坏a(イト)、供膳具
龍泉窯系青磁 椀；II-b(1)
金 属 製 品 鉾滓

S-51

土 師 器 坏a(イト)、供膳具
龍泉窯系青磁 椀；I×II(1)

S-52

土 師 器 小皿a×坏a

S-53

土 師 器 供膳具

S-54

土 師 器 小皿b(イト)、坏a(イト)
金 属 製 品 鉾滓
石 製 品 平玉石
土 製 品 土塊

S-55黄色土

土 師 器 小皿a(イト)、坏a(イト)
石 製 品 砥石
土 製 品 土壁

S-55黒色土

須 惠 器 甕
土 師 器 小皿a(イト)、坏a(イト)
土 師 質 土 器 火鉢
白 磁 皿；IX-1(1)
土 製 品 土壁

S-55黒灰色土

須 惠 器 破片
土 師 器 坏a(イト)、供膳具、甕類
白 磁 皿；IX-1a(1)
龍泉窯系青磁 椀；II-a(1)
金 属 製 品 鉾滓
石 製 品 扁平石
土 製 品 土壁

S-55暗灰色粘土

土 師 器 坏a(イト)
白 磁 皿；IX-1(1)
同安窯系青磁 椀；I-1c×III(1)

S-56

土 師 器 小皿a(イト)、小皿b(イト)、坏a(イト)
土 師 質 土 器 鉢
中国 陶 器 耳壺XII(1)

S-57

土 師 器 小皿a(イト)、坏a×小皿a(イト)

S-58

須 惠 器 坏
土 師 器 坏a×小皿a(イト)、供膳具
龍泉窯系青磁 椀；II-a(1)

S-59

土 師 器 小皿b(イト)、坏a(イト)、供膳具
白 磁 白磁破片(1)

S-60

須 惠 器 甕、壺?、破片
土 師 器 皿a、椀c、甕
黒色土器A類 椀c
黒色土器B類 椀

S-61

土 師 器 供膳具
須 惠 質 土 器 鉢
金 属 製 品 鉾滓

S-62

土 師 器 小皿a(イト)、供膳具

S-63

土 師 器 小皿a、供膳具

S-64

土 師 器 坏?、供膳具

S-65

須 惠 器 坏
土 師 器 椀c、供膳具、甕類
製 塩 土 器 破片?
瓦 類 破片(格子)

S-66

須 惠 器 皿?
土 師 器 坏a(イト)、甕、供膳具
白 磁 椀；破片(1)

S-67

土 師 器 小皿a、坏a、供膳具、甕類

S-68

土 師 器 供膳具
龍泉窯系青磁 椀；III-2C(1)

S-69

須 惠 器 甕、壺?
土 師 器 甕類、供膳具

S-71

土 師 器 小皿a(イト)、供膳具
瓦 類 平瓦(二重格子)

S-72

須 惠 器 坏c
土 師 器 小皿a(イト)、坏a(イト)、供膳具
白 磁 皿；IX(1)
龍泉窯系青磁 椀；II-b(1)
金 属 製 品 鉾滓?

S-73

須 惠 器 甕
土 師 器 坏a(イト)、甕、供膳具
須 惠 質 土 器 片口鉢

S-74

土 師 器 供膳具
黒色土器A類 破片

S-76

須 惠 器 壺、破片
土 師 器 坏a(イト)、供膳具
黒色土器A類 破片

S-77

土 師 器 供膳具

S-78

土 師 器 坏a(イト)、椀c、供膳具
中国 陶 器 甕(1)

S-79

須 惠 器 破片
土 師 器 供膳具

S-81

土 師 器 供膳具

S-82

土 師 器 供膳具

S-83

土 師 器 小皿a×坏a(イト)、供膳具

S-84

土 師 器 椀c、供膳具、甕類

S-86

土 師 器 坏a(イト)、供膳具
中国 陶 器 盤I-2(1)

S-87

土 師 器 小皿a(イト)、坏a(イト)、甕類

S-88

土 師 器 坏a(イト)、供膳具

S-89

土 師 器 坏a(イト)、供膳具
中国 陶 器 耳壺B群(2) 壺IV(1)
金 属 製 品 鉄釘

S-91

土 師 器 供膳具
瓦 類 破片(格子)

S-92

須 惠 器 破片
土 師 器 供膳具

S-93

土 師 器 坏a(イト)、供膳具

S-94

土 師 器 破片
瓦 器 椀
龍泉窯系青磁 椀；III-2C(1)
土 製 品 土塊

S-96

土 師 器 供膳具、甕類
龍泉窯系青磁 椀；I×II(1)

S-97

須 惠 器 甕、壺、平瓶
土 師 器 小皿a(イト)、坏a(イト)、供膳具
白 磁 皿；IX-1c(1) 白磁破片(1)
龍泉窯系青磁 椀；II-a(1)、II-b(1)、III-2C(1)、椀破片(1) 龍泉破片(1)
金 属 製 品 鉾滓?

S-98	土 師 器	供膳具
S-99	土 師 器	小皿a(イト)、供膳具
中国 陶 器	壺B群(1)	
S-101	須 恵 器	壺
土 師 器	小皿a、坏a(イト)、甕類	
白 磁	皿；IX-2(1)	
S-102	須 恵 器	甕
土 師 器	坏a(イト)、供膳具、甕類	
中国 陶 器?	B群(1)	
S-103	土 師 器	供膳具
瓦 類	破片	
S-104	土 師 器	坏a(イト)、供膳具
S-106	須 恵 器	甕、破片
土 師 器	小皿a、坏a(イト)、供膳具、甕類	
白 磁	皿；IX(1)	
S-107	須 恵 器	蓋3
土 師 器	坏a(イト)、供膳具	
S-108	土 師 器	供膳具
S-109	土 師 器	坏a(イト)、供膳具、甕
S-111	須 恵 器	壺
土 師 器	坏a(イト)、供膳具	
青 白 磁	碗(1)	
同安窯系青磁	皿；I(1)	
石 製 品	砥石	
S-112	須 恵 器	甕、壺×甕
土 師 器	供膳具	
石 製 品	玄武岩礫	
S-113	土 師 器	供膳具
黑色土器A類	破片	
S-114	土 師 器	供膳具
土 製 品	土塊	
S-116	土 師 器	小皿a(イト)、供膳具
S-117	須 恵 器	甕×壺
土 師 器	坏a、甕類、供膳具	
S-118	土 師 器	坏a(イト)、供膳具
S-119	土 師 器	小皿a、坏a、供膳具
土 製 品	土壁	
S-121	土 師 器	小皿a、坏
土 師 質 土 器	鍋	
青 白 磁	皿(1)	
石 製 品	平玉石	
S-122	土 師 器	坏a(イト)、供膳具
黑色土器A類	碗c	
白 磁	碗；V-4×Ⅷ-1×3(1)	
中国 陶 器	鉢；I-1b(1)	
そ の 他	炭	
S-123	土 師 器	坏a、供膳具
黑色土器A類	碗c	
S-124	土 師 器	供膳具
緑 釉 陶 器	破片	
S-126	土 師 器	小皿a、坏a(イト)、供膳具
白 磁	碗；破片(1)	
同安窯系青磁	皿；I(1)	
S-127	須 恵 器	坏a、甕
土 師 器	坏	
S-128	土 師 器	小皿a、供膳具
S-129	土 師 器	供膳具
金 属 製 品	鋳滓	
土 製 品	輪羽口	
S-131	須 恵 器	破片
土 師 器	坏a、破片	
S-132	須 恵 器	坏、破片
土 師 器	坏	
S-133	土 師 器	坏
S-134	土 師 器	坏a×小皿a、破片
S-136	土 師 器	小皿a、坏a
同安窯系青磁	皿；I-1b(1)	
中国 陶 器	A群(1)	
土 製 品	土壁	
S-137	須 恵 器	甕×壺
土 師 器	小皿a、坏	
瓦 類	平瓦	
S-138	土 師 器	供膳具
S-139	須 恵 器	蓋?
土 師 器	供膳具、甕類	
S-141	土 師 器	丸底坏?、供膳具、甕類
瓦 類	破片(格子大)	
S-142	土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、碗c
黑色土器A類	碗c	
龍泉窯系青磁	碗；II-b(1)	
石 製 品	平玉石	
S-143	土 師 器	小皿a、坏a
S-144	土 師 器	小皿a(イト)、供膳具
S-146	土 師 器	破片
S-147	土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)
中国 陶 器	壺；N(1)	
S-148	土 師 器	坏、供膳具、甕類
土 製 品	土塊	
S-149	土 師 器	坏a
S-151	土 師 器	小皿a(イト)、供膳具
S-152	土 師 器	小皿a、坏a(イト)
S-153	土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)
瓦 器	碗	
S-154暗褐色土	土 師 器	坏a(イト)
土 製 品	土壁	
S-154灰褐色土	須 恵 器	破片
土 師 器	坏、坏a、甕類	
土 製 品	土壁	
S-154灰褐色砂	土 師 器	坏a、供膳具
龍泉窯系青磁	碗；I-2(1)	
土 製 品	土塊	

S-156

土 師 器	坏、供膳具
瓦	碗
同安窯系青磁	碗；I(1)
土 製 品	土塊

S-157

土 師 器	供膳具
-------	-----

S-158

土 師 器	供膳具
-------	-----

S-159

土 師 器	坏a、甕類
-------	-------

S-161

土 師 器	供膳具
-------	-----

S-162

須 惠 器	甕
同安窯系青磁	碗；I-3a(1)

S-163

土 師 器	甕類、供膳具
瓦 質 土 器	甕
金 属 製 品	鉄塊

S-164

土 師 器	供膳具
-------	-----

S-166

土 師 器	供膳具
-------	-----

S-167灰色粘土

土 師 器	供膳具
土 製 品	鞆羽口

S-167灰褐色粘土

須 惠 器	蓋4
土 師 器	坏a
瓦	類 破片

S-168

土 師 器	小皿a(イト)、供膳具
-------	-------------

S-169

土 師 器	破片
黒色土器A類	破片

S-171

土 師 器	供膳具
-------	-----

S-172灰色土

土 師 器	小皿a、供膳具
青 白 磁	瓶(1)

S-172灰褐色土

土 師 器	小皿a(イト)、坏a
瓦	碗
青 白 磁	瓶(1)
石 製 品	平玉石

S-173

土 師 器	小皿a(イト)、供膳具、破片
-------	----------------

S-174

土 師 器	坏a×小皿a(イト)、供膳具
-------	----------------

S-176

土 師 器	供膳具、甕類
土 製 品	土塊

S-177灰褐色土

土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、甕類
瓦	碗
龍泉窯系青磁	碗；I×II(2)
金 属 製 品	刀子

S-177灰茶色粘土

須 惠 器	壺
土 師 器	供膳具

S-178

土 師 器	坏a(イト)、供膳具
中国 陶 器	盤I×II(1)

S-179

土 師 器	破片
-------	----

S-181

土 師 器	小皿a(イト)、破片
須 惠 質 土 器	破片(イト)

S-182

須 惠 器	甕
土 師 器	小皿a、破片
中国 陶 器	耳壺XII(1)

S-183

土 師 器	坏a×小皿a(イト)、破片
土 製 品	土塊

S-184

土 師 器	坏a(イト)、供膳具
-------	------------

S-186

土 師 器	坏a、甕類
金 属 製 品	鉄塊

S-187

土 師 器	供膳具
金 属 製 品	鉄釘

S-188

土 師 器	供膳具
-------	-----

S-189

土 師 器	坏a(イト)、破片
白 磁	碗；破片(1)
土 製 品	土塊

S-189灰褐色土

土 師 器	供膳具
-------	-----

S-191

土 師 器	供膳具
-------	-----

S-192

土 師 器	坏a(イト)、供膳具
須 惠 質 土 器	破片
龍泉窯系青磁	碗；II-a(1)

S-193

土 師 器	供膳具
-------	-----

S-194

須 惠 器	甕
土 師 器	供膳具

S-196

土 師 器	供膳具
-------	-----

S-197

土 師 器	小皿a(イト)、供膳具
龍泉窯系青磁	碗；II-a(1)

S-198

土 師 器	供膳具
金 属 製 品	鋁洋

S-199

土 師 器	坏a
-------	----

S-201

須 惠 器	皿a、甕、破片
土 師 器	坏a、甕類、供膳具
白 磁	碗；IV-1(1)
瓦	類 平瓦(格子)

S-202

須 惠 器	鉢?
土 師 器	破片

S-203灰褐色土

土 師 器	甕類、破片
-------	-------

S-203淡灰褐色土

土 師 器	甕類、破片
黒色土器A類	碗c

S-204

土 師 器	小皿a(イト、ヘラ?)、坏a(イト)
-------	--------------------

S-206

須 惠 器	破片
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)、甕類
瓦	碗
須 惠 質 土 器	鉢
龍泉窯系青磁	碗；I(2)
同安窯系青磁	碗；III-1a(1)
中国 陶 器	壺B群(1) 水注A群(1)
石 製 品	石鍋
そ の 他	炭

S-207

土 師 器	坏a(イト)、供膳具
土 製 品	土塊

S-208

土 師 器	坏
-------	---

S-209

須 惠 器	破片
土 師 器	小皿a(イト)、坏a(イト)
瓦	器 破片

S-211	須惠器 甕
土師器	坏a×小皿a(イ卜)
S-212	土師器 坏a(イ卜)
青白磁	合子身(1)
S-213	須惠器 破片
土師器	破片
S-214	土師器 破片
S-216	土師器 小皿a(イ卜)、破片
石製品	剝片(黒曜石)
S-217	土師器 供膳具
須惠質土器	椀?
S-218	須惠器 甕
土師器	供膳具、甕類
S-219	土師器 供膳具
S-221褐色土	須惠器 甕、破片
土師器	小皿a(イ卜)、坏a(イ卜)、小皿c×椀c
龍泉窯系青磁	椀; I×II(1)、III-2C(1) 壺III?(1)
同安窯系青磁	椀; I-1b(1) 皿; I(1)
土製品	土壁
S-221灰茶色土	須惠器 壺
土師器	小皿a(イ卜)、坏a(イ卜)、甕類
瓦	椀
土師質土器	鍋類
須惠質土器	鉢
白磁	椀; V-4×VIII-1×3(1) 皿; VIII-1b(1) 椀×皿; IX(1)
龍泉窯系青磁	椀; II-a(1)
同安窯系青磁	椀; III-1a(1) 皿; I-1(1)
中国陶器	壺C群(1)
S-222	土師器 坏a、破片
越州窯系青磁?	破片I(1)
須惠質土器	破片
S-223	土師器 坏、甕類
S-224	土師器 坏a(イ卜)、破片
S-226	土師器 坏、坏a(イ卜)
龍泉窯系青磁	椀; I-2(1)
須惠質土器	破片
石製品	石鍋
S-227	土師器 小皿a(イ卜)、坏a(イ卜)、供膳具
S-228	須惠器 甕
土師器	小皿a(イ卜)、坏a(イ卜)
瓦	椀
須惠質土器	鉢
白磁	椀; V-4b(1)
黒釉陶器	椀(1)
瓦	破片
石製品	石鍋
S-229	土師器 小皿a(イ卜)、坏a(イ卜)、供膳具
黒色土器A類	椀
土師質土器	鍋類
白磁	椀; IV(2)
青白磁	合子身(1)
同安窯系青磁	椀; III-1a(2)
瓦	丸瓦(縄消し)、瓦玉
土製品	土壁
S-231	須惠器 甕、破片
龍泉窯系青磁?	椀; I(1)
S-232	須惠器 甕、破片
S-233	須惠器 甕
土師器	破片

S-234	土師器 破片
S-236	須惠器 甕
土師器	供膳具
S-237	土師器 破片
S-238	須惠器 破片
土師器	坏a(イ卜)、供膳具
白磁	椀破片(1)
瓦	類 破片
S-239	土師器 破片
S-241	土師器 破片
S-242	須惠器 甕、壺?
土師器	坏、甕類
S-243	土師器 破片
S-244	須惠器 破片
土師器	破片
S-246	土師器 破片
S-247	土師器 蓋c、坏、甕
S-249	須惠器 破片
土師器	坏d?、椀c、甕
製塩土器	焼塩壺
S-251	土師器 破片
S-252	須惠器 皿a
土師器	坏、破片
S-253	須惠器 破片
土師器	小皿a、坏a、甕類
S-254	須惠器 破片
土師器	坏、坏c、甕
S-256	土師器 坏
製塩土器	焼塩壺
S-257	土師器 坏、甕
S-258	須惠器 皿、甕
土師器	坏、甕
灰色粘土	土師器 坏a、供膳具
土師質土器	鉢
須惠質土器	鉢
瓦質土器	甕
青白磁?	破片(1)
龍泉窯系青磁	椀; II-b(3)
金属製品	鉍滓
黄白色土	土師器 供膳具
国産陶器	鉢
白磁	椀; I-6a(1)
中国陶器	鉢; I(1)
灰褐色土	須惠器 蓋?、蓋c、破片
土師器	小皿a、小皿b(イ卜)、坏a、供膳具
瓦	破片
土師質土器	鍋類
須惠質土器	鉢(束播系)
白磁	椀; IV(1)、V?(1) 皿; VIII-1b(1)、IX-1b(1)
龍泉窯系青磁	椀; I(1)、I-1a?(1)、I-1a(3)、I-2~4(1)、I-4(2) I×II(1)、II-b(6) 束口椀III外連弁(1)
中国陶器	盤I(1)
金属製品	鉍滓、鉄釘
石製品	砥石
土製品	土壁
その他	炭

暗褐色土

須恵器	坏
土師器	小皿a(イト)、坏a、供膳具
須恵質土器	鉢
国産陶器	植木鉢?
国産磁器	椀
白磁	椀破片(1)
龍泉窯系青磁	椀; I×II(1)、II-b(1)
中国陶器	壺B群(1) 搦鉢(1)
瓦類	平瓦(無文)
金属製品	鉄釘、用途不明鉄製品

灰白色粘土

須恵器	甕
土師器	坏a(イト)、甕類
須恵質土器	鉢(東播系)
瓦質土器	鉢
白磁	皿: IX(1)
龍泉窯系青磁	椀; II-a(1)、II-b(4)
中国陶器	盤I(1)
金属製品	鋳滓
石製品	石鍋
土製品	土壁

白黄色土

須恵器	甕
土師器	坏
白磁	椀: VIII(1)
龍泉窯系青磁	椀: II-b(1)
中国陶器	B群(2)
須恵質土器	鉢
石製品	石鍋

淡褐色土

土師器	供膳具
-----	-----

黄褐色土

須恵器	甕、壺、破片
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)、椀、椀c、供膳具、甕類
黒色土器A類	椀c
瓦器	椀
須恵質土器	鉢
肥前系磁器	椀
白磁	皿: II×III(1) 白磁破片(2)
青白磁	合子蓋(1)
龍泉窯系青磁	椀: I-1a(1)、II-b(2)
中国陶器	壺B群(3) 鉢I-2a(1) 盤II(1) 破片B群(1)
瓦類	破片(格子、無文)
土製品	土壁

灰茶色土

須恵器	蓋、坏、坏a、坏c、甕、壺
土師器	小皿a(イト)、小皿b、坏a(イト、ヘラ)、坏c、坏d?、高坏、皿c、甕、甕類、高坏脚、供膳具
製塩土器	焼塩壺
瓦器	椀、椀c
土師質土器	鉢×鍋?、破片
須恵質土器	鉢、鉢(東播系)
国産陶器	破片
白磁	椀: V(1)、V~VII(1)、V-4×VII-1×3(1) 皿: IX-1a(1) 壺III(1) 白磁破片(1)
龍泉窯系青磁	椀: I(1)、I-1a(1)、I-4(1)、II-a(1)、II-b(1)
同安窯系青磁	皿: I-2b(1)
中国陶器	鉢I(1) 甕(1) 中国陶器破片:A群(1)、B群(4)
瓦類	平瓦(縄目、無文)、丸瓦、中国瓦(平瓦)
石製品	石鍋、剥片
土製品	土壁

黒色土

須恵器	破片
土師器	小皿a(イト)、皿a、坏a(イト)、供膳具、甕類
黒色土器B類	椀c
瓦器	小皿a(イト)、椀
須恵質土器	鉢、甕
白磁	椀; VII(1)、VIII-4(1) 皿: II×III(1)
龍泉窯系青磁	椀: I?(1)、I-2(3)、I-4?(1)、I-6b(1)、II-b(2) 浅形椀?(1)
同安窯系青磁	椀; III-2(1)
龍泉×同安0類?	破片(1)
中国陶器	壺B群(2) 鉢:I-1b(1)、IV(1) 盤I-2(1)
金属製品	鋳滓
石製品	砥石?、石鍋、石権、平玉石
土製品	土壁
その他	炭

黄茶色土

須恵器	蓋3、坏、甕、小壺
土師器	坏a、椀、椀c、甕
製塩土器	焼塩壺?
白磁	椀: II(1)、IV(1)
瓦類	平瓦(縄目)

明灰色土

須恵器	蓋3、坏、坏a、坏c、甕、壺、破片
土師器	蓋c、坏a、椀c、甕、把手、破片
黒色土器A類	破片
中国陶器	小壺(1) 破片(1)
瓦類	平瓦(縄目)
金属製品	鋳滓、鉄釘
石製品	丸石

表土

須恵器	蓋3、蓋c、坏c、甕、壺
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)、椀c、甕、供膳具
黒色土器B類	椀
瓦器	椀
国産磁器	椀、破片
須恵質(輸入)器	朝鮮系無釉陶器
白磁	椀: IV(1)、V(1) 椀×皿IX(1)
青白磁	合子身(1)
龍泉窯系青磁	椀: I-2(1)、I×II(1)、II-a(1)、II-b(1) 小椀III-2内面連弁(1) 小坏?(元~)(1)
同安窯系青磁	椀: I(1)
瓦類	丸瓦(無文)
石製品	平玉石
土製品	土壁

表採

須恵器	甕、破片
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)、供膳具
瓦器	椀
須恵質土器	鉢(東播系)
肥前系磁器	椀、破片
国産陶器	土管、土瓶、破片
白磁	椀破片(2) 皿:IX-1b(1)、IX-2(1) 壺III(1)
龍泉窯系青磁	椀: I(2)、I?(1)、I-2?(1)、I-3(1)、I×II(1)、II-b(4)、 III?(1)、IV?内底花文(1)、IV?(1) 坏?皿内面連弁(1) 坏?(元~明)(1) 龍泉破片I×II(1)
中国陶器	盤I-b(1)
瓦類	破片
石製品	砥石、平玉石
土製品	土壁、土玉

出土地不詳

須恵器	破片
土師器	破片

表 27 第 304 次調査 土器供膳具計測表

A: 内底ナテ B: 板状圧痕

S-10 灰褐色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-004	Fig.102-2	(7.6)	1.05	(6.2)	○	×
	小皿b	イト	R-007	Fig.102-1	(7.5)	1.7	(4.3)	○	○
	坏a	イト	R-003	Fig.102-3	(11.6)	3.1	(6.8)	○	—
	坏a	イト	R-001	Fig.102-4	(12.0)	3.4	(8.0)	○	○

S-10 暗褐色砂土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-006	Fig.102-10	(7.4)	1.1	(6.5)	—	—
	小皿a	イト	R-002	Fig.102-11	(7.8)	1.05	(6.0)	○	×
	小皿a	イト	R-003	Fig.102-12	(8.0)	1.2	(5.7)	○	○
	坏a	イト	R-004	Fig.102-13	(12.0)	2.2	(8.7)	○	○
	坏a	—	R-005	Fig.102-14	(12.4)	2.6+ α	—	—	—

S-15 暗茶色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	イト	R-002	Fig.102-16	(11.4)	2.2	(7.6)	—	○
	坏a	イト	R-001	Fig.102-17	(12.0)	2.9	(8.4)	○	×

S-15 暗灰褐色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-004	Fig.102-18	(8.0)	1.1	(5.6)	○	○
	小皿a	イト	R-005	Fig.102-19	(8.0)	1.05	6.2	○	○
	小皿a	イト	R-006	Fig.102-20	8.4	1.3	6.3	○	○
	小皿a	イト	R-007	Fig.102-21	8.5	1.2	6.0	○	—
	小皿a	—	R-003	Fig.102-22	(9.0)	1.2	(6.9)	—	—
	小皿a	—	R-016	Fig.102-23	(9.0)	1.4	(7.1)	—	—
	坏a	イト	R-008	Fig.102-24	(11.0)	2.5	(7.4)	—	—
	坏a	イト	R-001	Fig.102-25	(11.8)	2.4	(7.5)	○	×

S-17 灰茶色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-001	Fig.103-1	(7.6)	1.05	(5.6)	○	×
	小皿a	イト	R-002	Fig.103-2	(8.4)	1.0	(7.0)	—	—
	坏a	イト	R-003	Fig.103-3	(11.8)	2.2	8.0	○	○

S-20 暗褐色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-001	Fig.103-5	(8.2)	1.1	(6.8)	○	○
	小皿a	イト	R-002	Fig.103-6	(8.2)	1.1	(6.7)	—	—
	小皿a	イト	R-003	Fig.103-7	8.5	1.1	6.2	—	○
	坏a	イト	R-004	Fig.103-8	12.5	2.9	7.3	○	○

S-25 灰褐色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	イト	R-001	Fig.103-15		2.25+ α	(8.0)	○	—

S-29 灰色粘質土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-002	Fig.103-28	(7.6)	1.35	(5.6)	○	—
	小皿a	イト	R-001	Fig.103-29	(8.2)	1.2	(6.4)	○	○

S-29 黒褐色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-001	Fig.103-24	(8.4)	1.15	(6.6)	○	○
	坏a	イト	R-002	Fig.103-25	(11.6)	2.8	(7.3)	○	○
	坏a	—	R-003	Fig.103-26	(11.6)	2.95	(7.0)	—	—

S-30 灰褐色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-001	Fig.104-1	(8.8)	1.1	(7.0)	○	○

S-35 黒褐色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-001	Fig.101-8	(8.6)	0.9	(6.8)	○	○
	坏a	イト	R-002	Fig.101-9	15.4	3.0	11.5	○	○

S-40 暗褐色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-002	Fig.104-3	(8.6)	0.8	(6.8)	○	○
	小皿a	イト	R-001	Fig.104-4	(8.8)	1.2	(6.9)	○	○
	坏a	イト	R-003	Fig.104-5		2.55		○	○

S-40 灰褐色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-001	Fig.104-7	8.4	0.9	6.6	○	—
	坏a	イト	R-002	Fig.104-8	(12.0)	2.3	(7.8)	○	○
	坏a	イト	R-003	Fig.104-9	(13.2)	2.95	(7.0)	○	○

S-45 青灰色粘土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-003	Fig.104-12	(9.8)	0.9	(7.5)	—	—
	坏a	イト	R-002	Fig.104-13	(13.4)	2.7	(9.2)	○	○

S-50 茶色粘土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	イト	R-001	Fig.105-8	(12.6)	3.4	(8.2)	○	○

S-50 灰茶色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-004	Fig.105-1	7.8	1.0	5.6	—	—
	小皿a	イト	R-001	Fig.105-2	(8.0)	1.0	(6.4)	○	○
	小皿a	—	R-002	Fig.105-3	(8.0)	1.3	(5.4)	○?	—
	小皿a	イト	R-003	Fig.105-4	(9.2)	0.9	(7.4)	—	○

S-55 黄色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	イト	R-005	Fig.104-16	(11.8)	2.3	(8.2)	○	○
	坏a	イト	R-004	Fig.104-17	(12.7)	2.75	8.3	○?	○

S-55 黒色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	イト	R-002	Fig.104-21	12.6	2.45	7.7	○	—
	坏a	イト	R-003	Fig.104-22	12.6	2.9	7.7	○	○
	坏a	イト	R-001	Fig.104-23	(13.0)	2.1	(9.1)	○	○

S-55 黒灰色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	イト	R-001	Fig.104-28	(14.5)	2.8	(10.0)	—	○

S-55 暗灰色粘土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	イト	R-001	Fig.104-32	(13.0)	2.85	(8.6)	○	○

S-60

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	碗c		R-001	Fig.101-3		2.2+ α			
	碗c		R-002	Fig.101-4		1.65+ α	(8.2)	—	—

S-97

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-002	Fig.105-10	(8.2)	1.0	(5.2)		
	坏a	イト	R-003	Fig.105-11	—	1.5+ α	7.9	—	○

S-104

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	イト	R-001	Fig.101-1	(10.6)	2.25	6.2	—	—

S-116

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-001	Fig.101-2	(10.0)	1.15	(7.9)	—	—

S-177 灰褐色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト?	R-004	Fig.104-34	—	1.0	—	—	—
	小皿a		R-003	Fig.104-35	—	0.9	—	—	—
	坏a	イト	R-002	Fig.104-36	(12.6)	2.0	(7.8)	○	○
	瓦器	碗		R-001	Fig.104-37	—	5.6+ α		

S-201

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	—	R-001	Fig.101-5		1.6+ α	(7.8)	—	—

黒色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-003	Fig.106-15	(8.4)	1.4	(6.8)	○	○
	小皿a	イト	R-004	Fig.106-16	(8.8)	0.95	(7.1)	○	○
	小皿a	イト	R-002	Fig.106-17	(9.5)	1.0	(7.6)	○	○
	小皿a	イト	R-001	Fig.106-18	(9.6)	1.0	(7.6)	○	×
	小皿a		R-007	Fig.106-19		1.9			
	皿a	イト	R-006	Fig.106-20	(15.6)	2.45	(11.4)	○	×
	坏a	イト	R-005	Fig.106-21	(14.8)	2.4	(11.0)	○	○
	瓦器	碗		R-008	Fig.106-22	(15.0)	4.35+ α		

明灰色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	—	R-002	Fig.106-26		2.2+ α	(9.0)	—	—
	碗c	—	R-001	Fig.106-27		2.85+ α	(7.4)	—	—

黄茶色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	碗c		R-001	Fig.106-25		3.0+ α	7.95		

灰茶色土

種別	器種	切離し	遺物番号	図番号</
----	----	-----	------	-------

V、調査まとめ

今回報告した露切地区・五条地区の遺構・遺物は、報告の通りほとんどが中世のものであった。

露切地区などの御笠川北岸地域は、遺構下の地盤が砂礫層という御笠川の氾濫原が地盤であり、氾濫により遺構が全く残されていない場所も多い。そのような立地にある露切地区では、古代の遺構が流された後に中世の館や町が整備された可能性も考えられるのだが、周辺の五条地区では古代の道路遺構が一部で確認されているが、古代の遺構が極めて少ない。また、生活に必要な井戸の出現が早くても平安後期であり、その数も僅かであることを考慮すると、古代に条坊の町割は施工されたものの、宅地としての広がりや乏しかったと推測される。

露切地区では第35次調査で方一町の中世館跡（以下仮称：露切館）が確認され、西隣の蔵群（第248次調査）、北隣には御所ノ内地区の屋敷跡（第83・246次調査他）など13～14世紀の遺構群が広がり、中世太宰府を語る上で重要な場所となっている。御所ノ内地区の調査については、現在整理作業が行われており、全体的な景観や様相については御所ノ内地区の報告書に委ねることとして、ここでは露切地区の特徴を簡単にまとめておきたい。

第35次調査の北側には県道76号線が通り、ほぼ東西に直線的に走っている。その直線の西は苜萱関伝承地付近に始まり、大宰府政庁跡や観世音寺の前面を通り、五条交差点と呼ばれる十字路まで続いている。この道路は条坊の4条路を踏襲し、中世・近世を経て現在まで使われ続けた道路と考えられている。つまり、この直線の長さこそ条坊の幅と推測されている。現在この道路は昭和30年代以前に比べると、2倍以上に拡幅整備され、わかりづらくなっているが、拡幅前は観世音寺のやや東側から第35次調査地の北側付近にかけて、東に対し僅かに北に振った状況を示していた。この傾きは露切館の傾きの影響を受けたと仮定するならば、露切館周辺はFig. 108のような町割だったと推測される。

律令期の条坊がほぼ正方位で区割りし、条坊北東隣の太宰府天満宮周辺の中世以降の区割りが北に対し6度ほど東に振る区割りとなっている。今回の露切館跡は、北に対し6～9度ほど西に振るというこれらと異なる方位を示している。このように北に対しやや西に傾く区割りは、調査地北側の御所ノ内地区や鑄造工房で知られる鉾ノ浦遺跡の工房の区画、今川了俊屋敷跡の伝承が残る五条の微高地周囲の溝（第116・272次調査、未報告）など五条地区内で確認されている。しかし、五条地区の中世遺構の全てがそのようなになっているわけではなく、上述の場所で局所的に確認されている。その時期は未整理で不確定要素も多いが、ほぼ13～14世紀と考えられる。五条周辺の調査では、正方位もしくは東に振る溝も確認されており、当時大宰府を代表するような主要施設のみが町割と方位を異にして設計されたようにも見えるが、御所ノ内地区の斜行する区割内には正方位で建てられた建物が確認されているなど、現時点で規則性は見出せていない。各遺構の時期を精査していくと時期によって地割が細かく変化している可能性があり、整理中の調査や今後の調査に委ねることとしたい。

御所ノ内地区と露切地区では、過去実施された発掘調査により、13世紀～14世紀にかけての遺構が集中して確認されており、伝承通り、武藤少弐氏の拠点であったことは間違いないだろう。太宰府における武藤少弐氏の拠点は、浦ノ城や内山城（『太平記』）のほか、「宰府ノ家（館）」（『梅松論』）が知られている。浦ノ城や内山（有智山）城については、それぞれ四王寺山東麓と宝満山中腹にその城跡が知られている。今回の調査地である露切地区では、築地（土塁？）を巡らした方形館が確認されていることから、この「露切館」こそが武藤氏の居館であり、『梅松論』にある「宰府ノ家（館）」を示していて、観世音寺の東隣に位置する御所ノ内地区には武藤氏と関わりがある「宰府守護所」があったと推測される。

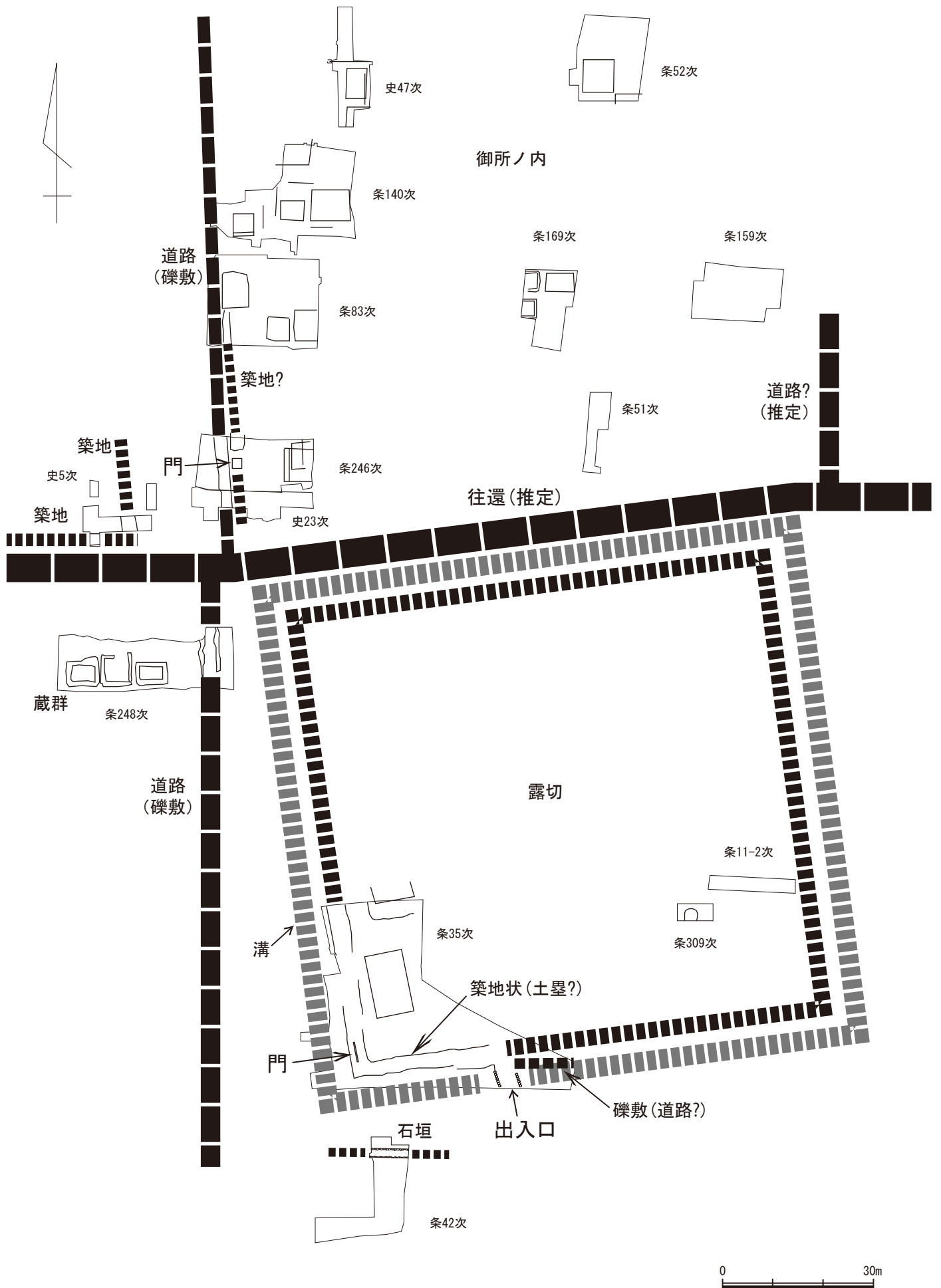


Fig. 108 露切地区周辺復元図 (1/1000)

参考文献

- 太宰府市教委『大宰府条坊跡 XIX』太宰府市の文化財第 59 集 2002
太宰府市教委『大宰府条坊跡 35』太宰府市の文化財第 96 集 2008
山村信榮「守護武藤少弐の館」『博多研究会誌』第 9 号 2001
太宰府市教委『宝満山遺跡群Ⅲ』太宰府市の文化財第 55 集 2001
太宰府市『太宰府市史 考古資料編』1992
太宰府市『太宰府市史 中世資料編』2002

写真図版

写真図版には遺構の主な写真を掲載している。その他の遺構写真および遺物写真は、付録の CD にカラー情報で収録している。



第 35 次調査区西側全景（北から）



第 35 次調査区西側全景（東から）



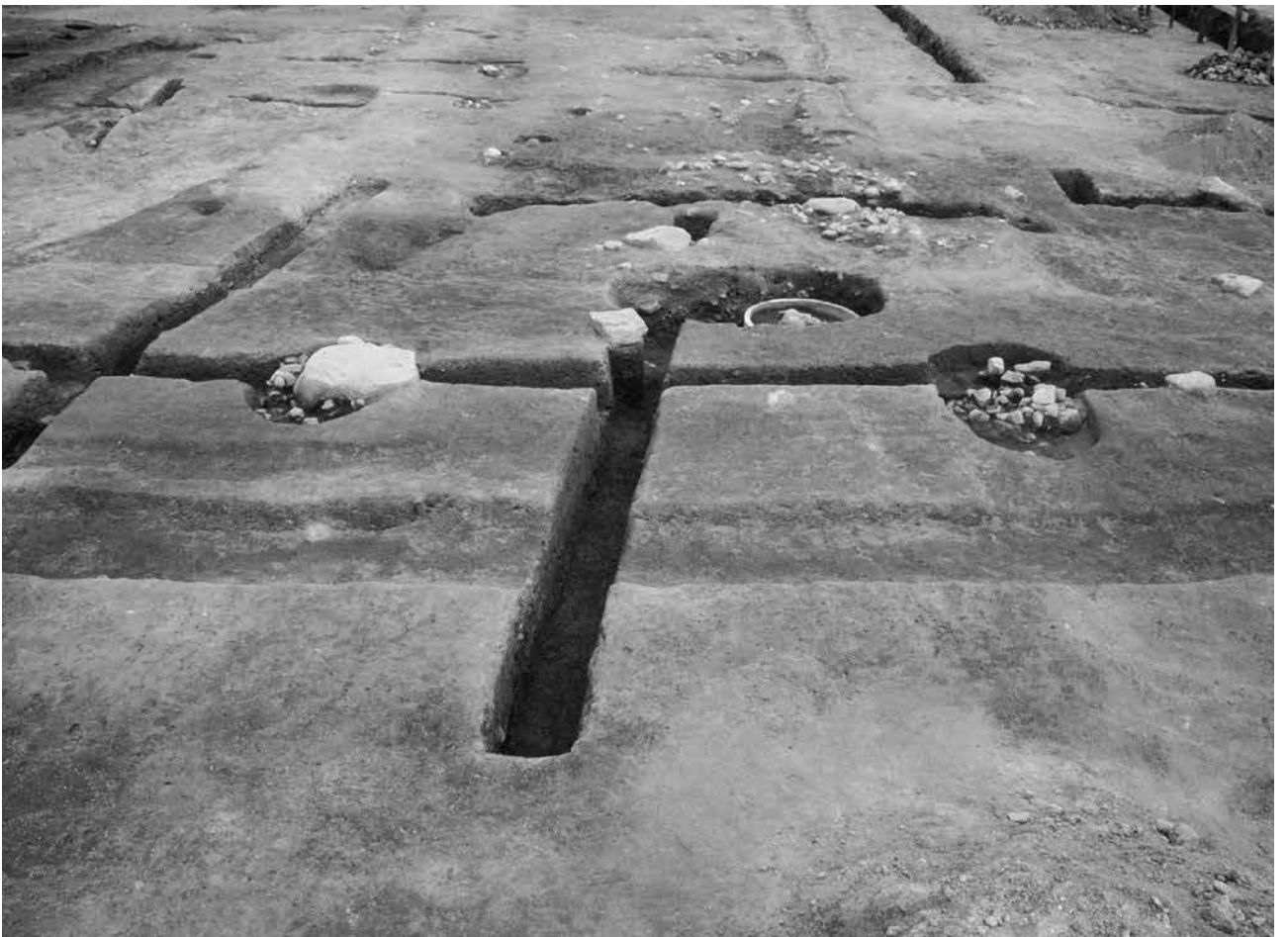
第35次調査区南東側全景（東から）



第35次調査区北側全景（北から）



35SB010 全景 (北から)



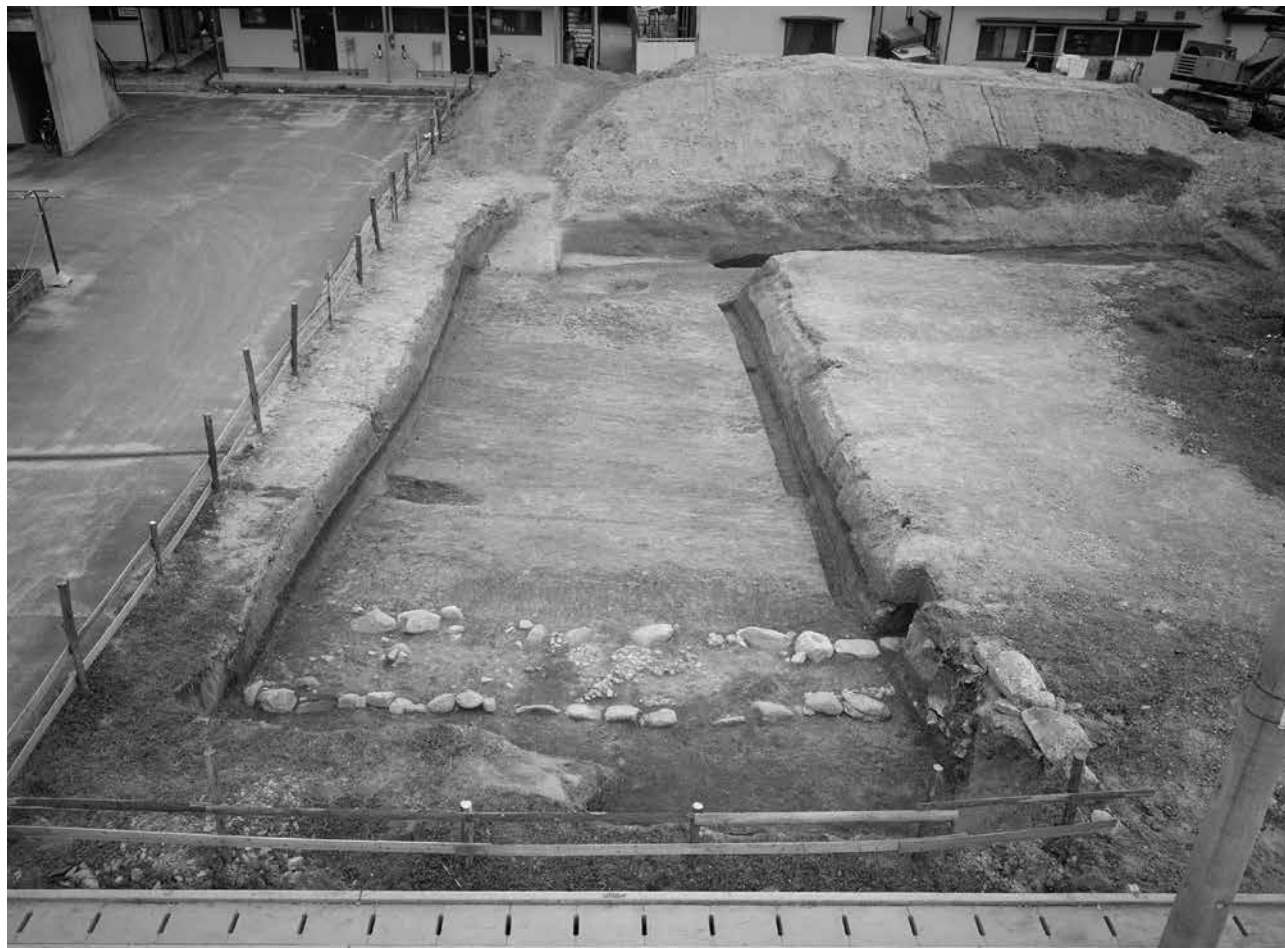
35SB035 検出状況 (西から)



35SA001 北側検出状況 (南から)



35SX047・048・050 全景 (南から)



第 42 次調査全景（北から）



42SX001 石垣完掘状況（北から）



第 309 次調査 1 面目全景（西から）



第 309 次調査 2 面目全景（西から）



第 309 次調査 3 面目全景（西から）



309SE005 桶材 埋土除去状況（南から）



309SX001 検出状況（南から）



第 37 次調査 中央調査区全景（東から）



第 37 次調査 北トレンチ全景（東から）



第 37 次調査 南トレンチ全景（東から）



37SE020 井戸枠桶積み状況（北から）



第 57 次調査区全景（東から）



第 130 次調査 上層遺構全景（西から）



第 130 次調査 下層遺構 (SD050) 完掘状況（西から）



第304次調査 1区第1面全景（南から）



第304次調査 1区第2面全景（北から、空中写真）



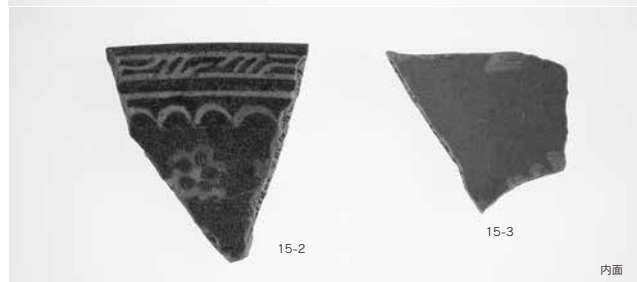
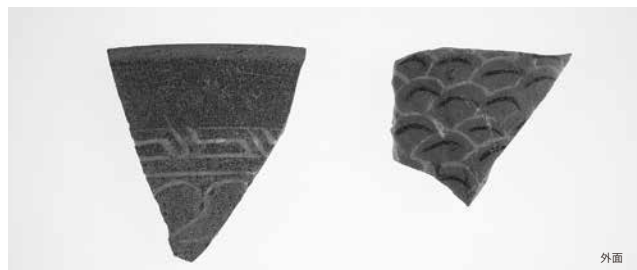
第 304 次調査 2 区第 1 面全景（上が南西、空中写真）



304SK045 掘削状況（南から）



35SB010c2・d3 出土土師器小皿 a・小皿 b (Fig. 14)



35SD030 出土高麗青磁 (Fig. 15)



35SX036 出土中世国産陶器甕外面 (Fig. 19-5)



35SX045 上層出土土師器小皿 b・坏 a (Fig. 20)



第 35 次調査灰褐色土出土中世国産陶器甕
(外面、Fig. 27-124)



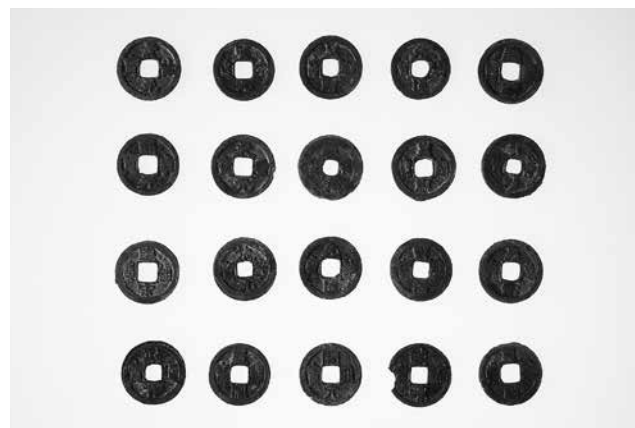
35SX045 上層出土瓦質土器鉢 第 35 次調査灰褐色土
(Fig. 20-39) 出土瓦質土器火鉢
(Fig. 26-111)



第 35 次調査灰褐色土出土中世国産陶器甕外面
(Fig. 27・28)



第 35 次調査黒褐色土出土土師器小皿 a・b (Fig. 33)



第 35 次調査赤褐色土出土錢貨 (Fig. 40)



第 35 次調査灰褐色土出土龍泉窯系青磁香炉外面
(Fig. 29)



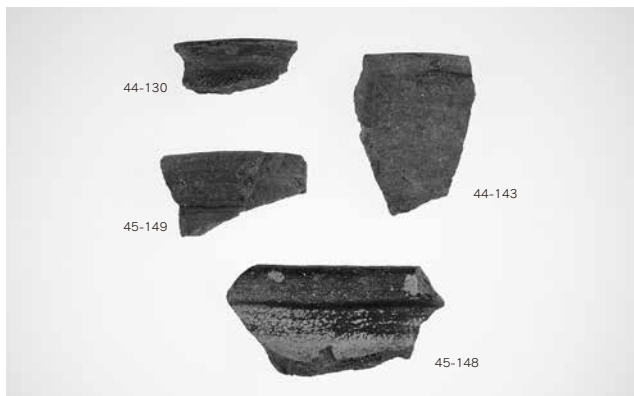
第 35 次調査茶褐色土出土搬入小皿 (Fig. 42)



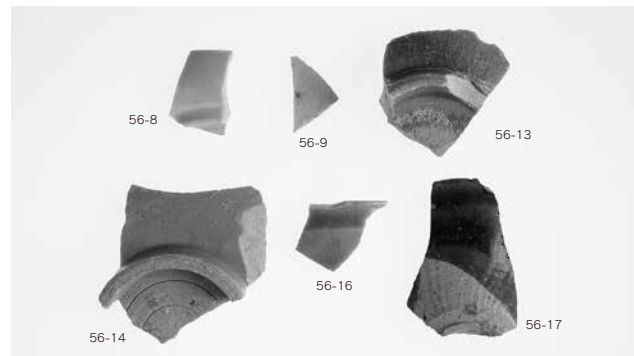
第 35 次調査茶褐色土出土瓦質土器火鉢
(Fig. 44-138)



第 35 次調査整地出土瓦質土器風炉 (Fig. 48-30)



第 35 次調査茶褐色土出土須恵質土器・中世国産陶器・
土師質土器 (Fig. 44・45)



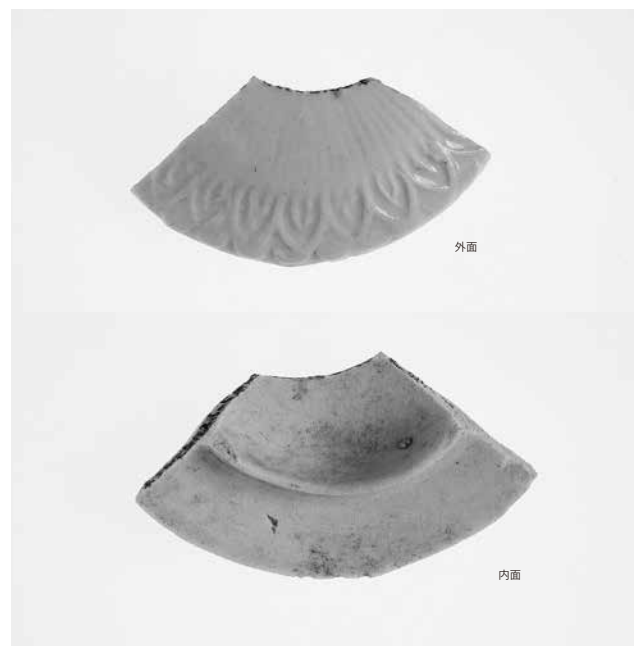
第 42 次調査暗茶灰色粘土出土龍泉窯系青磁
・青白磁・黒釉陶器 (外面、Fig. 56)



第 35 次調査整地出土瓦質土器風炉 (Fig. 48-30)



第 42 次調査トレンチ内第 3 砂層出土白磁皿
(Fig. 55-18)



309SE005 黒灰色土出土青白磁蓋 (Fig. 62-27)



第 309 次調査淡灰色土出土土師器・瓦器碗 (Fig. 66)



第 309 次調査黄灰色土出土土師器小皿 a・瓦器碗
(Fig. 68)



37SE025 梓内出土短刀 (Fig. 75-21)



37SE025 梓内出土短刀 (Fig. 75-22)



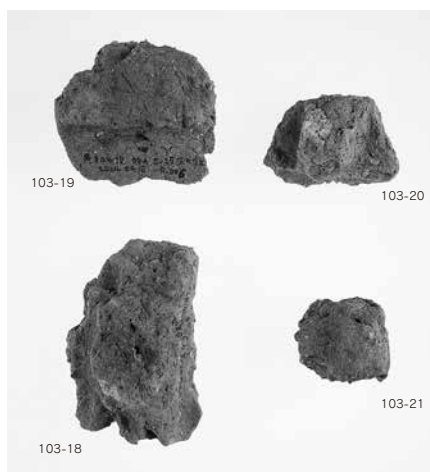
37SX015 出土土師器 (Fig. 76)



130SK020 褐色土出土土師器小皿 a・坏 a (Fig. 88)



130SD050 灰茶色土出土石製品 (Fig. 90)



304SK025 灰褐色土出土土壁 (Fig. 103)



304SK040 灰褐色土出土土師器小皿 a (Fig. 104)



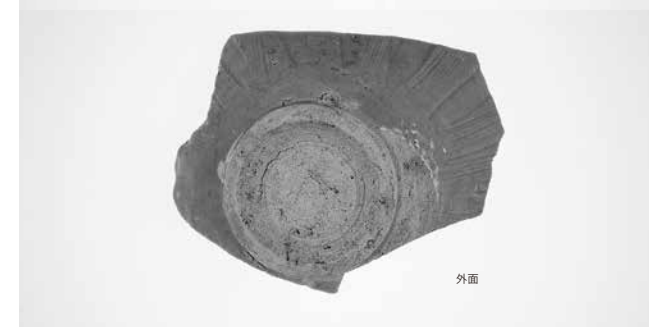
第 57 次調査茶灰色粘土出土滑石硯 (Fig. 82-34)



第 57 次調査茶灰色粘土出土土製人形 (Fig. 82-35)



内面



外面

第 130 次調査黒褐色土出土青磁碗 (Fig. 90-26)



第 304 次調査黒色土出土石権 (Fig. 106-24)

報告書抄録

ふりがな	だざいふじょうぼうあと									
書名	大宰府条坊跡 51									
副書名	露切・五条地区									
シリーズ名	太宰府市の文化財									
シリーズ番号	143 集									
編著者	宮崎亮一、パリオ・サーヴェイ株式会社、株式会社古環境研究所									
編集機関	太宰府市教育委員会									
所在地	福岡県太宰府市観世音寺1丁目1番1号									
発行年月日	2022（令和4）年2月22日									
ふりがな 所収遺跡名	条坊 【鏡山推定案】	ふりがな 所在地	コード		座標		調査期間		調査面積 ㎡	調査原因
			市町村	遺跡番号	X	Y	開始	終了		
だざいふじょうぼうあと 大宰府条坊跡 第35次	左郭5条8坊	かんぜおんじ 観世音寺1丁目	402214	210050-35	56600.0	-44010.0	19820916 19831007	19821116 19831022	1023	新庁舎建設 記録保存調査
だざいふじょうぼうあと 大宰府条坊跡 第42次	左郭5条8坊	かんぜおんじ 観世音寺1丁目	402214	210050-42	56564.0	-44017.0	19830610	19830630	185	商工会館建設 記録保存調査
だざいふじょうぼうあと 大宰府条坊跡 第309次	左郭5条9坊	かんぜおんじ 観世音寺1丁目	402214	210050-309	56613.0	-43958.0	20150224	20150312	21.3	電源設備工事 記録保存調査
だざいふじょうぼうあと 大宰府条坊跡 第37次	左郭6・7条10坊	ごじょう 五条2丁目	402214	210050-37	56430.0	-43840.0	19821208	19821223	154.4	共同住宅建設 記録保存調査
だざいふじょうぼうあと 大宰府条坊跡 第41次	左郭8条9坊	ごじょう 五条3丁目	402214	210050-41	56215.0	-43935.0	19830218	19830218	-	共同住宅建設 記録保存調査
だざいふじょうぼうあと 大宰府条坊跡 第57次	左郭8条7坊	ごじょう 五条2丁目	402214	210050-57	56277.0	-44085.0	19860729	19860801	36	共同住宅建設 記録保存調査
だざいふじょうぼうあと 大宰府条坊跡 第130次	左郭7・8条8坊	ごじょう 五条2丁目	402214	210050-130	56320.0	-44050.0	19920907	19920922	66	専用住宅建設 記録保存調査
だざいふじょうぼうあと 大宰府条坊跡 第304次	左郭9条9坊	ごじょう 五条3丁目	402214	210050-304	56154.0	-43885.0	20140411	20140530	186.3	公共施設建設 記録保存調査
所収遺跡名	遺跡種別	時代	主要遺構		主要遺物			特記事項		
大宰府条坊跡 第35次	都城	中世	建物、門、築地、石積み、溝、土坑		土師器、龍泉窯系青磁、白磁 中世国産陶器、宋銭					
大宰府条坊跡 第42次	都城	中世、近世	石垣		土師器、龍泉窯系青磁、青白磁 中世国産陶器					
大宰府条坊跡 第309次	都城	中世	井戸、石敷		土師器、龍泉窯系青磁、白磁 高麗青磁、中世国産陶器、宋銭					
大宰府条坊跡 第37次	都城	平安、中世	井戸、土坑、溝		土師器、瓦器、龍泉窯系青磁 白磁、短刀、木製品					
大宰府条坊跡 第41次	都城	—	—		—					
大宰府条坊跡 第57次	都城	平安、中世	井戸、土坑、溝		土師器、瓦質土器、土師質土器 石硯、土人形					
大宰府条坊跡 第130次	都城	平安、中世	土坑、溝		土師器、瓦器、須恵質土器 石鍋、龍泉窯系青磁					
大宰府条坊跡 第304次	都城	平安、中世	柱穴、溝、土坑		土師器、瓦器、龍泉窯系青磁 瓦質土器、石権、土壁					

太宰府市の文化財 第143集

大宰府条坊跡 51

- 露切・五条地区の調査 -

令和4（2022）年2月

編集 太宰府市教育委員会

発行 太宰府市観世音寺1-1-1

印刷 株式会社 三光

福岡市博多区山王1丁目14-4

